



ISDN



ISDN&ブロードバンド無線ルータ
RTW65i

活用マニュアル

本機を活用したいときにお読みください

本機の機能や便利な使いかたを知りたいときは、本書をよく読んで設定を行ってください。
本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。

付属マニュアルのご案内

本機の機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。

設定マニュアル



本機を使い始めるときに読むマニュアルです。

設置のしかたや設定のしかただけでなく、CATV/ADSLなどのブロードバンドルータとしての基本的な使いかたについて説明しています。

活用マニュアル(本書)



本機の機能を活用するために読むマニュアルです。

電話、FAX、ISDNルータ、ターミナルアダプタ(TA)としての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。また、困ったときの対処方法についてもまとめて説明しています。

コマンドリファレンス(PDF形式)



コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。本機のコソールコマンドについて解説しています。

 マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください(202ページ)。

- 本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品の物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

重要なお知らせ

◆ プロバイダ契約について

本機をルータとしてお使いになる前(または新たにプロバイダ契約を行う前)に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。**プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。**

禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

◆ 通信料金について

本機をダイヤルアップルータとしてお使いになる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。本機をパソコンやLANに接続した場合、本機はパソコンのソフトウェア(電子メールソフトウェアやWebブラウザなど)が送信するデータや、LAN上を流れるデータの宛先を監視します。LAN外の宛先があると、あらかじめ設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。

そのため、**設定間違いや回線切断忘れがあった場合、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダの接続料金がかかる場合があります。**

ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかご確認ください。また、本機の設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、定期的にNetVolanteシリーズのホームページ(<http://NetVolante.jp/>)をご覧ください。これを強くおすすめいたします。

以下の場合に、予想外の通信料金がかかっている場合があります

- 本機を使い始めたとき
- 本機のプロバイダ接続設定を変更したとき
- MP接続を設定したとき
- パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更したとき(TA機能利用時)
- RealPlayerソフトウェアをインストールしたとき
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールしたとき
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき
- 本機のファームウェアをリビジョンアップしたとき
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じたときなど

◆ ご注意

- プロバイダ契約を解除/変更した場合は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(TA接続利用のみ)の両方を削除または再設定してください。削除しないままお使いになると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。
- プロバイダ側の状態(アクセスポイントの変更、メンテナンス、障害など)によって、予想外の通信料金がかかる場合があります。プロバイダからの告知情報には常にご注意ください。

◆ セキュリティ対策と本機のファイアウォール機能について

インターネットに接続すると、世界中のホームページを閲覧したり、電子メールで自由に情報を交換したりすることができ、とても便利です。しかし同時に、お使いのパソコンに対する不正アクセスの危険に、世界中からさらされることになります。

特にインターネットに常時接続したり、サーバなどを公開したりする場合には、その危険性を理解して、必要なセキュリティ対策を行う必要があります。本機にはそのためのファイアウォール機能を装備していますが、不正アクセスの手段や抜け道(セキュリティホール)は、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。**インターネット接続には、常に危険がともなうことをご理解いただくとともに、常に新しい情報を入れ、自己責任でセキュリティ対策を行うことを強くおすすめいたします。**

重要なお知らせ

◆ 無線LANの電波に関する注意

- 本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は日本国内でのみ使用できます。
- 心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。
- 本製品の無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、以下の事項を行なうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解／改造すること
 - 本製品の背面および無線カードに貼ってある証明ラベルをはがすこと。
- この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。

本製品の無線チャンネルを工場出荷時以外に設定して使用する場合は、以下の事項に注意してください。但し、本製品の無線チャンネルが工場出荷状態の場合は、移動体識別用の無線局と電波干渉をすることはありません。

 - この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉を回避してください。
 - その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社ネットボランチコールセンター(201ページ)へお問い合わせください。
- 本製品に内蔵されている以外の無線LANカードは使用しないでください。

使用周波数帯域	2.4 GHz
変調方式	DS-SS方式
想定干渉距離	40 m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

◆ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

付属マニュアルのご案内	2
重要なお知らせ	3
本書の表記について	7
安全にお使いいただくために	8
警告	8
注意	9
使用上のご注意	9

第1章 ルータについて

ネットボランチRTW65iでできること	10
各部の名称とはたらき	12
前面	12
背面	13
インターネットとルータの基礎知識	14
IPアドレスとは?	15
TAとルータの違いは?	17
ISDNの付加サービス	18

第2章 本機の設定を変更する

利用できる設定方法の種類	19
電話機で設定する	20
設定のしかた	20
設定例	21
電話機設定機能一覧	22
Webブラウザで設定する	25
かんたん設定ページ画面の見かた	25
設定のしかた	26
ATコマンドで設定する	28
設定のしかた	29
コンソールコマンドで設定する	30
設定のしかた	30
離れた場所のルータを設定する	31

第3章 電話を使う (ISDN)

電話をかける／受ける	32
電話をかける	32
電話を受ける	33
内線電話をかける	34
フッキング操作を練習する	34
外線通話を他の内線へ転送する	35
通話中に他の着信を受ける	36
INSキャッチホン／擬似キャッチホンを使 えるように設定する	36
INSキャッチホン／擬似キャッチホンを使う	37
通話を別の外線へ転送する	38
通信中転送／擬似通信中転送を 使えるように設定する	39
通信中転送／擬似通信中転送する	39

三人で通話する	40
三者通話／擬似三者通話を使える ように設定する	41
三者通話／擬似三者通話する	41
外線の着信を転送する	43
着信転送／擬似着信転送を使える ように設定する	43
着信転送／擬似着信転送を解除する	45
相手へ通知する電話番号を登録する	45
着信ベルを設定する	46
ナンバー・ディスプレイを利用する	47
着信拒否を設定する	48
擬似ナンバー・リクエストを設定する	49
TELポートごとに使い分ける	50
i・ナンバーサービスの設定例	50
ダイヤルインサービスの設定例	51
TELポートごとの設定例	52

第4章 FAXを使う (ISDN)

FAX機器を使う	53
FAXモデムを使う	54
LANからFAXを送受信する (RVS-COM)	54
RVS-COMとは?	54
RVS-COMの設定を変更する	56
パソコンからFAXを送信する	57
パソコンでFAXを受信する	57

第5章 メール確認／通知機能を使う

メール着信確認機能とは?	58
確認したいメールアドレスを登録する	59
メールの着信を確認する	60
着信したメールを自動転送する	61
メールの確認や転送を中止する	62
メールサーバ登録を削除する	63
料金情報をメールで通知する	63
不正アクセス検知をメールで通知する	64

第6章 USB接続機能を活用する

本機のUSB接続機能の概要	66
USBポート経由の接続を準備する	67
Windows 98SEの場合	67
Windows Meの場合	69
Windows 2000の場合	70
Windows XPの場合	72
MacOS 9の場合	73
USBポートからTA接続する (ISDN)	73
Windows 98SE/Meの場合	73
Windows 2000の場合	76
Windows XPの場合	79
MacOS 9の場合	82
USBポートからブロードバンドTA接続する	84
Windows 98SE/Meの場合	84
Windows 2000の場合	86
Windows XPの場合	88
MacOS 9の場合	91
USBポートからLAN接続する(擬似LAN)	92
Windows 98SE/Meの場合	92
Windows 2000の場合	95
Windows XPの場合	97
MacOS 9の場合	100

第7章 無線LANを使う

本機の無線LAN機能の概要	102
無線LANの主な機能	102
無線LANの利用例	103
無線LANへのアクセスを制限する	104
無線で複数のRTW65iを接続する	105
設定の変更内容	105
設定を変更する	106
無線接続したルータ間で通話する (ISDN)	108
アナログ子機にするルータの設定を変更する	108
アナログ親機 (ISDN回線を接続しているルータ) の設定を変更する	109
通話する	110
外部アンテナを接続する	111

第8章 ファイアウォール機能を使う

本機のファイアウォール機能の概要	112
パケット単位のルーティング/ セキュリティを設定できます	112
セキュリティ対策の必要性について	113
不正アクセスに対抗するには	114
本機のフィルタ設定でできること	114
セキュリティレベルを変更する	116

フィルタを設定する	117
Webブラウザで設定する	117
コンソールコマンドで設定する	119
フィルタの設定例	121
フィルタ設定の考えかた	121
意図しない発信を防ぐフィルタの設定例	121
セキュリティの設定例	124
不正アクセスを検出して警告する	127
不正アクセス検知機能を設定する	127
不正アクセス検知履歴を確認する	128

第9章 ルータを使いこなす

本機へのアクセスを制限する	129
プロバイダ接続を制限する (ISDN)	131
接続制限をリセットする	133
自動切断を制限する	134
128kbit/sで接続する (ISDN)	135
複数の接続先を使い分ける	136
メール専用の接続先を使い分ける	136
パソコンごとに接続先を使い分ける	137
本機のIPアドレスを変更する	138
本機の時刻を自動的に合わせる	139
専用線で接続する	140
専用線を接続する	140
専用線接続を設定する	142
PPPoEネットワーク型ADSLで接続する	146
回線を接続する	146
接続設定を変更する	146
LANとLANを接続する (ISDN)	150
TCP/IPプロトコルのファイル共有設定例	151
Windows 95/98/Meにおけるファイル共有設定例	154
外出先からリモートアクセスする (ISDN)	157
接続相手を登録する	158
LAN内のサーバやパソコンを設定する	161
リモートアクセスするパソコンの設定を変更する	161
本機へアクセスする	166
外部にサーバを公開する	167
静的IPマスカレードの設定を変更する	168
アクセスを許可する設定に変更する	169
パソコンのIPアドレスを設定する	169
ファイルサーバソフトの設定を変更する	169
ネットワークゲームやICQ用に設定する	170
パソコンのIPアドレスを設定する	170
静的IPマスカレードの設定を変更する	170

本書の表記について

LAN-TA機能を使って接続する (ISDN)	171
本機の設定を変更する	171
仮想プライベートネットワーク (VPN) を インストールする	172
パソコンのダイヤルアップネットワーク 設定を変更する	173
接続する	175

第10章 困ったときは

「困ったな」「故障かな?」と思ったら	176
電話が使えない (ISDN)	177
かんたん設定ページで設定できない	179
インターネットに接続できない	180
無線LANがつかない	183
TA機能で接続できない	183
通信料金に異常がある	187
通信記録を確認する	187
原因になりやすい設定項目を確認する	188
パスワードを忘れてしまった	192
本機の設定を工場出荷状態に戻す	192
パソコンのIPアドレスを管理する	193
現在のIPアドレスを確認する	193
IPアドレスを変更する	194
IPアドレスをリセットする	198
本機の最新情報を入手する	199
最新機能を使う (リビジョンアップ)	199
サポートとサービス	201
本機の保証サービスについて	201
ご質問・お問い合わせについて	201

第11章 その他の情報

Acrobat Readerについて	202
Acrobat Readerをインストールする	202
Acrobat Readerの使いかた	203
主な仕様	204
切断コード一覧	204
Webブラウザ設定ページ項目一覧	208
一般ユーザ用ページ	208
管理者用ページ	208
ATコマンド一覧	211
ATコマンド	211
Sレジスタの詳細	214
リザルトコードの詳細	216
用語解説	217
索引	224
英数字	224
五十音順	225

◆ マークの意味

本書では、本機を安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示していますので、必ずお読みください。



警告
人体に危険を及ぼしたり、装置に大きな損害を与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。



注意
機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

また、ISDN回線に本機を接続した場合のみに使用できる機能の説明については、(ISDN) マークがタイトルについています。

◆ 略称について

本書では、YAMAHA RTW65iのことを本機、Microsoft® Windows® をWindows、Microsoft® Windows 95® をWindows95、Microsoft® Windows 98® をWindows98、Microsoft® Windows 98 Second Edition® をWindows98SE、Microsoft® Windows NT® をWindowsNT、Microsoft® Windows 2000® をWindows2000、Microsoft® Windows Millennium Edition® をWindowsMe、Microsoft® Windows XP® をWindowsXP、INSネット64のことをISDN、10BASE-T(100BASE-TX)ケーブルのことをLANケーブルと記載しています。

◆ 設定例について

本書に記載されているIPアドレスやドメイン名、URLなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

◆ 商標について

- イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- Apple、Macintosh、MacOSは米国Apple社の登録商標および商標です。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft社の米国およびその他の国における登録商標です。
- Adobe、Acrobatは米国AdobeSystems社の登録商標です。
- INSネット64は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- Stac LZSは米国Hi/fn社の登録商標です。

安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

警告

- 本機は家庭および一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するには設計されていません。
誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、およびACアダプタや電源コードが発熱しているときは、直ちに電源スイッチを切ってACアダプタをコンセントから抜き、バックアップ電池を取りはずしてください。そのまま使用を続けると、火災や感電のおそれがあります。
- 濡れた手でACアダプタや電源コードを触らないでください。感電や故障のおそれがあります。
- 電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ACアダプタは必ず本機に付属のもの(P10V1.2A)をお使いください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 付属のACアダプタは日本国内用AC100V(50/60Hz)の電源専用です。他の電源で使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 安全のため、ACアダプタは容易に外すことのできるコンセントに接続してください。
- 本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- 本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 本機の通風口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 電源を入れたまま、USBケーブル以外のケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- 乾電池は逆向きに入れたり、充電したり、ショート(短絡)させたりしないでください。破裂や液漏れの恐れがあります。
- 電池を破棄する場合には、端子にテープなどを貼って絶縁してください。他の金属と接触すると発熱や破裂などの原因となります。
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- メーカーや種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 長時間使用しない場合は、電池を取り外してください。
- 電池から漏れた液が目に入った場合は、こすらずにすぐに大量のきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。失明等の障害のおそれがあります。
- 電池から漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに大量のきれいな水で洗ってください。化学やけなどなどの障害の恐れがあります。
- 電池から漏れた液が口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- アナログポートやISDNポート、USBポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。

使用上のご注意

注意

- 直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、ACアダプタやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。アース接続は必ず、ACアダプタをコンセントにつなぐ前に行ってください。又、アース接続をはずす場合は、必ずACアダプタをコンセントから切り離してから行ってください。
- 停電後や長時間電源を切っていた場合には、電池を交換することをお勧めします。また、停電等が発生しなかった場合でも、1年間を目安に電池を交換することをお勧めします。電池から液が漏れて火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。
- 本機を修理や移動等の理由により輸送する場合には、必ず本機の設定を保存し、電池をすべて外した状態にしてください。輸送中に電池から液が漏れて、火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池の液漏れによる修理は、保証期間中であっても実費を請求させていただきます。
- ダイアルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本機にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本機の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、その度に通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- 自動接続が設定されている場合に、「かんたん設定ページ」の「ネットボランチホームページ」をクリックするとインターネットへ自動接続します。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかりますので、あらかじめご理解いただいた上で、この機能をご使用ください。
- 本機のアナログポートにはモデムを接続して使用することができませんが、モデムの最高通信速度で接続できるとは限りません。モデムの通信速度は、その時の通信回線の環境や相手先の機器との相性によって決まりますので、モデムの最高性能よりも遅い速度でしか接続できない場合があります。
- 無線LANを使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線LAN装置の近くへの設置を避けるようにしてください。また、遮蔽物があると、通信可能距離が短くなる場合があります。
- 本機の工場出荷状態では、無線LANによる本機へのアクセスが可能になっています。無線を使った第三者による回線の不正使用を防ぐため、WEP(暗号化機能)をONにして使用することを強くおすすめします。また、無線LANを使用しない場合は、不正アクセスを防ぐために「RTW65iかんたん設定ページへ行く前に」画面で、「無線LANを使用する」のチェックを外すか、または「無線設定」画面で無線モードを「オフ」にしてください。
- 本機のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本機の設置場所、向きを変えてみてください。
- 本機を譲渡する際は、マニュアル類も同時に譲渡してください。
- 本機を廃棄する場合には不燃物ゴミとして廃棄してください。または、お住まいの自治体の指示に従ってください。

第1章 ルータについて

この章では、本機の特長やインターネットのしくみ、ネットワークについての基礎知識について解説しています。本機を使いこなすためやトラブルを避けるために、必ずご一読ください。

ネットボランチRTW65iでできること

本機は、ダイヤルアップルータ、ブロードバンドルータ、アナログポート、DSU、TA、無線LANアクセスポイントの機能をすべて内蔵した、多機能ルータです。ISDNのダイヤルアップ接続からCATV/ADSL接続、専用線接続、そして無線LANを利用したインターネット接続まで、さまざまなインターネット接続方法に対応できます。より高速な回線で接続したいときにも、本機の設定変更のみで対応できます。

◆ ISDN&ブロードバンド対応

従来のISDNダイヤルアップルータ機能に加えて、CATVやADSLなどのブロードバンド回線用モデムに接続できるWANポートを装備しています。また、インターネットはCATV回線で接続し、電話はISDN回線をお使いの場合でも、本機1台で対応できます。

ご注意

ISDN回線以外では、本機の電話機能は利用できません。

◆ 無線LAN&有線LAN(10BASE-T/100BASE-TX)両対応

IEEE802.11b準拠の11Mbit/s無線LANアクセスポイントを内蔵しているため、配線なしでインターネットやLANに接続できます。また、複数のRTW65iを使うことで、離れたLANどうしをつなげるブリッジ機能や、移動しても無線アクセスポイントを自動切り替えできるローミング機能にも対応しています。

◆ ファイアウォール機能

静的/動的の2種類のフィルタによるパケットフィルタリング機能で、外部からの不正アクセスに対してセキュリティを強化できます。不正アクセスや攻撃を検出した場合にお知らせする、不正アクセス検知機能も搭載しています。

◆ かんたん設定

付属のユーティリティソフトウェア「RTW65iパソコンセットアップ」でパソコンのネットワーク設定を自動的に行えます。本機は設定のためのホームページ「RTW65iかんたん設定ページ」を内蔵しているため、本機の基本的な設定はパソコンのWebブラウザで変更できます。

◆ メール着信確認/メール着信転送機能

登録したメールアドレスへのメール着信を通知するメール着信確認機能を搭載しているため、パソコンの電源を入れなくても、メール着信の有無を確認できます。メール着信を確認するだけでなく、着信したメールを携帯電話やPHSの電子メールなどの他のメールアドレスに転送できる、メール着信転送機能も搭載しています。

◆ TA(ターミナルアダプタ)/ブロードバンドTA機能搭載

Windows98SE/Me/2000/XP、Mac OS9のパソコンから、本機をUSB接続のISDN TAや、ブロードバンドTA (PPPoE方式のみ対応)として使うことができます。常時接続回線契約をしていても、セキュリティ面で心配なときに便利です。

また、本機はWindows98/Me/2000/XPの仮想プライベートネットワーク機能を使ったLAN-TA機能を搭載しているため、LAN上のWindowsパソコンから本機を仮想TAとして使用することもできます。

◆ LANポートのないパソコンでも、USBポート経由でアクセス可能

USBポートに接続したパソコンをLANに接続できる擬似LAN機能を搭載しているため、LANボードを装着できないパソコンでも、USB経由でLANへアクセスできます。

◆ 充実のNetVolanteホームページ

NetVolanteシリーズのホームページ (<http://NetVolante.jp/>)では、NetVolanteシリーズの最新情報や機能の設定方法、FAQ、リビジョンアッププログラムなど、NetVolanteを活用するための情報を満載しています。本機の「かんたん設定ページ」画面左上の「ネットボランチホームページ」をクリックするだけでアクセスできます。

また、ヤマハルータRTシリーズホームページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>)では、RTシリーズルータを使った高度な活用例や詳しい解説がご覧いただけます。

◆ その他多機能ルータとして便利な機能を装備

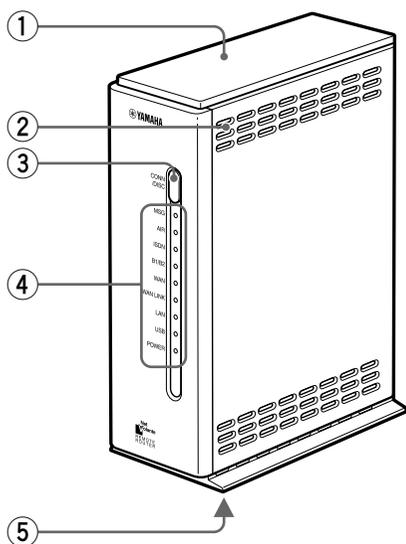
- 停電時には、乾電池によるバックアップ電源でTEL1ポートを使用でき、ライフラインとしての電話回線を確保できます (ISDN回線使用時のみ)。
- TELポートは3ポート装備しているので、今まで使っていた電話やFAX、モデムなどを接続できます。サブアドレスやフレックスホン、ナンバー・ディスプレイ、i-ナンバー、ダイヤルインなどのISDNサービスにも対応しています。
- 64/32kbit/s PIAFS対応ダイヤルアップサーバ機能を搭載しているため、PHS電話機で外出先からLANにアクセスできます (PIAFS 32k、64kbit/sに対応。64kbit/sはギャランティーマードとベストエフォートモードの両方に対応)。
- LAN上のパソコンからFAXモデムなしでFAXを送受信できる、Windows用FAXソフトウェア「RVS-COM 2000」に対応しています (利用するには別途「RVS-COM 2000」が必要です)。
- ご購入後に新しい機能が追加されても、本機内蔵ソフトウェアのリビジョンアップ(バージョンアップ)を行うことで、最新の機能が利用できます。リビジョンアップを行うには、NetVolanteシリーズのホームページ (<http://NetVolante.jp/>)からリビジョンアッププログラムをパソコンにダウンロードして、パソコンでこのプログラムを実行するだけです。

各部の名称とはたらき

1

ルーターについて

前面



① 外部アンテナ用カバー

本機に無線LAN用の外部アンテナを取り付けるときに、取りはずします(111ページ)。

② 通風口

内部の熱を逃がすための穴です。

③ CONN/DISCボタン

ISDN回線を利用したプロバイダへのルータ接続を、手で接続/切断するときに押します。

④ ランプ

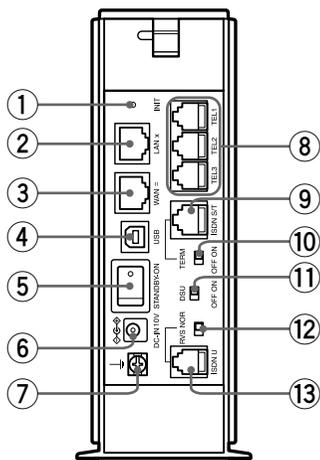
本機の動作状態を示します。

- **MSG**:登録したメールアドレスへメールが着信しているときに、点滅します(60ページ)。
- **AIR**:無線LANの状態を示します。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- **ISDN**:ISDNの回線状態を示します。回線が使用できる状態のときに点灯します。
- **B1/B2**:ISDNのB1チャンネルとB2チャンネルの使用状態を示します。接続中は点灯、データ通信中は点滅します。
- **WAN**:WANポートの使用状態を示します。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- **WAN LINK**:WANポート経由でインターネットに接続しているときに点滅します。
- **LAN**:LANポートの使用状態を示します。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- **USB**:USBポートの使用状態を示します。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- **POWER**:本機の電源の状態を示します。電源が入っているときは点灯、停電でバックアップ電源(電池)により動作しているときは点滅します。

動作状態と点灯動作の関係について詳しくは、別冊の「設定マニュアル」の「本機の動作状態を確認する」(108ページ)をご覧ください。

⑤ 電池ボックスカバー

カバー内部にバックアップ用電池ボックスがあります。詳しくは、別冊の「設定マニュアル」の「バックアップ電池を取り付ける」(32ページ)をご覧ください。



① INITスイッチ

このスイッチを押しながら本機の電源を入れると、本機の設定を工場出荷状態に戻すことができます(192ページ)。

② LANポート

パソコンのLANポートまたはHUBのポートとLANケーブルで接続します。

③ WANポート

CATVやADSLで接続する場合、ケーブルモデムやADSLモデムとLANケーブルで接続します。

④ USBポート

本機をTAとして使う場合に、パソコンのUSBポートとUSBケーブルで接続します。

⑤ STANDBY-ON(電源)スイッチ

本機の電源を入/切します。

⑥ DC-IN 10Vコネクタ

付属のACアダプタを接続します。

⑦ アース端子

アースコードを接続します。必ず接続してください。

⑧ TELポート

アナログの電話機やFAX、モデムを3台まで接続できます。停電時はバックアップ電源により、TEL1ポートのみ使用できます。

⑨ ISDN S/Tポート

ISDN機器を接続します。内蔵のDSUを使わない場合は、このポートとDSUまたはISDN機器をISDNケーブルで接続します。

⑩ TERM(ターミネータ)スイッチ

ISDN機器のターミネータ(終端抵抗)を設定します。

⑪ DSUスイッチ

内蔵のDSUを切り離します。内蔵のDSUを使うときは「ON」、使わないときは「OFF」にします。

⑫ RVS/NOR(極性反転)スイッチ

ISDN Uポートの極性を反転します。

⑬ ISDN Uポート

ISDN回線や専用線をモジュラーケーブルで接続します。

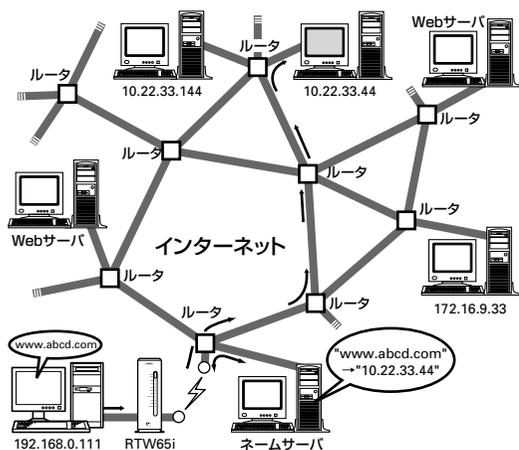
インターネットとルータの基礎知識

1

ルータについて

インターネットは、世界中のさまざまなネットワークを接続したネットワークです。そしてネットワークどうしをつなぐ装置が「ルータ」です。

インターネットでは、世界中のコンピュータから1台のコンピュータを識別するために、「192.168.0.250」のように4つの数字からなる「IPアドレス」という識別番号を使っています。ルータは流れてきたデータをIPアドレスで判断し、送り先を決めています。1つのデータが目的のコンピュータへ届くまでには、数多くのルータを通過していきます。このような通信ルールを「TCP/IP」と呼びます。



例：パソコンでホームページのアドレス(URL)を入力すると

- 1 プロバイダのネームサーバ(DNS)でURLがIPアドレスに変換されます。
- 2 そのアドレスのWebサーバまで「ホームページのデータを送れ」という要求(リクエスト)が届けられます。
- 3 その要求を受けて、Webサーバはホームページや画像データを要求元のパソコンのIPアドレスへ送り返します。

このように、誰から誰へ送れば良いのかはすべてIPアドレスで管理されているので、インターネットに接続するときは必ずIPアドレスが必要になります。

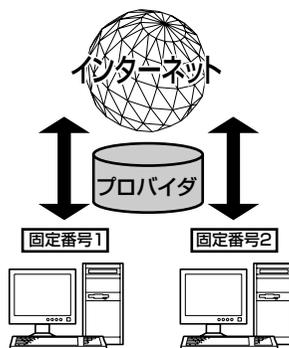
◆ IPアドレスの入手方法は、インターネットへの接続方法によって異なります

モデム/TAで接続する端末型ダイヤルアップ接続や、フレッツ・ADSLなどのPPPoE方式での接続の場合は

プロバイダに接続するたびに、プロバイダが持っているIPアドレスの中から、そのとき限りのIPアドレスが割り当てられます。このIPアドレスは、接続を切るまで有効です。次に接続したときは、以前接続したときとは異なるIPアドレスが割り当てられます。

専用線接続やLAN型ダイヤルアップ接続、CATV/ADSL(PPPoE方式以外)接続の場合は

プロバイダと契約すると、あらかじめ指定されたIPアドレスを、必要な数だけ割り当ててもらえます。割り当てられたIPアドレスを個々のパソコンに設定することで、インターネットへ接続できるようになります。

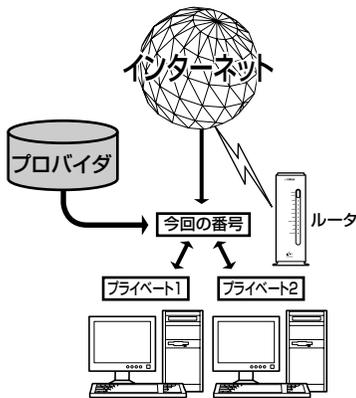


本機などのアドレス変換機能を持ったダイヤルアップルータで接続する場合は

ルータからLAN内専用のプライベートIPアドレスが各パソコンに割り当てられます。

インターネットに接続するときは、ルータが個々のプライベートIPアドレスをプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスに変換してインターネットへ送ります。もどってきたデータは、元のプライベートIPアドレスに変換してLAN内のパソコンへ送ります。

この変換機能を「NAT機能」と「IPマスカレード機能」と呼び、この機能によって端末型ダイヤルアップ契約でも複数のパソコンからインターネットが使えるようになっています。



プロバイダと契約すると、必ずIPアドレスの情報が通知されます。重要な情報なので必ず確認し、大切に保管してください。

IPアドレスとは？

IPアドレスは、「192.168.0.250」のような、0～255までの4つの数字からなる識別番号です。インターネットでは、世界中のコンピュータから1台のコンピュータを識別するために、IPアドレスを使っています。IPアドレスには、インターネット上で通用する「グローバルIPアドレス」と、自分のLAN内だけで通用する「プライベートIPアドレス」の2種類があります。

◆ グローバルIPアドレス

グローバルIPアドレスは、インターネットで世界中につながっているコンピュータの中から、1つのコンピュータを特定するためのIPアドレスです。グローバルIPアドレスは重複することができませんので、正式な手続きを経て取得する必要があります。専用線接続やLAN型ダイヤルアップ接続、CATV/ADSL(PPPoE方式以外)接続の契約を申し込むと、グローバルIPアドレスが割り当てられます。端末型ダイヤルアップ接続やフレッツ・ADSLなどのPPPoE方式での接続の契約では、接続するたびにプロバイダが取得したグローバルIPアドレスを一時的に借りてインターネットに接続しています。

◆ ご注意

接続業者によっては、プライベートIPアドレスが割り当てられる場合があります。

◆ プライベートIPアドレス

プライベートIPアドレスは、自分のLAN内に限って使用できるIPアドレスです。約43億通りのIPアドレスのうち、以下の範囲のIPアドレスを使用できます。

- 10.0.0.0～10.255.255.255
- 172.16.0.0～172.31.255.255
- 192.168.0.0～192.168.255.255

◆ ヒント

本機の初期設定値は「192.168.0.1」に設定されています。

◆ ネットマスク

ネットワークのIPアドレス範囲を表わす数値を「ネットマスク」といいます。ネットマスクの仕組みは、以下のようになっています。

例: ネットワーク番号192.168.11.0/26を使う場合

192.168.11.0を2進数で表わすと、32桁になります。左からネットマスクの個数分1を並べ、残りに0を並べます。1の範囲がそのネットワークを示す識別番号となり、0の範囲がネットワーク内の各機器を示す識別する番号となります。

- ネットワーク番号
(10進数表示): 192.168.11.0
(2進数表示):
11000000.10101000.00001011.00000000
- ネットマスク (2進数表示):
11111111.11111111.11111111.11000000

IPアドレスの範囲をわかりやすい10進数で表わすと、次のようになります。

- IPアドレスの最初(10進数表示): 192.168.11.0
- IPアドレスの最後(10進数表示): 192.168.11.63

☀️ ヒント

- ネットマスクは、「192.168.11.0/26」の他に「26ビット」や「255.255.255.192」と表記されることもあります。
- 本機の初期設定値は「192.168.0.0/24」に設定されています。

◆ IPアドレスのルール

専用線契約でプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスの範囲や、プライベートIPアドレスとして設定した範囲のうち、始めの番号は「ネットワークアドレス」、最後の番号は「ブロードキャストアドレス」に割り当てられ決まっています。この2つの番号は、パソコンなどに割り当てて使用することはできません。

例: 「172.16.128.112/28」のIPアドレスを割り当てられた場合

割り当てられた番号は「172.16.128.112」～ 「172.16.128.127」の16個ですが、以下のように実際にルータやパソコンなどに使える番号は、「172.16.128.113」～ 「172.16.128.126」の14個となります。このルールは、ご自分のLANにプライベートIPアドレスを設定して使うときにも適用されますので、ご注意ください。

- IPアドレス範囲最初→ 172.16.128.112
(ネットワークアドレス)
- 172.16.128.113(ルータ)
 - 172.16.128.114(サーバA)
 - 172.16.128.115(パソコン1)
 - 172.16.128.116(サーバB)
 - 172.16.128.117(パソコン2)
 - 172.16.128.118(パソコン3)
 - 172.16.128.119
 - :
 - 172.16.128.120
 - 172.16.128.121
 - 172.16.128.122
 - 172.16.128.123
 - 172.16.128.124
 - 172.16.128.125
 - 172.16.128.126
- 自由に使える範囲
- IPアドレス範囲最後→ 172.16.128.127
(ブロードキャストアドレス)

TAとルータの違いは？

ISDN回線を利用してインターネットへ接続するための機器としてはTAとルータの2種類があり、それぞれ特徴が違います。

◆ TA(ターミナルアダプタ)の機能

TAは、パソコンの通信データをISDN回線用のデジタル信号に変換する機器です。ISDN回線用のモデムに相当し、モデムと同様にパソコンの接続ソフトを使って手動でインターネットへ接続します。

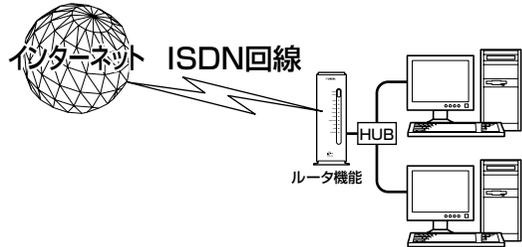


TAの場合は、パソコン1台につき1つのTAと回線が必要です。また、プロバイダ接続情報をパソコンに設定して使うので、パソコンごとに設定作業が必要になります。TAでインターネットへ端末型ダイヤルアップ接続すると、プロバイダのグローバルIPアドレスが割り当てられますので、ネットワークゲームやICQなど、グローバルIPアドレスを利用したサービスを利用できます。また、パソコンでWindowsのダイヤルアップサーバやMacintoshのARA(アップル・リモート・アクセス)サーバを利用したいときは、TAが必要です。

◆ ルータの機能

ルータは、LAN内のデータの宛先を監視して、データの流れを制御(ルーティング)する機器です。ダイヤルアップルータは、LAN内のデータにインターネット宛てのものを見つけると、ルータが自動的にプロバイダへ電話をかけてインターネットに接続します。接続/切断操作が不要のため、専用線で接続しているような感覚でインターネットを利用できます。

ルータは1つの回線で接続するため、1つのプロバイダ接続契約でLAN内の複数のパソコンから、同時にインターネットに接続できます。また、プロバイダ接続情報はルータに設定するだけです。パソコンが何台増えてもルータ以外に管理する必要はありません。



ただし、ルータでは、LAN内のプライベートIPアドレスをグローバルIPアドレスに変換して接続するため、ネットワークゲームやICQなど、グローバルIPアドレスを利用したソフトウェアやサービスを利用できない場合があります。

◆ ルータのNAT機能とは？

インターネット上のコンピュータはすべてグローバルIPを持つ必要があるため、LAN内のプライベートIPアドレスでは、インターネットに接続できません。本機では、内蔵のNAT(Network Address Translator)機能を利用して、プライベートIPアドレスを端末型ダイヤルアップ接続でプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスに変換することで、LAN内のパソコンからインターネットへ接続できるようにしています。

IPマスカレード機能

さらに、本機のIPマスカレード機能を利用することで、複数のパソコンのプライベートIPアドレスを1つのグローバルIPアドレスに自動的に変換して、端末型ダイヤルアップ接続でも複数のパソコンからインターネットに接続できるようにしています。

また、専用線接続で割り当てられているグローバルIPアドレスの数が足りない場合でも、NAT機能とIPマスカレード機能を使うことで、より多くのパソコンを接続することができるようになります。

ISDNの付加サービス

1 ルーターについて

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがあります。この他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

発信者番号通知 発信者の番号を相手に通知できます。

サブアドレス通知 ISDN回線やPHSからの通話の場合に、接続したい機器を指定して着信させることができます。

ナンバー・ディスプレイ(有料)
着信時に発信者の番号が通知されます。

i・ナンバー(有料) 電話番号を最大2つまで増設でき、アナログ回線からの通話でも最大3つの電話番号を使い分けて着信させることができます。

ダイヤルイン(有料)
電話番号を最大99個まで増設できます。アナログ回線からの通話でも電話番号を使い分けて着信させることができます。

料金情報通知 通話にかかった料金が通知されるサービスです。回線から通知される料金は、小数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスが適用されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安と考えてください。また、NTT以外の通信業者では通知されません。

ユーザ間情報通知 通信開始時と終了時にメッセージを送受信できます。

通信中着信通知サービス
通話中に着信を知らせるサービスです。

◆【フレックスホン】

INSキャッチホン(有料)
通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信に応答できるキャッチホンサービスです。

三者通話(有料) 通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。

通信中転送(有料) 通話中の通信を第三者へ転送できます。

着信転送(有料) 着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

ご注意

- 本機では、フレックスホンとほぼ同等の機能を本機だけで実現できます。フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似キャッチホン、擬似通信中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼んで区別しています。
- NTTのフレックスホンは、回線の状態にかかわらず利用できます。
- 擬似フレックスホンでは、ISDN回線の2チャンネル同時に通信できる特徴を利用して、擬似的に同等の機能を実現しています。そのため、擬似フレックスホン使用時は2チャンネル共に通話中となり、それに伴った課金が行われます。インターネット接続などで、すでに1チャンネルを接続している状態では、擬似フレックスホン機能は使用できません。

第 2 章 本機の設定を変更する

この章では、本機の機能やいくつかの設定方法について紹介しています。一番操作しやすい方法でお使いください。

利用できる設定方法の種類

本機の機能は、以下の操作方法で設定したり、設定を確認したりできます。一番操作しやすい方法でお使いください。

電話機で設定する(20ページ)

本機のTELポートに接続したプッシュボタン式電話機から、本機の電話機能を設定できます。設定は、受話器を上げてダイヤルボタンを押して行います。

パソコンのWebブラウザで設定する(25ページ)

本機にパソコンを接続している場合は、Webブラウザで本機内蔵の「かんたん設定ページ」を開いて本機の状態を見たり、各種機能を設定したりすることができます。

ATコマンドで設定する(28ページ)

本機のUSBポートにパソコンを接続している場合は、パソコン通信ソフトを使って、本機のTA機能を設定できます。

コンソールコマンドで設定する(30ページ)

TELNETソフトウェアを使ってコンソール画面からコマンドを入力して、本機の状態を確認したり、各種の機能を設定できます。

リモートセットアップで設定する(31ページ)

すでにヤマハRTシリーズのルータをお使いの場合は、本機からISDN回線／専用線経由で相手のルータを設定したり、相手のルータから本機を設定したりすることができます。

電話機で設定する

2

本機の設定を変更する

TELポートに接続したプッシュボタン式電話機で、本機を設定できます。電話機からは、主に本機の電話機能を設定できます。

設定できる機能と設定値については、「電話機設定機能一覧」(22ページ)をご覧ください。よく使う設定例については、21ページをご覧ください。

ご注意

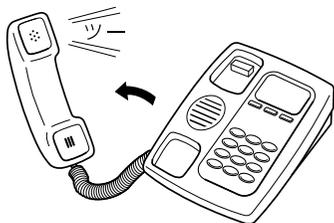
- 電話機から設定するときは、必ず電話機をトーン(プッシュ)に切り替えてから操作してください。パルス(ダイヤル)方式だけでトーンの機能がない電話機からは、設定できません。
- 外線電話からは設定できません。
- 電話機から設定すると、設定内容は本機の内蔵メモリに保存されますので、本機の電源を切っても内容は消えません。ただし、IPアドレスとネットマスクは記憶されませんのでご注意ください。

設定のしかた

電話機で「**✖**」、「**㊦**」、機能番号、TELポート番号、設定値」の順でダイヤルしてから**㊦**を押すと、本機の電話機能を設定できます。

ここでは、TEL2ポートにダイヤルイン番号「031-333-2002」を登録する場合を例にして、操作の手順を説明します。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 電話機の**✖**と**㊦**ボタンを押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 機能番号を押す。

ダイヤルイン番号を設定する場合は、「11」と押します。

4 TELポート番号を押す。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。TEL2ポートを指定する場合は、「2」を押します。

- ✖**を押すと、設定に使っている電話機が接続されているTELポートが選ばれます。
- TELポート番号が不要な機能は、何も押さずに次の手順へ進んでください。

5 設定値を押す。

ダイヤルイン番号「031-333-2002」を登録するときは、「0313332002」と押します。

6 **㊦**を押す。

「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

設定内容が適切でなかったり、設定が正常に変更されていません。設定内容を確認してから、手順3から操作し直してください。

7 受話器を置く。



続けて設定するときは、受話器をあげたまま手順3~6の操作を繰り返します。

設定例

① ダイヤルイン番号を設定する

TEL2ポートのダイヤルイン番号を「031-333-2002」にする場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、11(機能番号)、2(TEL2ポート)、0313332002、**(#)** と押す。

② サブアドレスを設定する

TEL1ポートのサブアドレスを「88」にする場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、12(機能番号)、1(TEL1ポート)、88、**(#)** と押す。

③ アナログポートを使用制限する

TEL3ポートに何も接続しない場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、14(機能番号)、3(TEL3ポート)、0(何も接続しない)、**(#)** と押す。

④ フレックスホンを設定する

•NTTのINSキャッチホンを使用する場合の例(すべてのTELポート共通):

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、52(機能番号)、1、**(#)** と押す。

•NTTの通信中転送を使用する場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、53(機能番号)、1、**(#)** と押す。

•NTTの三者通話を使用する場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、54(機能番号)、1、**(#)** と押す。

•TEL2ポートでNTTの着信転送を使用する場合の例(転送先アドレスは「031-333-5555」、1回コール後に転送):

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、55(機能番号)、2(TEL2ポート)、1、**(#)** と押す。

そのあとに続けて、56(機能番号)、2(TEL2ポート)、0313335555、**(#)** と押し、さらに58(機能番号)、2(TEL2ポート)、1、**(#)** と押す。

⑤ 話中着信の設定

TEL1ポートで話中着信を許可する場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、36(機能番号)、1(TEL1ポート)、1、**(#)** と押す。

⑥ ダイヤルの桁間隔時間を設定する

TEL1ポートのダイヤルの桁間隔時間を10秒に設定する場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、41(機能番号)、1(TEL1ポート)、10、**(#)** と押す。

⑦ フッキング判定時間を設定する

TEL1ポートのフッキング判定時間を1.2秒に設定する場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、42(機能番号)、1(TEL1ポート)、12、**(#)** と押す。

⑧ 識別着信を設定する

031-444-1818からTEL3ポートへの着信を拒否する場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、32(機能番号)、3(TEL3ポート)、2、**(#)** と押す。

そのあとに続けて、33(機能番号)、3(TEL3ポート)、0314441818、**(#)** と押す。

⑨ ナンバー・ディスプレイ対応に設定する

TEL3ポートをナンバー・ディスプレイ対応にする場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、39(機能番号)、3(TEL3ポート)、1、**(#)** と押す。

⑩ パスワードを変更する

パスワード「666」を「77」に変更する場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、00(機能番号)、666(旧パスワード)、**(✖)**、77(新パスワード)、**(✖)**、77(新パスワード確認)、**(#)** と押す。

⑪ IPアドレスとネットマスクを新規設定する

IPアドレスを「192.168.11.1」、ネットマスクを「255.255.0」(24ビット)に新規に設定する場合の例:

受話器をあげてから、**(✖)**、**(#)**、71(機能番号)、192、**(✖)**、168、**(✖)**、11、**(✖)**、1、**(#)** と押す。

そのあとに続けて、72(機能番号)、255、**(✖)**、255、**(✖)**、255、**(✖)**、0、**(#)** と押す。

ご注意

- 専用線接続時にLANのIPアドレスとしてグローバルIPアドレスを設定する場合は、必ずプロバイダの接続情報を確認してから作業してください。不安なときは、プロバイダまたは電話事業者の技術者に相談してください。万一間違ったIPアドレスを設定した場合、LAN外のホストやネットワークにトラブルが起きることがあります。
- IPアドレスを変更するときは、LANの管理者に本機に割り当てるIPアドレスとネットマスクをお問い合わせください。管理者がいないときは、LAN上のすべての機器のIPアドレス設定を調べて、ネットマスクの設定値と、重複しないIPアドレスを決めてください。

電話機設定機能一覧

電話機から設定できる機能の詳細については、コマンドリファレンスをご覧ください。

2 本機の設定を変更する

機能	機能番号	設定値	初期設定値
TELポートのダイヤル番号設定	11	回線番号またはダイヤルイン番号	番号なし
TELポートのサブアドレス設定	12	サブアドレス	番号なし
通信機器の種類設定	13	0=指定なし 1=電話 2=FAX(G2/G3)	0
アナログポート使用制限の設定	14	0=使用しない 1=発信のみ 2=着信のみ 3=発信・着信可能	3
発信者番号通知	21	0=通知しない 1=通知する	0
即時発信	22	0=使用しない 1=使用する	1
グローバル着信	31	0=しない 1=する	1
識別着信	32	0=しない 1=一致時着信 2=一致時拒否	2
識別着信の番号登録	33	TELポート 番号 識別する電話番号	番号なし
サブアドレスなしの着信	34	1=TEL1 2=TEL2 3=TEL3 0=拒否 1=許可	1
通信機器種別指定の着信	35	0=拒否 1=許可	1
話中着信	36	0=拒否 1=許可	0
優先着信ポート	37	1=優先順位高い 2=優先順位普通 3=優先順位低い	2
着信ベル設定	38	1=パターン1、識別する相手の電話番号 2=パターン2、識別する相手の電話番号	番号なし
ナンバーディスプレイ機能	39	0=使用しない 1=ナンバー・ディスプレイのみ使用する 2=ナンバー・ディスプレイとキャッチホン・ディスプレイの両方を使用する	0
ダイヤル桁の間隔設定(秒)	41	1~59	4
フッキング判定時間(1/10秒)	42	5~20	10
フッキング後の操作有効時間(秒)	43	1~9	4
フッキング,オン フック無効時間(秒)	44	1~3 0=全て有効	0
疑似切断信号の設定	45	0=送出不しい 1=送出する	1
モデム信号タイプ設定	46	1=タイプ1 2=タイプ2 3=タイプ3	3

機能	機能番号	設定値		初期設定値
キャッチホン機能	52	—	0=使用しない 1=フレックスホン 2=擬似	2
通信中転送機能	53	—	0=使用しない 1=フレックスホン 2=擬似	0
三者通話機能	54	—	0=使用しない 1=フレックスホン 2=擬似	0
着信転送機能	55	TELポート 番号 1=TEL1 2=TEL2 3=TEL3	0=使用しない 1=フレックスホン 2=擬似	0
着信転送先番号登録	56		転送先番号	番号なし
着信転送トーン設定	57		0=なし 1=転送先のみ 2=転送元のみ 3=あり	0
着信転送起動タイミング設定	58		0=無音転送 1~10=コール数	0
着信転送失敗時の動作設定	59		0=話中音 1=着信ベル	1
送話PADの音量設定	61		0=PADなし 1=-3dB 2=-6dB 3=-9dB 4=-12dB 5=-15dB 6=-18dB 7=-21dB	0
受話PADの音量設定	62		0=PADなし 1=-3dB 2=-6dB 3=-9dB 4=-12dB 5=-15dB 6=-18dB 7=-21dB	0
DTMF検出しレベル	63	0=PADなし 1=-3dB 2=-6dB 3=-9dB 4=-12dB 5=-15dB 6=-18dB 7=-21dB 8=-24dB 9=-27dB 10=-30dB	0	

電話機で設定する

2 本機の設定を変更する

機能	機能番号	設定値				初期設定値
LAN側のルーティングIPアドレス設定	71	IPアドレス				192*168*0*1
LAN側のネットマスク設定	72	ネットマスク				255*255*255*0
BODの設定	73	0=使用しない 1=使用する				1
i:ナンバーの設定	81	0=使用しない 1=i:ナンバー1着信 2=i:ナンバー2着信 3=i:ナンバー3着信 12=i:ナンバー1、2着信 13=i:ナンバー1、3着信 23=i:ナンバー2、3着信 123=i:ナンバー1、2、3着信 *=全て				TEL1=1 TEL2=2 TEL3=3
着信時サービス設定	82	TELポート番号 1=TEL1 2=TEL2 3=TEL3	00=契約者番号 01=ローカルアドレス1 02=ローカルアドレス2 03=ローカルアドレス3 04=ローカルアドレス4 05=ローカルアドレス5 11=i:ナンバー1 12=i:ナンバー2 13=i:ナンバー3	発信端末タイプ 0=なし 1=電話 2=FAX *=全て	着信サービスタイプ 1= PBダイヤルイン 2= モデムダイヤルイン 3= 無鳴動着信	ダイヤルイン番号 設定なし
擬似ナンバーリクエスト	83	発番号なし着信 0=拒否 1=許可 2=擬似ナンバーリクエスト		非通知理由 1=公衆電話 2=ユーザによる通知拒否 3=表示圏外 *=全て	発番号なし着信すべて許可	
ダイヤル完了ボタン設定	84	0=使用しない 1=使用する				1
再呼出時間設定(秒)	85	10~180				30
アナログポート設定の消去	91	-				-
識別着信の番号削除	92	登録済みの電話番号				-
着信ベルの番号削除	93	着信ベル番号	登録済みの電話番号			-
料金情報の消去	94	-				-
アナログポート設定の全消去	99	-				-
パスワードの設定	00	(旧パスワード)*(新パスワード)*(新パスワード)				-

Webブラウザで設定する

本機をLAN接続で使っている場合は、Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使って本機を設定できます。Webブラウザで設定操作をする場合は、電話機による設定操作よりも、多くの機能を簡単に設定することが可能です。

ご注意

- 「かんたん設定ページ」を使用するには、Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降(6.0以降を除く)のWebブラウザが必要です。
- 本機をTAとして使っている場合は、Webブラウザで設定することはできません。擬似LAN接続の設定を行ってから、擬似LAN接続で本機に接続してください(92ページ)。

ヒント

- 「かんたん設定ページ」の設定項目については、「Webブラウザ設定ページ項目一覧」(208ページ)をご覧ください。
- 「かんたん設定ページ」各設定に関する詳細情報については、各画面の[ヘルプ]をクリックして表示される「ヘルプ」画面をご覧ください。

2

本機の設定を変更する

かんたん設定ページ画面の見かた

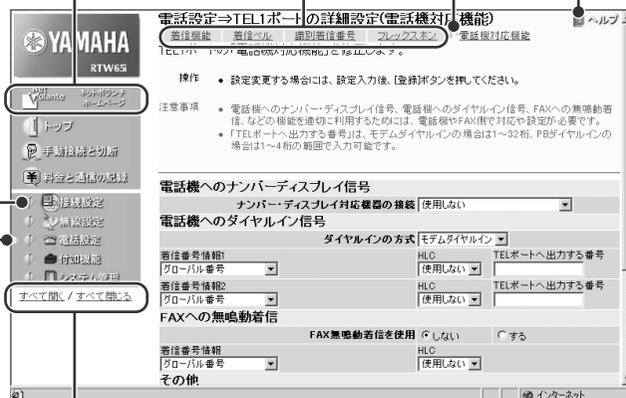
サブメニューを開閉します。

詳細設定画面を選びます。

ネットボランチホームページを表示します(インターネットに接続するので、課金が発生します)。

現在の詳細設定画面を示します。

ヘルプ画面を表示します。



すべてのサブメニューを開閉します。

現在の設定画面を示します。

設定のしかた

2 本機の設定を変更する

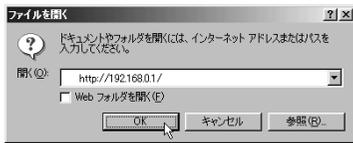
◆ 電話機能を設定する場合の例

1 パソコンでWebブラウザを起動して、ファイルメニューの[開く]を選ぶ。

「ファイルを開く」画面が表示されます。

2 「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。



「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

ご注意

専用線でインターネットに接続している場合など、本機のIPアドレスを変更している場合には、「192.168.0.1」のかわりに本機のIPアドレスを入力します。

ルータの管理パスワードが設定されていない場合は

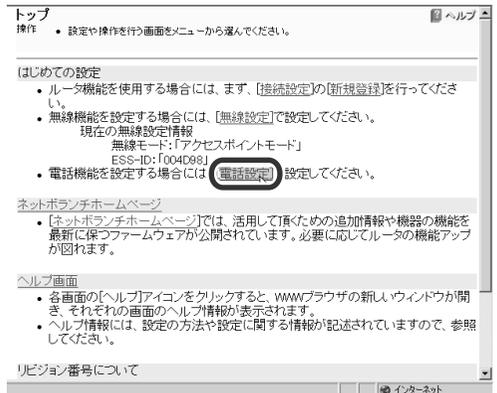
「RTW65iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。ルータの管理パスワードと現在の日時を設定してください。

3 [パスワード]欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

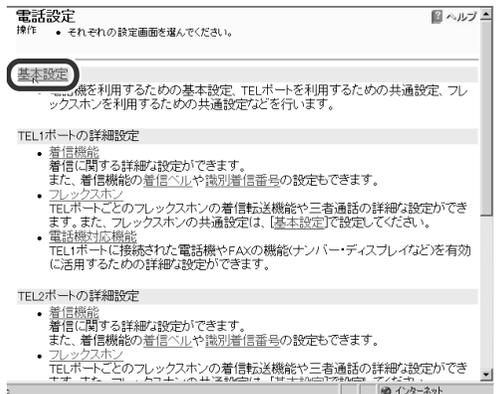


「トップ」画面が表示されます。

4 [電話設定]をクリックする。

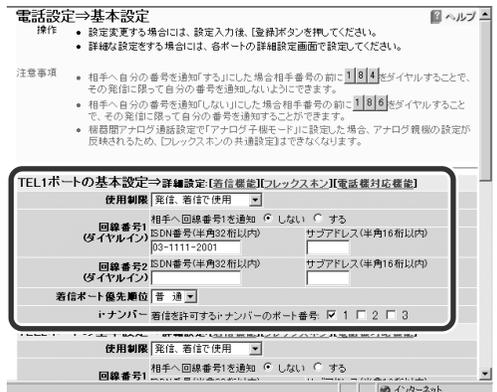


5 [基本設定]をクリックする。



6 TELポートに電話番号を設定してから、優先着信ポートやフレックスホンなどを選び、[登録]をクリックする。

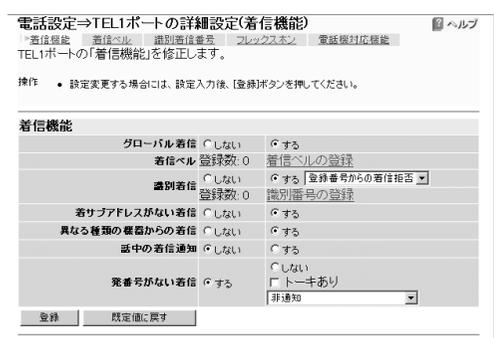
TEL1ポートに契約者番号「03-1111-2001」を登録する場合の例



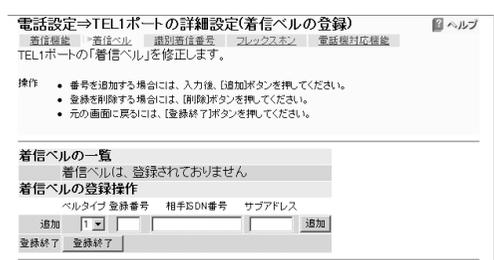
7 さらに詳しい設定を行う場合には、各ポートごとの[着信機能][着信ベル][識別着信番号][フレックスホン][電話機対応機能]をクリックする。

設定項目について詳しくは、「かんたん設定ページ」のヘルプ画面をご覧ください。

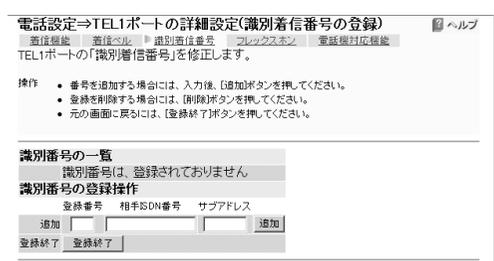
「着信機能」画面



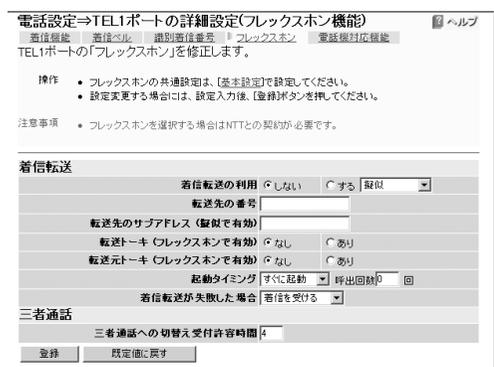
「着信ベル」画面



「識別着信番号」画面



「フレックスホン」画面



「電話機対応機能」画面



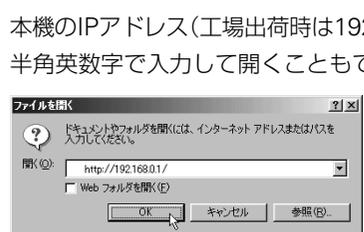
8 画面入力が終わったら、「登録」をクリックする。

◆ 通信記録を見る場合の例

TELポートやインターネット接続などで通信した記録を調べることができます。

1 パソコンでWebブラウザを起動して、ファイルメニューの[開く]を選ぶ。
「ファイルを開く」画面が表示されます。

2 「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。



「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

3 [パスワード]欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。



4 画面左側の[料金と通信の記録]をクリックする。

累積料金(ISDN回線で接続時のみ)や着信転送件数、メール着信件数、メール転送件数、通信履歴が表示されます。

料金と通信の記録
操作 最新情報に更新するときには、ブラウザの再読み込み/更新ボタンを押します。

料金情報 [料金設定]

通信種別	最後の通信料金	累積料金	累積接続時間	累積着信回数	累積着信回数
プロバイダ接続(設定管理)					
1(P01) ISDP1 ISDN選択中	8円	54円	00:19:11	8回	0回
アナログポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
USBポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN版RVS-COM	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN-TA機能	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計	8円	54円	00:19:11	8回	0回
各アナログポートごとの料金情報					
TEL1ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL2ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計	0円	0円	00:00:00	0回	0回

着信転送履歴 [電話設定]
着信転送の履歴は表示できません。

5 確認が終わったら、画面下の[終了]をクリックする。

◆ ルータのパスワードについて

「かんたん設定ページ」を開くときに入力するルータのパスワードには、「管理パスワード」と「ログインパスワード」の2種類があります。

- **管理パスワードを入力すると:**すべての画面を見ることができ、各画面の設定内容を変更できます。ルータを管理する人だけが使うことをお勧めします。
- **ログインパスワードを入力すると:**「手動接続と切断」画面と「料金と通信の記録」画面のみを見ることができ、設定ページは表示できません。管理者以外のユーザにはログインパスワードを知らせれば、設定を勝手に変更されることなく、手動切断したり、メール着信を確認してもらうことができます。

☀️ ヒント

- 「かんたん設定ページ」を初めて開いたときに設定したパスワードが、「管理パスワード」と「ログインパスワード」の両方に設定されます。どちらかのパスワードを変更したいときは、「システム管理」画面で設定できます。
- ログインパスワードを設定しない場合でも、パスワードを入力せずに「手動接続と切断」と「料金と通信の記録」画面を確認できます。

ATコマンドで設定する

本機のUSBポートにパソコンを接続している場合は、ATコマンドを使って本機のTA機能を設定できます。

☀️ ご注意

ATコマンドで設定するには、USB接続の設定が必要で(67ページ)。

☀️ ATコマンドとは？

米国Hayes社が開発した、モデムを制御するためのコマンドで、モデムやTAを使用したパソコン通信によく使われています。本機をTAとして使用してプロバイダにアクセスするための設定を行ったり、プロバイダへ接続したりする場合に使います。

ATコマンドを使用するためには、本機のUSBポートへパソコンを接続し、そのパソコン上でターミナルソフトと呼ばれるアプリケーションを起動して、設定や操作を行います(29ページ)。

ATコマンドに関連した用語として、以下の用語があります。

用語	説明
リザルトコード	ATコマンドを実行した結果、パソコンまたは通信相手から返ってくる返事です。
Sレジスタ	ATコマンドによる設定や実行結果内容などを保存する記憶場所です。Sレジスタには番号があり、番号によって記憶内容や役割があらかじめ決められています。
INFファイル	ターミナルソフトウェアやダイヤルアップソフトウェアが本機の使用を開始する際に参照する、Windows用のファイルです。中身はATコマンドなどで記述されています。
CCLファイル	Macintosh用のモデム記述ファイルです。WindowsのINFファイルに相当します。
モデム初期化コマンド	モデムを使用して通信を始める前に自動的にモデムやTAに実行させるコマンドです。INFファイルやCCLファイルによる設定以外のオプション設定コマンドなどを記述します。

設定のしかた

ATコマンドによる設定は、一般的に以下のような流れになります。

🔔 ヒント

ATコマンドについて詳しくは、「ATコマンド一覧」(211ページ)をご覧ください。

1 ターミナルソフトを起動する。

ターミナルソフトでは本機が接続されている通信(COM)ポートを指定する必要があります。

MacOSの場合は

[USB Modem]を選びます。

Windowsの場合は

通信(COM)ポート番号は以下の方法で調べることができます。

- **Windows98SE/Meの場合:** [コントロールパネル] - [システム] - [デバイスマネージャ] - [モデム]の[RTW65i USB xxxx]をダブルクリックして、[モデム]タブでCOMポート番号を確認します。
- **Windows2000/XPの場合:** [コントロールパネル] - [システム]の[ハードウェア]タブでデバイスマネージャ - [モデム]の[YAMAHA RTW65i USB]を開き、[モデム]タブでCOMポート番号を確認します。

📌 ご注意

ターミナルソフトで本機のUSBポートにアクセスしている間は、絶対にUSBケーブルを抜いたり、本機の電源を切らないでください。

2 「AT」と入力してから、Enterキーを押す。

「OK」という文字が表示されるのを確認します。

3 ATコマンド一覧を参照して、「AT&V」コマンドで設定内容を調べてから、必要な設定を行う。

4 設定した内容を本機に保存するには、「AT&W」と入力してからEnterキーを押す。

5 ターミナルソフトを終了する。

📌 ご注意

- 手順4の&Wコマンドを実行しないと、設定した内容が本機の内蔵メモリに保存されません。内蔵メモリに保存しないと、本機の電源を切ると、設定内容が失われます。
- ATコマンドに関する設定の保存と、ルータ機能に関する設定の保存は同じ内蔵メモリに対して行われます。ただし、ATコマンドで設定を保存すると、ATコマンドに関する設定だけが内蔵メモリに保存されますので、ご注意ください。

◆ ATコマンド使用上のご注意

ATコマンドを使用するときは、以下の点にご注意ください。

- **入力文字:** 半角のASCII文字だけを使用できます。
- **先頭文字:** 「AT」または「at」のみ使用できます。「At」や「aT」というように、大文字と小文字を混在することはできません。
- **繰り返し:** 「A」または「a」を入力すると、直前のコマンドを繰り返して実行できます。
- **連続実行:** 複数のコマンドを1回で入力できます。
例: 「AT&D0」と「AT\$M1」というコマンドをまとめて、「AT&D0\$M1」と入力できます。

コンソールコマンドで設定する

2

本機の設定を変更する

本機に直接コマンドを送って、機能を設定できます。コンソールコマンドはTELNETソフトウェアから入力しますので、お使いの環境用のTELNETソフトウェアをご用意ください。

コンソールコマンドとは？

コンソールコマンドは、ルータに直接命令を送って、機能を設定する方法です。コンソールコマンドを使うと、他の方法よりも、より詳しい設定が行えます。コンソールコマンドの詳細については、コマンドリファレンスをご覧ください。

ヒント

本機のUSBポートに接続したパソコンからターミナルソフトを使って、本機をコンソールコマンドで設定することもできます。

設定のしかた

LANポートに接続しているパソコンからTELNETソフトウェアで本機にログインし、コンソールコマンドを送信して設定します。ここでは、Windows標準のTELNETを使用する場合を例に説明します。Macintoshではフリーウェアなどをお使いください(MacOS Xでは、MacOS Xに付属のTerminalソフトウェアを使用できます)。

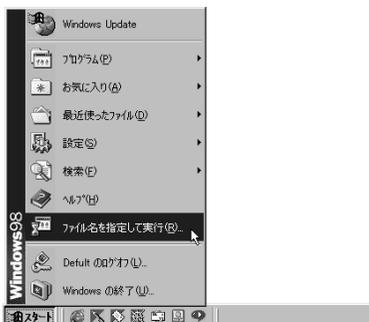
ご注意

コンソールコマンドは、コマンドの動作をよく理解した上でお使いください。「かんたん設定ページ」で設定後にコンソールコマンドで設定を変更すると、意図しない動作につながる場合があります。設定後に意図した動作をするかどうか、必ずご確認ください。

ヒント

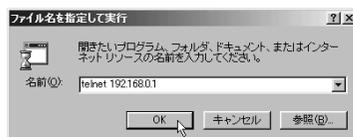
コンソールコマンドの詳細については、コマンドリファレンスをご覧ください。

1 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選ぶ。



2 「telnet 192.168.0.1」と入力してから、[OK]をクリックする。

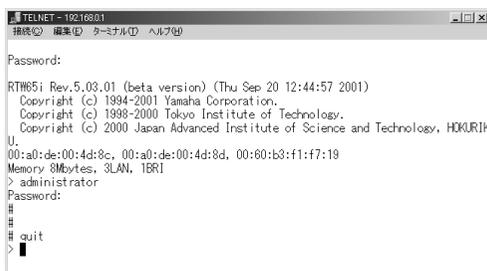
本機のIPアドレスを変更している場合には、「192.168.0.1」のかわりに本機のIPアドレスを入力します。



3 「Password:」と表示されたら、ログインパスワードを入力してからEnterキーを押す。

何も表示されないときは、1度Enterキーを押します。

「>」が表示されると、コンソールコマンドを入力できるようになります。



ヒント

- helpと入力してからEnterキーを押すと、キー操作の説明が表示されます。
- show commandと入力してからEnterキーを押すと、コマンド一覧が表示されます。

4 「administrator」と入力してから、Enterキーを押す。

5 「Password:」と表示されたら、管理パスワードを入力する。

「#」が表示されると、各種のコンソールコマンドを入力できます。

6 コンソールコマンドを入力して、設定を行う。コンソールコマンドについて詳しくは、付属のコマンドリファレンス(PDFファイル)をご覧ください。

離れた場所のルータを設定する

7 設定が終わったら、「save」と入力してからEnterキーを押す。

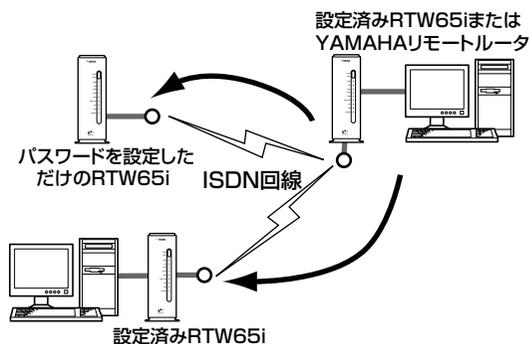
コンソールコマンドで設定した内容が、本機のメモリに保存されます。

8 設定を終了するには、「quit」と入力してからEnterキーを押す。

9 コンソール画面を終了するには、もう一度「quit」と入力してからEnterキーを押す。

すでにヤマハ製RTシリーズルータをお使いの場合は、離れた場所のルータでもISDN回線や専用線経由で設定できます。これを「リモートセットアップ」といいます。パスワードが設定されたRTW65iであれば、リモートセットアップで設定することが可能です。

ISDN回線で相手のルータに直接接続するので、プロバイダに契約していなくても、インターネット接続できない状態でも設定できます。



ご注意

- リモートセットアップで設定される側は、パスワードが設定されている必要があります。パスワードを知らないと設定することはできません。また、リモートセットアップを拒否するようにも設定できるため、拒否に設定しておけば、不特定の相手からの侵入を防げます。
- ヤマハ製リモートルータ以外のルータからリモートセットアップすることはできません。
- CATVやADSLなどのWANポート経由で、リモートセットアップすることはできません。

リモートセットアップはコンソールから行ないます。相手のYAMAHAリモートルータへのログインが完了すると、設定したいルータをコンソールコマンドで設定できるようになります。

例: ISDN番号が03-1111-7788のRTW65iを設定するためにログインする場合

```
TELNET - 192.168.0.1
接続 編集 端末制御 ヘルプ
Password:
RTW65i Rev.5.03.01 (beta version) (Thu Sep 20 12:44:57 2001)
Copyright (c) 1994-2001 Yamaha Corporation.
Copyright (c) 1998-2000 Tokyo Institute of Technology.
Copyright (c) 2000 Japan Advanced Institute of Science and Technology, HOKURIKI
U.
00:a0:de:00:4d:8c, 00:a0:de:00:4d:8d, 00:60:b3:f1:f7:19
Memory 8Mbytes, 3LAN, 1BR1
> administrator
Password:
# remote setup 03-1111-7788
Password:
RTW65i Rev.5.03.01 (beta version) (Thu Sep 20 12:44:57 2001)
Copyright (c) 1994-2001 Yamaha Corporation.
Copyright (c) 1998-2000 Tokyo Institute of Technology.
Copyright (c) 2000 Japan Advanced Institute of Science and Technology, HOKURIKI
U.
00:a0:de:00:4d:8c, 00:a0:de:00:4d:8d, 00:60:b3:f1:f7:19
Memory 8Mbytes, 3LAN, 1BR1
>
```

2

本機の設定を変更する

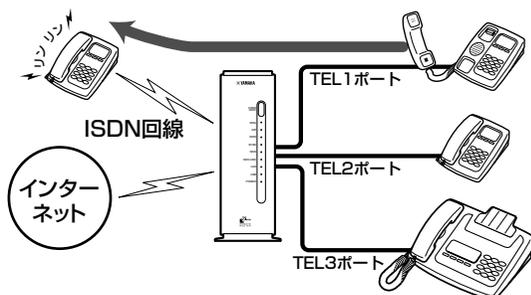
第3章 電話を使う ISDN

この章では、本機をISDN回線でお使いの場合に利用できる電話機能について、簡単な電話のかけかたから、さまざまなISDNサービスを利用した使いかたまでを紹介します。よくお読みいただき、本機の電話機能を十分ご活用ください。本機をCATV／ADSL回線や専用線に接続している場合は、外線に通話することはできません。

電話をかける／受ける

電話をかける

電話機で外線をかけるときは、通常の電話と同じ操作でかけられます。また、2回線まで同時に通信できるので、FAXを使いながら電話をかけたり、インターネットを使いながら電話をかけることも可能です。

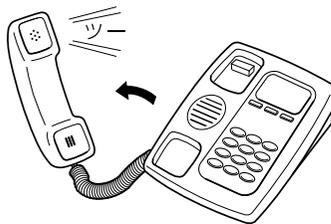


ご注意

- 電話機のダイヤル設定は、できる限り「トーン」(プッシュ)でお使いください。「パルス」の場合は、**(✕)** および **(⊕)** の入力ができないため、次のような制限があります。
 - 内線をかけることができません。
 - 外線をかけるときにサブアドレスを指定できません。
 - 電話機からの設定ができません。
- 本機の電話機能は、ISDN回線の場合に利用できます。本機をCATV／ADSL回線や専用線に接続している場合は、TELポート間の内線通話と機器間アナログ通話以外、電話をかけたり受けたりすることはできません。

1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2 相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

相手がISDN回線でサブアドレスを設定している場合は、

電話番号に続けて **(*)** とサブアドレス番号を押します。サブアドレス2番にかける場合の例：
0313337777、**(*)**、2と押す。

☀️ ヒント

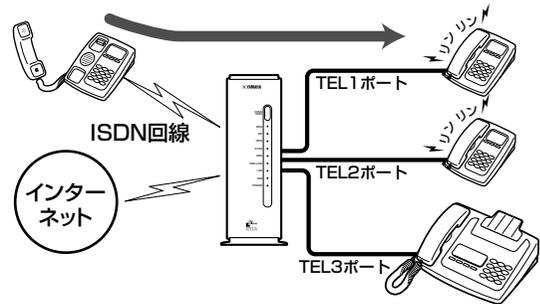
- ダイヤルを押した後に **(#)** を押すと、すぐに発信します。また、何も押さなくてもダイヤル桁の間隔設定(22ページ)で設定された時間(工場出荷時は4秒)を過ぎると、自動的に発信します。
- 一度通話状態になった相手に電話する場合、即時発信を使用する設定がされていれば、過去20件までの相手先は **(#)** なしでもすぐに発信します。

3 通話が終わったら、受話器を置く。



電話を受ける

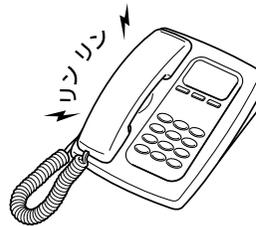
電話がかかってくると、本機のTELポートに接続したアナログ機器から呼び出し音が鳴ります。また、通話中に着信があった場合は、他の機器の呼び出し音が鳴り、同時に2通話まで使うことができます。



ご注意

本機の電話機能は、ISDN回線の場合に利用できます。本機をCATV/ADSL回線や専用線に接続している場合は、TELポート間の内線通話と機器間アナログ通話以外、電話をかけたり受けたりすることはできません。

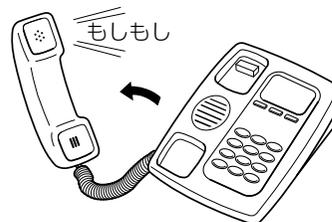
1 電話がかかってくると、呼び出し音が鳴ります。



☀️ ヒント

i-ナンバーやダイヤルインサービス、サブアドレスを設定した場合は、設定したポートのアナログ機器のみ呼び出し音を鳴らすことができます。

2 受話器を上げて、通話する。



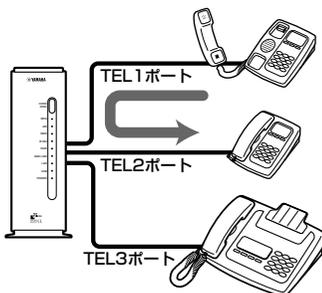
3 通話が終わったら、受話器を置く。

内線電話をかける

TELポートに接続したアナログ機器どうして、内線通話ができます。アナログ機器の内線番号は、TEL1ポートが[1]、TEL2ポートが[2]、TEL3ポートが[3]となります。

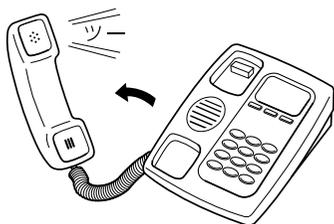
3

電話を使う



1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2 ① に続けて、内線番号をダイヤルする。

- TEL1ポートを呼び出す場合の例：①、1
- 全てのポートを呼び出す場合の例：①、①

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。相手が出ると通話できます。

ご注意

- 指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。
- 機器間アナログ通話機能を利用するときの操作は、「無線接続したルータ間で通話する」(108ページ)をご覧ください。

3 通話が終わったら、受話器を置く。

フッキング操作を練習する

フックボタンを押してすぐ放す操作を「フッキング」と呼び、電話を転送したり、着信中に電話を受けたときに通話先を切り替えたりするときに使います。



多機能電話などをお使いのときは、フッキング操作は、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタンなど)を押す操作となります。詳しい操作は、お使いのアナログ電話機の取扱説明書でご確認ください。

ご注意

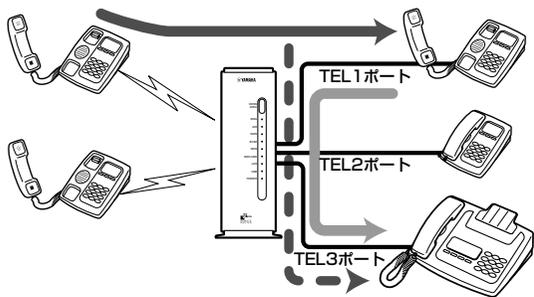
フックボタンを長く(1秒以上)押すと、「オンフック」(受話器を置いた状態)とみなされて電話が切れてしまいます。

ヒント

フッキングと判定する時間は、フッキング判定時間の設定(22ページ)で変更できます。

外線通話を他の内線へ転送する

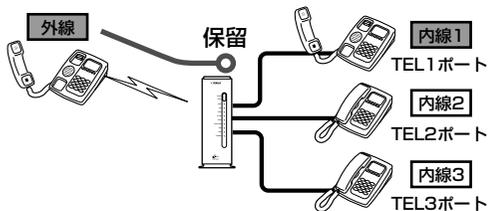
通話中の外線通話を他のアナログ機器へ転送できます。



- 1** 外線の相手に待っていただくよう伝えてから、フッキングする。



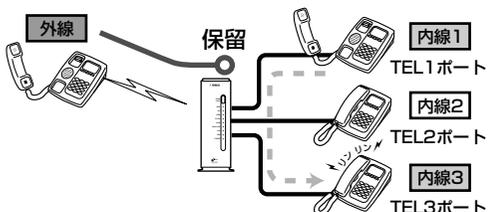
通話中の相手は保留になります。



- 2** 「ブップブップ」という音が聞こえたら、**(*)** に続けて内線番号をダイヤルする。

例えばTEL3ポートへ転送する場合は、**(*)**、3の順に押します。

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。



- 3** 内線の相手が出たら、外線の転送を伝えてからフッキングする。



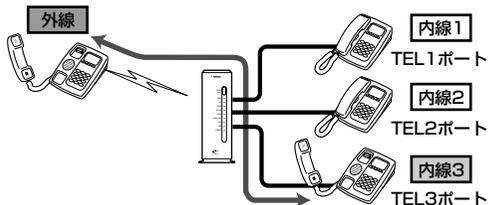
☀️ ヒント

呼出中に受話器を置くと、内線相手が出る前に転送できます。

- 4** 「ツツツツツツ」という音が聞こえている間に、受話器を置く。



外線通話が転送されます。



☀️ ヒント

- 「ツツツツツツ」という音が聞こえている間にフッキングすると、TEL1ポートとTEL3ポートと外線の三者通話になります。
- 「ツツツツツツ」という音が聞こえている間に**(*)**をダイヤルすると、通話相手の切り替えができます。

⚠️ ご注意

指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。

3

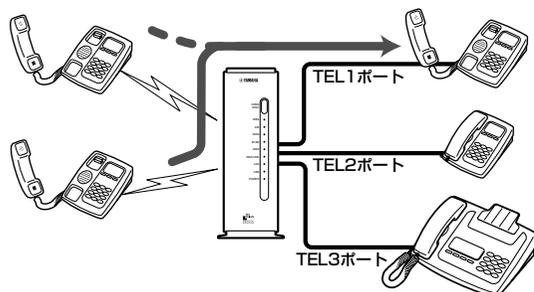
電話を使う

通話中に他の着信を受ける

ISDN付加サービスのINSキャッチホン(コールウェイトティング)を契約していなくても、通話中に電話がかかってきた場合に、通話中の相手を保留にして、着信した電話を受けることができます(擬似キャッチホン)。

3

電話を使う



擬似キャッチホン機能とは?

擬似キャッチホン機能は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した、キャッチホンサービスに相当する機能です。次の特徴があります。

- 本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。
- 各TELポート毎に擬似キャッチホンをするかしないかを設定できます。FAXやアナログモデムをつないだTELポートでは動作しないように、使い分けることもできます。
- 擬似キャッチホンの場合、他で回線を使っているときは利用できません。その場合は、今話している通話を切ると、着信を受けることができます。
- ISDN付加サービスのINSキャッチホンの場合は、最大2つのTELポートで別々に利用することができます。

ご注意

- 本機能のために、NTTの「通信中着信通知サービス」の契約をお勧めします。
- 擬似キャッチホンを利用する場合は電話機から設定するか(20ページ)、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で利用するTELポートの「話中の着信通知」を[する]に設定してください。本機の工場出荷時は、[しない]になっています。
- ISDN付加サービスのINSキャッチホンを契約している場合は、電話機から設定するか(20ページ)、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、利用するTELポートの「話中の着信通知」を[する]に、フレックスホンのINSキャッチホンを[使用する]に設定してください。本機の工場出荷時は、「擬似キャッチホンを使用する」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

INSキャッチホン/擬似キャッチホンを使えるように設定する

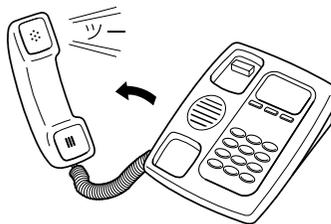
ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。「パルス」(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2 (✖) と (㊦) を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを3、6(機能番号36)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

現在使用している電話機のTELポートに設定したいときは、(✖) を押します。

5 ダイヤルボタン1を押す。

6 (㊦) を押す。

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

7 ダイヤルボタンを5、2(機能番号52)と押す。

8 キャッチホンの種類を選んでから、ダイヤルボタンを押す。

ISDN付加サービスのINSキャッチホンを契約している場合は1、擬似キャッチホンを利用する場合は2を押します。

9 ㊦を押す。

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順7から操作し直してください。

10 受話器を置く。

別のポートも続けて設定する場合は、受話器を置かずに手順3～6を繰り返します。

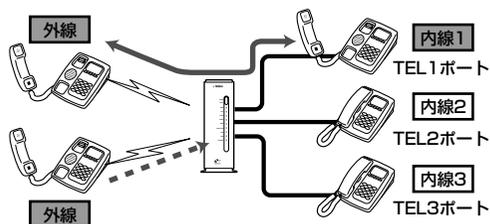


ご注意

アナログ機器を接続していないTELポートは、必ず「アナログポート使用制限の設定(機能番号14)」を「使用しない」に設定してください(22ページ)。

INSキャッチホン／擬似キャッチホンを使う

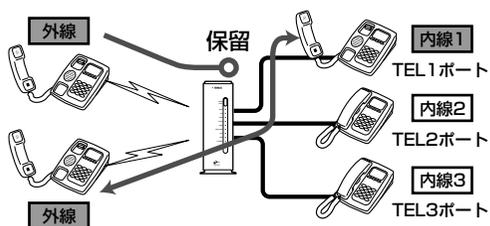
1 通話中に電話がかかってくると、「ププッ、ププッ」という話中着信音が聞こえます。



2 フッキングする。



通話中の相手が保留になり、着信した相手と通話できます。



3 通話の相手を切り替えるときは、フッキングする。



3

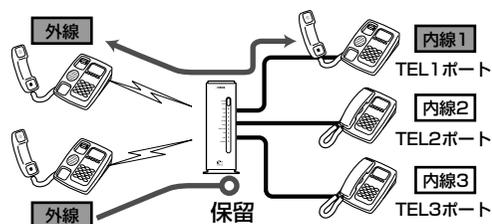
電話を使う

通話中に他の着信を受ける

「ツツー、ツツー」という音が聞こえて通話中の相手が保留になり、フッキング後の操作有効時間(工場出荷時は約4秒)後に、保留していた相手と切り替わります。

3

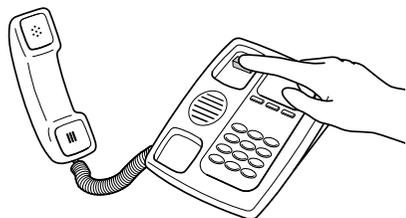
電話を使う



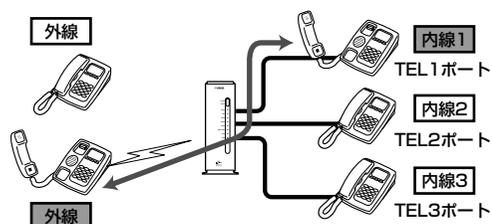
☀️ ヒント

フッキング後に (✖) を押すと、すぐに保留していた相手に切り替わります。

4 通話を切るときは、フックボタンを長く押し放す。



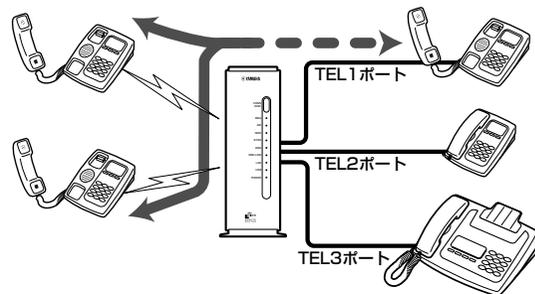
通話中の電話が切れて、保留になっていた相手と通話できます。



通話を別の外線へ転送する

通話中に別の外線へ転送ができます(通信中転送)。

ISDN付加サービスの通信中転送を契約してなくても、本機に内蔵の「擬似通信中転送」機能を利用できます。通信中転送または擬似通信中転送機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。



☀️ 擬似通信中転送とは？

擬似通信中転送は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した、通信中転送機能です。次の特徴があります。

- 本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。
- 本機から発信した通話は本機に課金されます。
- 擬似通信中転送の場合は、発信時に他で回線を使っているときには転送できません。ISDN付加サービスの通信中転送の場合は、通話中のチャンネルのみを使用するためにもう1つのチャンネルを別の通話で使うことができます。

📌 ご注意

ISDN付加サービスの通信中転送を契約している場合は、電話機から設定するか(20ページ)、「かたん設定ページ」の「電話設定」で、フレックスホンの通信中転送を[使用する]に設定してください。本機の工場出荷時は、「通信中転送を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

通信中転送／擬似通信中転送を えるように設定する

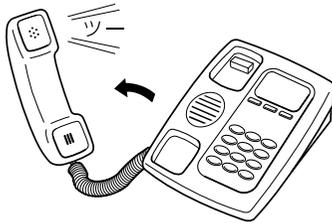
ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。
パソコンを接続している場合は、Webブラウザで設定
することもできます。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にし
て操作してください。「パルス」(ダイヤル)の設定および
トーンの機能がでない電話機では、設定できません。

1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2 ※ と ㊦ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が
聞こえます。

3 ダイヤルボタンを5、3(機能番号53)と押す。

4 通信中転送の種類を指定する。

ISDN付加サービスの通信中転送機能を契約して
いる場合は1を、本機の擬似通信中転送機能を利用
する場合は2を押します。

5 ㊦ を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認し
て、手順3から操作し直してください。

6 受話器を置く。

ご注意

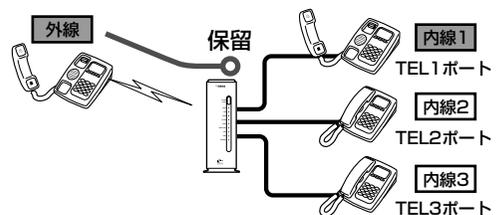
アナログ機器を接続していないTELポートは、必ず「アナ
ログポート使用制限の設定(機能番号14)」を「使用しない」
に設定してください(22ページ)。

通信中転送／擬似通信中転送する

1 外線の手元に待っていただくよう伝えてから、 フッキングする。

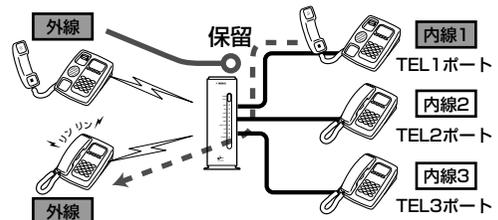


通話中の相手は保留状態になります。



2 受話器から「プッププッ」という音が聞 こえたら、転送したい相手の電話番号をダイ ヤルする。

呼び出し音が聞こえます。



3 相手の方が出たら、外線を転送すること を伝え、フッキングする。

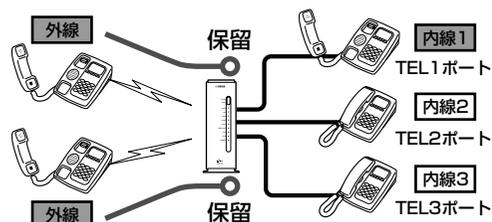


3

電話を使う

通話を別の外線へ転送する

「ツツー、ツツー」という音が聞こえ、両方の外線相手が保留になります。



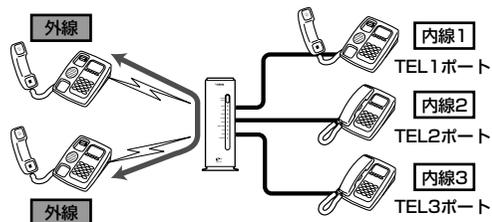
☀️ ヒント

呼出中に受話器を置くと、相手が出る前に転送することもできます。

4 「ツツー、ツツー」という音が聞こえている間に、受話器を置く。



受話器を置いた後に、外線の相手と保留した外線がつながります。



📌 ご注意

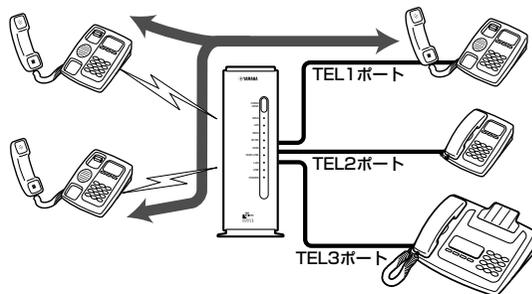
ISDN付加サービスの通信中転送の場合は、転送完了後に発着信できるようになります。ただし、疑似通信中転送機能を使用した場合は、発着信できません。

☀️ ヒント

疑似通信中転送中は、受話器を上げると「プッププッ」という音がします。その状態でフッキングすると、転送中の通話を強制的に切断することができます。

三人で通話する

通話中に別の相手を呼び出して三人で通話することができます(三者通話)。ISDN付加サービスの三者通話を契約していなくても、本機に内蔵の「擬似三者通話」機能を利用できます。三者通話または擬似三者通話機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。



☀️ 擬似三者通話とは？

擬似三者通話は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した三者通話機能です。次の特徴があります。

- 本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。
- 呼び出した通話分の料金は、本機に課金されます。
- 擬似三者通話の場合は、通話時に他で回線を使っているときには呼び出すことはできません。ISDN付加サービスの場合は、通話中のチャンネルのみを使用するので、もう1つのチャンネルを別の通話で使うことができます。

📌 ご注意

ISDN付加サービスの三者通話を契約している場合は、電話機から設定するか(20ページ)、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、フレックスホンの三者通話を[使用する]に設定してください。本機の工場出荷時は、「三者通話を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

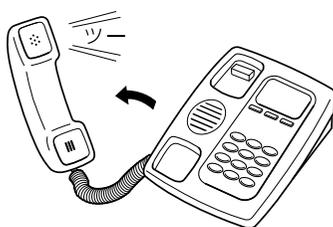
三者通話／擬似三者通話を 使えるように設定する

ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。「パルス」(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がいない電話機では、設定できません。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 (✳) と (Ⓜ) を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを5、4(機能番号54)と押す。

4 三者通話の種類を指定する。

ISDN付加サービスの三者通話機能を契約している場合は1を、本機の擬似三者通話機能を利用する場合は2を押します。

5 (Ⓜ) を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

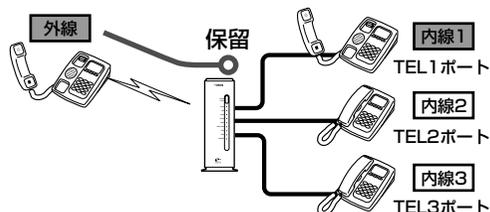
6 受話器を置く。

三者通話／擬似三者通話する

1 外線の相手に待っていただくよう伝えてから、フッキングする。

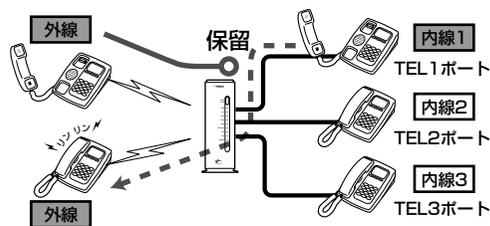


「ブブブブブ」という音が聞こえ、通話中の相手は保留状態になります。

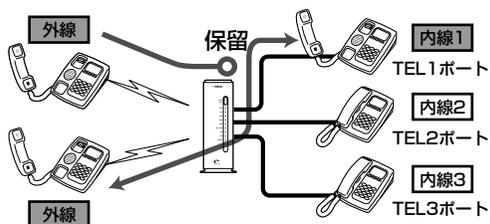


2 受話器から「ブブブブブ」という音が聞こえたら、三者通話を行いたい相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえます。



3 相手が出たら、通話する。



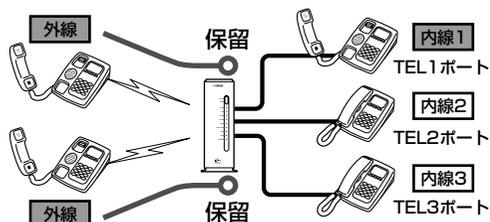
3

電話を使う

4 フッキングする。



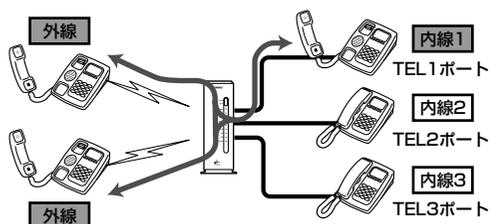
「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。



5 「ツツー、ツツー」という音が聞こえている間に、もう1度フッキングする。



通話中の相手と、保留中の相手の三者で通話可能になります。



☀️ ヒント

- 三者通話を解除するには、フッキングします。三者通話になる前に話していた相手と通話状態になり、もう一方の相手は保留になります。
- 通話の相手を切り替えるとき(保留中の相手と通話するとき)は、フッキングします。「ツツー、ツツー」という音が聞こえたらフッキング後の操作有効時間(工場出荷時は4秒)待つか、 を押すことで保留中の相手と通話できます(通話中の相手は保留中になります)。

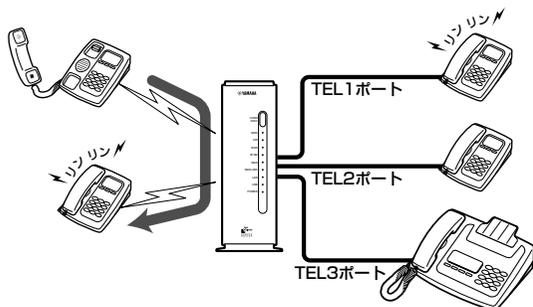
6 話が終わったら、受話器を置く。



三者通話の状態を受話器を置くと、両方の相手が切断されます。三者通話でない状態で受話器を置くと、保留中の相手があれば呼び出し音が鳴り、受話器を取ることでその相手と話することができます。

外線の着信を転送する

外線の着信があったときに、その着信に回答しないで、あらかじめ登録しておいた相手に転送できます(着信転送)。ISDN付加サービスの着信転送を契約していなくても、本機に内蔵の「擬似着信転送」機能を利用できます。着信転送または擬似着信転送機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。



☀️ 擬似着信転送とは？

擬似着信転送は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した着信転送機能です。次の特徴があります。

- 本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。
- TELポートに実際にアナログ通信機器が接続されていなくても、着信転送できます。
- TEL1、TEL2、TEL3ポートに異なる転送先アドレスを設定する場合は、それぞれのポートを指定して着信させるように、ナンバーやダイヤルイン番号を設定してください(ただし、起動できるのは先に転送開始した1つの着信のみです)。
- 転送した通話分の料金は、本機に課金されます。
- 着信時に他で回線を使っているときは、転送できません。
- ISDN付加サービスの着信転送の場合は、転送完了後に発着信可能になりますが、擬似着信転送機能を使用した場合には、転送した通話が終わるまで発信も着信もできません。

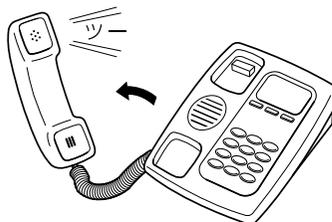
📌 ご注意

- 転送先の回線によっては、擬似着信転送ができない場合があります。
- ISDN付加サービスの着信転送を契約している場合は、電話機から設定するか(20ページ)、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、フレックスホンの着信転送を[使用する]に設定してください。本機の工場出荷時は、「着信転送を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

着信転送／擬似着信転送を使えるように設定する

ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ※ と ㊦ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを5、5(機能番号55)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

※ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 着信転送の種類を指定する。

ISDN付加サービスの着信転送機能を契約している場合は1を、本機の擬似着信転送機能を利用する場合は2を押します。

6 ㊦ を押す。

「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえたときは

設定内容が適切でなかったり、正常に変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作をやり直してください。

7 ダイヤルボタンを5、6(機能番号56)と押す。

8 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

※ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

3

電話を使う

9 転送先の電話番号をダイヤルする。

サブアドレスを指定するときは、電話番号に続けて **✳** とサブアドレス番号をダイヤルします。サブアドレスは擬似着信転送機能のときのみ有効です。

10 **⊕** を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順7から操作し直してください。

11 ダイヤルボタンを5、8(機能番号58)と押す。

12 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

✳ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

13 着信時のコール回数を押す。

0を押すと、呼出音を鳴らさずに転送します。

14 **⊕** を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順11から操作し直してください。

15 受話器を置く。



この後、設定したTELポートへの着信は全て転送されます。

なお、設定したコール数以内に受話器を取ると転送せずに応答することができます。

◆ 設定を行ったあとに着信すると

呼出音が設定回数鳴ったあとに、着信が転送されます。

ご注意

ISDN付加サービスの着信転送の場合は、転送完了後に発信可能になりますが、擬似着信転送機能を使用した場合には発信も着信もできません。

☀️ ヒント

- 着信転送モードを解除するときには「着信転送／擬似着信転送を解除する」(45ページ)をご覧ください。
- 擬似着信転送中は、受話器を上げると「フッフッフッフ」という音がします。この状態でフッキングすると、転送中の通話を強制的に切断することができます。

相手へ通知する電話番号を登録する

TELポート毎に相手へ通知する電話番号(契約者回線番号もしくはダイヤルイン、i-ナンバー)を登録できます。相手がナンバー・ディスプレイサービスや携帯電話を利用している場合に通知される番号となります。また、ダイヤルイン契約時は、ダイヤルイン番号による着信判定にも使われます。

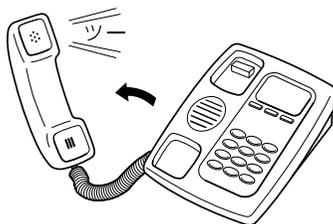
3

電話を使う

着信転送/擬似着信転送を解除する

着信転送モードをセットしたり解除しても転送先番号の設定は消えません。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ※と#を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを5、5(機能番号55)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

※を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 ダイヤルボタン0を押す。

6 #を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

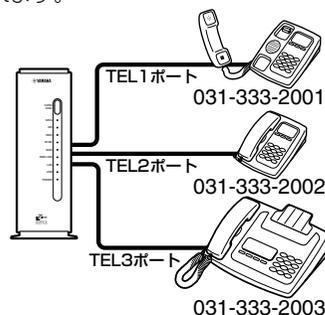
正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

7 受話器を置く。



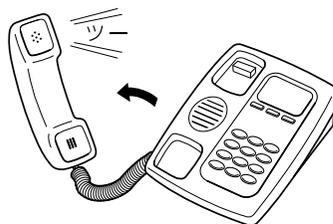
着信転送/擬似着信転送をもう1度使うときは

上記の手順5で、ダイヤルボタン1(ISDN付加サービスの着信転送機能を契約している場合)、または2(本機の擬似着信転送機能を利用する場合)を押します。



ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ※と#を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを1、1(機能番号11)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

※を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 契約者回線番号またはダイヤルイン番号を押す。

サブアドレスを指定するときは、電話番号に続けて※とサブアドレス番号をダイヤルします。

相手へ通知する電話番号を登録する

6 ㊦を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

7 受話器を置く。



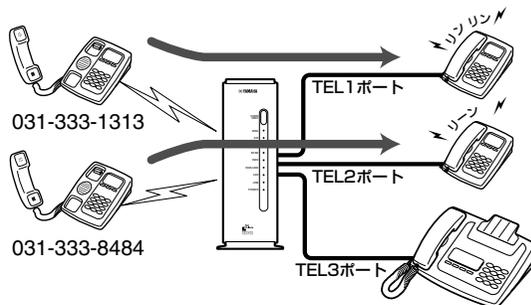
ヒント

電話番号は、契約者回線番号およびダイヤルイン、i-ナンバーを合わせて、TELポートごとに最大5つまで登録できます。ただし、相手には最初の登録番号が通知されます。

着信ベルを設定する

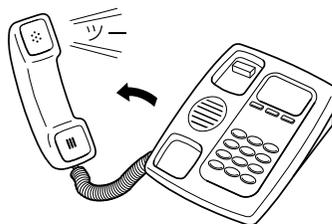
ISDN回線や携帯電話、PHSからの着信時に、発信者番号ごとに着信ベル音を変更できます。着信したTELポートごとにベル音を2種類から選ぶこともできます。

なお、相手が一般回線の場合でも発信者番号ごとに着信ベル音を変更するには、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)を申し込む必要があります。



ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ㊦と㊧を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを3、8(機能番号38)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

㊦を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

ナンバー・ディスプレイを利用する

5 着信ベル音番号を指定する。

着信ベル音は1と2から選べます。

ご注意

お使いのアナログ機器によっては、着信音が鳴らない場合があります。

6 発信者番号を押す。

7 ㊦を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

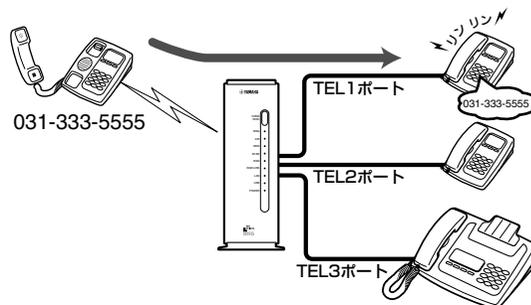
正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

8 受話器を置く。



ナンバー・ディスプレイは、着信時に発信者の電話番号を表示するサービスです。電話に出る前に相手の電話番号が確認できます。また、通話中に着信した時にも電話番号を表示できるキャッチホン・ディスプレイにも対応しています。

相手が一般回線の場合も表示したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。また電話機やFAXで利用するには、ナンバー・ディスプレイまたはキャッチホン・ディスプレイ対応の電話機やFAXが必要です。

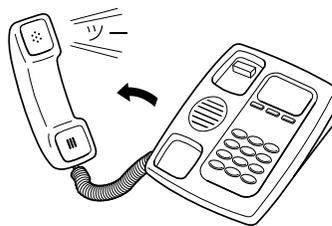


ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。工場出荷設定では「使用しない」になっています。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

ご注意

本設定の前に、お使いの電話機やFAXのナンバー・ディスプレイが利用できる設定になっていることを確認してください。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ㊦と㊦を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを3、9(機能番号39)と押す。

3

電話を使う

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

⊗を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 ナンバー・ディスプレイの種類を指定する。

- ナンバー・ディスプレイを使用しない場合:0を押します。
- ナンバー・ディスプレイのみを使用する場合:1を押します。
- ナンバー・ディスプレイとキャッチホン・ディスプレイの両方を使用する場合:2を押します。

6 ⊕を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

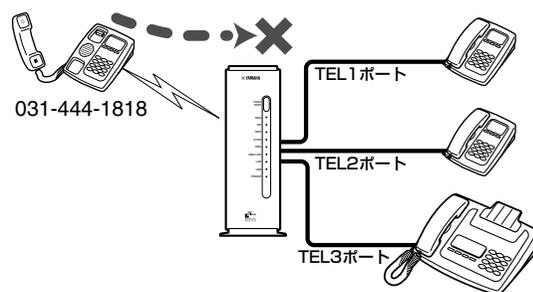
7 受話器を置く。



着信拒否を設定する

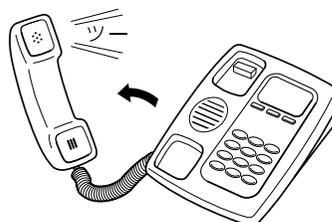
識別着信機能を使うと、登録した電話番号の着信を拒否したり、登録番号以外の着信を拒否することができます。迷惑電話でお困りのときに便利です。

相手が一般回線の場合でも着信拒否したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。



ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、Webブラウザを使って設定することもできます。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ⊗と⊕を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを3、3(機能番号33)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

⊗を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 拒否したい電話番号をダイヤルする。

擬似ナンバー・リクエストを設定する

6 ㊦ を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

7 ダイヤルボタンを3、2(機能番号32)と押す。

8 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

✳️ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

9 着信拒否の種類を指定する。

- 手順5で指定した番号を拒否する場合:2を押します。
- 手順5で指定した番号以外を拒否する場合:1を押します。
- 使用しない場合:0を押します。

10 ㊦ を押す。

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。

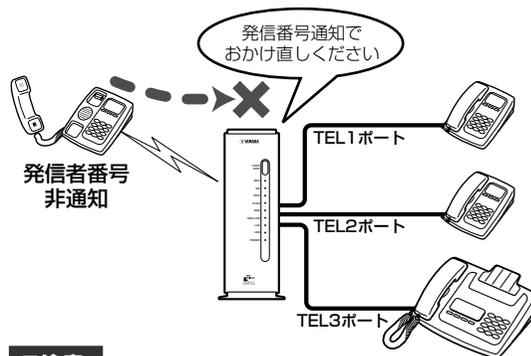
「ピー、ピー」と聞こえるときは

正しく変更されていません。設定内容を確認して、手順7から操作し直してください。

11 受話器を置く。

擬似ナンバー・リクエスト機能は、発信者番号通知がない着信に対して番号を通知してかけ直すよう音声案内(トーキ)を流す機能です。

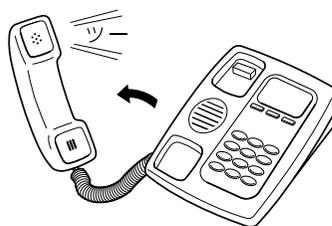
相手が一般回線の場合でも擬似ナンバー・リクエスト機能を利用したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。



ご注意

擬似ナンバー・リクエストを使用すると、発信者側に通話料金がかかります。

1 受話器を上げる。



発信音が聞こえます。

2 ✳️ と ㊦ を押す。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 ダイヤルボタンを8、3(機能番号83)と押す。

4 TELポート番号を指定する。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。

✳️ を押すと、今お使いのTELポートに設定されます。

5 動作を指定する。

- 発信者番号情報なし着信を拒否する場合:0を押しします。
- 発信者番号情報なし着信を許可する場合:1を押しします。
- 擬似ナンバー・リクエストで拒否する場合:2を押しします。

6 擬似ナンバー・リクエストを実行する条件を指定する。

- 公衆電話からの着信に対して実行する場合:1を押しします。
- ユーザによる通知拒否の着信に対して実行する場合:2を押しします。
- 表示圏外の着信に対して実行する場合:3を押しします。
- すべての着信に対して実行する場合:⊗を押しします。

7 ⊕ を押す。

「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえるときは

設定内容が適切でなかったり、正常に変更されていません。設定内容を確認して、手順3から操作し直してください。

8 受話器を置く

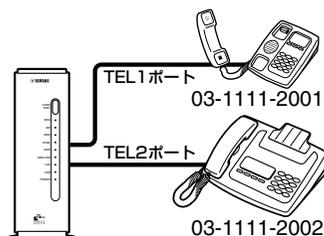


続けて設定するときには、受話器をあげたまま手順3～7の操作を繰り返します。

TELポートごとに使い分ける

本機のTELポートに接続したアナログ機器に合わせて、TELポートごとにさまざまな設定を行うことができます。お使いのアナログ機器や付加サービスに応じて設定してください。設定は、「かんたん設定ページ」の電話設定画面で行います。

ここでは、図のようにアナログ機器を接続した場合の設定例を紹介します。



i・ナンバーサービスの設定例

i・ナンバーサービスは、契約者回線番号とは別に最大2つの電話番号を追加できるサービスです。契約者番号と合わせて3つの電話番号を使い分けることができます。i・ナンバーによる着信は、電話やFAX、RVS-COM、データ通信のいずれにも適用できるので、電話などのアナログ着信とデータ着信を明確に振り分けられます。電話はアナログポートで受けて、FAXはRVS-COMで受けたいといったときに便利です。

アナログ通信とデータ通信のi・ナンバーは独立して同時に設定できるため、ルータとTEL1ポートを同時にi・ナンバーのポート番号2に設定するような使いかたもできます。

◆ i・ナンバーによる着信について

本機に着信があると、まずアナログ着信であるかどうか判定され、アナログ着信の場合はi・ナンバーに合致したアナログポートだけを呼び出します。

アナログ着信ではない場合は

データ着信の扱いとなり、次の順番でi・ナンバーの設定に合致して着信に応答するかどうか判定されます。

- 1) ルータ
- 2) ISDN-DCP(RVS-COM)
- 3) TA

ご注意

- ルータとISDN-DCP、TAが同じi-ナンバーポートに設定されている場合は、常にルータのほうに着信が優先されるため、ISDN-DCPとTAでは着信を受けられなくなります。
- ルータに着信するかどうかは最終的にはルータ着信に関する設定にも依存します。i-ナンバーが合致するとルータに必ず着信するとは限りません。

i-ナンバーの設定がされているときに、発信時に相手に通知される発信者番号には、各々以下の設定が使用されます。

- アナログポート：[かんたん設定ページ]－[電話設定]画面で設定した、各ポートの回線番号1(「相手へ自分の番号を通知する」の場合)
- ルータ：[かんたん設定ページ]－[接続設定]－[ISDN回線設定]画面で設定した、ルータのISDN番号
- ISDN-DCP：RVS-COMソフトの設定ウィザードで設定した自回線番号
- TA：「AT\$Z」コマンドで設定したISDN番号
- LAN-TA機能：[付加機能]－[LAN-TA機能]画面で設定した、自己ISDN番号

◆「電話設定」画面の設定例

ここでは、i-ナンバーサービスを利用して、「03-1111-2001」をTEL1ポートの電話機、「03-1111-2002」をTEL2ポートのFAXで使い分ける例を紹介します。

「かんたん設定ページ」の開きかたについては、「Webブラウザで設定する」(25ページ)をご覧ください。

ご注意

各設定項目の詳細については、「かんたん設定ページ」のヘルプ画面をご覧ください。

ダイヤルインサービスの設定例

ダイヤルインサービスは、契約者回線番号とは別にいくつかの電話番号を追加できるサービスです。ダイヤルイン番号毎に着信条件を設定することにより、アナログ電話やISDN回線から機器を指定して電話をかけることができます。

◆「電話設定」画面の設定例

ここでは、契約者回線番号「03-1111-2001」をTEL1ポートの電話機、FAX用のダイヤルイン番号「03-1111-2002」をTEL2ポートのFAXで使い分ける例を紹介します。

ご注意

- 各設定項目の詳細については、「かんたん設定ページ」のヘルプ画面をご覧ください。
- HLC(高位レイヤ)情報は、接続した機器の種類を示す情報です。機器の種類に応じて着信するTELポートを使い分けることができます。ただし、相手が正しいHLC情報を送ってこない場合は、着信ができなくなります。設定するときはご注意ください。
- Fネットの1,300Hzの呼出信号に対応しているFAXをお使いの場合、FAX無鳴動着信の項目を設定すると、無音でFAXを自動着信させることができます。ただし、HLCの種類を同時に設定した場合は、相手がHLC情報を送ってこないときに、着信できないことに気付かないおそれがあります。

TELポートごとの設定例

ダイヤルインサービスを利用して電話番号を使い分けるときは、接続機器に合わせた設定を行ってください。以下の画面は、ダイヤルイン契約時の申し込みでグローバル着信ありで申し込んだ場合の設定例です。

3

電話を使う

◆ TEL1ポートの詳細設定画面

契約者回線番号を設定したTELポートは、[グローバル着信]で[する]を選びます。

電話設定⇒TEL1ポートの詳細設定(着信機能) ヘルプ

着信機能 着信ベル 識別着信番号 フレックスボイス 電話機対応機能

TEL1ポートの「着信機能」を修正します。

操作 ● 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

着信機能	
グローバル着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
着信ベル 登録数: 0	着信ベルの登録
識別着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [登録番号からの着信拒否]
識別着信 登録数: 0	識別番号の登録
着サブアドレスがない着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
異なる種類の機器からの着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
話中の着信通知	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
宛番号がない着信	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="checkbox"/> トーンあり 非通知

登録 既定値に戻す

◆ TEL2ポートの詳細設定画面

FAX用の電話番号を設定したTELポートは、[グローバル着信]で[しない]を選びます。これで契約者回線番号では着信しくなくなります。

電話設定⇒TEL2ポートの詳細設定(着信機能) ヘルプ

着信機能 着信ベル 識別着信番号 フレックスボイス 電話機対応機能

TEL2ポートの「着信機能」を修正します。

操作 ● 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

着信機能	
グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
着信ベル 登録数: 0	着信ベルの登録
識別着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [登録番号からの着信拒否]
識別着信 登録数: 0	識別番号の登録
着サブアドレスがない着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
異なる種類の機器からの着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
話中の着信通知	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
宛番号がない着信	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="checkbox"/> トーンあり 非通知

登録 既定値に戻す

◆ TEL3ポートの詳細設定画面

FAX用の電話番号を設定したTELポートは、[グローバル着信]で[しない]を選びます。これで契約者回線番号では着信しくなくなります。

電話設定⇒TEL3ポートの詳細設定(着信機能) ヘルプ

着信機能 着信ベル 識別着信番号 フレックスボイス 電話機対応機能

TEL3ポートの「着信機能」を修正します。

操作 ● 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

着信機能	
グローバル着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
着信ベル 登録数: 0	着信ベルの登録
識別着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [登録番号からの着信拒否]
識別着信 登録数: 0	識別番号の登録
着サブアドレスがない着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
異なる種類の機器からの着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
話中の着信通知	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
宛番号がない着信	<input type="radio"/> しない <input type="checkbox"/> トーンあり 非通知

登録 既定値に戻す

第4章 FAXを使う ISDN

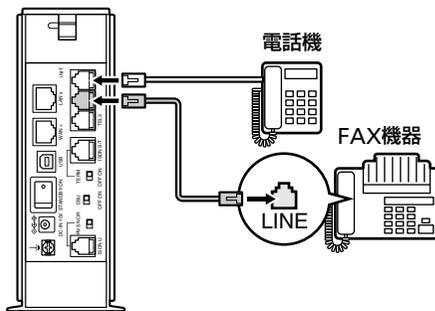
この章では、本機をISDN回線でお使いの場合に利用できるFAX送受信の3つの方法について紹介しています。よくお読みいただき、お持ちの機器やソフトウェアに合わせてお使いください。本機をCATV/ADSL回線のみ接続している場合や、専用線に接続している場合は、いずれの方法でもFAXを送受信することはできません。

FAX機器を使う

FAX機器をお持ちの場合は、本機のTELポートに接続して、これまでと同様に使えます。

◆ FAX機器を接続する

FAX機器は、下図のように接続します。



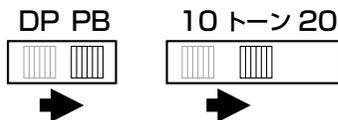
4

FAXを使う

回線の設定のしかた

今まで「プッシュ」(トーン)回線だった場合は、そのままの設定で使えます。

ダイヤル(パルス)回線からISDN回線に切り替えた場合は、FAX機器の回線設定を「プッシュ」(トーン)回線に変更してください。



◆ FAX送受信のしかた

今までと同様にFAX機器から送受信できます。詳しい操作方法については、お使いのFAX機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

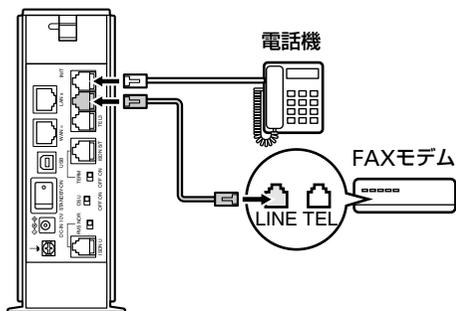
- FAXやモデムでデータの送受信ができないときやエラーが多いときは、「かんたん設定ページ」や電話機から受信や送信の音量レベル(PAD調整)値を徐々に下げて調整してください(23ページ)。
- FAXと電話をTELポートごとに使い分ける場合は、i・ナンバーサービスやダイヤルインサービスへ加入する必要があります(18、50ページ)。

FAXモデムを使う

FAXモデムをお持ちの場合は、FAXモデムを本機のTELポートに接続して、パソコンでFAXを送受信できます。

◆ FAXモデムを接続する

FAXモデムは、下図のように接続します。



4 FAXを使う

ご注意

FAXモデムの中には、FAXモデムのTELポートにさらに電話機を接続できるものもありますが、この場合モデムに接続した電話機とモデムの着信を使い分けることはできません。FAXモデムや電話機によっては正しく動作しない場合がありますので、本機の別のTELポートに直接接続することをおすすめします。

◆ パソコンの設定について

すでにパソコンでFAXを送受信していた場合は、現在お使いのFAXソフトをそのまま使用できます。ダイヤル(パルス)回線からISDN回線に切り替えた場合は、FAXソフトウェアの回線設定を、「プッシュ」(トーン)に変更してください。詳しい操作方法については、お使いのFAXソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

◆ FAX送受信のしかた

すでにパソコンでFAXを送受信していた場合は、今までと同様にFAXを送受信できます。詳しい操作方法については、お使いのFAXソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

FAXやモデムでデータの送受信ができないときやエラーが多いときは、「かんたん設定ページ」または電話機から受信や送信の音量レベル(PAD調整)値を徐々に下げて調整してください(23ページ)。

LANからFAXを送受信する (RVS-COM)

RVS-COMとは？

RVS-COMとは、ドイツのRVS社が開発したWindows用のISDN回線専用のFAXソフトウェアで、ISDN-DCPというソフトウェアインタフェースを使用しています。本機はこのISDN-DCPIに対応しているため、ISDN-DCPに対応したRVS-COM2000を使って、LAN上のパソコンからFAXを送受信できます。

詳しくは、RVS-COM製品添付のユーザーズマニュアルをご覧ください。国内では、RVS-COM製品はメガソフト株式会社に取り扱っています。製品自体のインストール方法やご使用方法、サポート等については、メガソフト株式会社にお問い合わせください。

URL <http://www.megasoft.co.jp/>

また、RVS-COM対応に関する最新情報については、NetVolanteホームページ(<http://NetVolante.jp/>)をご覧ください。

◆ ISDN-DCP対応の主な特長

- 最大10クライアントまで着信待ちできます。ただし、RVS電話とRVSコムセンターなど、アプリケーションごとに1つのクライアントとして扱われるため、必ずしも10台のパソコンで同時に着信待ちできるわけではありません。
- ISDN-DCPクライアントで、同時に2つまで通信できます。
- G4 FAXが使用できます(デバイスタイプISDN-DCP使用時)。

☀️ ヒント

- 最大10個のISDN番号を登録可能なので、NTTのダイヤルイン契約を併用して、着信待ちしているLAN上の特定のパソコンに着信を直接振り分けることもできます。
- NTTのi・ナンバーサービス契約を併用して、アナログポートとRVS-COMを振り分けて運用することもできます。

ご注意

- ISDN-DCPでは非同期V.110によるデータ転送をサポートしておりません。
- ISDN-DCPIによる転送ではルーティングによる転送をサポートしておりません。

◆ RVS-COMインストール時のご注意

- 「環境設定ウィザード」で設定する際に、通信デバイスの検出画面で「通信デバイスをマニュアル操作で選択する」にチェックを付けてください(自動では検出されません)。
- 「環境設定ウィザード」で設定する際に、「RVS ISDN-DCP対応 ISDNルータ」の「名前またはIP アドレス」入力画面で、本機のLANインタフェースのIP アドレス(工場出荷状態は192.168.0.1)を入力してください。
- 「RVSコムセンター」の「デバイス」タブの「ダイヤルのプロパティ」画面の中で、市外局番の先頭の0は削除してください。
- 「RVSコムセンター」の「回線番号」タブで表示される「ISDN回線番号」は、発信時に相手に通知される番号となります。
- 「RVSコムセンター」の「ISDN」タブの「このISDN回線では呼び出しの際着番号情報が通知される」チェックボックスは、i・ナンバーサービスを契約した場合とグローバル着信ありのダイヤルイン契約ではチェックを外し、グローバル着信のない通常のダイヤルイン契約を行った場合にはチェックを付けてください。
- 最大数10のクライアントが着信待ちになっている場合は、それ以上RVS-COM ISDN-DCP版のソフトウェアをパソコンにインストールできません。インストールを継続するには、着信待ちになっているいくつかのクライアントを一時的に解除して、クライアント数の合計を9以下に減らしてください(現在のクライアント数を確認するには、「show status isdn-dcp」コマンドを使用します)。
- ダイヤルイン契約を行って、複数のダイヤルイン番号を取得して番号ごとに着信を振り分ける場合は、以下の項目の設定内容を確認してください。
 - 「かんたん設定ページ」- 「電話設定」画面のアナログポートのダイヤルイン番号
 - 「かんたん設定ページ」- 「システム管理」画面の「ルータのISDN番号」
 - 「かんたん設定ページ」- 「付加機能」- 「LAN版RVS-COM」画面の「着信許可番号」
 - 「RVSコムセンター」の「ISDN」タブの「このISDN回線では呼び出しの際着番号情報が通知される」のチェックボックス

ご注意

- RVS-COMの通信中には、「かんたん設定ページ」にアクセスしないでください。
- RVS-COMの通信中には、コンソールコマンドの「save」コマンドを実行しないでください。
- 本機の電源を入れ直したり再起動を行った場合には、RVS-COMも再起動してください。

◆ 着信条件の制限

ISDN-DCPとして着信を受けるには、最低限、以下の2つの条件を同時に満たしている必要があります。

- ISDN-DCPクライアントが少なくとも一つ着信待ちになっている。
- 本機の設定でISDN-DCPの着信が許可されている。工場出荷状態では許可状態(isdn-dcp arrive permit on)に設定されています。

◆ データ通信とアナログ通信の着信について

RVS-COMは、電話やG3 FAXなどのアナログ通信と、ファイル転送などを行うデータ通信の両方を処理できます。データ通信は、以下の優先順位で着信処理されます。

- 1 ルータ
- 2 RVS-COM ISDN-DCP
- 3 TA

もし、ルータとして着信を受けられる設定がされているときは、すべてルータに着信してしまい、ISDN-DCPやTAでは着信を受けられません。i・ナンバーサービスを利用すると、これら3つの各転送モードに適用できますが、この優先順位は変わりません。

アナログの着信があると最初にアナログポートを呼び出しますが、指定時間(工場出荷状態では15秒間)アナログポートの機器が応答しなければ、自動的にISDN-DCPのほうに着信が切り替わります。この切り替え時間は、「かんたん設定ページ」の「付加機能」- 「LAN版RVS-COM」画面を開き、「RVS-COMへの切り替え時間」で変更できます。

ご注意

即座にISDN-DCPに着信させる設定ではなく、かつ、アナログポートに着信転送(擬似を含む)が設定されている場合には、ISDN-DCPには着信できません。

RVS-COMの設定を変更する

ここでは、かんたん設定ページから設定できる項目を説明します。コンソールコマンドについては、本機に付属CD-ROMに収録されている「コマンドリファレンス」を参照してください。RVS-COM製品を使って通信を行うためにはパソコンのRVS-COM側の設定も必要です。

4 FAXを使う

1 通信中のRVS-COMクライアントがないことを確認する。

2 ブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

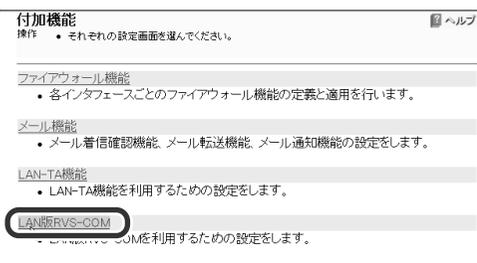
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

3 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

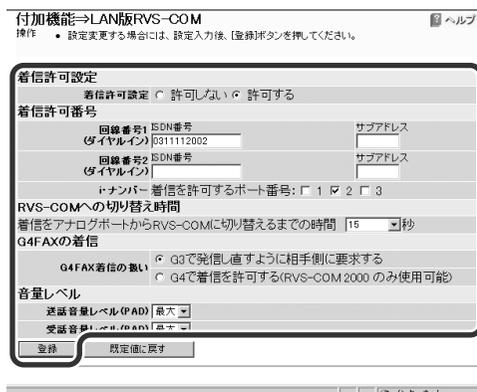
「トップ」画面が表示されます。

4 [付加機能]をクリックする。

5 [LAN版RVS-COM]をクリックする。



6 RVS-COMの各項目を必要に応じて設定してから、[登録]をクリックする。



着信許可設定

LAN版RVS-COMを使用するかどうかを設定します。

着信許可番号

LAN版RVS-COMの発信着信で使用する、電話番号とサブアドレスを設定します。ダイヤルイン番号は着信許可のための番号ですが、発信時に相手に通知される発信番号はRVS-COM側で設定する必要があります。i-ナンバーの設定を行うと、着信時のダイヤルインの番号は着信動作では無視されます。

RVS-COMへの切り替え時間

アナログからRVS-COMへ切り替えるまでの時間を設定します。アナログからRVS-COMへ切り替える時間を更に微調整したい場合には、コンソールコマンドを使います。詳しくはコマンドリファレンスをご覧ください。

G4FAXの着信

RVS-COM製品がG4 FAX通信に対応している場合のみ、設定が有効になります。

- G3で送信し直すように相手側に要求する: G4通信対応のFAXがない場合に選びます。

- G4で着信を許可する(RVS-COM 2000のみ使用可能): G4通信対応のFAXがある場合に選びます。

音量レベル 音量レベルはRVS電話やG3 FAX、ソフトモデムなどの音声データを扱う通信がうまくいかない場合にだけ、徐々にレベルを下げて調整します。

ご注意

本機がMP通信により2本のチャンネルとも使用中の場合には、ISDN-DCPIによる通信はできません。

パソコンからFAXを送信する

- 1 パソコンでRVS-COMを起動する。
- 2 送信したいファイルを開き、プリンタドライバに「RVS Fax」を指定して印刷と同じ操作を行う。
- 3 RVS-COMのダイアログに従って、相手電話番号などを入力する。

パソコンでFAXを受信する

パソコンのRVS-COMを起動して、FAX受信できる状態にする。

アナログの着信があると、接続してあるアナログ機器の呼出音が鳴ります。

15秒経過すると、自動的にアナログ機器の呼出音が切れ、RVS-COMが応答します。

☀️ヒント

- アナログ機器を呼び出す時間は工場出荷設定で15秒ですが、5秒から160秒の間に設定変更できます。詳しくはコマンドリファレンスをご覧ください。
- 「かんたん設定ページ」の「付加機能」→「LAN版RVS-COM」画面でも、おおまかに設定できます(56ページ)。

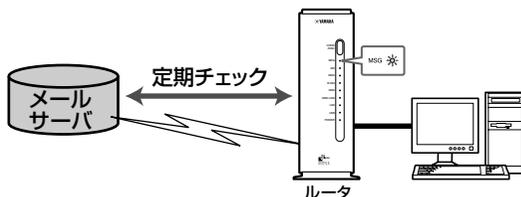
第 5 章

メール確認／通知機能を使う

この章では、メール着信確認機能の設定方法や使いかた、メールで本機の各種情報を受け取る方法について紹介しています。よくお読みいただき、本機のメール機能を十分活用してください。

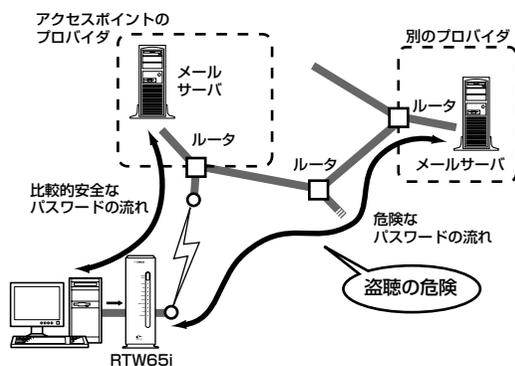
メール着信確認機能とは？

メール着信確認機能は、新しい電子メールが届いているかどうか、本機がプロバイダのメールサーバを定期的を確認する機能です。メールが届いていると、本機前面のMSGランプが点滅するため、パソコンの電源を入れなくてもメール着信の有無を確認でき、便利です。メールアドレスは、4つまで登録できます。



ご注意

- プロバイダと接続中に、他のプロバイダのメールサーバに対してこのコマンドを実行すると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上に流れてしまいますので、十分ご注意ください。



- 本機はメール着信確認を行うためにインターネット接続を行うので、メール着信確認を行うたびに通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。端末型ダイヤルアップ接続でインターネットに接続している場合は、料金にご注意ください。
- 電子メールソフトウェアでメールサーバにメールを残すように設定している場合は、メールを確認するたびに新着メールが着信していることとなります。新着メールがあるかどうかを正確に確認したい場合は、受信済みメールをサーバに残さないように電子メールソフトウェアの設定を変更してください。

確認したいメールアドレスを登録する

「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で、確認したいメールアドレスを登録します。メールアドレスは、4つまで登録できます。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

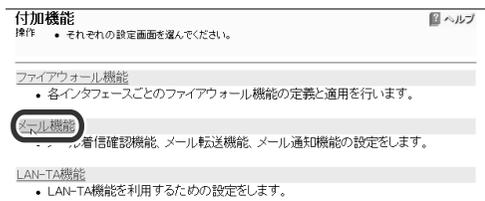
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

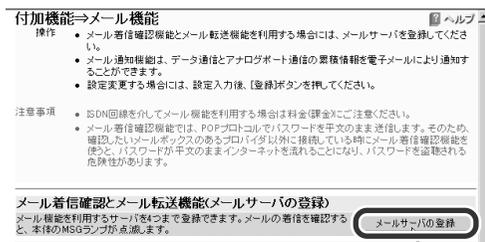
「トップ」画面が表示されます。

3 [付加機能]をクリックする。

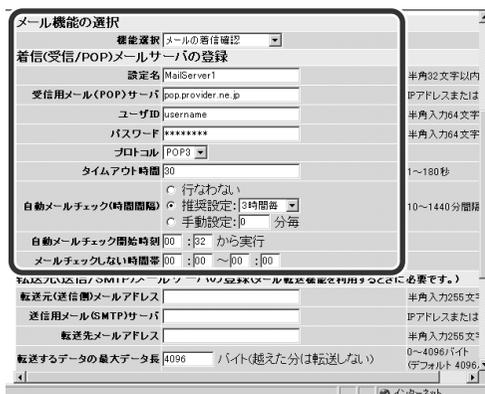
4 [メール機能]をクリックする。



5 [メールサーバの登録]をクリックする。



6 確認するメールアドレスの各項目を設定する。



機能選択 [メールの着信確認]を選びます。

設定名 メールアカウントの名前を半角英数字32文字以内で入力します。

受信用メール(POP)サーバ

確認するメールの受信サーバ名を入力します。

ユーザID メール受信用のアカウント名を入力します。メールアドレスとは異なる場合がありますので、プロバイダの書類を確認してください。

パスワード メール受信用のパスワードを入力します。ダイヤルアップ用パスワードとは異なる場合がありますので、プロバイダの書類を確認してください。

タイムアウト時間

メールサーバの応答を待つ時間を設定します。この時間以内に応答がないと、エラーを表示します。

プロトコル

- POP3:通常はこちらを選びます。
- APOP:認証を行う際に暗号を使用するメール受信手順です。プロバイダのメールサーバが対応している場合は、こちらを選びます。

自動メールチェック

メールを定期的にチェックする間隔を設定します。

- **行わない:**毎回手動で行いたい場合に選びます。
- **推奨設定:**3、6、12、24時間の中から選びます。
- **手動設定:**分単位で設定できます。時間は10~1440分(24時間)の間で設定してください。

自動メールチェック開始時刻

メールの確認を始める時間を設定します。

メールチェックしない時間帯

メールを確認しない時間帯を設定します。

5

メール確認／通知機能を使う

ご注意

本機はメール着信確認を行うために、インターネットに接続します。メール着信確認を行うたびに通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。端末型ダイヤルアップ接続でインターネットに接続している場合は、料金にご注意ください。

7 [登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されて「メール機能」画面に戻ります。

ご注意

接続先プロバイダは、「プロバイダ接続管理」画面で設定したプロバイダになります。

5

メールの着信を確認する

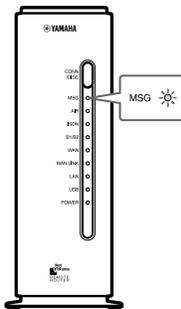
メールが届いていると、本機前面のMSGランプが点滅します。Webブラウザから手動で確認することもできます。

ご注意

- 本機はメール着信確認を行うために、インターネットに接続します。メール着信確認を行うたびに通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。端末型ダイヤルアップ接続でインターネットに接続している場合は、料金にご注意ください。
- 電子メールソフトウェアでメールサーバにメールを残すように設定している場合は、メールを確認するたびに新着メールが着信していることとなります。新着メールがあるかどうかを正確に確認したい場合は、受信済みメールをサーバに残さないように電子メールソフトウェアの設定を変更してください。

◆ 定期的に確認する

指定された時刻に本機がメールサーバをチェックし、メールが着信していると、MSGランプが点滅します。



MSGランプの点滅は次の状態を表しています。

- 「ピカッ」(1回点滅)：メールサーバ1にメール着信あり
- 「ピカッピカッ」(2回点滅)：メールサーバ2にメール着信あり
- 「ピカッピカッピカッ」(3回点滅)：メールサーバ3または4にメール着信あり

着信したメールを自動転送する

◆ 手動で確認する

メール着信の確認は、「かんたん設定ページ」の「付加機能」画面で行います。

- 59ページの手順1~4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 登録したメールサーバの名称に対応する「手動確認/転送」欄の、「確認の実行」をクリックする。

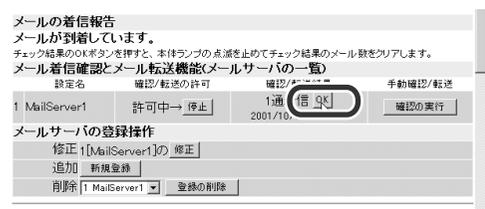


メールサーバに新規メールが届いているかどうか確認されます。確認した結果は、「確認/転送結果」欄に表示されます。

ご注意

プロバイダと接続中に、他のプロバイダのメールサーバに対してこのコマンドを実行すると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上に流れてしまいますので、十分ご注意ください。

- 確認が終わったら、「確認/転送結果」欄の[OK]をクリックする。

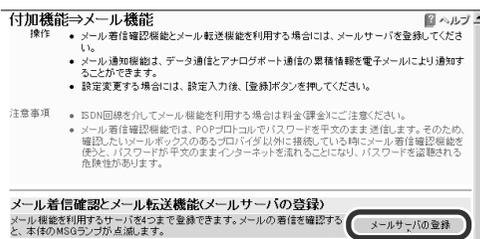


対応したサーバ番号に対応するMSGランプ点滅パターンが停止します。

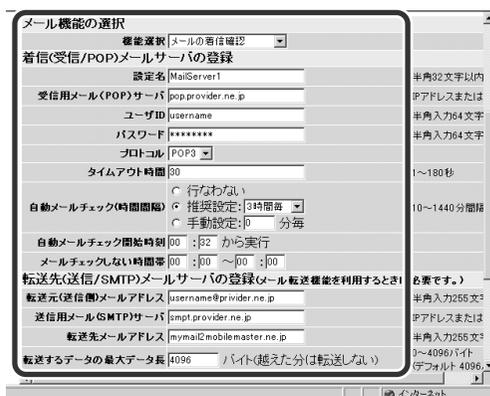
メール着信転送は、着信したメールを登録したメールアドレスへ転送する機能です。転送文字数を設定したり、送信元や題名などの、さまざまな転送条件を設定することもできます。

着信したメールを自動転送するには、「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で設定します。インターネットメールをサポートする機器(携帯電話、PHS、電話機を含む)であれば、どの機器/アドレスにも転送できます。

- 59ページの手順1~4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- [メールサーバの登録]をクリックする。
すでに登録してあるメールサーバの場合は、そのメールサーバの[登録の修正]をクリックします。



- 着信確認するメールアドレス情報と、転送先のメールアドレス情報を入力する。



5

メール確認／通知機能を使う

着信したメールを自動転送する

機能選択 [メールの着信確認と転送]を選びます。

転送元(送信側)メールアドレス

通常は受信メールアドレスと同じものを入力します。

送信用メール(SMTP)サーバ

送信サーバ名を入力します。転送元メールアドレスで利用可能な送信サーバを入力してください。

転送先メールアドレス

転送先のメールアドレスを入力します。

転送するデータの最大データ長

転送するデータの大きさを設定します。データの先頭から指定された長さまでのデータのみが転送されます。

転送条件 転送するメール内容の条件を設定します。条件は4つまで設定できます。

- 以下のすべての条件が満たされたとき:すべての条件を満たしたメールのみ転送されます。
- 以下のどれかひとつの条件が満たされたとき:4つの条件のいずれかに該当したメールが転送されます。

4 [登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「メール機能」画面に戻ります。

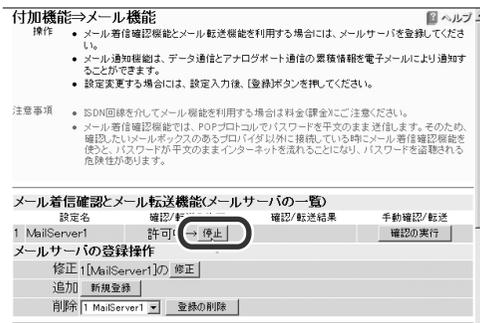
ご注意

受信メール容量が最大長(工場出荷値は10240byte)を超えている場合、メールは転送されません。受信メールの最大長は、コンソールコマンドの「mail-transfer receive maxlength」で変更できます。詳しくはコマンドリファレンスをご覧ください。

メールの確認や転送を中止する

メール着信確認/転送を一時的に停止したり、再開したりしたい場合は、「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で設定します。

- 1 59ページの手順1~4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 停止したいメールサーバの[確認/転送の許可]の[停止]をクリックする。



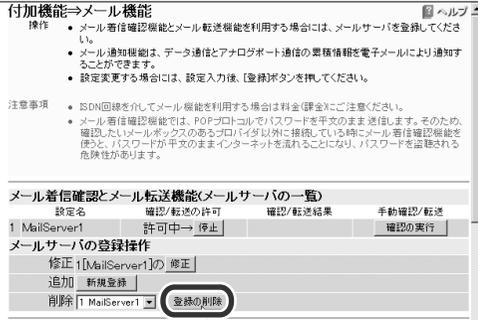
メール確認や転送が中止されます。再開したいときは、[再開]をクリックします。

- 3 他のメールサーバのメールも中止したいときは、手順2の操作を繰り返す。

メールサーバ登録を削除する

メール確認／転送で不要になったメールサーバの登録を削除するには、「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で設定します。

- 1 59ページの手順1～4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 [メールサーバの登録操作]で削除したいメールサーバを選んでから、[登録の削除]をクリックする。



メールサーバの登録内容が削除されます。

- 3 他のメールサーバの登録も削除したいときは、手順2の操作を繰り返す。

料金情報をメールで通知する

データ通信とTELポートの累積料金情報を、指定したメールアドレスへ定期的送信できます(メール通知機能)。意図しない自動接続をメールで監視したり、累積料金の定期リセット機能と組み合わせることで、定期的利用記録を電子メールとして残すことができます。

「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で、送信先と送信する日時を設定します。

- 1 59ページの手順1～4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 通知の送付先メールアドレス、題名、通知間隔などを入力する。



自動通知 通知を定期的送信する間隔を設定します。

自動通知時刻 通知を送信する時刻を設定します。

通知先メールの題名(Subject) 通知の題名を入力します。

設定名 通知機能の名称を任意の半角英数字32文字以内で入力します。

送信用メールサーバ(SMTP) 送信サーバ名を入力します。送信元メールアドレスで利用可能な送信サーバを入力してください。

通知元メールアドレス(From)、通知先メールアドレス(To) それぞれ送信元、通知先のメールアドレスを入力します。

5

メール確認／通知機能を使う

送信するデータの最大データ長

通知するデータの大きさを設定します。データの先頭から指定された長さまでのデータのみが送信されます。

タイムアウト時間

メールサーバの応答を待つ時間を設定します。この時間以内に応答がないと、エラーを表示します。

5

メール確認／通知機能を使う

- 3 [メール通知の設定登録]をクリックする。メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されて「メール機能」画面に戻ります。

ご注意

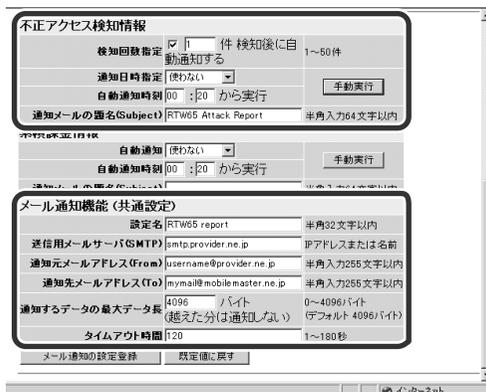
接続先プロバイダは、「プロバイダ接続管理」画面で設定したプロバイダになります。

不正アクセス検知をメールで通知する

本機のファイアウォール機能(112ページ)で検知した不正アクセス記録を、指定したメールアドレスへ定期的に送信できます。

「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面で、送信先と送信する日時を設定します。

- 1 59ページの手順1～4を行って、本機の「かんたん設定ページ」の「メール機能」画面を開く。
- 2 「不正アクセス検知情報」の[自動通知する]にチェックを付ける。
- 3 通知の送付先メールアドレス、題名、通知間隔などを入力する。



検知回数設定

チェックを付けて、不正アクセスを何件検知するごとにメールを送るかを指定します。

通知日時指定

通知を送信する日時を指定したいときは、設定します。

自動通知時刻

通知を送信する時刻を設定します。

通知メールの題名(Subject)

通知の題名を入力します。

設定名

通知機能の名称を任意の半角英数字32文字以内で入力します。

送信用メールサーバ(SMTP)

送信サーバ名を入力します。送信元メールアドレスで利用可能な送信サーバを入力してください。

通知元メールアドレス(From)、通知先メールアドレス(To)

それぞれ送信元、通知先のメールアドレスを入力します。

送信するデータの最大データ長

通知するデータの大きさを設定します。データの先頭から指定された長さまでのデータのみが送信されます。

タイムアウト時間

メールサーバの応答を待つ時間を設定します。この時間以内に応答がないと、エラーを表示します。

4 [メール通知の設定登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されて「メール機能」画面に戻ります。

ご注意

接続先プロバイダは、「プロバイダ接続管理」画面で設定したプロバイダになります。

第 6 章 USB 接続機能を 活用する

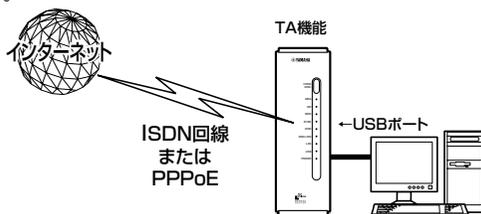
この章では、USB接続で本機のTA機能や擬似LAN機能を使う場合の接続／設定方法について説明しています。利用する機能やOSに合わせて、接続およびパソコンの設定を行ってください。

本機のUSB接続機能の概要

◆ 本機をTA(73ページ)またはブロードバンドTA(84ページ)として使い、ネットワークに接続する

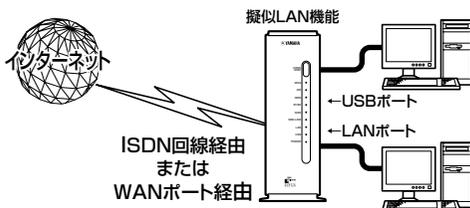
Windows 98SE(Second Edition)/Me/2000/XP、MacOS9以降のパソコンをお使いの場合、パソコンを本機のUSBポートに接続して、本機をISDN回線用TA(ターミナルアダプタ)またはPPPoEを利用したブロードバンドTAとして使うことができます。

ネットワークゲームがうまく動作しないときなどは、TAとしてお使いください。パソコンにLANポートもあれば、同時に接続して、目的別に使い分けることもできます。



◆ 擬似LAN機能でネットワークに接続する (92ページ)

本機のUSBポートには擬似LAN機能があり、LANポートのないパソコンでも、TCP/IPプロトコルでLANに接続できます。ただし、アクセスできるのはTCP/IPプロトコルに対応したファイルサーバやWebサーバです。AppleShareなどのファイル共有は利用できません。



ご注意

- TA接続はISDN回線またはPPPoE方式の回線でのみ使用できます。
- 工場出荷状態では、ブロードバンドTA接続を行うと、現在使用中のルータ接続はいったん切断されます。
- USBケーブルを抜く前に、必ずパソコンの電源を切ってください。電源を入れたままUSBケーブルの抜き差しすると、パソコンの動作が不安定になる場合があります。
- USBによる通信を行った後にWindowsを終了する場合、終了するまでに5分以上かかることがあります。この問題を回避するには、終了する前にいったん再起動してから終了するようにしてください。
- Windows 95/98/NTやMacOS8.6以前のパソコンをお使いの場合、USB経由で本機とパソコンを接続することはできません。
- TA接続の場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(92ページ)。

USBポート経由の接続を準備する

USBポートを使用する前に、あらかじめ別冊の「はじめにお読みください」の説明にしたがって、本機の設置から回線の接続までの準備を行う必要があります。

ルータや回線の準備が終わり、電話機が正常に使えることが確認できたら、以下の手順でパソコンにUSBドライバやモデムをインストールします。インストール方法は、お使いの環境によって異なります。

インストールには、OSのインストールCD-ROMが必要になる場合があります。あらかじめご用意ください。

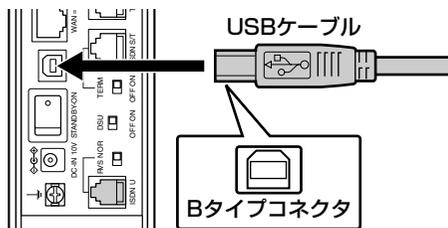
ご注意

Windowsの場合、ドライバのインストールが正常に行えなかった時は、付属のCD-ROMの[USB]フォルダー[UnUSB]フォルダー[UnUSBTA.exe]を使用して、いったんドライバをアンインストールしてから、もう1度ドライバをインストールしてください。

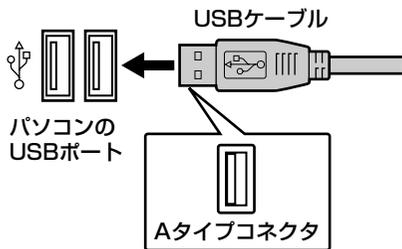
Windows 98SEの場合

Windows 98SEの場合は、USBドライバとモデムのインストールを行います。

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 3 本機のUSBポートに、USBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。



- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



パソコンの画面に、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

- 5 [次へ]をクリックする。



- 6 [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 7 [検索場所の指定]を選んでから[参照]をクリックして、CD-ROMドライブの[USB]フォルダ内にある[WIN9X]フォルダを選び、[OK]をクリックする。



[検索場所の指定]欄に「D:\USB\WIN9X」と表示されます。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

6

USB接続機能を活用する

8 ドライバの名称を確認してから、[次へ]をクリックする。



9 表示されたドライバのある場所を確認してから、[次へ]をクリックする。

「D:\¥USB¥WIN9X¥YMHUSBTA.INF」になっていない場合は[戻る]をクリックして、選択し直してください。



USBドライバのインストールが始まります。コピーの途中で「Windows98 Second Edition CD-ROMラベルの付いたディスクを挿入してください」と表示された場合は、Windows98 Second Edition CD-ROMをドライブにセットしてから、[OK]をクリックしてください。

10 USBドライバのコピーが終了したら、[完了]をクリックする。



これで、USBドライバのインストールが完了しました。

続いて新しいハードウェアが検知されて、モデムのインストールが始まります。

手順9でWindows98 Second Edition CD-ROMを入れた場合は、本機に付属のCD-ROMをドライブにセットしてください。

11 [次へ]をクリックする。



12 [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



13 [検索場所の指定]を選んでから[参照]をクリックし、CD-ROMドライブの[USB]フォルダ内の[WIN9X]フォルダを指定して[OK]をクリックする。



[検索場所の指定]に「D:\¥USB¥WIN9X」と表示されます。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

14 [RTW65i USB(Sync)]と表示されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

128kbit/s(MP)接続で使用する場合は、[ほかのドライバ]を選んでから[一覧の表示]をクリックし、[RTW65i USB(MP)]を選んで[OK]をクリックします。



15 表示されたドライバのある場所を確認してから、[次へ]をクリックする。

「D:\¥USB¥WIN9X¥RTW65.INF」になっていない場合は[戻る]をクリックして、選び直してください。



モデムのインストールが始まります。

16 インストールが終了したら、[完了]をクリックする。

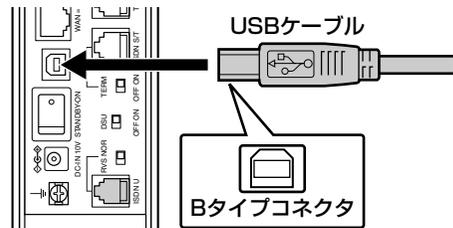


これで、モデムのセットアップが完了しました。

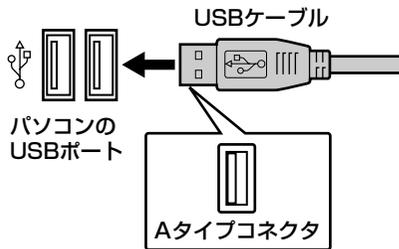
Windows Meの場合

Windows Meの場合は、USBドライバとモデムのインストールを行います。付属のCD-ROMをセットすると、本機用のドライバが自動検索されてインストールされます。

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 3 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。



- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



パソコンの画面に、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

- 5 [適切なドライバを自動的に検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 6** USBドライバのコピーが終了したら、[完了]をクリックする。



これで、USBドライバのインストールが完了しました。

続いて新しいハードウェアが検出されて、モデムのインストールが始まります。

- 7** [適切なドライバを自動的に検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 8** [RTW65i USB(Sync)]を選んでから、[OK]をクリックする。

128kbit/s (MP) 接続で使用する場合は、[RTW65i USB(MP)]を選びます。



モデムのインストールが始まります。

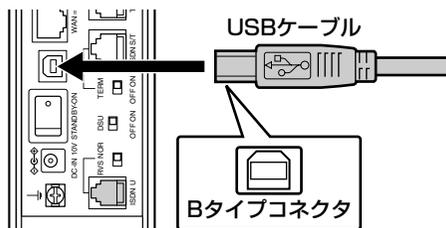
- 9** インストールが終了したら、[完了]をクリックする。

これで、モデムのセットアップが完了しました。

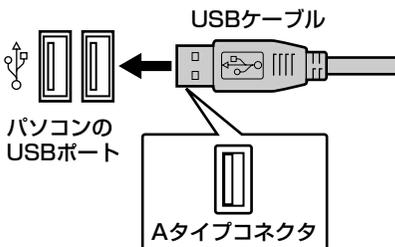
Windows 2000の場合

Windows 2000の場合は、ウィザードに従ってUSBモデムのインストールを行います。

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 3 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。

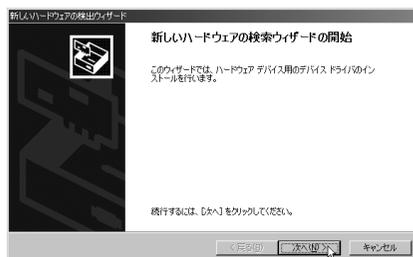


- 4** パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



パソコンの画面に、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

- 5** [次へ]をクリックする。



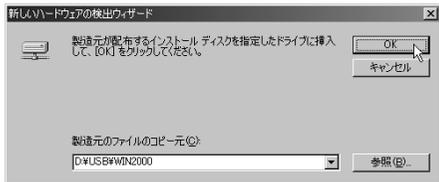
6 [デバイスに最適なドライバを検索する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



7 [場所を指定]を選んでから、[次へ]をクリックする。



8 [参照]をクリックしてCD-ROMドライブの[USB]フォルダ内にある[WIN2000]フォルダを選んでから、[OK]をクリックする。



「製造元のファイルのコピー元」欄に「D:¥USB¥WIN2000」と表示されます。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示された場合は [はい] をクリックしてインストールを続行してください。

9 表示されたドライバのある場所を確認してから、[次へ]をクリックする。

「D:¥USB¥WIN2000¥USBTAW2K.INF」になっていない場合は[戻る]をクリックして、選び直してください。



USBドライバのインストールが始まります。

10 USBドライバのコピーが終了したら、[完了]をクリックする。

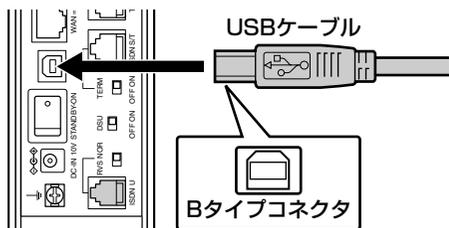


これで、USBモデムのセットアップが完了しました。

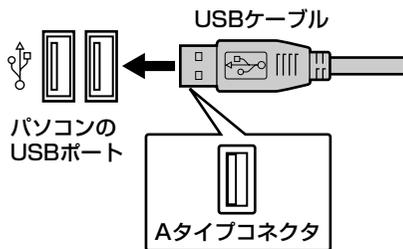
Windows XPの場合

Windows XPの場合は、ウィザードに従ってUSBモデムのインストールを行います。

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 3 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。

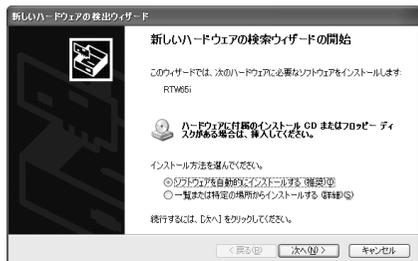


- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



パソコンの画面に、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

- 5 [ソフトウェアを自動的にインストールする]を選んでから、[次へ]をクリックする。



USBドライバのインストールが始まります。

- 6 USBドライバのコピーが終了したら、[完了]をクリックする。



これで、USBモデムのセットアップが完了しました。

ヒント

手順5で[ソフトウェアを自動的にインストールする]の代わりに[一覧または特定の場所からインストールする]を選んでインストールする場合は、Windows2000の場合の手順7以降(71ページ)の操作を行ってください。

USBポートからTA接続する **ISDN**

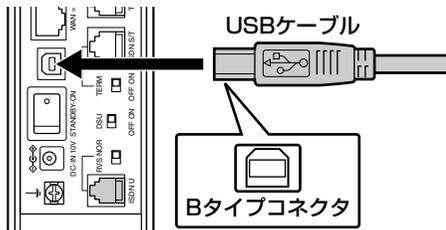
本機をTAとして使う場合は、パソコンにネットワークとダイヤルアップを設定します。TA接続はISDN回線でのみ使用できます。

MacOS 9の場合

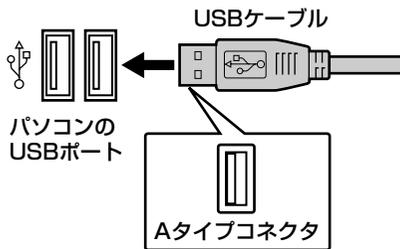
MacOS 9の場合は、USBケーブルの接続とCCLファイルのインストールを行います。

◆ USBケーブルを接続する

- 1 本機とパソコンの電源を入れる。
- 2 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側(四角いコネクタ)を接続する。



- 3 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側(平たいコネクタ)を接続する。



これで、USBのセットアップが完了しました。

◆ CCLファイルをインストールする

- 1 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
- 2 CD-ROMの[CCLファイル]フォルダ内のCCLファイルを、起動ハードディスクの[システムフォルダ] - [機能拡張] - [Modem Scripts]フォルダにコピーする。

これで、CCLファイルのインストールが完了しました。

Windows 98SE/Meの場合

Windows 98SE/Meの場合は、ダイヤルアップネットワークの設定を行います。

◆ ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をTA接続で使用する場合は、「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(92ページ)。

◆ ダイヤルアップネットワークを設定する

- 1 [マイコンピュータ]内の[ダイヤルアップネットワーク]をダブルクリックする。
Windows Meの場合は[コントロールパネル]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開きます。
- 2 [新しい接続]アイコンをダブルクリックする。
「ダイヤルアップネットワークへようこそ」ウィンドウが表示された場合は、「次へ」をクリックします。
「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してください。



3 プロバイダ名を入力し、[モデムの選択]に [RTW65i USB (Sync)]を選んでから、[次へ]をクリックする。



4 ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力してから、[次へ]をクリックする。

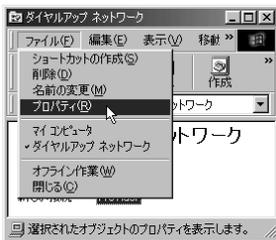


5 [完了]をクリックする。



[ダイヤルアップ ネットワーク]フォルダ内に登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

6 プロバイダのアイコンを選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



7 [サーバーの種類]タブをクリックする。

Windows Meの場合は、[ネットワーク]タブをクリックします。

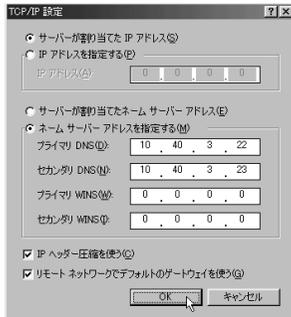


8 以下のように設定してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮する]: チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の [NetBEUI]、[IPX/SPX互換]: チェックを外す。
- [TCP/IP]: チェックを付ける。



- 9 「ネームサーバアドレスを指定する」を選んで、プロバイダから指定されたネームサーバのIPアドレスを入力してから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。



これで、インターネット接続の設定が完了しました。

ヒント

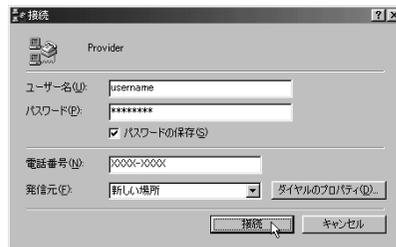
プロバイダからDNSサーバのアドレスが通知されない場合は、[サーバが割り当てたネームサーバアドレス]を選びます。

◆ インターネットへ接続する

- 1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダのプロバイダ名アイコンをダブルクリックする。



- 2 [ユーザー名]と[パスワード]を入力してから、[接続]をクリックする。

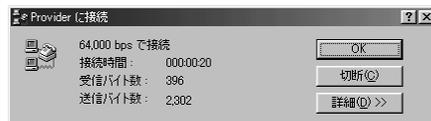


インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、B1/B2ランプが点灯します。

ヒント

[パスワードの保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックを付けないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 Webブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。
NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。
- 4 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。



プロバイダとの接続が切れます。

Windows 2000の場合

Windows 2000の場合は、ダイヤルアップの設定を行います。

ご注意

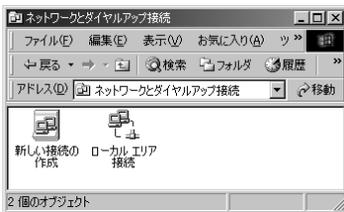
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をTA接続で使用する場合は、「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(92ページ)。

◆ ダイヤルアップネットワークを設定する

- 1 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



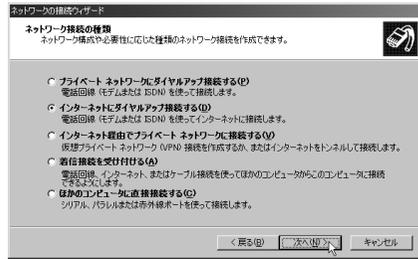
- 2 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。



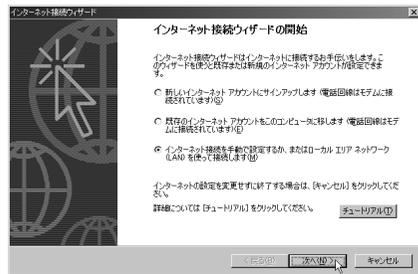
- 3 [次へ]をクリックする。



- 4 [インターネットにダイヤルアップ接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 5 [インターネット接続を手動で設定するか、またはローカル エリア ネットワーク(LAN)を使って接続します]を選んでから、[次へ]をクリックする。

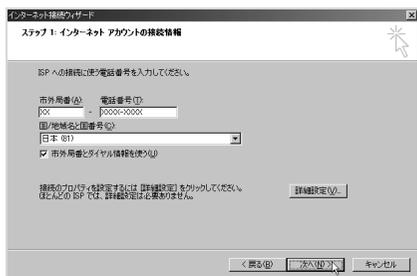


- 6 [電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します]を選んでから、[次へ]をクリックする。

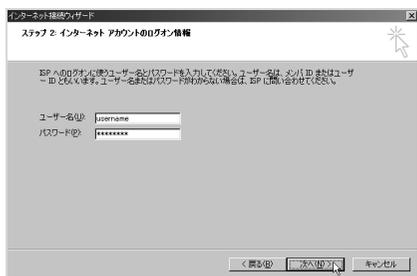


[モデムの選択]の画面が表示された場合は、[YAMAHA RTW65i (USB)]を選んでから[次へ]をクリックしてください。

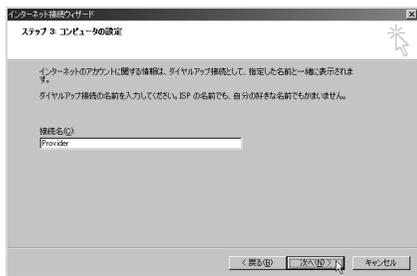
7 ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力してから、[次へ]をクリックする。



8 ユーザー名とパスワードを入力してから、[次へ]をクリックする。



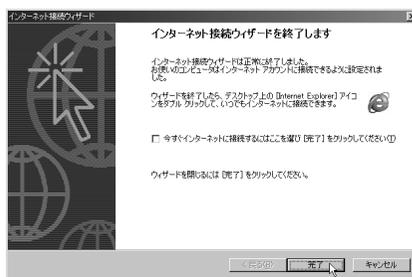
9 [接続名]に任意の名前を入力してから、[次へ]をクリックする。



10 [いいえ]を選んでから、[次へ]をクリックする。

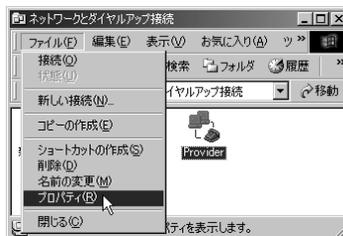


11 [完了]をクリックする。

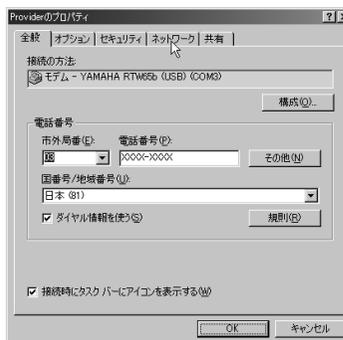


「ネットワークとダイヤルアップ接続」フォルダ内に、登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

12 プロバイダのアイコンを選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



13 [ネットワーク]タブをクリックする。



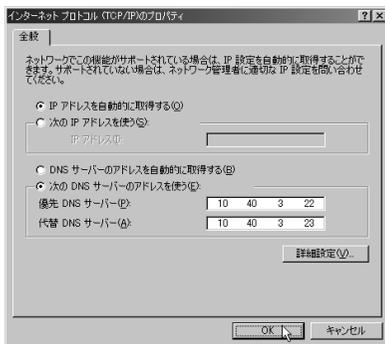
6

USB接続機能を活用する

14 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選
でから、[プロパティ]をクリックする。



15 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]に
チェックを付けてDNSサーバアドレスを入力
してから、各ウィンドウの[OK]をクリックし
てウィンドウを閉じる。



これで、インターネット接続の設定が完了しま
した。

ヒント

プロバイダからDNSサーバのアドレスが通知されない場
合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]
を選びます。

◆ **インターネットへ接続する**

1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダの
ロバイダ名アイコンをダブルクリックする。



2 [ダイヤル]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間
が表示されます。接続中は、B1/B2ランプが点灯
します。

ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパス
ワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使わ
れたくないときは、チェックしないでください。

3 Webブラウザを起動して、「http://
NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを
押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを
確認してください。

4 接続を解除するときは、[切断]をクリックす
る。



プロバイダとの接続が切れます。

Windows XPの場合

Windows XPの場合は、ダイヤルアップの設定を行います。

ご注意

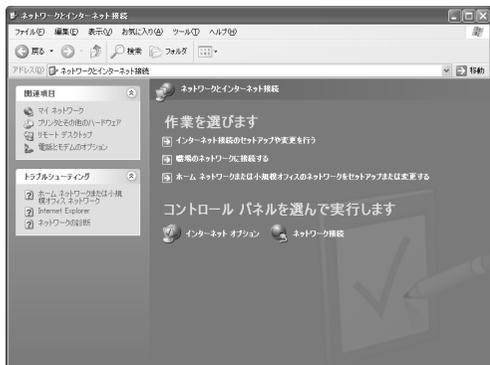
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をTA接続で使用する場合は、「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください(92ページ)。

◆ ダイヤルアップネットワークを設定する

1 [コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



2 [ネットワーク接続]をクリックする。



3 [新しい接続を作成する]をクリックする。



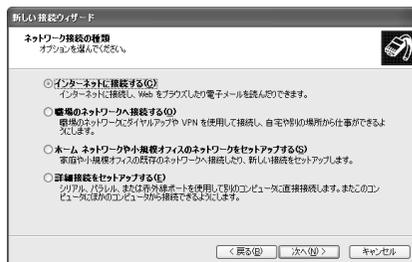
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「所在地情報」画面が表示された場合は、市外番号を入力してから、「[OK]」をクリックしてください。

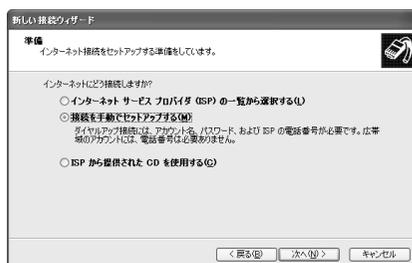
4 [次へ]をクリックする。



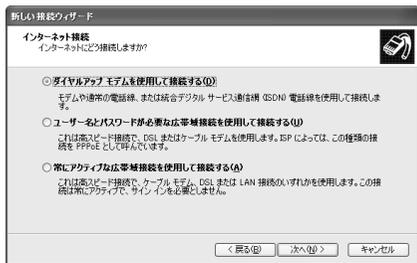
5 [インターネットに接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



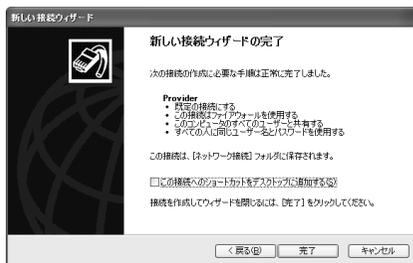
6 [接続を手動でセットアップする]を選んでから、[次へ]をクリックする。



7 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



11 [完了]をクリックする。



6 **8** ISP名に任意の名前を入力してから、[次へ]をクリックする。

USB接続機能を活用する



12 プロバイダのアイコンを選んでから、[この接続の設定を変更する]をクリックする。



9 ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力してから、[次へ]をクリックする。



13 [ネットワーク]タブをクリックする。



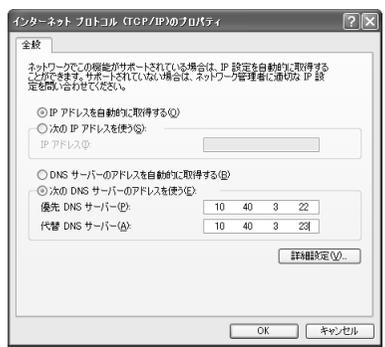
10 ユーザー名とパスワードを入力してから、[次へ]をクリックする。



14 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。



15 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]を選んでDNSサーバアドレスを入力してから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。



これで、インターネット接続の設定が完了しました。

ヒント

プロバイダからDNSサーバのアドレスが通知されない場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]を選びます。

◆ インターネットへ接続する

1 「マイ コンピュータ」画面の[マイ ネットワーク]をクリックする。



2 [ネットワーク接続を表示する]をクリックする。



3 プロバイダのアイコンを選んでから、[この接続を開始する]をクリックする。



4 [ダイヤル]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、B1/B2ランプが点灯します。

ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

5 Web ブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。

6 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。

プロバイダとの接続が切れます。

MacOS 9の場合

MacOS 9では、ネットワーク機能の設定とリモートアクセス(PPP)の設定を行います。作業を始める前に、NetVolante用CCLファイルを付属のCD-ROMの[CCLファイル]フォルダから[システムフォルダ]→[機能拡張]→[Modem Scripts]フォルダ内へコピーしてください。

ここではMacOS 9.0.4の画面を例に説明しています。

ご注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

◆ ネットワーク機能を設定する

コントロールパネルの[TCP/IP]と[モデム]の設定を変更します。

1 アップルメニューから[コントロールパネル]→[TCP/IP]を選ぶ。

2 以下のように設定する。

- 経由先: PPP
- 設定方法: PPPサーバを参照
- ネームサーバアドレス欄: プロバイダから入手したネームサーバのIPアドレスを入力する。



3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

4 アップルメニューから[コントロールパネル]→[モデム]を選ぶ。

5 [経由先]を[USB Modem]、[モデム]をプロバイダの通信速度に合った[NetVolante XXXX]、[ダイヤル]の種類を[トーン]に設定する。



プロバイダの回線速度	選択項目名
同期64k(制御文字変換なし)	NetVolante 64k
同期64k(制御文字変換あり)	NetVolante 64k(v1.2)
同期128k(制御文字変換なし)	NetVolante MP
同期128k(制御文字変換あり)	NetVolante MP(v1.2)

ご注意

- プロバイダとMP接続の契約をしている場合は、[NetVolante MP]を選択してください。また、アクセスポイントは必ずMP対応の電話番号を入力してください。
- 同期接続では通常は制御文字変換なし([NetVolante 64k]または[NetVolante MP])を使用してください。

6 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

◆ダイヤルアップ接続を設定する

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル]→[リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 プロバイダから入手したユーザIDとパスワード、ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力する。



- 3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

💡ヒント

[パスワードを保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

◆インターネットへ接続する

- 1 [コントロールパネル]の[リモートアクセス]を開く。
「リモートアクセス」画面が表示されます。
- 2 [接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、B1/B2ランプが点灯します。

💡ヒント

[パスワードを保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

- 3 Webブラウザを起動して、「http://NetVolante.jp/」と入力してからEnterキーを押す。

NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。

- 4 接続を解除するときは、「リモートアクセス」画面の[接続を切る]をクリックする。



プロバイダとの接続が切れます。

USBポートからブロードバンドTA接続する

本機をPPPoE方式ブロードバンドTAとして使う場合は、以下の接続や設定を行ってください。ブロードバンドTA接続は、PPPoE方式の接続でのみ使用できます。

ご注意

- 工場出荷状態では、ブロードバンドTA接続を行うと、現在使用中のルータ接続はいったん切断されます。
- ブロードバンドTA接続中に、本機の設定を保存しないでください。

6

USB接続機能を活用する

Windows 98SE/Meの場合

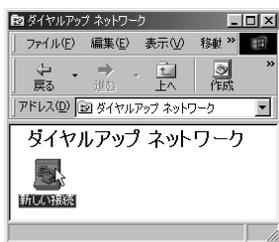
ブロードバンドTA接続するときには、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックする。

Windows Meの場合は、[コントロールパネル]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックします。

- 2 [新しい接続]アイコンをダブルクリックする。

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示された場合は、[次へ]をクリックします。「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してください。



- 3 [接続名]に「RTW65i-TA」と入力し、[モデムの選択]に「RTW65i USB (Sync)」を選んでから、[次へ]をクリックする。

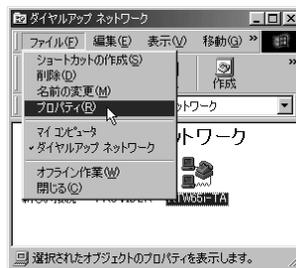


- 4 市外局番は空欄のまま、電話番号に半角英数字で「***#」と入力してから、国番号に[日本(81)]を選んで[次へ]をクリックし、[完了]をクリックする。



「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に、登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

- 5 [RTW65i-TA]アイコンを選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



- 6 [サーバーの種類]タブをクリックする。

Windows Meの場合は、[ネットワーク]タブをクリックします。

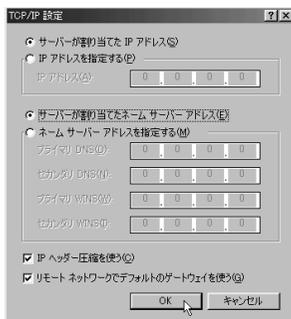


7 以下のように設定してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮する]: チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の [NetBEUI]、[IPX/SPX互換]: チェックを外す。
- [TCP/IP]: チェックを付ける。



8 [サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス]を選んでから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。



これで、ブロードバンドTA接続の設定が完了しました。

◆ インターネットへ接続する

インターネットへ接続するときは、[RTW65i-TA]アイコンをダブルクリックして、本機のブロードバンドTA機能にダイヤルアップします。

1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダ内の [RTW65i-TA]アイコンをダブルクリックする。



2 プロバイダから入手したユーザー名とパスワードを入力し、[パスワードの保存]をチェックして[接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、WAN LINKランプが点灯します。

☀️ ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われないときは、チェックしないでください。

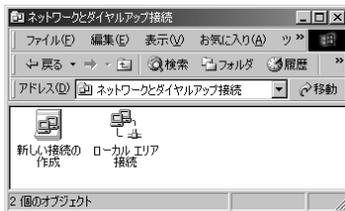
Windows 2000の場合

ブロードバンドTA接続するときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

- 1 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



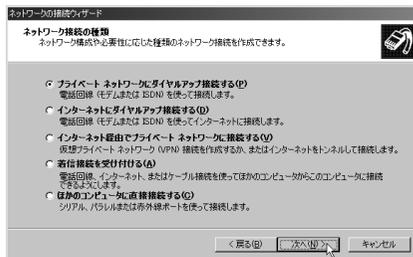
- 2 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。



- 3 [次へ]をクリックする。



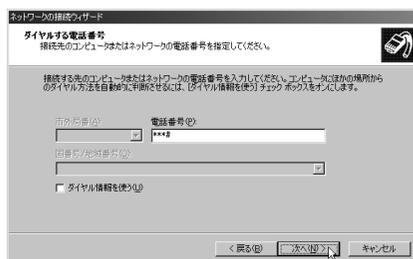
- 4 [プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



ご注意

「デバイスの選択」画面が表示された場合は、[YAMAHA RTW65i(USB)(COMx)]のみをチェックし、他のデバイスのチェックを外してから[次へ]をクリックします。

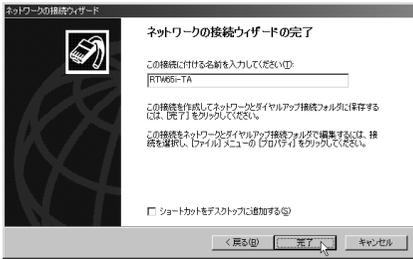
- 5 電話番号に半角英数字で「***#」と入力してから、[次へ]をクリックする。



- 6 [すべてのユーザー]を選んでから、[次へ]をクリックする。



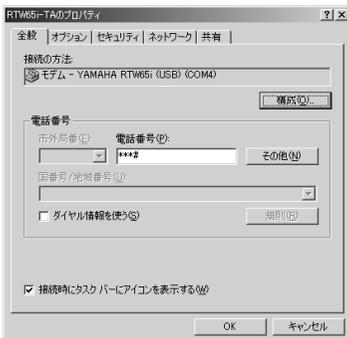
- 7 [接続名]に「RTW65i-TA」と入力してから、[完了]をクリックする。



- 8 [RTW65i-TA]アイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。

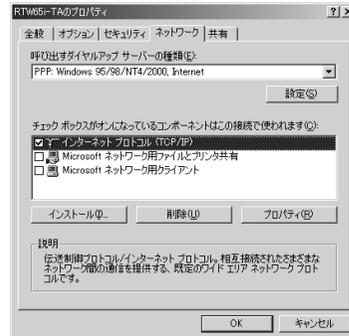


- 9 [全般]タブをクリックして、[接続の方法]から[YAMAHA RTW65i(USB)(COMX)]を選ぶ。



- 10 [ネットワーク]タブをクリックして、以下のように設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]:チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]:チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]:チェックを外す。



USBポートからブロードバンドTA接続する

◆ インターネットへ接続する

インターネットへ接続するときは、[RTW65i-TA]アイコンをダブルクリックして、本機のブロードバンドTA機能にダイヤルアップします。

- 1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダ内の[RTW65i-TA]アイコンをダブルクリックする。



- 2 プロバイダから入手したユーザー名とパスワードを入力し、[パスワードの保存]をチェックして[ダイヤル]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、WAN LINKランプが点灯します。

☀️ ヒント

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

Windows XPの場合

ブロードバンドTA接続するときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

- 1 [コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



- 2 [ネットワーク接続]をクリックする。



- 3 [新しい接続を作成する]をクリックする。



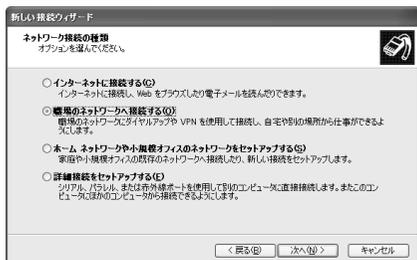
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してから、[OK]をクリックしてください。

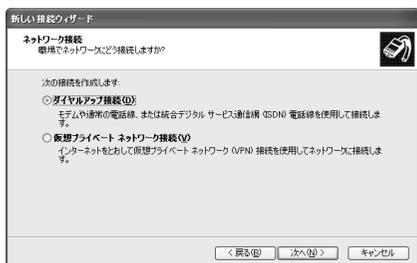
4 [次へ]をクリックする。



5 [職場のネットワークに接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



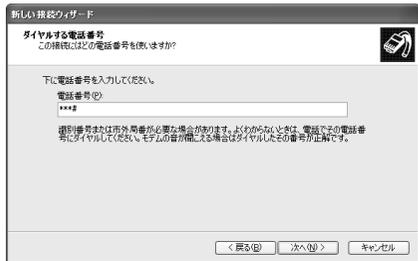
6 [ダイヤルアップ接続]を選んでから、[次へ]をクリックする。



7 [会社名]に「RTW65i-TA」と入力してから、[次へ]をクリックする。



8 電話番号に半角英数字で「***#」と入力してから、[次へ]をクリックする。



9 [完了]をクリックする。



10 [RTW65i-TA]アイコンを選んでから、[この接続の設定を変更する]をクリックする。



11 [全般]タブをクリックして、[接続の方法]から[YAMAHA RTW65i (USB) (COMX)]を選ぶ。



6

USB接続機能を活用する

12 [ネットワーク]タブをクリックして、以下のよう
に設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]: チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]: チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]: チェックを外す。



◆ インターネットへ接続する

インターネットへ接続するときは、[RTW65i-TA]アイコンをダブルクリックして、本機のブロードバンドTA機能にダイヤルアップします。

1 「マイ コンピュータ」画面の[マイ ネットワーク]をクリックする。



2 [ネットワーク接続を表示する]をクリックする。



3 [RTW65i-TA]アイコンを選んでから、[この接続を開始する]をクリックする。



4 プロバイダから入手したユーザー名とパスワードを入力し、[パスワードの保存]を
チェックして[ダイヤル]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、WAN LINKランプが点灯します。

※ヒント

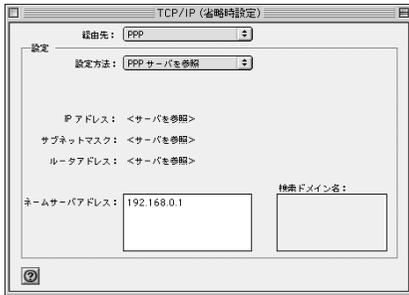
[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。

MacOS 9の場合

◆ ネットワーク機能を設定する

コントロールパネルの[TCP/IP]と[モデム]を設定します。

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [TCP/IP]を選ぶ。
- 2 以下のように設定する。
 - 経由先: PPP
 - 設定方法: PPPサーバを参照
 - ネームサーバアドレス: 本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)



- 3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。
- 4 アップルメニューから[コントロールパネル] - [モデム]を選ぶ。
- 5 以下のように設定する。
 - 経由先: USB Modem
 - モデム: NetVolante 64k(v1.2)
 - ダイヤル: トーン



- 6 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

◆ ダイヤルアップ接続を設定する

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 以下のように設定する。
 - ユーザ ID: プロバイダから入手したユーザー名
 - パスワード: プロバイダから入手したパスワード
 - パスワードを保存: チェックを付ける。
 - 電話番号: 半角英数字で「***#」と入力。



- 3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

USBポートからブロードバンドTA接続する

◆ インターネットへ接続する

インターネットへ接続するときは、コントロールパネルの[リモートアクセス]を開いて本機にダイヤルアップ接続します。

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 [接続]をクリックする。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。接続中は、WAN LINKランプが点灯します。

☀ ヒント

[リモートアクセス]のエイリアスをシステムフォルダ内の[起動項目]フォルダに入れておくと、Macintoshを起動すると自動的に「リモートアクセス」画面が開くようになります。[接続]をクリックすると、簡単にLANへアクセスできます。

USBポートからLAN接続する (擬似LAN)

本機に内蔵の擬似LAN機能を使うと、USBポートに接続したパソコンも、TCP/IPプロトコルでLANにアクセスできるようになります。LANボードを取り付けられないパソコンを接続するときは、この方法で接続してください。

LANに接続すると、TCP/IPプロトコルのファイルサーバにアクセスできるようになり、ダイヤルアップルータの自動接続機能によるインターネット接続も利用できません。ただし、Windowsのファイル共有やAppleShareのファイル共有は利用できません。

擬似LAN機能を使うときは、以下の接続や設定を行ってください。

Windows 98SE/Meの場合

擬似LAN機能を使うときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックする。

Windows Meの場合は、[コントロールパネル]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックします。

- 2 [新しい接続]アイコンをダブルクリックする。

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示された場合は、[次へ]をクリックします。「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してください。



- 3** [接続名]に「RTW65i-LAN」と入力し、[モデルの選択]に「RTW65i USB (Sync)」を選んでから、[次へ]をクリックする。

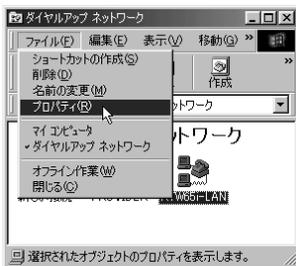


- 4** 市外局番は空欄のまま、電話番号に半角英数字で「****」と入力してから、国番号に「日本(81)」を選んで[次へ]をクリックし、[完了]をクリックする。



「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に、登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

- 5** 「RTW65i-LAN」アイコンを選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



- 6** [サーバーの種類]タブをクリックする。

Windows Meの場合は、[ネットワーク]タブをクリックします。

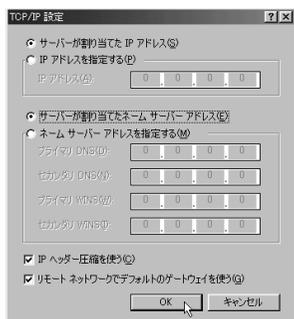


- 7** 以下のように設定してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮する]: チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の[NetBEUI]、[IPX/SPX互換]: チェックを外す。
- [TCP/IP]: チェックを付ける。



- 8 [サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス]を選んでから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。



これで、擬似LAN接続の設定が完了しました。

◆ LANに接続する

LANへ接続するときは、[RTW65i-LAN]アイコンをダブルクリックして、本機の擬似LAN機能にダイヤルアップします。

- 1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダ内の[RTW65i-LAN]アイコンをダブルクリックする。



- 2 [ユーザー名]に任意の名前を入力し、[パスワード]は空欄、[パスワードの保存]をチェックして[接続]をクリックする。



本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。

☀️ ヒント

作成した[RTW65i-LAN]アイコンのショートカットをスタートメニューの[スタートアップ]に追加すると、Windowsを起動すると自動的に「RTW65i-LAN」画面が開くようになります。[接続]をクリックすると、簡単にLANにアクセスできます。

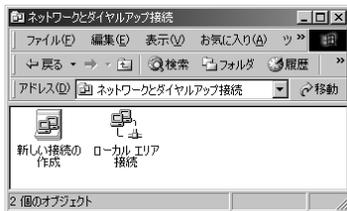
Windows 2000の場合

擬似LAN機能を使うときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

1 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



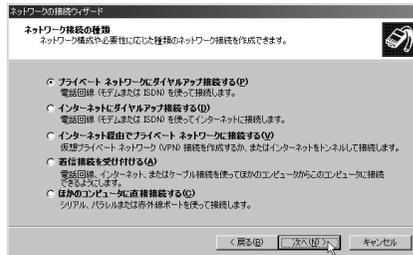
2 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。



3 [次へ]をクリックする。



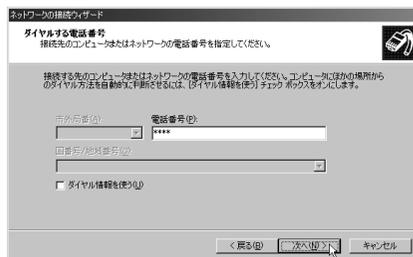
4 [プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



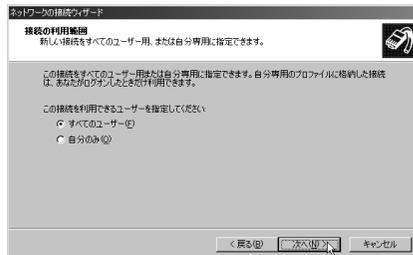
ご注意

「デバイスの選択」画面が表示された場合は、[YAMAHA RTW65i(USB)(COMx)]のみをチェックし、他のデバイスのチェックを外してから[次へ]をクリックします。

5 電話番号に半角英数字で「****」と入力してから、[次へ]をクリックする。



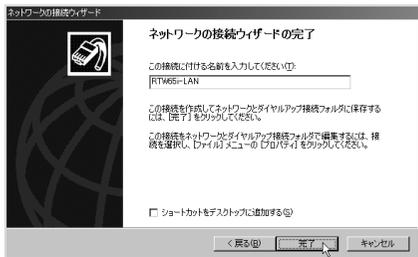
6 [すべてのユーザー]を選んでから、[次へ]をクリックする。



6

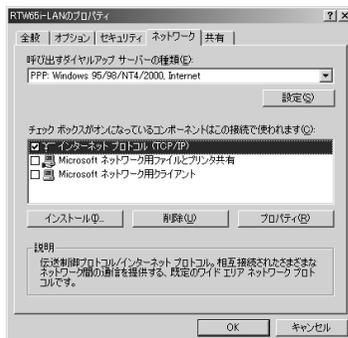
USB接続機能を活用する

7 [接続名]に「RTW65i-LAN」と入力してから、[完了]をクリックする。



10 [ネットワーク]タブをクリックして、以下のように設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]: チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]: チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]: チェックを外す。



8 [RTW65i-LAN]アイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



9 [全般]タブをクリックして、[接続の方法]から[YAMAHA RTW65i(USB)(COMX)]を選ぶ。



◆ LANへ接続する

LANへ接続するときは、[RTW65i-LAN]アイコンをダブルクリックして、本機の擬似LAN機能にダイヤルアップします。

- 1 [ダイヤルアップネットワーク]フォルダ内の[RTW65i-LAN]アイコンをダブルクリックする。



- 2 [ユーザー名]に任意の名前を入力し、[パスワード]は空欄、[パスワードの保存]をチェックして[ダイヤル]をクリックする。



本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。

☀️ ヒント

作成した[RTW65i-LAN]アイコンのショートカットをスタートメニューの[スタートアップ]に追加すると、Windowsを起動すると自動的に「RTW65i-LAN」画面が開くようになります。[接続]をクリックすると、簡単にLANにアクセスできます。

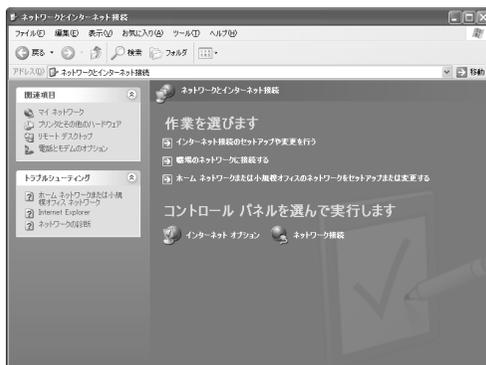
Windows XPの場合

擬似LAN機能を使うときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

- 1 [コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



- 2 [ネットワーク接続]をクリックする。



- 3 [新しい接続を作成する]をクリックする。



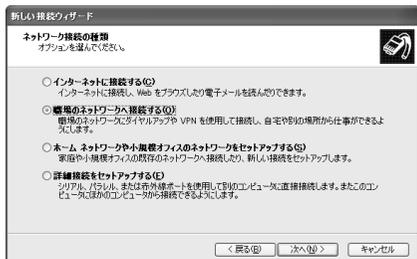
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局番を入力してから、[OK]をクリックしてください。

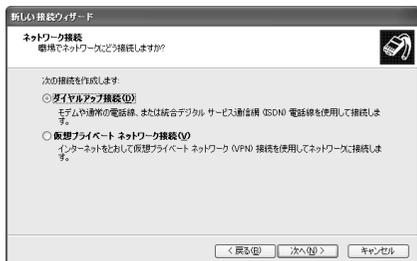
4 [次へ]をクリックする。



5 [職場のネットワークに接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



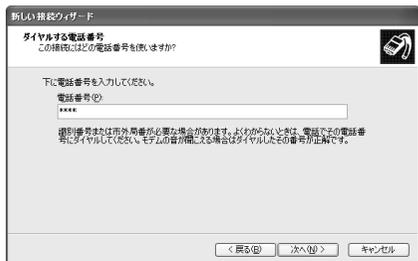
6 [ダイヤルアップ接続]を選んでから、[次へ]をクリックする。



7 [会社名]に「RTW65i-LAN」と入力してから、[次へ]をクリックする。



8 電話番号に半角英数字で「****」と入力してから、[次へ]をクリックする。



9 [完了]をクリックする。



10 [RTW65i-LAN]アイコンを選んでから、[この接続の設定を変更する]をクリックする。



11 [全般]タブをクリックして、[接続の方法]から[YAMAHA RTW65i (USB) (COMX)]を選ぶ。



12 [ネットワーク]タブをクリックして、以下のように設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]: チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]: チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]: チェックを外す。



◆ LANに接続する

1 「マイ コンピュータ」画面の[マイ ネットワーク]をクリックする。



2 [ネットワーク接続を表示する]をクリックする。



3 [RTW65i-LAN]アイコンを選んでから、[この接続を開始する]をクリックする。



4 [ユーザー名]に任意の名前を入力し、[パスワード]は空欄、[パスワードの保存]をチェックして[ダイヤル]をクリックする。



本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。

☀️ ヒント

作成した[RTW65i-LAN]アイコンのショートカットをスタートメニューの[スタートアップ]に追加すると、Windowsを起動すると自動的に「RTW65i-LAN」画面が開くようになります。[接続]をクリックすると、簡単にLANにアクセスできます。

MacOS 9の場合

◆ ネットワーク機能を設定する

コントロールパネルの[TCP/IP]と[モデム]を設定します。

1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [TCP/IP]を選ぶ。

2 以下のように設定する。

- 経由先: PPP
- 設定方法: PPPサーバを参照
- ネームサーバアドレス: 本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)



3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

4 アップルメニューから[コントロールパネル] - [モデム]を選ぶ。

5 以下のように設定する。

- 経由先: USB Modem
- モデム: NetVolante 64k
- ダイアル: トーン



6 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

◆ダイヤルアップ接続を設定する

1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。

2 以下のように設定する。

- ユーザ ID: 任意のユーザ名
- パスワード: 空欄
- パスワードを保存: チェックを付ける。
- 電話番号: 半角英数字で「****」と入力。



3 設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

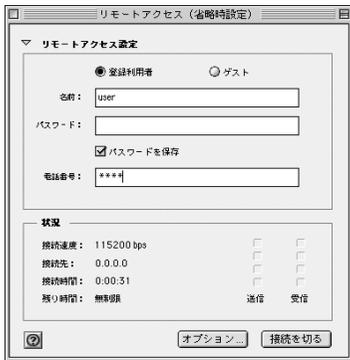
◆ LANへ接続する

LANへ接続するときは、コントロールパネルの[リモートアクセス]を開いて本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続します。

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選ぶ。
- 2 [接続]をクリックする。



本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続し、LANにアクセスできるようになります。



💡 ヒント

[リモートアクセス]のエイリアスをシステムフォルダ内の[起動項目]フォルダに入れておくと、Macintoshを起動すると自動的に「リモートアクセス」画面が開くようになります。[接続]をクリックすると、簡単にLANへアクセスできます。

第 7 章 無線 LAN を使う

この章では、本機を利用した無線LANのより高度な活用例を紹介しています。設定にはネットワークの知識が必要になるものもありますが、やりたいことに該当する例を参考にして、本機のルータ機能を十分活用してください。より専門的な設定例については、「設定例集」や「コマンドリファレンス」、ヤマハRTシリーズのホームページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>) をご覧ください。

本機の無線LAN機能の概要

本機内蔵の無線LANは、電波免許不要の2.4GHz帯周波数を使った無線LANです。本機にはIEEE802.11b規格に準拠した無線アクセスポイント機能が内蔵されており、パソコンに同規格に準拠した無線LANカード(またはボード/アダプタ)を取り付けることで、無線LANを構築できます。

無線LANの主な機能

ご注意

本機の工場出荷状態では、無線LANによる本機へのアクセスが可能になっています。**不正使用を防ぐために、暗号(WEP)を設定することを強くおすすめいたします。**また、無線LANを使用しない場合は、無線モードをオフにしてください。

ESS-ID

無線アクセスポイントを識別するためのグループ名で、同じESS-IDを持つ機器間で通信できます。本機に無線接続をするときは、本機のESS-IDをパソコンの無線LANカード(またはボード/アダプタ)に設定する必要があります。本機の工場出荷値は、本機のLAN側MACアドレスの下6桁が設定されています。

チャンネル

IEEE802.11b規格の無線LANで使用する周波数で、14個のチャンネルがあります。1~13チャンネルが第2世代小電力データ通信システムに、14チャンネルが小電力データ通信システムに対応しています。本機の工場出荷値は、チャンネル1が設定されています。

ご注意

- 近隣に同じチャンネルを使用する無線LANアクセスポイントがあると、別のESS-IDを利用した場合でも、通信速度が低下することがあります。この場合は、異なるチャンネルを使用することで干渉を防止し、通信速度を確保してください。
- 各チャンネルの周波数が近接しているため、複数のチャンネルを使用するときは、3つ以上離れたチャンネルをお使いください。
- IEEE802.11bで使用する周波数は移動体識別装置と共用しているため、これらの無線局が付近で運用されている場合は、干渉しないチャンネルをお使いください。

WEP

無線LANの通信を暗号化する機能です。WEPを設定すると、無線信号を傍受されても暗号キーなしでは解読することができません。本機のWEPは64bitまたは128bitコードで暗号化しており、それぞれ64bitまたは128bitコードに対応した無線LANカード(またはボード/アダプタ)間で利用できます。

MACアドレスフィルタ

各ネットワーク機器固有のMACアドレスを使って、接続を制限する機能です。MACアドレスフィルタを設定すると特定の機器しか接続できないので、不正な機器によるLANへの侵入を防止することができます。

ご注意

- 本機の無線LANに多くのパソコンを接続すると通信速度が著しく低下します。実用上は、32台以内での利用をおすすめいたします(同時使用可能な無線端末数は、使用環境により減る場合があります)。
- WEPを設定すると、暗号化処理のために通信速度が多少遅くなります。あらかじめご了承ください。
- 64bitコードと128bitコードのWEPを設定した機器を混在して、無線LANを構築することはできません。WEPを設定する場合は、無線LAN全体を64bitまたは128bitコードのいずれかに統一してください

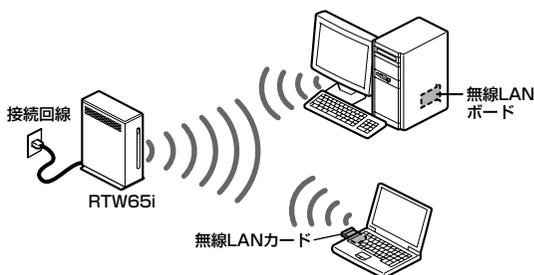
無線LANの利用例

無線LANを使った代表的な接続例を紹介します。

複数のRTW65iを使うと、離れたLANにそれぞれRTW65iを接続してLANどうしを接続できる「無線ブリッジ機能」や、いくつかのRTW65iを有線LANで接続して無線アクセスポイントの自動切り替えにより無線範囲を広げられる「ローミング機能」など、さまざまな方法で活用できます。なお、これらの機能はRT60wとの相互接続環境でも使用できます。

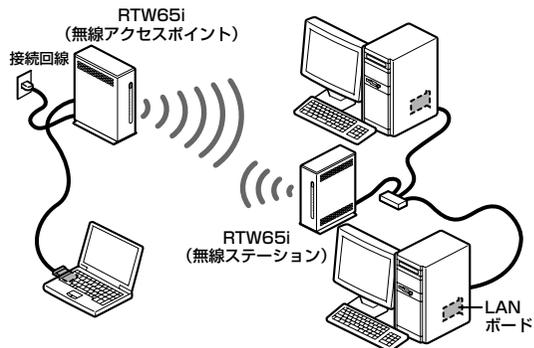
◆ パソコンのみを無線LANに接続する場合

ノートパソコンやデスクトップパソコンを無線でLAN接続できます。別の部屋でも電波の届く範囲なら、ワイヤレスでLAN接続できます。



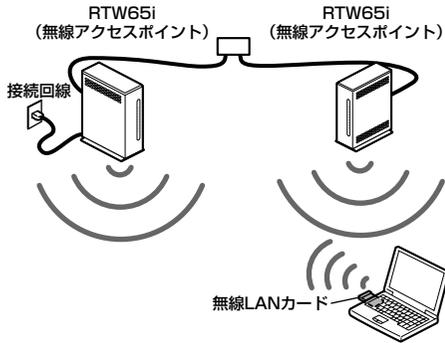
◆ 複数のRTW65iを無線ブリッジ接続する場合

本機に内蔵の「無線ブリッジ接続機能」により、別の部屋や別の階の有線LANでも、それぞれRTW65iを設置することで、ワイヤレスで有線LANどうしを接続することができます。接続できるRTW65iは、合計9台までです。



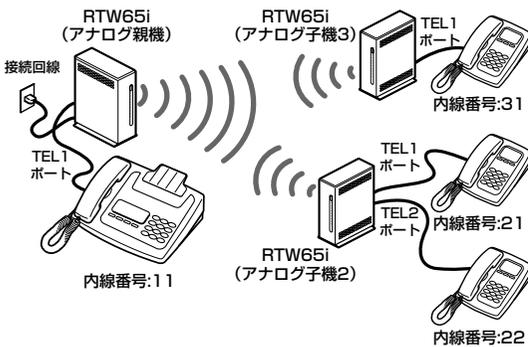
◆ 複数のRTW65iでローミング接続する場合

本機に内蔵の「ローミング機能」により、LAN上の離れた場所に複数のRTW65iを接続することで、無線LANの届く範囲を広げることができます。無線LAN接続のパソコンが移動している場合でも、電波状態の良いアクセスポイントに自動的に切り替えながら、接続し続けることができます。



◆ 簡易ホームテレホンとして使う場合

本機に内蔵の「機器間アナログ通話機能」により、複数のRTW65i間でTELポートをまとめて管理して、内線通話を利用することができます。また、1台のルータがISDN回線に接続されていれば、他のルータから外線通話することも可能です。ルータは9台まで接続可能です。複数ルータ間で通話するときは、ISDN回線を接続しているルータにアナログ機器番号1、その他のルータにアナログ機器番号2～9を設定します。



ご注意

機器間アナログ通話機能は、ネットワークが混雑すると、音声途切れる場合があります。

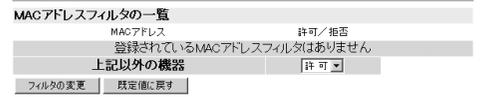
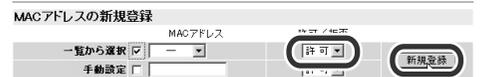
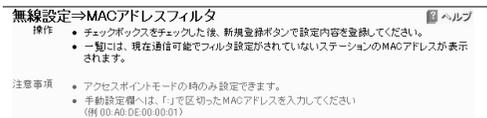
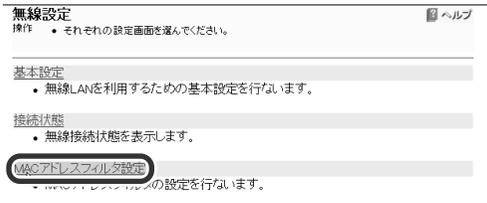
無線LANへのアクセスを制限する

本機の無線LANはWEP(暗号化)に加えて、MACアドレスフィルタのセキュリティ機能を内蔵しているため、不正侵入を防ぐことができます。

最小限の設定では、ESS-IDの設定だけでも使えますが、WEP(暗号化)やMACアドレス制限機能を設定して、セキュリティを強化してお使いになることを強くおすすめいたします。

- 1 無線LAN接続する機器のMACアドレスを調べる。
- 2 無線LANで接続する、すべての機器の電源を入れる。
- 3 LANに接続している1台のパソコンでWebブラウザを起動して、アドレス入力欄に「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、Enterキーを押す。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 4 [パスワード]欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 5 [無線設定]をクリックする。
- 6 [MACアドレスフィルタ設定]をクリックする。

- 7 表示されているMACアドレスの各機器について[許可]か[拒否]を選んでから、[新規登録]をクリックする。



無線で複数のRTW65iを接続する

複数のRTW65iを無線で接続するときは、接続回線に接続していないルータの設定を変更します。

設定の変更内容

複数のRTW65iを接続する場合は、使用方法に合わせて次のように設定します。

無線ブリッジ接続の場合

設定項目	回線を接続しているルータ (メインルータ)	その他のルータ (サブルータ)
無線モード	アクセスポイント	ステーション
ESS-ID	同じESS-ID	同じESS-ID
WEP	同じ設定値	同じ設定値
DHCPサービス	サーバ	OFF
IPアドレス	初期値または 固定IPアドレス	DHCPクライアント または固定IPアドレス

ローミング接続の場合

設定項目	回線を接続しているルータ (メインルータ)	その他のルータ (サブルータ)
無線モード	アクセスポイント	アクセスポイント
ESS-ID	同じESS-ID	同じESS-ID
WEP	同じ設定値	同じ設定値
DHCPサービス	サーバ	OFF
IPアドレス	初期値または 固定IPアドレス	DHCPクライアント または固定IPアドレス

ご注意

MACアドレスフィルタ機能をすでに使用している場合、新しい無線LANカード／ボードに本機のESS-IDを設定すると、「無線設定」画面に[上記以外の機器]と同じ設定(通常は[拒否])で表示されます。使用するときには[許可]を選んでください。

8 使用する機器をすべて登録したら、[上記以外の機器]で[拒否]を選び、[フィルタの変更]をクリックする。

無線設定⇒MACアドレスフィルタ

ヘルプ

操作

- チェックボックスをチェックした後、新規登録ボタンで設定内容を登録してください。
- 一部は、現在通信可能でフィルタ設定がされていないステーションのMACアドレスが表示されます。

注意事項

- アクセスポイントモードの時のみ設定できます。
- 手動設定モードは、「J」で区切ったMACアドレスを入力してください(例:00-AD-DE:00-00-01)

MACアドレスの新規登録

MACアドレス	許可/拒否
一覧から選択 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 許可 <input type="checkbox"/> 拒否
手動設定 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 許可 <input type="checkbox"/> 拒否

MACアドレスフィルタの一覧

MACアドレス	許可/拒否
登録されているMACアドレスフィルタ	<input type="checkbox"/> 許可 <input type="checkbox"/> 拒否
上記以外の機器	<input type="checkbox"/> 許可 <input type="checkbox"/> 拒否

フィルタの変更 設定に戻る

MACアドレスフィルタが有効になります。

9 パソコンから本機の「かんたん設定ページ」を開く。

開ければ、設定完了です。

7

無線LANを使う

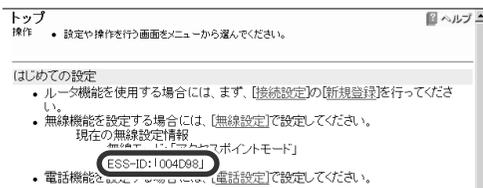
ご注意

- ISDN回線を接続していないルータでは、B1/B2ランプが点灯しません。回線接続状況は、ISDN回線を接続しているルータのB1/B2ランプで確認してください。
- WANポートにCATV用またはADSL用のモデムを接続していないルータでは、WAN LINKランプは点灯しません。回線接続状況は、WANポートを接続回線に接続しているルータのWAN LINKランプで確認してください。

設定を変更する

すでに使用しているRTW65iにあとからRTW65iを無線ステーションルータとして追加設置する場合は、追加するRTW65iのLANポートに接続したパソコンから「かんたん設定ページ」でESS-IDやWEPの設定を行います。

- 1 無線アクセスポイントにするメインルータを、LANケーブルでパソコンを接続する。
- 2 メインルータの電源を入れてから、メインルータに接続したパソコンの電源を入れる。
- 3 パソコンでWebブラウザを起動して、アドレス入力欄に「http://(メインルータのIPアドレス)/」を入力してから、Enterキーを押す。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 4 [パスワード] 欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 5 トップページに表示されているESS-ID設定値をメモする。

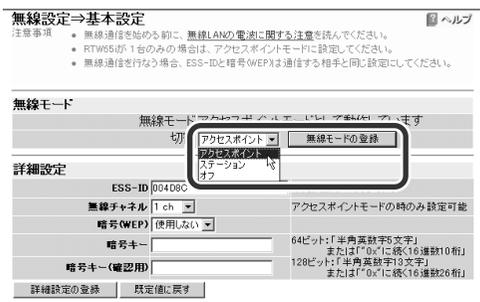


- 6 追加するサブルータのLANポートに、パソコンをつなぎ変える。
- 7 サブルータの電源を入れてから、サブルータに接続したパソコンを再起動する。
- 8 パソコンでWebブラウザを起動して、アドレス入力欄に「http://(サブルータのIPアドレス)/」を入力してから、Enterキーを押す。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 9 [パスワード] 欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 10 [無線設定] をクリックする。

- 11 [基本設定] をクリックする。

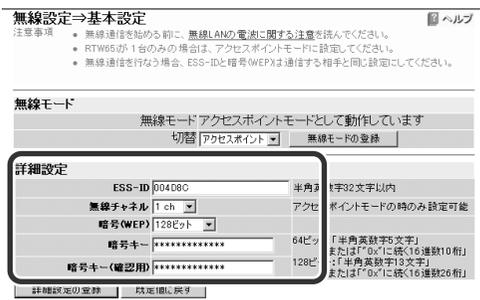
- 12 無線モードを選んでから、[無線モードの登録] をクリックする。

- 無線ブリッジ接続の場合: ステーション
- ローミング接続の場合: アクセスポイント



- 13 手順5で確認したメインルータのESS-IDを選ぶ(または入力する)。

メインルータでWEPを使用している場合は、メインルータと同じWEPの設定をしてから、メインルータに設定した暗号キーを入力してください。



ご注意

ESS-ID、WEPの設定が合っていないと、RTW65i間で接続できません。メインルータに設定した値を正確にメモして、必ず同じ値をすべてのサブルータに設定してください。

- 14 [詳細設定の登録] をクリックする。

- 15 画面左側の[接続設定] をクリックする。

- 16 [LAN/WAN設定] をクリックする。

17 サブルーータのプライマリ・IPアドレスとネットマスクを設定する。

接続設定⇒LAN/WAN設定

操作 ● 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

LANポート(LAN1)のIPアドレス設定

プライマリ・IPアドレス ネットマスクビット数

セカンダリ・IPアドレス ネットマスクビット数

DHCPクライアント

WANポート(LAN2)のIPアドレス設定

WANポート(LAN2)をLANとして[使用しない]

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能を使用する

割り当て中IPアドレス一覧

DHCPスコープの管理

識別番号	IPアドレスの割り当て範囲	ネットマスクビット数	スコープの削除
1	192.168.0.2 ~ 192.168.0.191	24	<input type="button" value="スコープの削除"/>
	<input type="text" value="192.168.0.2"/> ~ <input type="text" value="192.168.0.191"/>	<input type="text" value="255.255.255.0 (24ビット)"/>	<input type="button" value="登録と更新"/>

[DHCPクライアント]を選んだ場合は

サブロータはDHCPサーバからIPアドレスを自動取得します。

変更後のIPアドレスは、メインルータの「かんたん設定ページ」→「接続設定」→「LAN/WAN設定」画面の「割り当て中IPアドレス一覧」で、サブロータの底面に記載されているMACアドレスと照らし合わせて確認してください。

18 [DHCPサーバ機能を使用する]のチェックを外してから、[登録]をクリックする。

操作 ● 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

LANポート(LAN1)のIPアドレス設定

プライマリ・IPアドレス ネットマスクビット数

DHCPクライアント

セカンダリ・IPアドレス ネットマスクビット数

DHCPクライアント

WANポート(LAN2)のIPアドレス設定

WANポート(LAN2)をLANとして[使用しない]

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能を使用する

DHCPスコープの管理

識別番号	IPアドレスの割り当て範囲	ネットマスクビット数	スコープの削除
1	192.168.0.2 ~ 192.168.0.191	24	<input type="button" value="スコープの削除"/>
	<input type="text" value="192.168.0.2"/> ~ <input type="text" value="192.168.0.191"/>	<input type="text" value="255.255.255.0 (24ビット)"/>	<input type="button" value="登録と更新"/>

ヒント

ローミング接続の場合は、外部HUBを経由してメインルータとサブロータを接続してください。接続には、HUBのポート仕様に合わせて、ストレートケーブルまたはクロスケーブルを使います。

19 パソコンのWebブラウザのアドレス入力欄に「http://(メインルータのIPアドレス)/」を入力してから、Enterキーを押す。

メインルータの「トップ」画面にアクセスできることを確認してください。

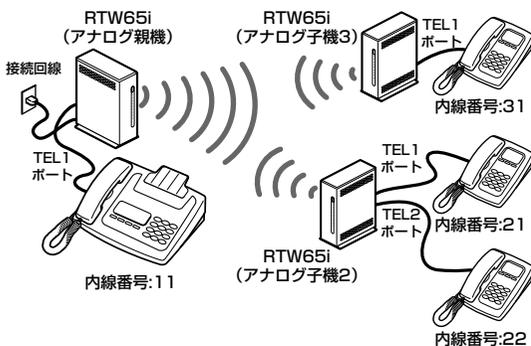
アクセスできない場合は

サブロータの設定に誤りがあります。サブロータを工場出荷状態に戻してから、手順6から操作し直してください。

無線接続したルータ間で通話する ISDN

本機の「機器間アナログ通話機能」を使って、複数のRTW65i間でTELポートをまとめて管理して、内線通話を利用できます。また、1台のルータがISDN回線に接続されていれば、他のルータのTELポートに接続した電話から外線通話することもできます。ルータは9台まで接続できます。

複数ルータ間で通話するとき、ISDN回線を接続しているルータにアナログ機器番号1、その他のルータにアナログ機器番号2～9を設定します。



ご注意

- アナログ親機と無線LAN接続の無線アクセスポイントルータは、必ずしも同一である必要はなく、別々のルータに設定することもできます。ただし、ルータ設定を簡略化するために、ISDN回線を接続したルータをアナログ親機や無線アクセスポイントルータに設定することをおすすめします。
- 機器間アナログ通話機能は、ネットワークが混雑すると、音声途切れる場合があります。
- アナログ子機にモデムやFAXを接続した場合、電波の状態やネットワークの混雑状況により通信が途切れることがあります。このような場合はアナログ親機に接続してください。

必要な設定

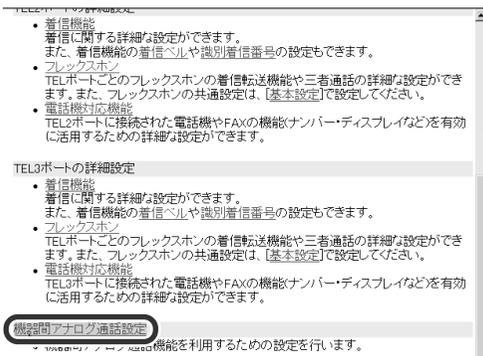
機器間アナログ通話機能を使用する場合は、先に「無線で複数のRTW65iを接続する」(105ページ)で設置と設定を行ってください。その後、機器間アナログ通話機能のモード設定を次のように設定します。

設定項目	ISDN回線を接続しているルータ	その他のルータ
モード設定	アナログ親機	アナログ子機

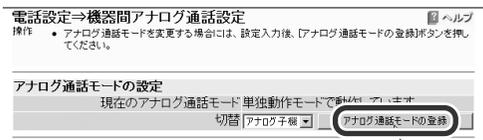
アナログ子機にするルータの設定を変更する

最初にアナログ子機 (ISDN回線を接続していないルータ) から設定を行います。

- 1 Webブラウザを起動して、アナログ子機に設定するルータの「かんたん設定ページ」を開く。「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。「トップ」画面が表示されます。
- 3 [電話設定]をクリックする。
- 4 [機器間アナログ通話設定]をクリックする。



- 5 モード設定で「アナログ子機」を選んでから、「アナログ通話モードの登録」をクリックする。メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。



- 6 「トップ」画面に戻り、「接続設定」をクリックする。

- 7 [ISDN回線設定]をクリックする。

8 [ISDN回線の使用]の[本機をISDN回線に接続する]のチェックを外してから、[登録]をクリックする。

接続設定⇒ISDN回線設定
ヘルプ

操作 ● 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

ルータのISDN回線番号
回線番号 ISDN番号 サブアドレス
0311112001

ポート番号: 1 2 3

ISDN回線の使用
 本機をISDN回線に接続する
登録 既定値に戻す

現在のISDN回線接続状態
ISDN回線は、接続していません。
更新

アナログ親機 (ISDN回線を接続しているルータ) の設定を変更する

アナログ親機 (ISDN回線を接続しているルータ) の設定をした後、アナログ子機の機器番号を割り当てます。

- 1 ブラウザを開き、アナログ親機に設定するルータの「かんたん設定ページ」を開く。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 3 [電話設定]をクリックする。
- 4 [機器間アナログ通話設定]をクリックする。

TEL1ポートの詳細設定

- 着信機能
着信に関する詳細な設定ができます。また、着信機能の着信ベルや識別着信番号の設定もできます。
- フレックスホン
TELポートごとのフレックスホンの着信転送機能や三者通話の詳細な設定ができます。また、フレックスホンの共通設定は、[基本設定]で設定してください。
- 電話機対応機能
TEL2ポートに接続された電話機やFAXの機能(ナノバーディスプレイなど)を有効に活用するための詳細な設定ができます。

TEL2ポートの詳細設定

- 着信機能
着信に関する詳細な設定ができます。また、着信機能の着信ベルや識別着信番号の設定もできます。
- フレックスホン
TELポートごとのフレックスホンの着信転送機能や三者通話の詳細な設定ができます。また、フレックスホンの共通設定は、[基本設定]で設定してください。
- 電話機対応機能
TEL3ポートに接続された電話機やFAXの機能(ナノバーディスプレイなど)を有効に活用するための詳細な設定ができます。

機器間アナログ通話設定

機器間アナログ通話機能を利用するための設定を行います。

- 5 モード設定で[アナログ親機]を選択して、[アナログ通話モードの登録]をクリックする。
メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。

電話設定⇒機器間アナログ通話設定
ヘルプ

操作 ● アナログ通話モードを変更する場合には、設定入力後、[アナログ通話モードの登録]ボタンを押してください。

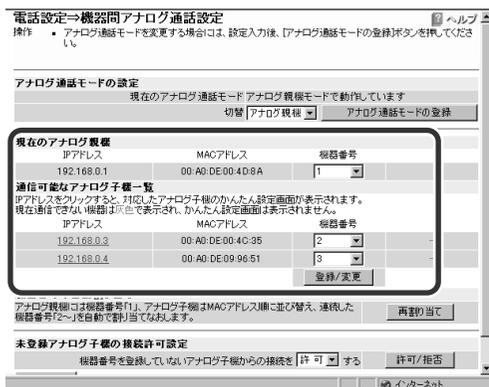
アナログ通話モードの設定
現在のアナログ通話モード: アナログ親機
切 [アナログ親機] [アナログ通話モードの登録]

通信可能なアナログ親機
IPアドレス
通信可能なアナログ親機はありません。
最新情報

アナログ親機の状態や通信可能なアナログ子機一覧が表示されます。

6 現在のアナログ親機および通信可能なアナログ子機一覧で、アナログ親機と各アナログ子機の機器番号を選んでから、[登録/変更]をクリックする。

メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。



これで機器間アナログ通話機能の設定は完了です。

ヒント

アナログ親機と各アナログ子機の機器番号は、[再割り当て]ボタンで自動設定することもできます。

7 表示された現在のアナログ親機と通信可能なアナログ子機一覧に表示された、MACアドレスと機器番号をメモする。

ご注意

アナログ親機と各アナログ子機の機器番号は、内線通話するときに必要なになります。

通話する

◆外線にかける

ルータ間の接続の場合も、外線通話のかけかたはルータ1台の場合と同じです。受話器を取ってダイヤルすれば、通話できます。

1 受話器を上げて、相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

相手がISDN回線でサブアドレスを設定している場合は、電話番号に続けて(✖)とサブアドレス番号を押します。

ヒント

- ダイヤルを押した後に(☎)を押すと、すぐに発信します。また、何も押さなくてもダイヤル桁の間隔設定(22ページ)で設定された時間(工場出荷時は4秒)を過ぎると、自動的に発信します。
- 1度通話状態になった相手に電話する場合、即時発信を使用する設定がされていれば、過去20件までの相手先は(☎)なしでもすぐに発信します。

2 通話が終わったら、受話器を置く。

◆内線にかける

ルータ間の接続の場合も、内線通話、外線転送などの機能が使えます。ただし、内線番号は「機器番号+TELポート番号」に変わります。

1 受話器を上げて、(✖)に続けて内線番号をダイヤルする。

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。相手が出ると通話できます。

- アナログ子機2のTEL3ポートを呼び出す場合は、(✖)、2、3とダイヤルします。
- アナログ子機3の全TELポートを呼び出す場合は、(✖)、3、(✖)とダイヤルします。
- 全ルータの全TELポートを呼び出す場合は、(✖)、(✖)とダイヤルします。

ご注意

指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。

2 通話が終わったら、受話器を置く。

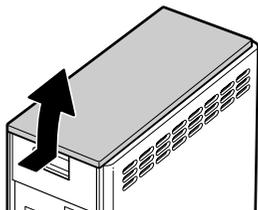
ヒント

外線転送などその他の内線操作も同様に、内線番号の代わりに機器番号とTELポート番号を押します。

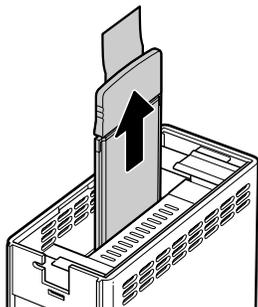
外部アンテナを接続する

市販の外部アンテナを本機に増設すると、無線LANのカバー範囲を広げたり、データの転送品質を向上させることができます。

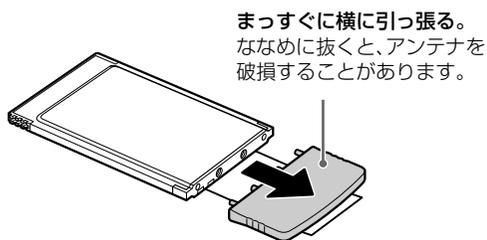
- 1 本機の電源を切る。
- 2 本機上部のカバーを開く。



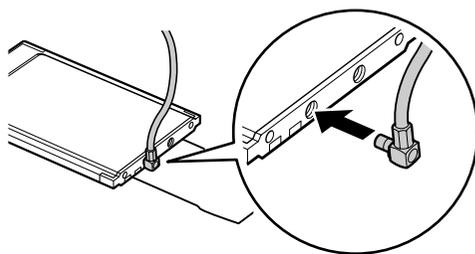
- 3 内蔵PCカードをまっすぐに引き抜いて、取りはずす。



- 4 PCカードの先端のアンテナを取りはずす。
取りはずした本機付属のアンテナは、なくさないように保管してください。



- 5 外部アンテナのコネクタを、「カチッ」と音がるまで押し込む。

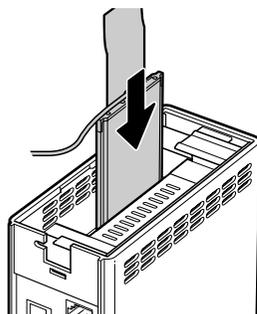


カード上のランプに近い方のコネクタに差し込む。

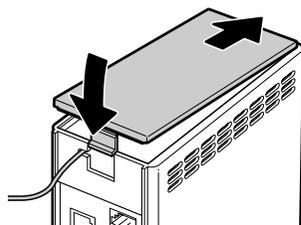
ヒント

外部アンテナを2本同時に使用することもできます。

- 6 PCカードを元に戻す。
下図の向きにカードを差し込み、奥まで確実に押し込みます。



- 7 アンテナ線を筐体のくぼみにあわせて、カバーを閉じる。



- 8 アンテナを適切な場所に設置する。

◆ 使用アンテナ

- 本機に使用する外部アンテナは、弊社製品をご利用ください。それ以外の製品はご利用いただけません。
- 使用できる外部アンテナについて詳しくは、ネットボランチホームページ(<http://NetVolante.jp>)をご覧ください。

第 8 章 ファイアウォール機能を使う

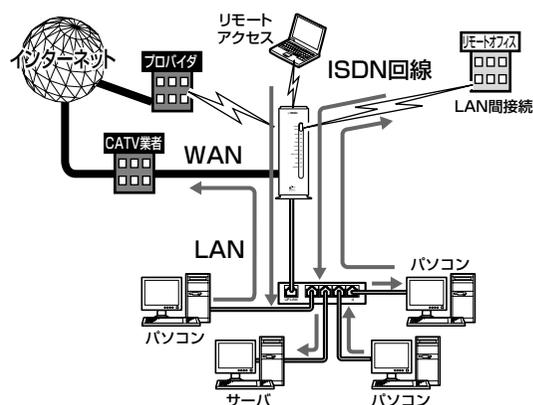
ファイアウォールとは、外部からの不正アクセスを禁止する機能です。この章では、本機のファイアウォール機能を使ったセキュリティ／ルーティング機能や、不正アクセス検知機能について説明します。設定にはネットワークの知識が必要になるものもありますが、該当する例を参考にして、本機の機能を十分活用してください。より専門的な設定例については、「コマンドリファレンス」やヤマハHARTシリーズのホームページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>) をご覧ください。

本機のファイアウォール機能の概要

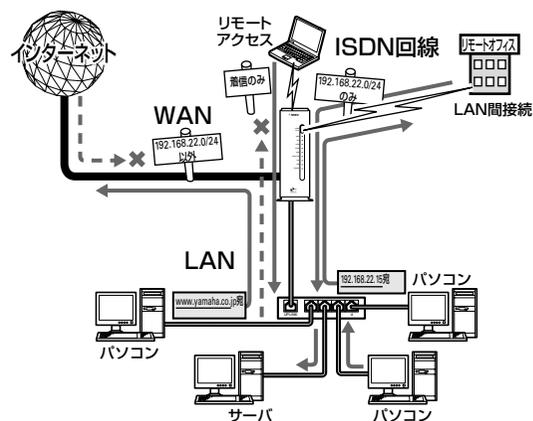
パケット単位のルーティング／セキュリティを設定できます

ネットワークを流れるデータの単位を「パケット」と呼びます。ネットワークに流れているデータは、パケット単位で分割されていて、それぞれが発信元や送信先、データの種類などの情報を持っています。

本来「ルータ」とは、ネットワークを流れるパケットの送信元や送信先、データの種類を監視して、パケットの行き先を制御（ルーティング）する装置のことを呼びます。従来のISDNダイヤルアップルータは、ISDN回線とLANポートの間でルーティングを行っていました。本機はISDN回線に加えてWANポートも装備しているため、ISDN回線とWANポート、LANポートの間でルーティングを行う機能を持っています。



本機では、パケットの条件を設定して不要な自動接続を防止したり、パケットの行き先を指定して複数の接続先を使い分けたりすることができます（フィルタ）。フィルタを設定することで、さまざまなルーティングやセキュリティを設定することが可能になります。



セキュリティ対策の必要性について

インターネットに接続すると、世界中のホームページを閲覧したり、世界中の人たちと電子メールで自由に情報を交換したりすることができ、とても便利です。しかし同時に、お使いのパソコンに対する不正アクセスの危険に、世界中からさらされることとなります。

特にサーバを公開したりするなど、インターネットに常時接続する環境を導入する場合は、ネットワークの危険についてよくご理解いただいた上で、十分なセキュリティ設定を行うことが必要です。もちろん常時接続する場合以外でも、インターネットに接続している間は、世界中から危険にさらされているという点では同じです。本機の機能を利用して、十分なセキュリティ設定を行ってください。

ご注意

不正アクセスの手段やセキュリティ上の抜け道／穴(セキュリティホール)は、日夜新たに発見されています。本機の機能を含めて、すべての問題を解決できる完璧なセキュリティ対策は存在せず、インターネット接続には常に危険があることをご理解ください。常に新しい情報を入力し、お客様の自己責任でセキュリティ設定を強化することを強くおすすめいたします。

なお、本機を使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

◆ インターネットからの不正アクセスとは

インターネットに接続している間は、悪意のある者からパソコンやルータがアタック(不正なアクセス)される可能性があります。ルータを介してパソコンを接続している場合は、NATやIPマスカレードといったアドレス変換機能によって比較的安全ですが、設定の誤りや不足によって、同様の危険にさらされる場合があります。

本機の設定を改変されたり、パソコンのシステムやデータを破壊された場合、多大なデータの被害や金銭的被害に遭うことも十分に考えられます。本機のフィルタを設定するなどのセキュリティ対策を行って、自己防衛してください。

悪意を持った者がアタックを行うときに主な足がかりにするのが、「グローバルIPアドレス」です

同じグローバルIPアドレスを長時間使用している場合は、不正アクセスの被害にあふ確率が高くなります。固定アドレスの専用線やネットワーク型ダイヤルアップ、接続時に割り当てられた動的アドレスを使い続けるフレッツ・ISDN／CATV／ADSL／フレッツ・ADSLなどで接続する場合は、十分なセキュリティを設定することをおすすめいたします。ダイヤルアップ接続でも、グローバルIPアドレスを割り当てられている間は同様です。十分なセキュリティ対策を行うことを、おすすめいたします。

本機のパスワード設定にもご注意ください

パスワードを設定しないで本機を使用することは、セキュリティ上大変危険です。必ずパスワードを設定するだけでなく、ときどきパスワードを変更して、本機をお使いください。

◆ 接続方法と危険度

接続の種類	グローバルIP アドレスの種類	危険度
端末型ダイヤル アップ接続	動的IPアドレス	× (接続中危険)
ネットワーク型 ダイヤルアップ接続	固定IPアドレス	×× (接続中危険)
フレッツ・ISDN接続	動的IPアドレス	×× (長時間接続時危険)
CATV接続	プライベートIP アドレスの場合	× (CATV内アドレ スに対して危険)
	動的IPアドレスの場合	×× (長時間接続時危険)
ADSL接続	固定IPアドレスの場合	××× (常に危険)
	動的IPアドレスの場合	×× (長時間接続時危険)
フレッツ・ADSL接続	固定IPアドレスの場合	××× (常に危険)
	動的IPアドレス	×× (長時間接続時危険)
専用線接続	固定IPアドレス	××× (常に危険)

不正アクセスに対抗するには

インターネットの不正アクセスは、いくつかの種類に分けられます。それぞれの対抗手段には次のようなものがあります。

◆ 不正なパケットで侵入するもの

- インターネットへの接続を切断したり、グローバルIPアドレスを変更することが、もっとも効果的です。フレッツ・ISDNやフレッツ・ADSLなどの常時接続でも、本機の自動切断機能を設定することで、接続／切断のたびに動的IPアドレスを変更できます。
- パケットフィルタリング式ファイアウォールで、不要なパケットを通さないことも、ある程度効果があります。パケットフィルタリングは、本機のフィルタ設定で登録できます。
- アプリケーション・ゲートウェイ式ファイアウォールソフトウェアも、整合性のないパケットや不審なActiveX、Javaアプレットをパソコンに受け入れないようにするため、かなり効果があります。ウイルス検知ソフトと組み合わせて使うこともできます。ただしこの場合は、ファイアウォール用サーバを設けて、アプリケーション・ゲートウェイ式ファイアウォールソフトウェアをインストールする必要があります。

◆ OSやサーバソフトウェアのセキュリティホールを突いて侵入するもの

OSやサーバソフトウェアのバージョンアップや、適切な設定／運用を行うことで、かなり防止できます。

◆ 電子メールの添付ファイルとして侵入するもの

添付ファイルを開くことで、感染します。不審な添付ファイルは開かないことを徹底するだけでなく、パソコンにウイルス検知ソフトウェアをインストールして、ウイルスを早期発見／早期駆除することで、被害を最小限に抑えることができます。

本機のフィルタ設定でできること

本機のフィルタ設定では、接続先ごとに100個までのフィルタを設定できます。それぞれのフィルタでパケットの送信元や送信先、パケットの種類、プロトコルの種類、方向によって、パケットを通さないよう設定できます。不正なアクセスに使われやすいパケットや、あり得ないパケットをルータ通過時に破棄するように設定することで、不正なパケットがLAN内に入ることを防ぐことができます。

ただし、高度に偽装したパケットやメールに添付されるウィルス、ActiveX、Javaアプレットなどのように、正規のパケットとして通過するものは、本機のフィルタで防ぐことはできません。ウィルス検知ソフトウェアやアプリケーション・ゲートウェイ式ファイアウォールソフトウェアを併用するようおすすめいたします。

◆ セキュリティを目的としたフィルタ設定の考えかた

フィルタを設定するときには、以下の考えかたを基本にすると良いでしょう。

LAN側からインターネット側へのアクセス(出力方向)は原則許可し、必要に応じて禁止する

LAN側からインターネット側へのアクセスを厳しく規制すると、非常に使いにくいものになり、管理や設定変更により手間がかかります。原則自由とした上で、問題があればその部分だけ制限します。

インターネット側からLAN側へのアクセス(入力方向)は、原則禁止し、必要に応じて許可する

インターネット側からLAN側へのアクセスは、原則禁止して外部からのアクセスを防ぎます。Webサーバの公開など、必要がある場合にのみ最小限だけ許可します。

◆ ご注意

この場合、インターネット側からのアクセスとは、インターネット側からリクエストが始まったパケットのことを指します。LAN側からリクエストしたパケットの応答パケット(例:URLを指定してホームページのデータを要求する)は、該当しません。応答パケットにはACKフラグという識別子が付くので、ホームページのデータや電子メールの受信に制限はありません。

◆ 静的フィルタと動的フィルタ

本機で設定できるフィルタには、次の種類があります。

- **静的フィルタ**:1度設定を行うと、データや通信の有無にかかわらず、常に有効になります。
- **動的フィルタ**:通信状態を監視しながら、必要に応じてフィルタが有効になります。例えば、「通常はインターネットからLANへのデータはすべて禁止にしておき、LAN側からftpのアクセスが発生したときだけ許可する」といった設定ができます。

実際に使用する場合は、それぞれの良いところを併用しながら設定を行います。

◆ 「かんたん設定ページ」が自動設定するフィルタ

「かんたん設定ページ」では、各設定に応じて自動的にフィルタを適用します。

プロバイダ接続の場合は

フィルタの組み合わせパターンで、7段階のセキュリティレベルを定義しています。

プロバイダの新規登録時に、接続の種類にあわせて以下の設定を自動的に適用します。セキュリティレベルは、必要に応じて後で変更することができます。

- **自動切断を行う設定**:セキュリティレベル3
- **常時接続を行う設定**:セキュリティレベル4または5

LAN間接続や、リモートアクセスサーバ運用の場合は

Netscape Navigatorを終了する際に、自動的にインターネットへの接続を開始してしまう問題を防ぐフィルタが適用されます。また、Windowsのセキュリティホールに関する定義も自動生成しますので、必要に応じて適用してください。

LANで運用の場合には

WindowsのNetBIOSによる意図しない発信や、Windowsのセキュリティホールへのアクセスを防ぐフィルタが自動的に適用されます。

ご注意

セキュリティレベルや設定内容は予告なく変更する場合があります。

◆ フィルタ番号の意味

本機のフィルタ機能の番号は、ほぼ無制限に利用できませんが、かんたん設定ページでは各接続先毎に100個(0番～99番)ずつ設定できるようにしています。以下に「かんたん設定ページ」の利用する、フィルタ番号の対応を示します。

割当領域	コンソールコマンドのフィルタ番号
LAN/WANポート用割当領域	100000～199999
例) LANポートの静的フィルタ(0～99)	100000～100099
WANポートの静的フィルタ(0～99)	101000～101099
接続先設定用割当領域	200000～299999
例) PP01の静的フィルタ(0～99)	200000～200099
PP02の静的フィルタ(0～99)	201000～201099
:	
PP30の静的フィルタ(0～99)	229000～229099
専用線の静的フィルタ(0～99)	231000～231099
Anonymousの静的フィルタ(0～99)	232000～232099
フィルタ型ルーティング用割当領域	500000～599999

ご注意

- セキュリティのために、フィルタの設定変更は機能を十分にご理解の上、行ってください。
- フィルタを多く適用すると、処理が複雑になり、インターネットへのアクセス速度が遅くなる場合があります。

セキュリティレベルを変更する

本機の「かんたん設定ページ」では、フィルタを組み合わせた7段階のセキュリティレベルが定義されています。プロバイダの新規登録時に、接続の種類にあわせて自動的にセキュリティレベルが設定されます。設定されたセキュリティレベルは、必要に応じてあとから変更することもできます。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

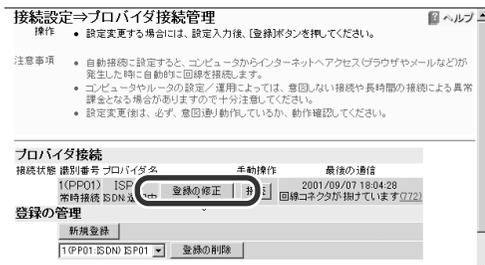
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

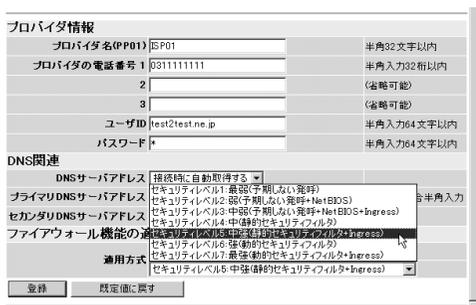
3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

5 接続先名の[登録の修正]をクリックする。



6 [ファイアウォール機能の適用]の[適用方式]でセキュリティレベルを選んでから、[ファイアウォール機能を適用しなおす]にチェックを付ける。



ご注意

- セキュリティレベルの数字が大きくなるほど、適用されるフィルタが複雑になり、安全性は高くなります。ただし、パソコンの設定やお使いのソフトウェアによっては、インターネットへのアクセスができなくなったり、制限される場合があります。
- ファイアウォール機能を適用しなおすと、手動設定されたフィルタも含めてすべてのフィルタがいったんクリアされ、新たに設定されます。

7 [登録]をクリックする。

セキュリティレベルが選んだレベルに変更されます。

8

ファイアウォール機能を使う

フィルタを設定する

フィルタを設定するには、「かんたん設定ページ」の「ファイアウォール機能」画面またはコンソールコマンドを使用します。

Webブラウザで設定する

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

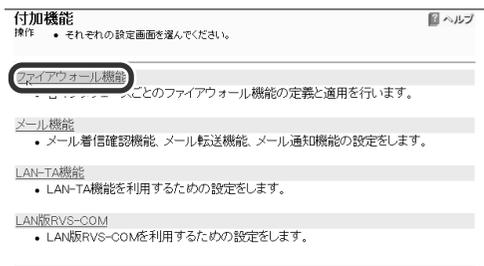
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

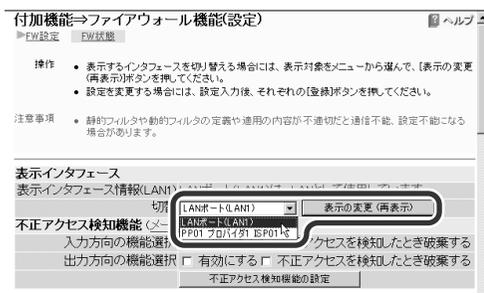
3 [付加機能]をクリックする。

4 [ファイアウォール機能]をクリックする。



5 設定する接続先を選んでから、[表示の変更]をクリックする。

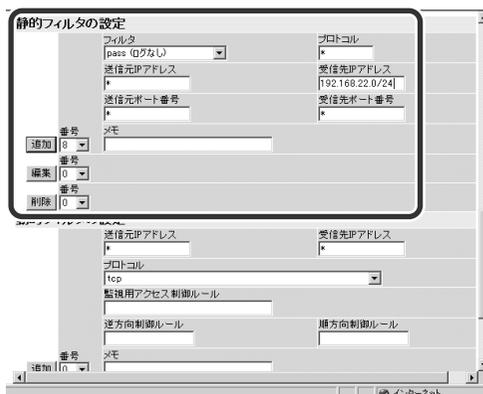
LANポートもひとつの接続先になります。



ご注意

LANを選ぶと、LANポートに接続しているパソコン、およびLANポートに接続しているHUBIに接続しているすべてのパソコンが対象になります。

6 [静的フィルタの設定]でフィルタ番号を選んでから、各設定項目を入力する。



フィルタ番号

接続先毎に0~99まで使用できます。番号の小さい順に設定内容が優先されます。

フィルタ 処理する方法を選びます。

- pass(ログなし): 指定したパケットを通す(記録なし)
- pass(ログあり): 指定したパケットを通す(記録あり)
- reject(ログなし): 指定したパケットを通さない(記録なし)
- reject(ログあり): 指定したパケットを通さない(記録あり)
- restrict(破棄時ログあり): 接続中だけ指定したパケットを通し、破棄したパケットの記録を残す
- restrict(ログなし): 接続中だけ指定したパケットを通す(記録なし)
- restrict(ログあり): 接続中だけ指定したパケットを通す(記録あり)

8

ファイアウォール機能を使う

プロトコル フィルタの対象にするプロトコルを入力します。

例) * (すべてのプロトコルを指定)
 tcp (1つのプロトコルを指定)
 tcpfin, tcprst (", "で区切って複数指定)

- *: すべて
- tcp: TCPパケット
- established: 応答TCPパケット (ACKフラグのあるTCPパケット)
- tcpfin: FINフラグのあるTCPパケット
- tcprst: RSTフラグのあるTCPパケット
- udp: UDPパケット
- icmp: ICMPパケット
- icmp-error: エラー通知のためのICMPパケット
- icmp-info: 情報通知または診断のためのICMPパケット
- ah: IPsecのahパケット
- esp: IPsecのespパケット

送信元IPアドレス

送信元のIPアドレスを入力します。単独アドレスでもネットワークアドレス (アドレス範囲) でも指定できます。すべての場合は、「*」を入力します。

例) 192.168.0.13 (個別のIPアドレスで指定)
 192.168.0.0/24 (ネットワーク範囲で指定)
 192.168.0.20-192.168.0.50 (IPアドレス範囲で指定)

送信元ポート

送信元アプリケーションソフトの種類を示すポート番号または二ーモニクを入力します。

例) * (すべてのポート番号を指定)
 137-139 (NetBIOS関係のポート番号で指定)
 www, pop3, ftp (二ーモニクで指定)

- *: すべて
- 23(telnet): telnet
- 25(smtp): 電子メール(送信)
- 70(gopher): インターネット情報検索システム
- 79(finger): 機器利用ユーザの情報を調べる機能
- 80(http): ホームページ閲覧、Webサーバ公開
- 110(pop3): 電子メール(受信)
- 113(ident): 電子メール(ユーザ認証)
- 119(nntp): ネットワークニュース
- 123(ntp): ネットワーク時刻合わせ
- 137(netbios_ns): NetBIOS名前解決
- 138(netbios_dgm): NetBIOSデータグラム転送
- 139(netbios_ssn): NetBIOSストリームデータ転送 (Windowsファイル共有)
- 194(irc): インターネット・リレー・チャット
- 443(https): 暗号化されたWebサーバ
- 445(microsoft-ds): Windows 2000のSMB
- 1723:PPTP (Microsoft VPN Adapter)

受信先IPアドレス

受信先のIPアドレスを入力します。単独アドレスでもネットワークアドレス(アドレス範囲)でも指定できます。すべての場合は、「*」を入力します。

受信先ポート

受信先アプリケーションソフトの種類を示すポート番号を入力します。すべての場合は、「*」を入力します。

メモ

設定したフィルタの説明を記入することができます。半角英数字が使用できます。

ご注意

フィルタの具体的な設定例については、「フィルタの設定例」(121ページ)をご覧ください。

7 [追加]をクリックする。

フィルタ一覧に追加されます。

8 フィルタを設定する方向にチェックを付けてから、[適用]をクリックする。

静的フィルタの一覧											
番号	適用	入	出	タイプ	ログ	プロトコル	送信元 IPアドレス	送信元 ポート	受信先 IPアドレス	受信先 ポート	メモ
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	135	*	Windows: DCE RPC
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	*	135 Windows: DCE RPC
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	137-138	*	Windows: NetBIOS NS
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	*	137-138 Windows: NetBIOS NS
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	139	*	Windows: NetBIOS SSS
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	*	139 Windows: NetBIOS SSS
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	445	*	Windows: Direct Hostin
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	*	445 Windows: Direct Hostin
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	192.168.22.0/24	*	*
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	pass all

動的フィルタの一覧
登録されていません。

静的フィルタと動的フィルタの適用
適用 チェックされている静的フィルタと動的フィルタの定義を適用する

動的フィルタ用アクセス制御ルールの一覧
登録されていません。

適用

対象にするパケットの流れる向きを指定します。

- 入: 接続先から入ってくるパケット
- 出: 接続先へ出て行くパケット

9 複数のフィルタを設定する場合は、手順5~7の操作を繰り返す。

コンソールコマンドで設定する

LANポートに接続しているパソコン、または無線LANで接続しているパソコンからTELNETソフトで本機にログインし、コンソールコマンドを送信して設定します。ここでは、Windows標準のTELNETを使用する場合の操作を説明します。Macintoshではフリーウェアなどをお使いください(MacOS Xでは、MacOS Xに付属のTerminalソフトウェアからTELNETを使用できます)。

1 [スタート]メニューをクリックして、[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2 「telnet setup.netvolante.jp」と入力してから、[OK]をクリックする。

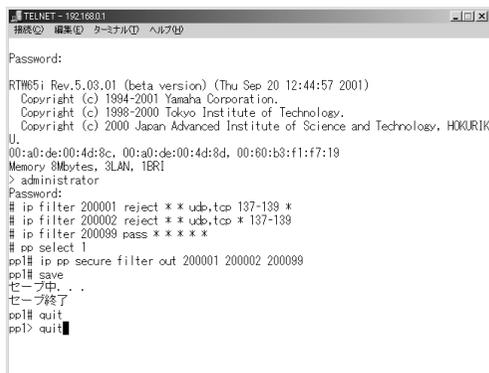
本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開くこともできます。



3 「Password:」と表示されたら、ログインパスワードを入力してから、Enterキーを押す。

何も表示されなければ一度リターンキーを押します。

「>」の文字が表示されると、コンソールコマンドが入力できます。



ヒント

以下のコマンドを入力してからEnterキーを押すと、説明が表示されます。

- help: キー操作の説明が表示されます。
- show command: コマンド一覧が表示されます。

4 「administrator」と入力してから、Enterキーを押す。

5 「Password:」と表示されたら、管理パスワードを入力する。

「#」の文字が表示されると、各種ルータコンソールコマンドが入力できます。

コンソールコマンドの種類と働きについては詳しくは、コマンドリファレンスをご覧ください。

6 フィルタコマンドを入力してから、Enterキーを押す。

複数のフィルタを設定する場合は、フィルタコマンド入力操作を繰り返してください。

例: NetBIOSのデータで発信しないようにする設定

```
ip filter 200001 reject * * udp,tcp 137-139 *  
(全送信元のNetBIOS、TCPとUDPプロトコルのデータを通さない)  
ip filter 200002 reject * * udp,tcp * 137-139  
(全送信元のNetBIOS、TCPとUDPプロトコルのデータを通さない)  
ip filter 200099 pass * * * *  
(その他の全データを通す)
```

ご注意

- フィルタの具体的な設定例については、「フィルタの設定例」(121ページ)をご覧ください。
- フィルタコマンド「ip filter」について詳しくは、コマンドリファレンスをご覧ください。

7 フィルタを有効にするコマンドを入力してから、Enterキーを押す。

接続先の方向毎にコマンドを入力してください。

例: プロバイダ(PP01)へ出るパケットに200001、200002、200099のフィルタを有効にする設定

```
pp select 1  
(接続先を選択)  
ip pp secure filter out 200001 200002 200099  
(適用する方向とフィルタ番号を指定)
```

ご注意

- フィルタの具体的な設定例については、「フィルタの設定例」(121ページ)をご覧ください。
- 「ip pp secure filter」コマンドについては、コマンドリファレンスをご覧ください。

8 設定が終わったら「save」と入力してからEnterキーを押して、設定を本機に保存する。

9 設定を終了するには、「quit」と入力してから、Enterキーを押す。

10 コンソールを終了するには、もう1度「quit」と入力してから、Enterキーを押す。

フィルタの設定例

ここでは、よく使われるフィルタの設定例を紹介します。例を参考に、実際使用している接続先やプライベートIPアドレスに合わせて入力してください。

ここでは、下記の接続先条件を例に説明しています。

- PP01:ダイヤルアップによるプロバイダ接続
- PP02:LAN間接続(192.168.22.0/24)
- PP03:リモートアクセスユーザ
- LEASED:専用線接続(133.176.200.0/28)
- LAN:LANに接続したパソコン
- WAN:WANポート(インターネット)経由で接続されるパソコン

フィルタ設定の考えかた

フィルタは「接続先、IN/OUT、始点アドレスの始点ポート/終点アドレスの終点ポート、プロトコル、タイプ」という順序で構成されていますので、「どこから来た(へ行く)、どこから始まるどんなパケットを、どうする」と日本語で考えると、フィルタを作りやすくなります。

例1:プロバイダから来た、すべてのNetBIOS関連のtcpとudpパケットを、通さず記録しない

このフィルタは「PP01 IN * 137-138 tcp,udp reject-nolog」と表現されます。

つまり、「PP01(プロバイダ) IN(から来る) *(すべての) 137-138(NetBIOS関連) tcp,udp(tcpとudpパケット) reject-nolog(通さずに記録しない)」こととなります。

例2:ADSLへ行く、すべてのNetBIOS関連のtcpとudpパケットを、通さず記録する

このフィルタは「wan OUT * 137-138 tcp,udp reject-log」と表現されます。

つまり、「wan(WANポートに接続された回線、この場合はADSL) OUT(へ出ていく) *(すべての) 137-138(NetBIOS関連) tcp,udp(tcpとudpパケット) reject-log(通さずに記録する)」こととなります。

すこし難しいかもしれませんが、以下の設定例を通してフィルタ設定の考えかたに慣れて、本機のフィルタ機能をぜひ使いこなしてください。

意図しない発信を防ぐフィルタの設定例

◆ Windowsのファイル共有による自動接続を防ぐ

Windowsのネットワークでは、NetBIOS over TCP/IP プロトコルが使われています。ネットワーク内のNetBIOSパケットにより、自動接続してしまうことがあります。また、Windowsファイル共有やPersonal Webサーバ機能を使っている場合は、接続先側から覗かれてしまう場合もあります。防ぎたい場合は、接続先へNetBIOSパケットが出入りしないようにフィルタを設定します。

ダイヤルアップ接続プロバイダにNetBIOSパケットを一切通さない設定例

NetBIOS関係のポート137~139に加えて、Windows 2000のファイル共有に使用するSMBプロトコルのポート445を出入り共に通さず、その他を通すように設定します。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider(USDN)

切替 [PP01 プロバイダ1 Provider] 表示の変更(再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)

入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ		適用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
番号	入	出	IPアドレス				ポート	IPアドレス	ポート		
22	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	137-139	*	*		
23	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	137-139		
24	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	445	*	*		
25	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	445		
99	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*		

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200022 reject-log * * udp,tcp 137-139 *
ip filter 200023 reject-log * * udp,tcp * 137-139
ip filter 200024 reject-log * * udp,tcp 445 *
ip filter 200025 reject-log * * udp,tcp * 445
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter in 200022 200023 200024 200025
200099
ip pp secure filter out 200022 200023 200024 200025
200099
```

8

ファイアウォール機能を使う

フィルタの設定例

LAN間接続でWindowsファイル共有のみ通す設定例

NetBIOS関係のポート番号137～138の packets を出入り共に通さず、ファイル共有に必要な139やその他を通すように設定します。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(LAN2) プロバイダ接続に使用しています。設定名: Provider (WAN)
切替: PP02 LAN間接続 WestOffice 表示の変更

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)
入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する
出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する
不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ

番号	適用 入 出	タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
					IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
22	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	137-138	*	*	
23	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	137-138	
24	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	445	*	*	
25	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	445	
99	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

◆ ネットワーク時刻合わせによる自動接続を防ぐ

NTPやSNTPサーバで時刻を合わせる機能では、ntpポートが使われます。ネットワーク内パソコンからネットワーク時刻合わせを禁止したいときは、ntpポートの packets を通さず、その他を通すように設定します。

restrictを指定すると、すでにプロバイダに接続しているときは通しますが、切断中は通しませんので、ネットワーク時刻合わせのためだけに自動接続することを防ぐことができます。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名: Provider (SDN)
切替: PP01 プロバイダ Provider 表示の変更 (再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)
入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する
出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する
不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ

番号	適用 入 出	タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
					IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
32	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	restrict	しない	tcp	*	*	*	123	
99	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

8

ファイアウォール機能を使う

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 210022 reject-log * * udp,tcp 137-138 *
ip filter 210023 reject-log * * udp,tcp * 137-138
ip filter 210024 reject-log * * udp,tcp 445 *
ip filter 210025 reject-log * * udp,tcp * 445
ip filter 210099 pass-nolog * * * *
pp select 2
ip pp secure filter in 210022 210023 210024 210025
210099
ip pp secure filter out 210022 210023 210024 210025
210099
```

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200032 restrict-nolog * * tcp * 123
ip filter 200099 pass-nolog * * * *
pp select 1
ip pp secure filter out 200032 200099
ip pp secure filter in 200099
```

◆ インターネット速度計による自動接続を防ぐ

インターネット速度計ソフトは、icmpプロトコルで定期的にpingを発信して応答速度を計測しています。インターネット速度計ソフトによる自動接続を禁止したいときは、icmpプロトコルのパケットを通さず、その他を通すように設定します。restrictを指定すると、すでにプロバイダに接続しているときは通しますが、切断中は通しませんので、インターネット速度計ソフトによる余計な自動接続を防ぐことができます。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (GSDN)
切替 [PP01 プロバイダ1 Provider] 表示の変更(再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)
入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する
出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する
不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ

番号	適用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
	入	出				IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
30	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	restrict	しない	icmp	*	*	*	*	
99	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200030 restrict-nolog * * icmp * *
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter out 200030 200099
ip pp secure filter in 200099
```

◆ Netscape Communicator/Navigator 4.0以降による自動接続を防ぐ

Netscape Communicator/Navigator 4.0以降では、終了するときにtcpfinやtcprstプロトコルのパケットを発信する場合があります、自動接続の原因になっています。

Netscape Communicator/Navigator終了時の自動接続を防ぎたいときは、tcpfinやtcprstプロトコルのパケットを通さず、その他を通すように設定します。restrictを指定すると、すでにプロバイダに接続しているときは通しますが、切断中は通しませんので、tcpfinやtcprstプロトコルのパケットによる、余計な自動接続を防ぐことができます。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (GSDN)
切替 [PP01 プロバイダ1 Provider] 表示の変更(再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)
入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する
出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する
不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ

番号	適用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
	入	出				IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
26	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	restrict	破棄時	tcpfin	*	*	*	80,21,119	
27	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	restrict	破棄時	tcprst	*	*	*	80,21,119	
99	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200026 restrict-log * * tcpfin * 80,21,119
ip filter 200027 restrict-log * * tcprst * 80,21,119
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter out 200026 200027 200099
ip pp secure filter in 200099
```

セキュリティの設定例

◆ 特定のパソコンにインターネット接続を禁止する

LAN内の特定のパソコンがインターネットに接続できないようにするには、発信元IPアドレスによるフィルタを設定します。複数のパソコンを指定したい場合は、ネットワーク範囲で設定することができます。不要なパケットを通さないことにより、好ましくない自動接続を防ぐことができます。

ご注意

この設定を使うには、あらかじめLAN内のパソコンに固定プライベートアドレスを設定する必要があります。設定方法については、「パソコンのIPアドレスを管理する」(193ページ)をご覧ください。

◆ 特定のサーバをインターネットに公開する

専用線でLAN内のサーバをインターネットに公開する場合は、送信先IPアドレスによるフィルタを設定します。不要なアクセスを防ぐため、サーバの種類によって公開するポートもあわせて設定してください。

ご注意

サーバを公開するには、その他にもルータやサーバの設定が必要です。設定方法については、「外部にサーバを公開する」(167ページ)をご覧ください。

サーバへのWWWとメールアクセスを通す設定例

表示インタフェース

表示インタフェース情報(専用線)プロバイダ接続に使用しています。設定名OCNeco

切替 | 専用線によるプロバイダ接続 | 表示の変更

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)

入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する

出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき 破棄する

不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ

番号	適用		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
	入	出				IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	する	udp,tcp	192.168.0.2	*	*	80,110,113	

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 230004 pass-log 192.168.0.2 * udp,tcp *
80,110,113
pp select leased
ip pp secure filter in 230004
```

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200014 reject-log 192.168.0.22 * * * *
ip filter 200015 reject-log 192.168.0.42-192.168.0.45
* * * *
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter out 200014 200015 200099
```

◆ 発信元IPアドレス偽装による不正アクセスを防ぐ

LAN内のプライベートIPアドレスを装って、LANの外から不正アクセスされることがあります。この手法は「ip spoofing攻撃」や「land攻撃」、「smurf攻撃」と呼ばれています。これらの攻撃を回避するには、発信元IPアドレスがプライベートIPアドレスの場合や、自分に割り当てられたグローバルIPアドレスの場合に、パケットを通さないようなフィルタを設定します。

プロバイダ側やWAN側からプライベートIPアドレスでアクセスされることはあり得ませんし、自分のネットワークに割り当てられたグローバルIPアドレスで他からアクセスされることもあり得ませんので、実用上の問題はありません。また、LAN側からプロバイダ側やWAN側へ出るパケットにも設定すると、間違ったパケットがLANの外部に出ることも同時に防ぐことができます。

ご注意

CATV接続の場合など、プロバイダのネットワーク内でプライベートIPアドレスが使われている場合がありますので、そのアドレスは設定しないでください。

プロバイダ接続で固定グローバルIPアドレスを使っていない場合の設定例

表示インタフェース	
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (SDN)	
切替	PP01 プロバイダ1 Provider
不正アクセス検知機能 (メール通知機能)	
入力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき破棄する
出力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき破棄する
不正アクセス検知機能の設定	

静的フィルタ		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ	
番号	適用	入	出		IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート		
0	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	10.0.0/8	*	*	*
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	172.16.0.0/12	*	*	*
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.0/16	*	*	*
99	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200000 reject-log 10.0.0.0/8 * * * *
ip filter 200001 reject-log 172.16.0.0/12 * * * *
ip filter 200002 reject-log 192.168.0.0/16 * * * *
ip filter 200099 pass-nolog * * * * *
pp select 1
ip pp secure filter in 200000 200001 200002 200099
```

プロバイダ接続で固定グローバルIPアドレスを使っている場合の設定例

ここでは、グローバルIPアドレス(133.176.200.0/28)を割り当てられている場合を例にしています。実際には、ご自分に割り当てられたグローバルIPアドレスを入力してください。

表示インタフェース	
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (SDN)	
切替	PP01 プロバイダ1 Provider
不正アクセス検知機能 (メール通知機能)	
入力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき破棄する
出力方向の機能選択	<input type="checkbox"/> 有効にする <input type="checkbox"/> 不正アクセスを検知したとき破棄する
不正アクセス検知機能の設定	

静的フィルタ		タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ	
番号	適用	入	出		IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート		
0	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	10.0.0/8	*	*	*
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	172.16.0.0/12	*	*	*
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.0/16	*	*	*
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	133.176.200.0/28	*	*	*
10	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	*	10.0.0/8	*	
11	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	*	172.16.0.0/12	*	
12	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	*	192.168.0.0/16	*	
13	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	*	133.176.200.0/28	*	
98	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	133.176.200.0/28	*	
99	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	*	133.176.200.0/28	*	*	*

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200000 reject-log 10.0.0.0/8 * * * *
ip filter 200001 reject-log 172.16.0.0/12 * * * *
ip filter 200002 reject-log 192.168.0.0/16 * * * *
ip filter 200003 reject-log 133.176.200.0/28 * * * *
*
ip filter 200098 pass-nolog * 133.176.200.0/28 * * *
*
pp select 1
ip pp secure filter in 200000 200001 200002 200003
200098
ip filter 200010 reject-log * 10.0.0.0/8 * * *
ip filter 200011 reject-log * 172.16.0.0/12 * * *
ip filter 200012 reject-log * 192.168.0.0/16 * * *
ip filter 200013 reject-log * 133.176.200.0/28 * * *
*
ip filter 200099 pass-nolog 133.176.200.0/28 * * *
*
pp select 1
ip pp secure filter out 200010 200011 200012 200013
200099
```

◆ LAN側のネットワークを守る設定例(静的フィルタ)

LAN内のパソコンでインターネット接続を行い、外部からのアクセスを静的フィルタで制限する場合の設定です。接続先設定の入力で制限を行い、出力では制限していません。

ご注意

LAN内に各種サーバを設置したり、UDPを利用する場合は、それぞれの通信を可能にするための静的passフィルタを、入力側に追加して適用する必要があります。より高いセキュリティが必要な場合は、動的フィルタを使用した設定例を参考にしてください。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (QSDN)

切替 [PP01 プロバイダ Provider] 表示の変更(再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)

入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ									
番号	適用	タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
	入	出			IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.0/24	*	*	*
30	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	icmp	*	*	192.168.0.0/24	*
31	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	established	*	*	192.168.0.0/24	*
32	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	tcp	*	*	192.168.0.0/24	113
33	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	tcp	*	20	192.168.0.0/24	*
35	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	udp	*	53	192.168.0.0/24	*

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200003 reject 192.168.0.0/24 * * * *
ip filter 200030 pass * 192.168.0.0/24 icmp * *
ip filter 200031 pass * 192.168.0.0/24 established * *
ip filter 200032 pass * 192.168.0.0/24 tcp * ident
ip filter 200033 pass * 192.168.0.0/24 tcp ftpdata *
ip filter 200035 pass * 192.168.0.0/24 udp domain *
pp select 1
ip pp secure filter in 200003 200030 200031 200032 200033 200035
```

◆ LAN側のネットワークを守る設定例(静的フィルタ+動的フィルタ)

LAN内のパソコンでインターネット接続を行い、外部からのアクセスを静的フィルタと動的フィルタの両方を組み合わせて制限する場合の設定です。

静的フィルタでは、動的フィルタで制限できないパケットを接続先設定の入力で制限します。動的フィルタでは、接続先設定の出力で制限しています。

ご注意

LAN内に各種サーバを設置する場合は、それぞれの通信を可能にするための静的passフィルタを、入力側に追加して適用する必要があります。

表示インタフェース
表示インタフェース情報(PP01) プロバイダ接続に使用しています。設定名 Provider (QSDN)

切替 [PP01 プロバイダ Provider] 表示の変更(再表示)

不正アクセス検知機能 (メール通知機能)

入力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

出力方向の機能選択 有効にする 不正アクセスを検知したとき破棄する

不正アクセス検知機能の設定

静的フィルタ									
番号	適用	タイプ	ログ	プロトコル	送信元		受信先		メモ
	入	出			IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート	
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	*	192.168.0.0/24	*	*	*
30	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	icmp	*	*	192.168.0.0/24	*
32	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	tcp	*	*	192.168.0.0/24	113

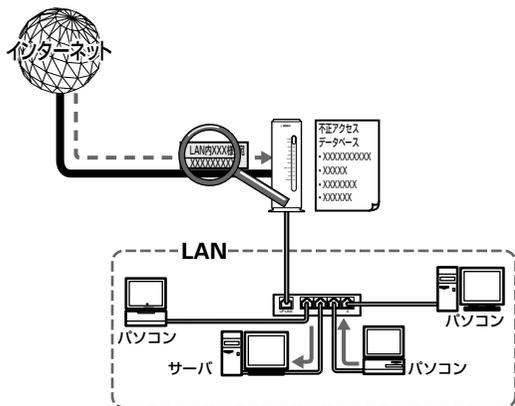
動的フィルタの一覧									
番号	適用	監視	プロトコル	順序方向	逆方向	送信元	受信先	メモ	
	入	出				IPアドレス	IPアドレス		
80	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ftp			*	*		
98	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	tcp			*	*		
99	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	udp			*	*		

コンソールコマンドの場合

```
ip filter 200003 reject 192.168.0.0/24 * * * *
ip filter 200030 pass * 192.168.0.0/24 icmp * *
ip filter 200032 pass * 192.168.0.0/24 tcp * ident
ip filter dynamic 200080 * * ftp
ip filter dynamic 200098 * * tcp
ip filter dynamic 200099 * * udp
pp select 1
ip pp secure filter in 200003 200030 200032
ip pp secure filter out dynamic 200080 200098 200099
```

不正アクセスを検出して警告する

不正アクセス検知機能は、インターネットからの侵入や攻撃などを検出して、警告する機能です。ルータを通過するパケットを、ルータ内の侵入／攻撃パターンのデータベースと比較して、不正アクセスが疑われるパケットを記録／破棄できます。また、この情報を元に不審な発信元やアプリケーションを通さないフィルタを設定することで、よりセキュリティを高めることができます。



ご注意

- 不正アクセスの手段や侵入／攻撃パターンは、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。この機能ですべての不正アクセスを検知できるものではありませんので、あらかじめご了承ください。
- この機能は侵入／攻撃パターンに近いものを検知する機能ですので、タイミングなどさまざまな理由により、検知できない場合があります。また、検知されたパターンが必ずしも重大な不正アクセスであることを判断するものではありません。あくまでセキュリティ管理の目安であることをご理解の上、ご利用ください。
- 本機能は各インタフェース、入出力に適用可能ですが、適用数によっては、インターネットなどへのアクセス速度が遅くなる場合があります。

不正アクセス検知機能を設定する

不正アクセス検知機能の設定は、「かんたん設定ページ」の「ファイアウォール機能」画面で行います。インタフェースごとに、検知するパケットの方向や検知時の処理方法を設定できます。

ご注意

- 不正アクセス検知機能を有効にすると、侵入検知の際にブザーが鳴るように工場出荷状態では設定されています。ブザーを鳴らしたくないときは、「かんたん設定ページ」-「システム管理」-「ルータ設定」画面の「ブザー設定」で変更できます。
- 不正アクセス検知機能は各インタフェース、入出力に適用可能ですが、適用数によってはインターネットなどへのアクセス速度が遅くなる場合があります。

1 Webブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

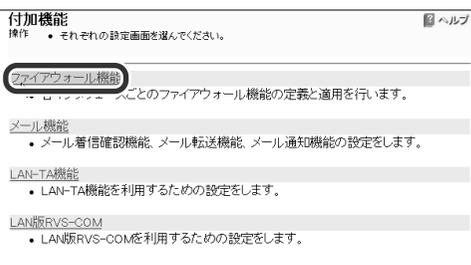
「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [付加機能]をクリックする。

4 [ファイアウォール機能]をクリックする。

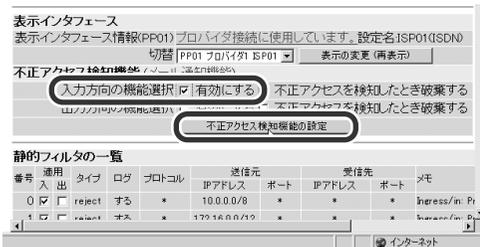


5 設定する接続先を選んでから、[表示の変更]をクリックする。

通常はインターネットに接続するインタフェース(PPxxやWAN)を選択します。



6 [不正アクセス検知機能]の[入力方向の機能選択]で機能を設定してから、[不正アクセス検知機能の設定]をクリックする。



入力方向の機能選択

インタフェースから入ってくるパケットに対する機能を設定します。

- **有効にする:**不正アクセスを検知すると、記録します。
- **不正アクセスを検知したとき破棄する:**不正アクセスを検知すると、不正アクセス検知履歴に記録してから、そのパケットを破棄します。

出力方向の機能選択

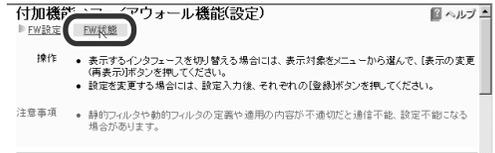
インタフェースへ出ていくパケットに対する機能を設定します。

- **有効にする:**不正アクセスを検知すると、記録します。
- **不正アクセスを検知したとき破棄する:**不正アクセスを検知すると、不正アクセス検知履歴に記録してから、そのパケットを破棄します。

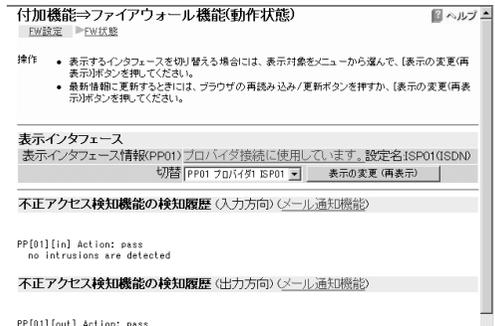
不正アクセス検知履歴を確認する

不正アクセス検知履歴は、「かんたん設定ページ」-「ファイアウォール機能」-「FW状態」画面で確認できます。

- 1 127ページの手順1~4の操作を行う。
- 2 [FW状態]をクリックする。



不正アクセスの検知履歴が表示されます。



ご注意

- 不正アクセス検知機能を有効にすると、侵入検知の際にブザーが鳴るように工場出荷状態では設定されています。ブザーを鳴らしたくないときは、「かんたん設定ページ」-「システム管理」-「ルータ設定」画面の「ブザー設定」で変更できます。
- 不正アクセスの手段や侵入/攻撃パターンは、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。この機能ですべての不正アクセスを検知できるものではありませんので、あらかじめご了承ください。
- この機能は侵入/攻撃パターンに近いものを検知する機能ですので、タイミングなどさまざまな理由により、検知できない場合があります。また、検知されたパターンが必ずしも重大な不正アクセスであることを判断するものではありません。あくまでセキュリティ管理の目安であることをご理解の上、ご利用ください。

ヒント

不正アクセスを検知した場合に、自動的にメールで知らせるように設定することもできます。外出先からでも不正アクセスがないかどうか監視したいときに便利です。詳しくは「不正アクセス検知をメールで通知する」(64ページ)をご覧ください。

第9章

ルータを使いこなす

この章では、本機を使いこなすための活用例を紹介いたします。設定によってはネットワークの知識が必要になるものもありますが、該当する例を参考にし、本機をご活用ください。より専門的な設定例については、「コマンドリファレンス」、ヤマハRTシリーズのホームページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>) をご覧ください。

本機へのアクセスを制限する

本機には、本機自体のセキュリティを確保するために、パスワード機能や利用ホスト制限機能を装備しています。これらの機能を利用することで、第三者が不正にルータの設定を変更できないように設定できます。

パスワードには2種類があります

パスワードには「管理パスワード」と「ログインパスワード」の2つの種類があり、以下のような機能の違いがあります。

- **管理パスワード:** すべての画面の設定を閲覧/変更できます。
- **ログインパスワード:** 「手動接続と切断」「料金と通信の記録」「Webユーティリティ」の設定のみ閲覧/変更できます。

ご注意

本機の「かんたん設定ページ」を最初に開いたときに設定するパスワードは、「管理パスワード」です。また、最初はログインパスワードにも管理パスワードと同じものが設定されます。

パスワードや利用ホスト制限の設定は、「かんたん設定ページ」の「ルータ設定」画面で行います。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 画面左側の[システム管理]をクリックする。

4 [ルータ設定]をクリックする。

システム管理⇒ルータ設定 ヘルプ

操作

- パスワードの表示は、入力されていると文字列に關係なく「*」(asterisk, アスタリスク文字)の1文字で表示されます。
- パスワードをクリアする場合は、「*」(asterisk, アスタリスク文字)の1文字を削除して登録します。
- 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

注意事項

- かんたん設定の初期画面で設定したパスワードは、ログインパスワードと管理パスワードの両方に設定されています。

ルータ設定

ルータの時計やブザーの設定を行います。

料金設定

- 料金情報の表示、手動クリア、自動クリアの設定を行います。

コマンド設定

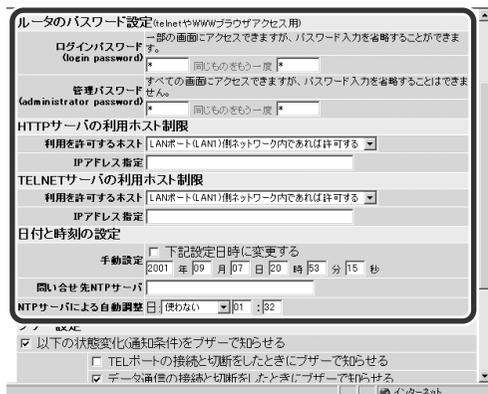
- コマンド内部の設定情報の表示と設定を行います。

システムログ

- システムログの表示と設定を行います。
- システムログには、内部の各種状態やバケットのやりとりが記録されています。

5 必要なセキュリティ項目を設定する。

無線LANの設定項目は、LAN(LAN1)と同様です。



ログインパスワード

一般ユーザ用パスワードを設定します。2つとも同じパスワードを入力してください。

管理者パスワード

ルータ管理者用パスワードを設定します。2つとも同じパスワードを入力してください。

HTTPサーバ利用者制限

Webブラウザで設定できるパソコンを指定します。

- **すべて許可する:** LAN側やWAN側、ISDN側のパソコンすべてに許可します。
- **同一ネットワーク内であれば許可する:** LAN側とWAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **LANポート(LAN1)側ネットワーク内であれば許可する:** LAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **WANポート(LAN2)側ネットワーク内であれば許可する:** WAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **指定したIPアドレスを許可:** 指定したIPアドレスのパソコンにのみ許可します。

TELNETサーバ利用者制限

TELNETで設定を変更できるパソコンを指定します。

- **すべて許可する:** LAN側やWAN側、ISDN側のパソコンすべてに許可します。
- **同一ネットワーク内であれば許可する:** LAN側とWAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **LANポート(LAN1)側ネットワーク内であれば許可する:** LAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **WANポート(LAN2)側ネットワーク内であれば許可する:** WAN側に属するネットワーク内のパソコンにのみ許可します。
- **すべて許可しない:** TELNETによる設定操作を禁止します。コンソールコマンドや電話機で設定してください。
- **指定したIPアドレスを許可:** 指定したIPアドレスのパソコンにのみ許可します。

6 [登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されます。

プロバイダ接続を制限する **ISDN**

ISDN回線でダイヤルアップ接続する場合、本機の自動接続機能を使うと、ダイヤルアップ操作なしで快適にインターネットへ接続できます。しかし、意図しない接続や使い過ぎで、従量制の契約では通話料金やプロバイダの接続料金が思わぬ高額になることがあります。

このようなトラブルを未然に防止するために、プロバイダ接続の累積料金や時間、回数に上限を設定したり、連続通信時間を制限することができます。

ヒント

設定した制限は、手動でプロバイダに接続した場合も適用されます。

ご注意

- 課金額は通信の切断時にNTTからISDNで通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的にNTTから請求される料金とは異なる場合があります。また、NTT以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されません。
- 端末型ダイヤルアップ接続の設定では、「かんたん設定ページ」からプロバイダ登録を新規に行うと、自動的に発信制限が累積料金1万円、累積通信時間50時間、累積発信回数1000回に設定されます。また連続接続時間も9時間に制限されるように設定されます。
- コンソールコマンドで接続設定を変更した場合は、接続制限は自動的に設定されません。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合には、別冊の「はじめにお読みください」に記載されている操作を行ってください。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

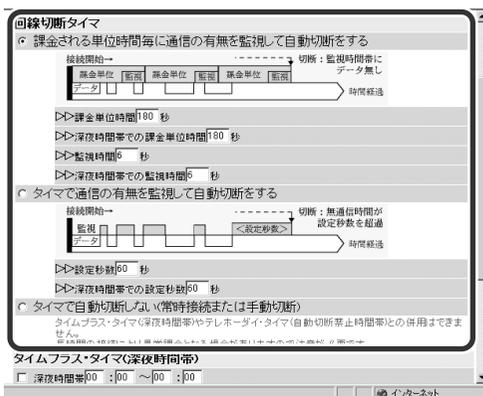
5 接続名の右の[登録の修正]をクリックする。



6 自動切断の条件を設定するときは、[自動切断]をクリックする。



7 切断タイマの制限条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力してから、[登録]をクリックする。



課金される単位時間毎に通信の有無を監視して自動切断をする

3分10円などの課金単位で自動切断したいときは、チェックを付けます。タイムプラスなど、契約内容に合わせて昼間や深夜の単位時間を変更できます。

タイムで通信の有無を監視して自動切断をする

アクセスしない時間によって自動切断したいときは、チェックを付けます。

タイムで自動切断しない(常時接続または手動切断)

自動切断したくないときは、チェックを付けます。

9

ルータを使いこなす

タイムプラス・タイム(深夜時間帯)

深夜時間の設定を指定するときは、チェックを付けて、深夜の時間帯を入力します。通常のNTT通話料金では、23:00~8:00が深夜料金扱いになります。

テレホーダイ・タイム(自動切断禁止時間帯)

テレホーダイを利用している場合、利用時間帯に自動切断しないよう設定したいときは、この項目をチェックし、時間帯を入力します。

タイムに関係なく連続通信時間XXX分で強制的に切断する

連続通信時間を監視して切断したいときは、チェックを付けます。初期値は「540分」(9時間)です。

累積料金がXXXXX円以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積料金で制限したいときは、チェックを付けて、金額を設定します。初期値は「1万円」です。

累積接続時間がXXXXX時間以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積接続時間で制限したいときは、チェックを付けて、時間を設定します。初期値は「50時間」です。

累積発信回数がXXXXX回以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積発信回数で制限したいときは、チェックを付けて、回数を設定します。初期値は「1000回」です。

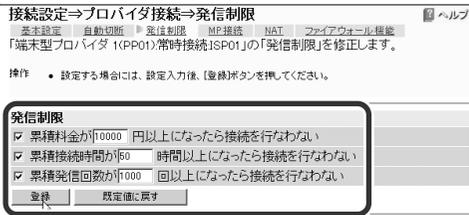
9

ルータを使いこなす

8 発信制限の条件を設定するときは、[発信制限]をクリックする。



9 発信制限の条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力してから、[登録]をクリックする。



接続制限をリセットする

設定した課金／時間／回数制限に達したためにプロバイダに接続できなくなった場合は、累積情報をクリアして発信制限をリセットできます。

ご注意

- 通常の使いかたの場合でも制限が何度も働いてしまうときは、設定値を見直してください。
- 異常に早く制限機能が動作する場合は、意図しない間に接続動作が行われている可能性があります。通信記録を確認して、問題がないか確認してください(187ページ)。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [システム管理]をクリックする。

4 [料金設定]をクリックする。

「料金情報」画面には、各プロバイダ毎や各ポート毎の通話料金合計が表示されます。また、料金合計をリセットすることもできます。

5 接続制限をリセットしたい接続先の[クリア]をクリックする。

システム管理⇒コマンド設定

操作

- コマンドは、内部の設定情報に基づいています。
- 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。
- 直接、コマンドを入力して設定を変更することもできます。

通信種別	最後の通信料金	累積料金	累積接続時間	累積発信回数	累積着信回数	手動クリア	自動クリアの実行日時
プロバイダ接続 (設定管理)							
1(CPP01) ISP01 ISDN着信中	0円	0円	00:00:00	0回	0回	[クリア]	わない
アナログポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回	[クリア]	使わない
USBポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回	[クリア]	使わない
LAN版RVS-COM	0円	0円	00:00:00	0回	0回	[クリア]	使わない
LAN-TA機能	0円	0円	00:00:00	0回	0回	[クリア]	使わない
合計	0円	0円	00:00:00	0回	0回		

各アナログポートごとの料金情報

複数回アナログ通話により、他の機器のISDN回線を使用した場合の料金も含まれます

TEL1ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回	[クリア]	使わない
TEL2ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回	[クリア]	使わない
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回	[クリア]	使わない
合計	0円	0円	00:00:00	0回	0回		

料金合計がリセットされます。

ヒント

各ポート毎に、接続制限を定期的に自動リセットすることもできます。定期的にリセットしたいときは、各ポート毎にリセットする日付と時刻を設定します。
[自動クリアの実行日時を一括して設定する]にチェックを付けてから日付と時刻を入力すると、すべての項目をまとめて設定することができます。

6 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

9

ルータを使いこなす

自動切断を制限する

インターネットに接続している間に、自動切断しない時間範囲を設定できます。テレホーダイを契約している場合に切断禁止に設定すると、テレホーダイタイム中に接続したままの状態で使用できます。

ご注意

- 自動切断しないように設定しても、プロバイダや回線の都合で切断されることがあります。
- 本機の電源を切ると、設定時間内であっても接続が切れます。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

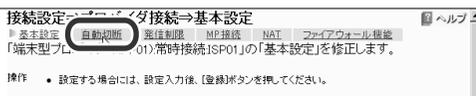
3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

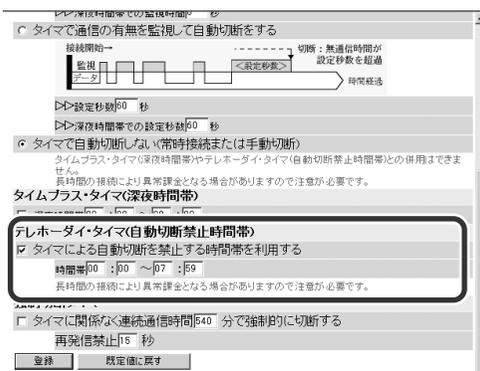
5 接続先名の右の[登録の修正]をクリックする。



6 [自動切断]をクリックする。



7 [テレホーダイ・タイム(自動切断禁止時間帯)]にチェックを付けてから、開始時間と終了時間を設定する。



8 画面下にある[登録]をクリックする。

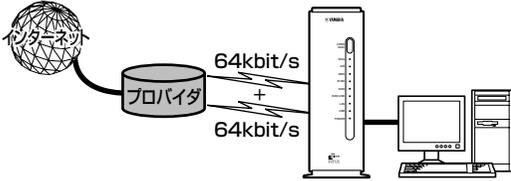
メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

9

ルータを使いなす

128kbit/sで接続する (ISDN)

本機では、64kbit/sの回線を2つ同時に使って128kbit/sの通信速度で接続することができます。これを「MP (Multilink PPP) 接続」といいます。この機能を利用するには、128kbit/s接続 (MP接続) に対応したプロバイダと契約する必要があります。設定を行う前にプロバイダの契約内容を確認してください。



ご注意

- MP接続に対応していないプロバイダやMP接続用以外の電話番号に対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2チャンネル目が発信とエラーを繰り返し、意図しない多額の料金を請求される場合があります。
- この機能は回線を2つ同時に使いますので、電話料金は2回線分かかります。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス (工場出荷時は192.168.0.1) を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

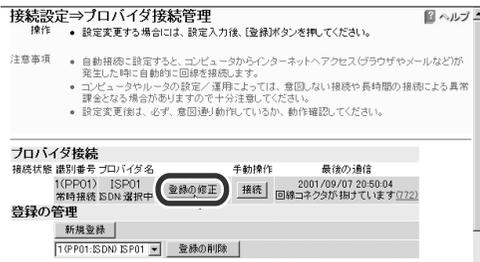
2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK] をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

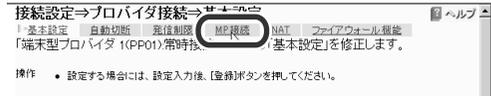
3 [接続設定] をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理] をクリックする。

5 接続先名の右の [登録の修正] をクリックする。



6 [MP接続] をクリックする。



7 [MPを使用する] にチェックを付けてから、通信条件を選ぶ。



MPを使用する

128kbit/s通信の接続方法を設定します。

- **アナログ通信がない限り2つのBチャンネルを使用する**:なるべく速く通信したい場合は、チェックを付けます。アナログ通話が着信すると通話用に自動的にチャンネルを空けるので、通信しながら通話できるようになります。
- **通信の負荷に応じてチャンネル数を増減する**:なるべく接続チャンネルを減らしてインターネット接続料金や通話料金を接続したい場合は、チェックを付けます。ただし、回線の状態によっては2チャンネル目の発信を繰り返し、料金がかえって増える可能性もあります。電話料金やインターネット接続料金に十分にご注意ください。

時間帯を指定

128kbit/s通信を行う時間帯を指定したいときにチェックを付け、時間帯を入力します。

8 画面下にある [登録] をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

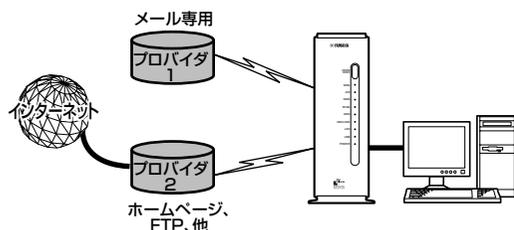
複数の接続先を使い分ける

複数のプロバイダを登録しておき、おもに使用するプロバイダとメールの確認のためだけにアクセスするプロバイダなど、目的に応じて接続先を使い分けることができます。複数のプロバイダを登録している場合には、2チャンネル同時に別のプロバイダへ接続することもできます。

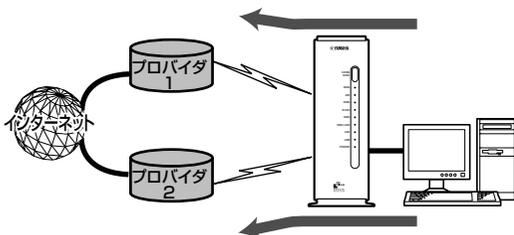
ご注意

この機能は、端末型ダイヤルアップ接続時のみ利用可能です。

メール専用の接続先を使い分ける場合



パソコン毎に接続先を使い分ける



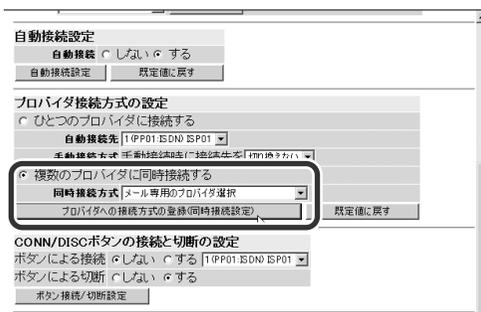
ご注意

2チャンネル同時に別のプロバイダへ接続しているときに通話が着信すると、話し中になります。同様に、こちらから通話(TELポートに接続した電話機などから発信)することもできません。

メール専用の接続先を使い分ける

契約しているプロバイダがメール専用の電話番号を設定している場合や、メール着信確認機能でプロバイダに直接接続したい場合など、メールとその他のインターネット接続で接続先を使い分けたいときは、次のように設定します。

- 1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。
「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。
- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
「トップ」画面が表示されます。
- 3 [接続設定]をクリックする。
- 4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。
- 5 [複数のプロバイダに同時接続する]を選び、[メール専用のプロバイダ選択]を選んで[プロバイダへの接続方法の登録(同時接続設定)]をクリックする。



6 [メール専用のプロバイダ]の接続先で登録したプロバイダを選んでから、メールサーバ名を設定する。

接続設定⇒プロバイダ接続⇒メール専用のプロバイダ選択

ヘルプ

操作

- 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

注意事項

- 自動接続に設定すると、コンピュータからインターネットへアクセスブラウザやメールなどが完了した時に自動的に回線を接続します。
- コンピュータやルータの設定/運用によっては、意図しない接続や長時間の接続による異常料金となる場合がありますので十分注意してください。
- 設定変更後は、必ず、意図通り動作しているか、動作確認してください。

メール専用のプロバイダ

接続先 [1] ISP01

メール送信(smtp)サーバ名 smtp.mail-server.ne.jp

メール受信(pop)サーバ名 pop.mail-server.ne.jp

サーバ名の欄にIPアドレスを直接指定することはできません

メール以外のプロバイダ

接続先 [1] ISP01

登録 既定値に戻す

7 [メール以外のプロバイダ]の接続先で登録したプロバイダを選ぶ。

8 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

パソコンごとに接続先を使い分ける

パソコンごとに接続するプロバイダを使い分けたいときは、LAN上のすべてのパソコンのIPアドレスをあらかじめ固定で設定する必要があります。そのあとに、本機の複数プロバイダ選択に関する設定を行います。

◆ 各パソコンのIPアドレスを変更する

パソコンのIPアドレスを変更するには、「パソコンのIPアドレスを管理する」(00ページ)をご覧ください。

◆ 本機の設定を変更する

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

5 以下のように設定してから、[プロバイダへの接続方式の登録(同時接続設定)]をクリックする。

- 自動接続設定: する
- プロバイダ接続方式の設定: [複数のプロバイダに同時接続する]を選んでから、[コンピュータ(IPアドレス)毎のプロバイダ選択]を選ぶ。

自動接続設定

自動接続 しない する

自動接続設定 既定値に戻す

プロバイダ接続方式の設定

ひとつのプロバイダに接続する

自動接続先 [1] ISP01 ISDN ISP01

複数のプロバイダに同時接続する

同時接続方式 [コンピュータ(IPアドレス)毎のプロバイダ選択]

プロバイダへの接続方式の登録(同時接続設定) 既定値に戻す

CONN/DISCボタンの接続と切断の設定

ボタンによる接続 しない する [1] ISP01 ISDN ISP01

ボタンによる切断 しない する

ボタン接続/切断設定

現在のISDN回線接続状態

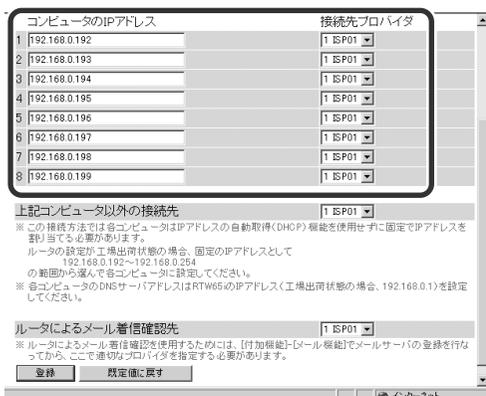
ISDN回線は、接続していません。

更新

9

ルータを使いこなす

6 コンピュータのIPアドレスを入力してから、インターネットに接続する際の接続先プロバイダを選ぶ。



7 [上記コンピュータ以外の接続先]に、LAN上のその他すべてのコンピュータの接続先プロバイダを設定する。

8 メール着信確認機能を使用する場合には、[ルータによるメール着信確認先]でメールサーバのあるプロバイダを選ぶ。

メールサーバを登録したいときは、[システム管理]画面の[メールサーバの登録]画面で設定してください。

9 [登録]をクリックして、設定を保存する。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

本機のIPアドレスを変更する

すでにプライベートIPアドレスが指定されているLANに本機を導入する場合は、本機のIPアドレスを変更する必要があります。IPアドレスを変更する前に、本機に割り当てたIPアドレスとネットマスクをLANの管理者にお問い合わせください。

ご注意

- 専用線接続されていて、LAN内の各パソコンにグローバルIPアドレスを設定している場合は、必ずプロバイダの接続情報を確認してから作業してください。不安なときは、プロバイダまたは電話事業者の技術者にご相談ください。万一間違ったIPアドレスを設定してしまうと、LAN外のホストやネットワークに問題が起きることがあります。
- 管理者がいないときは、LAN内のすべての機器のプライベートIPアドレス設定を調べて、ネットマスクの設定値と、重複しないIPアドレスを決めてください。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

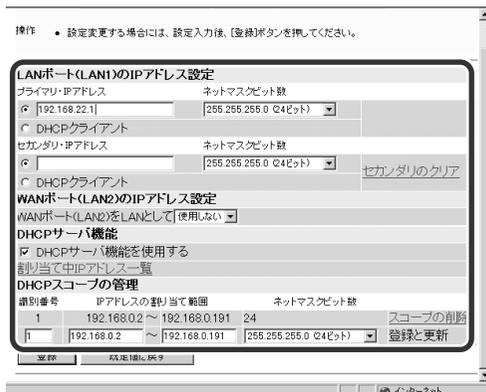
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [LAN/WAN設定]をクリックする。

5 [プライマリ・IPアドレス]で本機のIPアドレスとネットマスク、DHCPサーバのIPアドレス割り当て範囲とネットマスクを設定する。



本機の時刻を自動的に合わせる

6 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

ご注意

ルータのIPアドレスを変更した場合、LAN上の各パソコンのIPアドレスをリセットする必要があります(198ページ)。

インターネット上のNTPサーバ(時刻配信サーバ)を利用して、本機の時刻を自動的に合わせることができます。また、NTPサーバを利用して手動で時刻を合わせたり、時刻を直接入力して合わせたりすることもできます。

ご注意

- NTPサーバを利用する場合は、インターネットにアクセスします。定期的にNTPサーバを利用して時刻合わせをするように設定すると、従量制のプロバイダ接続契約の場合、予期しない高額な課金が発生しますので、ご注意ください。
- 本機のセキュリティ設定によっては、NTPサーバが利用できない場合があります。利用する場合は、セキュリティ設定を変更してください(116ページ)。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [システム管理]をクリックする。

4 [ルータ設定]をクリックする。

5 [日付と時刻の設定]で各項目を入力する。

手動で時刻を入力して合わせる場合

[下記設定日時に変更する]にチェックを付けてから、日付と時刻を入力して[登録]をクリックします。

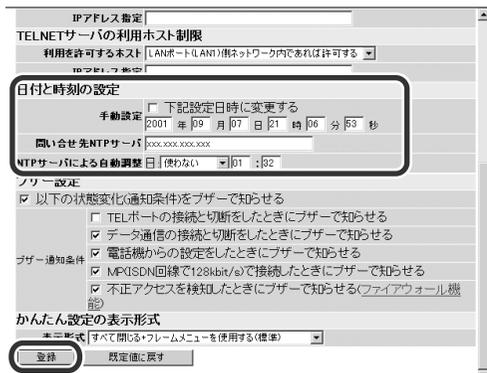
The screenshot shows the 'Date and Time Settings' page. The 'Manual Setting' section is highlighted with a red box. It includes a checkbox for 'Change to the following date and time' which is checked. The date is set to 2007年09月07日 and the time is 06:53. Below this, there is a section for 'Automatic Setting' with 'NTP Server' set to 'None' and 'Automatic Adjustment' set to 'No'. The page also has a 'Registration' button at the bottom.

9

ルータを使いこなす

NTPサーバを利用して手動で時刻を合わせる場合

[問い合わせ先NTPサーバ]にNTPサーバのIPアドレスまたはドメイン名を入力してから[登録]をクリックして、さらに[今から更新する]をクリックします。



すぐに時刻が更新されます。

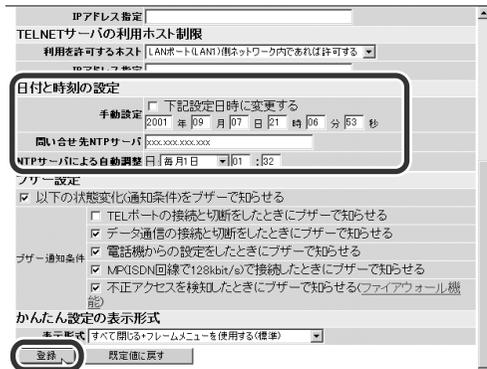
ご注意

プロバイダの接続設定で「常時接続」を選ぶなどして、ファイアウォール機能のセキュリティレベルが4または5(静的セキュリティフィルタ)に設定されている場合は、NTPサーバからの応答パケットが破棄されてしまうため、時刻を合わせることができません。この方法で時刻を合わせるときは、プロバイダの接続設定でセキュリティレベルを6または7(動的セキュリティフィルタ)に設定してください。

NTPサーバを利用して定期的に時刻を合わせる場合

[問い合わせ先NTPサーバ]にNTPサーバのIPアドレスまたはドメイン名を入力してから、[登録]をクリックします。

そのあとに[NTPサーバによる自動調整]に更新間隔と時刻を設定してから、[登録]をクリックします。



専用線で接続する

専用線を接続する

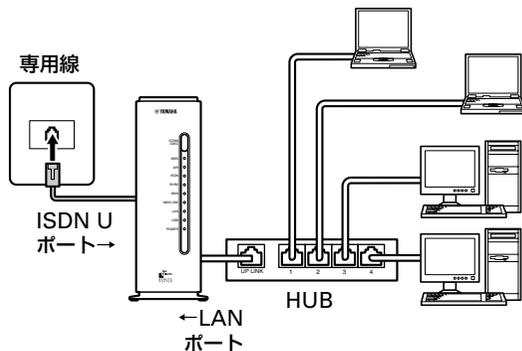
OCNエコノミーやデジタルアクセス64などの専用線を利用する場合は、以下の方法で接続します。本機のDSUを利用するかどうかによって作業が異なりますので、申込票をご確認の上、該当する方法で接続してください。

ご注意

- 専用線の場合は、TELポート間の内線通話以外でTELポートにアナログ機器(電話機、FAX、モデムなど)を接続して使うことはできません。
- 専用線の場合は、他のISDN機器をS/Tポートに接続して使うことはできません。

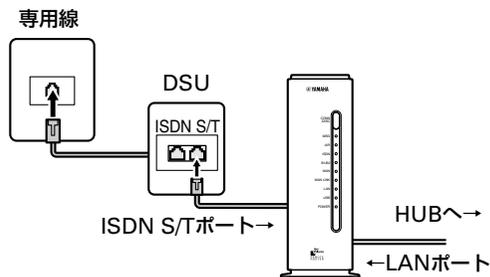
本機のDSUを使う場合

- 専用線申込票の「DSU」項目で、本機内蔵のDSU使用で申し込んだとき
- 工事後の専用線が、通常のもジュラージャックと同じ形(6極端子)をしているとき



他のDSUを使う場合

- 専用線申込票の「DSU」項目で、回線業者のDSU使用で申し込んだとき
- 工事後の専用線が、通常のもジュラージャックより幅の広い形(8極端子)をしているとき

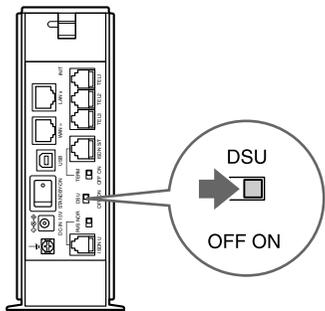


◆ 本機のDSUを使って専用線に接続する

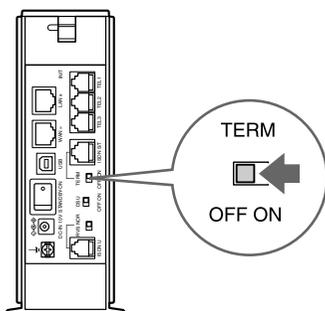
必要なもの

- **モジュラーケーブル**: 一般に市販の電話用ケーブルが使用できます(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものとは除く)。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本(3m)付属しています。

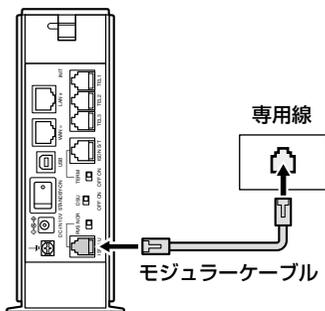
1 DSUスイッチを「ON」に合わせる。



2 TERM(ターミネータ)スイッチを「OFF」に合わせる。



3 専用線のモジュージャックと本機のISDN Uポートを、モジュラーケーブル(灰色)で接続する。



ご注意

専用線の場合はISDN S/Tポートは使用できませんので、機器を接続しないでください。

◆ 他のDSUを使って専用線に接続する場合

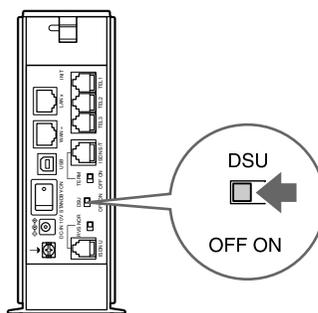
必要なもの

- **ISDNケーブル**: 市販のISDNケーブルをご用意ください。ただし、DSUまで総延長が150m以内になるようにしてください。

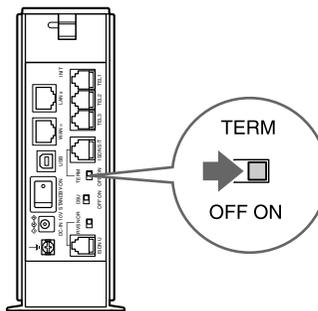
ご注意

ISDNケーブルは、LANケーブルのコネクタ(RJ-45)と同じ形状をしています。間違えないようにご注意ください。

1 DSUスイッチを「OFF」に合わせる。



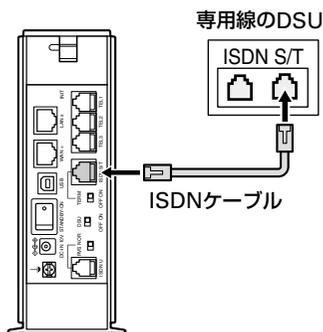
2 TERM(ターミネータ)スイッチを「ON」に合わせる。



9

ルータを使いこなす

3 専用線のDSUと本機のISDN S/Tポートを、ISDNケーブルで接続する。



専用線接続を設定する

OCNエコノミーやデジタルアクセス64/128などでインターネットに接続する場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開いて、専用線の接続先を設定します。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行ってから、お使いください。詳しくは「第8章 ファイアウォール機能を使う」(112ページ)をご覧ください。

ここでは、IPマスカレードを使用した設定を、Windows MeとInternet Explorer 5.5の画面を例に説明しています。他の環境の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1 本機と設定を行うパソコンだけ電源を入れて、他のパソコンの電源を切る。

※ヒント

他のすべてのパソコンを終了できない場合は、本機に1台のパソコンのLANケーブルを直接接続している状態にして、設定を行います。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

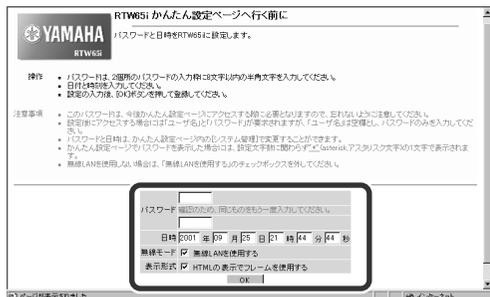
「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

初めて開いたときは、「RTW65iかんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。2度目以降は、手順4へ進んでください。

※ヒント

「RTW65iかんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ルータとパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。詳しくは、別冊の「設定マニュアル」をご覧ください。

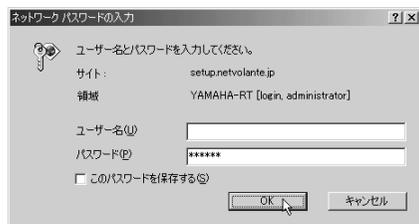
3 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力してから、日時を設定して[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。



ご注意

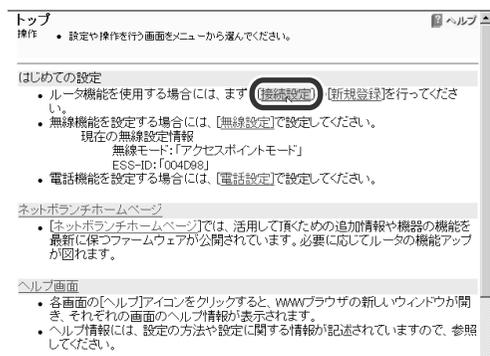
- ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。
- 無線LANを使用しないときは、不正アクセスを防ぐために[無線LANを使用する]のチェックを外してください。

4 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

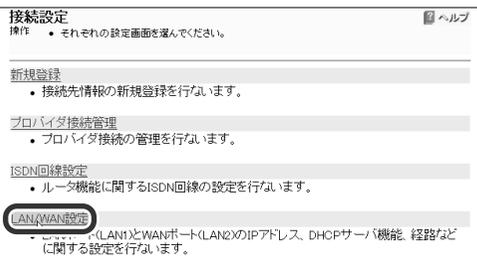


「トップ」画面が表示されます。

5 [接続設定]をクリックする。



6 [LAN/WAN設定]をクリックする。



7 以下の設定を行ってから、[登録]をクリックする。

- [LANポート(LAN1)のIPアドレス設定]の[セカンダリ・IPアドレス]:現在[プライマリ・IPアドレス]に設定されているプライベートIPアドレスとネットマスク(工場出荷時は192.168.0.1/24)を入力する。
- [プライマリ・IPアドレス]:プロバイダから割り当てられたIPアドレスの中から、ルータに設定するIPアドレスとネットマスクを入力する。

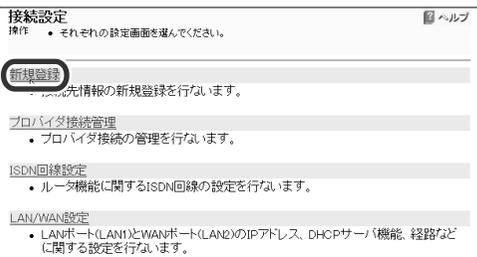


ヒント

LAN側をプライベートアドレスで利用する場合は、LANポートのIPアドレスの設定を変更する必要はありません。

8 [接続設定]をクリックする。

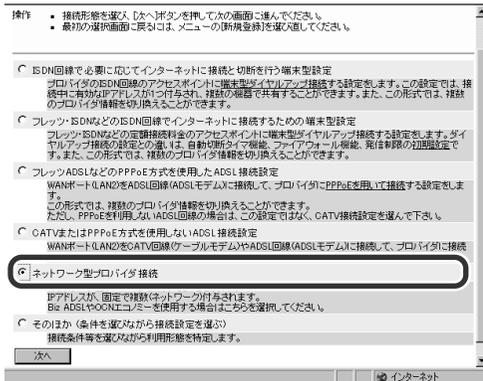
9 [新規登録]をクリックする。



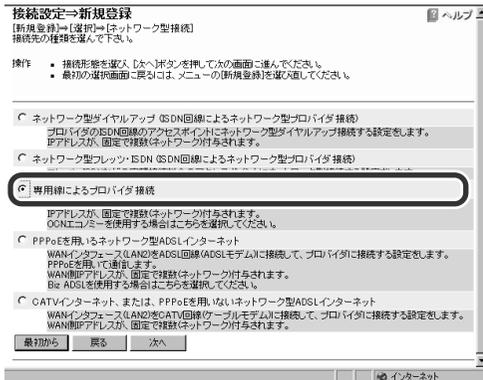
9

ルータを使いこなす

10 [ネットワーク型プロバイダ接続]を選んでから、[次へ]をクリックする。

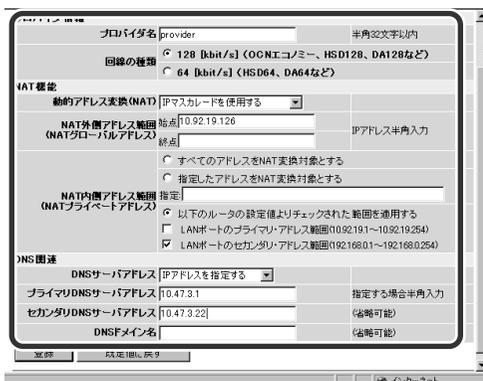


11 [専用線によるプロバイダ接続]を選んでから、[次へ]をクリックする。



設定入力画面が表示されます。

12 プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。



プロバイダ名

接続先のわかるような名前を入力します。

回線の種類

契約した回線の種類を選びます。

- **64kbit/s:** デジタルアクセス64などの場合に選びます。
- **128kbit/s:** OCNエコノミーやデジタルアクセス128などの場合に選びます。

動的アドレス変換(NAT)

回線側とLAN側のアドレス変換方法を選びます。

- **IPマスカレードを使用する:** 回線側とLAN側のアドレスを1対多で変換する場合に選びます。
- **NATを使用する:** 回線側とLAN側のアドレスを1対1で変換する場合に選びます。
- **使用しない:** アドレス変換機能を使用しない場合に選びます。

NAT外側アドレス範囲

回線側に割り当てる共用グローバルIPアドレスを入力します。

NAT内側アドレス範囲

アドレス変換を行うプライベートIPアドレスの範囲を入力します。

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:** プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選びます。
- **接続時に自動取得する:** プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得とされている場合に選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できません)。

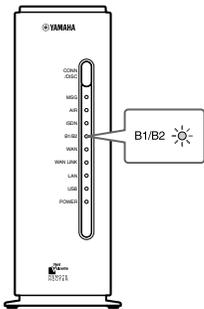
ドメイン名 ドメイン名が指定されている場合に入力します(省略できます)。

- 13** 入力し終わったら、**[登録]**をクリックする。
メッセージにしたがってボタンをクリックすると、接続先が登録されてルータが再起動します。

ご注意

インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。詳しくは「第8章 ファイアウォール機能を使う」(112ページ)をご覧ください。

- 14** 本機の再起動が終わったら、B1/B2ランプが点灯しているかどうか確認する。



正しく点灯しないときは、手順12の登録をやり直してください。

- 15** パソコンを再起動する。
- 16** Webブラウザを起動して、アドレス入力欄に「<http://setup.netvolante.jp/>」または「[http://\(ルータのIPアドレス\)/](http://(ルータのIPアドレス)/)」と入力してから、Enterキーを押す。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。
- 17** [パスワード]入力欄に管理ルータのパスワードを入力してから、**[OK]**をクリックする。
「トップ」画面が表示されることを確認してください。

- 18** 画面左上の**[ネットボランチホームページ]**をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は成功です。

表示されない場合は

DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。**[登録の修正]**をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。

- 19** インターネットへアクセスできることを確認したら、他のパソコンを起動する。

これで、専用線接続の設定は完了です。

ルータを正しく認識しないときは

パソコンのIPアドレスをリセットしてください。詳しくは、「IPアドレスをリセットする」(198ページ)をご覧ください。

◆ 使用できるIPアドレスについて

プロバイダから割り当てられたIPアドレスのうち、最初の番号はネットワークアドレス、最後の番号はブロードキャストアドレスに割り当てられる規則になっているため、使うことができません。

例えば、「172.16.128.112/28」のIPアドレスを割り当てられた場合、割り当てられた番号は「172.16.128.112」～「172.16.128.127」の16個ですが、

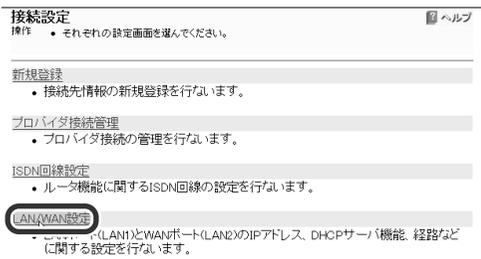
172.16.128.112=ネットワークアドレス
172.16.128.113
:
172.16.128.126
172.16.128.127=ブロードキャストアドレス

になりますので、実際にルータやパソコンに割り当てられる番号は、「172.16.128.113」～「172.16.128.126」の14個となります。

9

ルータを使います

6 [LAN/WAN設定]をクリックする。



7 以下の設定を行ってから、[登録]をクリックする。

- [LANポート(LAN1)のIPアドレス設定]の[セカンダリ・IPアドレス]:現在[プライマリ・IPアドレス]に設定されているプライベートIPアドレスとネットマスク(工場出荷時は192.168.0.1/24)を入力する。
- [プライマリ・IPアドレス]:プロバイダから割り当てられたIPアドレスの中から、ルータに設定するIPアドレスとネットマスクを入力する。

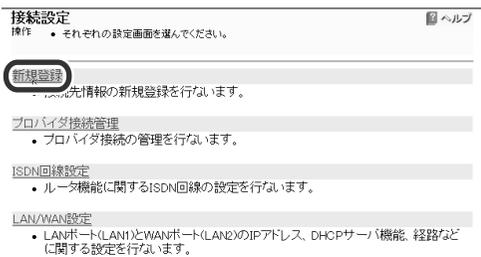


※ヒント

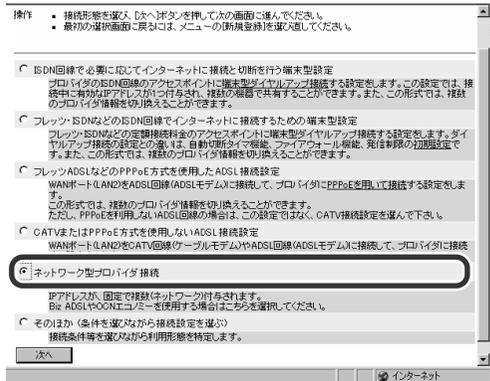
LAN側をプライベートアドレスで利用する場合は、LANポートのIPアドレスの設定を変更する必要はありません。

8 [接続設定]をクリックする。

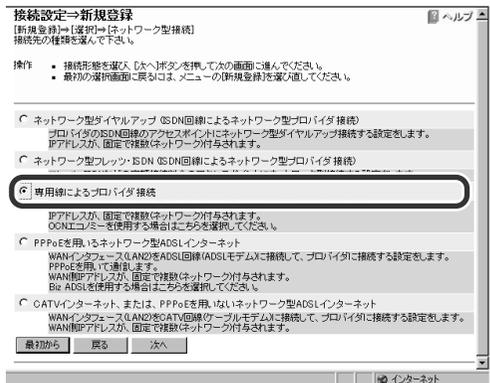
9 [新規登録]をクリックする。



10 [ネットワーク型プロバイダ接続]を選んだから、[次へ]をクリックする。

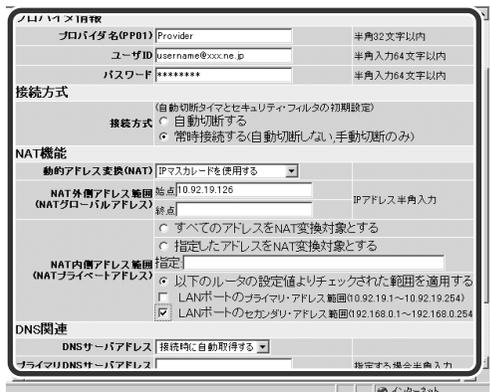


11 [PPPoEを用いるネットワーク型ADSLインターネット]を選んだから、[次へ]をクリックする。



設定入力画面が表示されます。

12 プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。



9

ルータを使いこなす

プロバイダ名

接続先のわかるような名前を入力します。

回線の種類 契約した回線の種類を選びます。

- **64kbit/s:** デジタルアクセス64などの場合を選びます。
- **128kbit/s:** OCNエコノミーやデジタルアクセス128などの場合を選びます。

動的アドレス変換(NAT)

回線側とLAN側のアドレス変換方法を選びます。

- **NATを使用する:** 回線側とLAN側のアドレスを1対1で変換する場合を選びます。
- **IPマスカレードを使用する:** 回線側とLAN側のアドレスを1対多で変換する場合を選びます。
- **NATとIPマスカレードを併用する:** LAN側の機器にグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスを混在して設定する場合を選びます。
- **使用しない:** アドレス変換機能を使用しない場合を選びます。

NAT外側アドレス範囲

回線側に割り当てる共用グローバルIPアドレスを入力します。

NAT内側アドレス範囲

アドレス変換を行うプライベートIPアドレスの範囲を入力します。

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:** プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合を選びます。
- **接続時に自動取得する:** プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合を選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

ドメイン名 ドメイン名が指定されている場合に入力します(省略できます)。

13 入力が終わったら、[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。

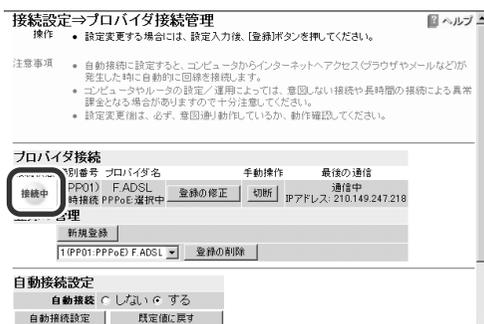
ご注意

インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。詳しくは「第8章 ファイアウォール機能を使う」(112ページ)をご覧ください。

14 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

15 登録したプロバイダの[接続]をクリックして、手動接続してみる。

本機のWAN LINKランプが点灯して左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。



接続できない場合は

ユーザIDやパスワードの設定が間違っている可能性があります。

[登録の修正]をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しなが設定内容を確認したり、パスワードの大文字/小文字や全角/半角に注意して入力し直してから、もう1度手動接続を行ってください。

16 ページ左上の[ネットボランチホームページ]をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されます。

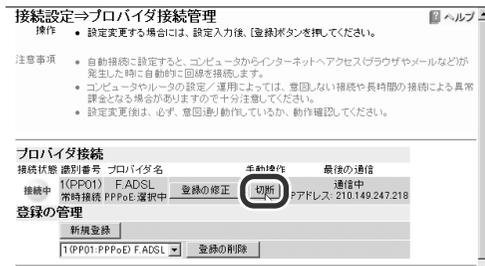
表示されない場合は

DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

[切断]をクリックしていったん接続を切断してから、[登録の修正]をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。

17 接続できることを確認できたら、Webブラウザの[戻る]をクリックして「プロバイダ接続管理」画面に戻る。

接続方式で[自動切断する]を選んでいる場合は、登録したプロバイダの[切断]をクリックして手動切断してください。

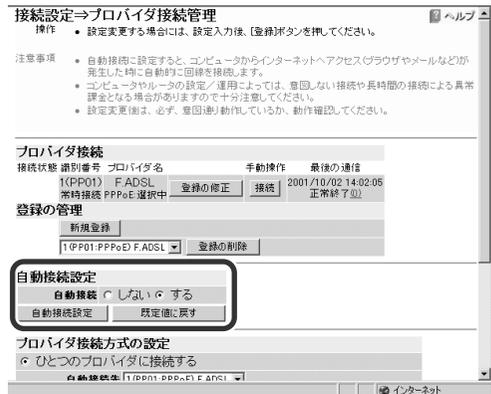


接続方法で[自動切断する]を設定した場合は手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

※ヒント

フレッツ・ADSLは定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。

18 [自動接続設定]が[する]になっていて、[自動接続先]に登録したプロバイダが選ばれていることを確認する。



これで、PPPoEネットワーク型ADSLの接続設定は完了です。

ルータを正しく認識しないときは

パソコンのIPアドレスをリセットしてください。詳しくは、「IPアドレスをリセットする」(198ページ)をご覧ください。

◆ 使用できるIPアドレスについて

プロバイダから割り当てられたIPアドレスのうち、始めの番号はネットワークアドレス、最後の番号はブロードキャストアドレスに割り当てられる規則になっているため、使うことができません。

例えば、「172.16.128.112/28」のIPアドレスを割り当てられた場合、割り当てられた番号は「172.16.128.112」～「172.16.128.127」の16個ですが、

172.16.128.112=ネットワークアドレス
172.16.128.113
:
172.16.128.126
172.16.128.127=ブロードキャストアドレス

になりますので、実際にルータやパソコンに割り当てられる番号は、「172.16.128.113」～「172.16.128.126」の14個となります。

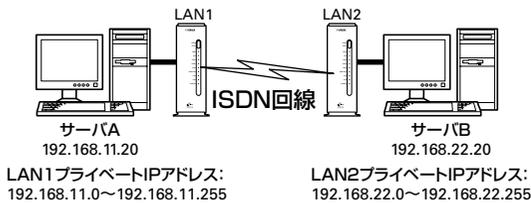
9

ルータを使いこなす

LANとLANを接続する (ISDN)

本機のようなダイヤルアップルータが接続されているLANどうしを、ISDN回線経由で接続できます(LAN間接続)。ダイヤルアップでLANどうしを接続すると、離れた場所にある相手側のパソコンでも、自分のLAN上にあるパソコンと同じようにアクセスできます。

ダイヤルアップルータを使うと必要なときだけ接続することができるので、専用線を使った場合と比較して、大幅な低コストでLAN間接続を実現できます。なお、本機のLAN間接続機能は、TCP/IPプロトコルのサーバソフトウェアに対応しています。



9

ルータを使いこなす

ご注意

- 同じネットワークアドレスを設定しているLANどうしのLAN間接続はできません。あらかじめ、どちらかのネットワークアドレスを変更してください。
- LAN間接続を利用するときは、データを保全するために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定が不十分の場合は、双方のLANに接続されたパソコンが不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などにあう可能性があります。
- 本機のLAN間接続は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを使用するか、またはWindowsNTサーバを用意する必要があります。
- MacOS8.1以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。なお、MacOS9の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]にチェックを付けることで、AppleShare IPサーバなしでファイル共有できます。

◆ LAN間接続に必要な設定

LANとLANを接続するときは、お互いのルータやパソコンに次のような設定が必要です。

ルータに必要な設定

- プライベートIPアドレスの設定(着信側/受信側)
- 接続相手の登録(着信側/受信側)

サーバまたはパソコンに必要な設定

- 固定プライベートIPアドレスの設定
- ファイルサーバソフトの設定とユーザ登録

ここでは、次の条件で設定する場合を例に説明します。

自分側(LAN1)

- 回線の電話番号:03-1111-2001
- プライベートIPアドレス:
192.168.11.0~192.168.11.255
- ネットマスク:255.255.255.0(24ビット)
- ルータIPアドレス:192.168.11.1

相手側(LAN2)

- 回線の電話番号:06-2222-0002
- プライベートIPアドレス:
192.168.22.0~192.168.22.255
- ネットマスク:255.255.255.0(24ビット)
- ルータIPアドレス:192.168.22.1

TCP/IPプロトコルのファイル共有設定例

◆ プライベートIPアドレスを設定する

LAN間接続を行う場合は、それぞれのLAN内の機器のプライベートIPアドレスを重複しないように設定する必要があります。お互いの担当でプライベートIPアドレスを決めて、ルータのIPアドレス設定を変更してください。設定方法については、「本機のIPアドレスを変更する」(138ページ)をご覧ください。

ご注意

お互いのルータを工場出荷値のまま使っている場合は、必ず一方または双方のIPアドレス設定を変更してください。

◆ パソコンのIPアドレスを設定する

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法については、「IPアドレスを変更する」(194ページ)をご覧ください。

◆ ファイルサーバソフトの設定を変更する

公開するサーバまたはパソコンにファイルサーバソフトをインストールし、公開するフォルダやユーザID、パスワードを設定します。設定の方法については、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

◆ 接続相手を登録する

発信側と着信側の両方のルータには、自分のISDN回線番号と接続相手の電話番号、ネットワークアドレスを設定します。接続相手の登録は、「かんたん設定ページ」の「接続設定」画面で行います。ここでは、ISDN回線経由の場合を例に説明します。

ご注意

LAN間接続は、ISDNの設定と専用線の設定を併用することはできません。切り替えるときは、いずれの場合もLAN間接続設定をすべて削除してから行ってください。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

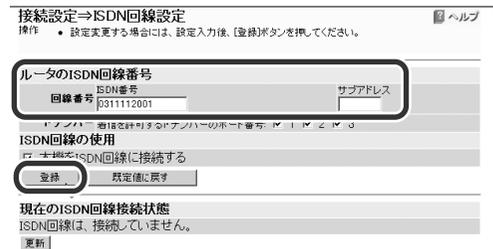
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。 「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [ISDN回線設定]をクリックする。

5 本機のISDN回線番号およびサブアドレスを入力してから、[登録]をクリックする。

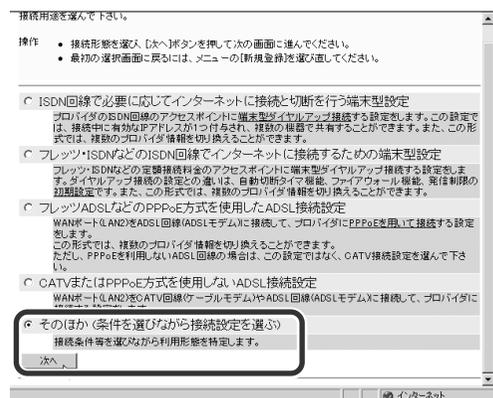
LAN間接続の場合は、ルータの着信に長いサブアドレスを設定して、特定のダイヤルアップ元以外からのアクセスを排除できます。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみ場合がありますので、ご注意ください。



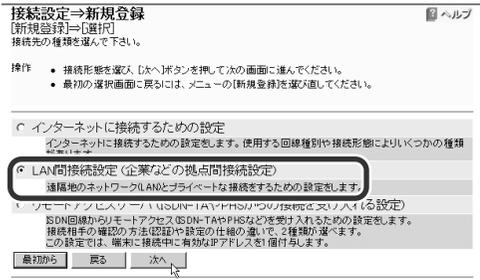
6 [接続設定]をクリックする。

7 [新規登録]をクリックする。

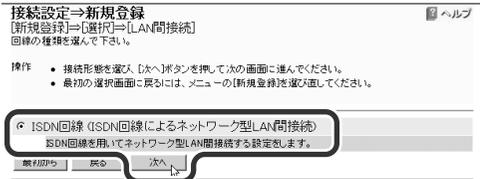
8 [そのほか]を選んでから、[次へ]をクリックする。



9 [LAN間接続設定(企業などの拠点間接続設定)]を選んでから、[次へ]をクリックする。



10 回線の種類を選んでから、[次へ]をクリックする。



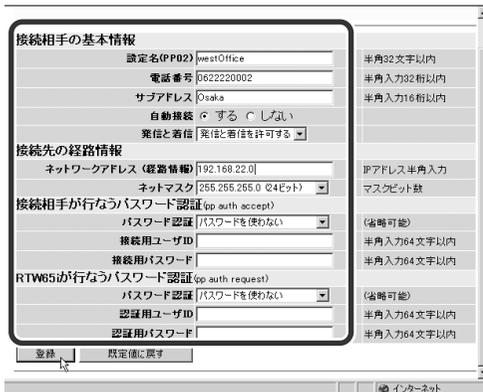
ISDN回線 ISDN回線でダイヤルアップ接続する
場合に選びます。

専用線 専用線で接続する場合に選びます。

ご注意

すでにISDN回線を使ったプロバイダ接続が登録されている場合は、[専用線]は表示されません。

11 接続先名と、接続相手側の電話番号およびサブアドレス、ネットワークアドレス、経路情報を入力する。



設定名 接続先名を入力します。

電話番号/サブアドレス

LAN間接続の場合は、発信者番号を確認してから接続するので、両方のルータに自分のISDN回線番号と接続相手の電話番号を設定してください。また、長いサブアドレスを設定しておくことで、特定のダイヤルアップ元以外からのアクセスを排除できるため、不特定の相手からのアクセスに対するセキュリティとしても有効です。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご注意ください。

自動接続 接続相手へ自動的に接続するかを設定します。

発信と着信 動作制限を設定します。

- **発信と着信を許可する:** 双方からの接続を許可します。
- **着信を許可する:** 相手からの着信のみを許可し、発信は禁止します。

ネットワークアドレス

接続相手のネットワークアドレスを設定します。双方でネットワークアドレスが重複している場合は、どちらかのネットワークアドレスを変更してください。

ネットマスク

接続相手のネットマスクを設定します。

パスワード認証

設定した場合は、両方でパスワード認証形式を合わせてください。

ユーザID ユーザIDを設定することもできます。

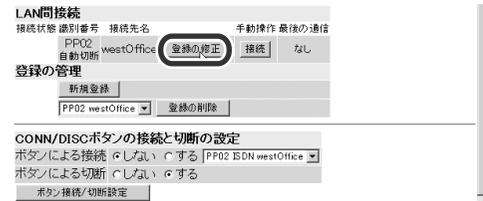
パスワード パスワードを設定することもできます。設定した場合は、両方でパスワード認証形式を合わせてください。LAN間接続の場合は、特定の発信者番号しか着信できないので、パスワードを特に設定する必要はありません。

9 ルータを使いこなす

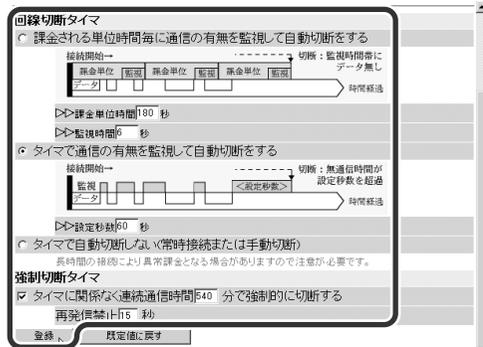
12 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、接続相手が登録され、「接続設定」画面に戻ります。

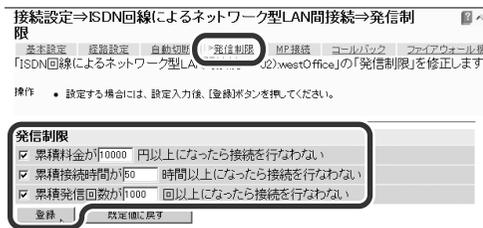
13 接続条件を設定したい場合は[LAN間接続管理]をクリックしてから、登録した接続相手の[登録の修正]をクリックする。



14 自動切断の条件を設定したい場合は[自動切断]をクリックしてから、回線切断の条件を設定して[登録]をクリックする。



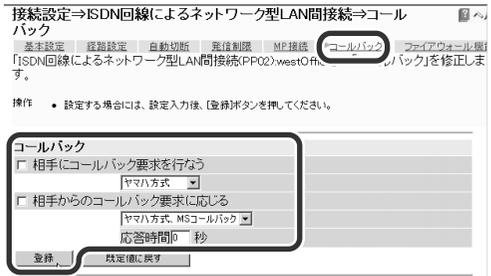
15 自動接続を制限したい場合は[発信制限]をクリックしてから、発信制限の条件を設定して[登録]をクリックする。



ご注意

- 接続相手の新規登録を行うと、自動的に発信制限が累積料金1万円、累積通信時間50時間、累積発信回数1000回に設定されます。また連続接続時間も9時間に制限されるように設定されます。
- 制限に達して接続できなくなったときは、「料金設定」画面で接続相手の累積料金をリセットしてください。ひんぱんに接続できなくなる場合は、発信制限の数値を見直してください。

16 コールバックを設定したい場合は[コールバック]をクリックしてから、コールバックの方式や電話番号を設定して[登録]をクリックする。



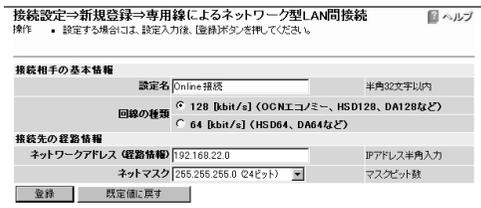
専用線のLAN間接続例

専用線の場合は、回線の種類と本機のネットワークアドレス、接続相手のネットワークアドレスを設定します。

- 「接続設定」の「LAN/WAN設定」画面



- 「新規登録」の「専用線によるネットワーク型LAN間接続」画面



ヒント

接続相手側のDHCPサーバを利用することもできます。その場合は、「かんたん設定ページ」の「システム管理」→「LAN側設定」画面で、「DHCPサーバ機能を使用する」のチェックを外してください。

◆ 接続する

相手側のLANへ接続するときには、「かんたん設定ページ」の「手動接続と切断」画面で手動接続します。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

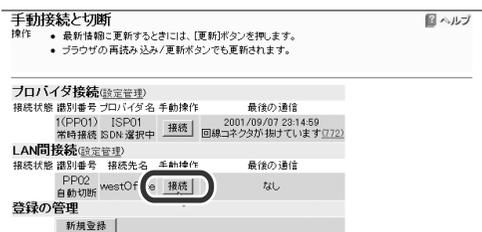
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

本機に内蔵の「トップ」画面が表示されます。

3 [手動接続と切断]をクリックする。

4 接続相手名の[接続]をクリックする。

LANとLANが接続され、相手のLAN上のパソコンにアクセスできるようになります。



5 切断するときには、[切断]をクリックする。

◆ ご注意

- 接続相手の新規登録を行うと、自動的に発信制限が累積料金1万円、累積通信時間50時間、累積発信回数1000回に設定されます。また連続接続時間79時間に制限されるように設定されます(131ページ)。
- 制限に達して接続できなくなったときは、「料金設定」画面で接続相手の累積料金をリセットしてください。ひんぱんに接続できなくなる場合は、発信制限の数値を見直してください。

Windows 95/98/Meにおける
ファイル共有設定例

Windowsの標準ネットワークプロトコルはNetBEUIですので、そのままではLAN間接続を利用したファイル共有はできません。TCP/IPプロトコルの設定に加えてNetBIOS over TCP/IPの設定を行うことで、LAN間接続(TCP/IPプロトコル経由)時にファイル共有ができるようになります。

◆ 必要な設定

- Lmhostsファイルを作成する(下の説明)
- ネットワークのファイル共有設定を変更する(155ページ)
- 各フォルダ/ドライブの共有設定を変更する(156ページ)
- 本機のフィルタ設定を変更する(156ページ)

◆ Lmhostsファイルを作成する

Lmhostファイルは、接続先LAN内のパソコン名とプライベートIPアドレスを関連付けるためのファイルです。このファイルを起動ドライブ(通常はCドライブ)内の「Windows」フォルダに保存しておく、接続時にこのファイルを自動的に参照するので、相手のLANにアクセスできるようになります。

1 [メモ帳]などのテキスト編集ソフトで、下図のように接続先LAN内でアクセスしたいパソコンのプライベートIPアドレスとパソコン名称を入力する。

パソコンの名称に空白が含まれている場合は、ダブルコーテーション(“ ”)で囲んで入力します。



パソコンの名称がわからないときは

相手先パソコンの[コントロールパネル]の[ネットワーク]をダブルクリックして、[識別情報](Windows95の場合は[ユーザ情報])を確認してください。

2 手順1で作成したファイルを、起動ドライブの「Windows」フォルダ内へ「Lmhosts」というファイル名で保存する。

保存したファイルに拡張子がついている場合は、ファイル名を「Lmhosts」（拡張子なし）に修正してください。

3 パソコンを再起動します。

4 双方のLAN上のパソコンにそれぞれ相手のパソコン名を入力した「Lmhosts」ファイルを起動ドライブの「Windows」フォルダ内へ保存して、パソコンを再起動する。

◆ ネットワークのファイル共有設定を変更する

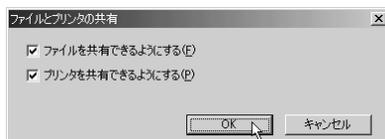
Windowsでファイルを共有するときは、[コントロールパネル]の[ネットワーク]に[Microsoftファイル共有サービス]を追加し、[ファイルとプリンタの共有]を設定します。

1 [マイコンピュータ]の[コントロールパネル]の[ネットワーク]を開いてから、リストの中に[Microsoftネットワーク共有サービス]があるか確認する。

ない場合は[追加]をクリックして、[サービス]の[Microsoftファイル共有サービス]を追加してください。



2 [ファイルとプリンタの共有]をクリックして、[ファイルを共有できるようにする]と[プリンタを共有できるようにする]にチェックを付けてから、[OK]をクリックする。



3 [識別情報] (Windows95の場合は[ユーザ情報])を開き、パソコンの名称が相手側のLmhostsに登録されている名称と合っていることを確認する。

◆ 各フォルダ／ドライブの共有設定を変更する

Windowsの場合は、公開するフォルダまたはドライブの共有設定を変更します。ここでは、「マイドキュメント」フォルダ内の「PublicFolder」フォルダを公開する場合を例にして説明します。

- 共有したいフォルダをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[共有]を選ぶ。



- [共有]タブをクリックして[共有する]を選んでから、アクセスの種類やパスワードを入力して[OK]をクリックする。

フォルダアイコンに手のマークが付いた状態が、アクセスが許可されているフォルダです。同様の操作で、ドライブを共有することもできます。



◆ 本機のフィルタ設定を変更する

意図しない接続や課金を防ぐために、NetBIOSに対するフィルタが本機には設定されています。LAN間接続でWindowsのファイル共有を行う場合は、以下の手順でポート番号139の設定を変更する必要があります。

- Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。

- [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

- [付加機能]をクリックする。

- [ファイアウォール機能]をクリックする。

- 「静的フィルタ」の[適用]－[入]で4、5番のチェックを外してから、[適用]をクリックする。

番号	適用	タイプ	ログ	プロトコル	送信元 IPアドレス	ポート	受信先 IPアドレス	ポート	メモ
0	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	135	*	*	Windows: DCE RPC
1	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	135	Windows: DCE RPC
2	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	137-138	*	*	Windows: NetBDS (NS)
3	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	137-138	Windows: NetBDS (NS)
4	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	139	*	*	Windows: NetBDS (S)
5	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	139	Windows: NetBDS (S)
6	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	445	*	*	Windows: Direct Hostin
7	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp,tcp	*	*	*	445	Windows: Direct Hostin
8	<input type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	192.168.22.0/24	*	*
99	<input type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	pass all

静的フィルタの一覧

動的フィルタの一覧
登録されていません。

静的フィルタと動的フィルタの適用
適用 チェックされている静的フィルタと動的フィルタの定義を適用する

動的フィルタ用アクセス制御ルールの一覧
登録されていません。

静的フィルタの設定

ご注意

フィルタ変更後は、意図しない接続や課金がないか、「料金／通信記録」画面などでときどきチェックしてください。

◆ アクセスのしかた

相手先LANのWindowsパソコンにアクセスするときは、ルータのLAN間接続で相手のLANに接続した後、[スタート]ボタンの[検索]でパソコンを指定します。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[検索]—[ほかのコンピュータ]をクリックする。

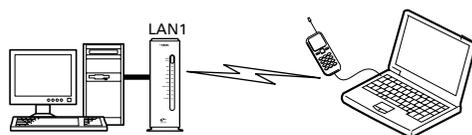
2 Lmhostsに登録したパソコンの名称を入力してから、[検索開始]をクリックする。

指定したパソコンがリストに表示されます。

3 リストに表示されたパソコンの名称をダブルクリックする。

相手がファイル共有を設定しているフォルダまたはドライブが表示され、アクセスできるようになります。

本機はPIAFS通信に対応しているため、外出先からPHSやTAを使ってLAN上のパソコンへアクセスできます(対応プロトコルはTCP/IPのみです)。リモートアクセスをするときは、本機にリモートアクセスユーザのユーザIDやパスワードを登録し、リモートのパソコンにはダイヤルアップ接続の設定を行います。



サーバA
192.168.11.20
LAN1プライベートIPアドレス:
192.168.11.0~192.168.11.255

※ヒント

本機のPIAFS通信機能は、PIAFS ver1.0/2.0/2.1に対応しています。PHSのデータ通信に対応したPHSモデムカードや通信アダプタをつけたPHS電話機から、32kbit/sまたは64kbit/sでアクセスできます。

ご注意

- リモートアクセスを利用するときは、データを保全するために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定が不十分の場合は、双方のLANに接続されたパソコンが不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などにあう可能性があります。
- 携帯電話から、PIAFS通信機能でリモートアクセスすることはできません。
- 本機のリモートアクセス機能は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを使用するか、またはWindowsNTサーバを用意する必要があります。
- MacOS8.1以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。なお、MacOS9の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]にチェックを付けることで、AppleShare IPサーバなしでファイル共有できます。

◆ 必要な設定

リモートアクセスするときには、ルータやパソコンに次のような設定が必要です。

ルータの設定

接続相手を登録する

LAN内サーバまたはパソコンに必要な設定

- 固定プライベートIPアドレスの設定(161ページ)
- ファイルサーバソフトの設定とユーザ登録(161ページ)

リモートアクセスするパソコンの設定

ダイヤルアップ接続設定(161ページ)

接続相手を登録する

リモートアクセス設定は、「かんたん設定ページ」の[システム管理]で行います。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [ISDN回線設定]をクリックする。

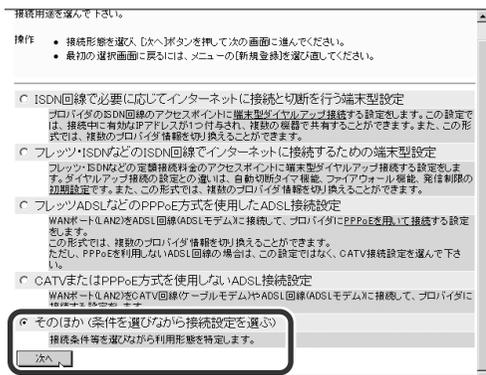
5 本機のISDN回線番号およびサブアドレスを入力してから、[登録]をクリックする。

リモートアクセス接続の場合は、ルータの着信に長いサブアドレスを設定して、特定のダイヤルアップ元以外からのアクセスを排除できます。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご注意ください。

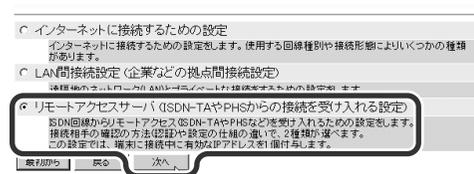
6 [接続設定]をクリックする。

7 [新規登録]をクリックする。

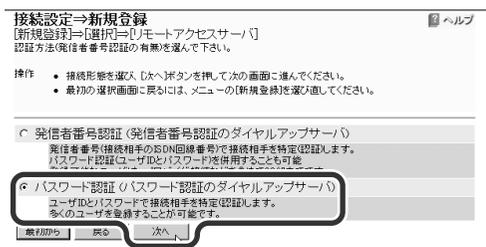
8 [そのほか]を選んでから、[次へ]をクリックする。



9 [リモートアクセスサーバ(ISDN-TAやPHSからの接続を受け入れる設定)]を選んでから、[次へ]をクリックする。



10 認証方法を選んでから、[次へ]をクリックする。



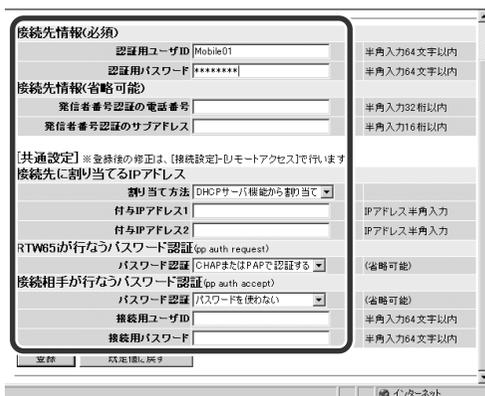
発信者番号認証

発信者のISDN回線番号やPHS番号で認証します。特定の回線からしかアクセスできないので、比較的安全です。

パスワード認証

ユーザIDとパスワードで認証を行います。

11 接続相手側の電話番号およびサブアドレス、ユーザID、パスワードを入力する。



認証用ユーザID

パスワード認証の場合は、ユーザIDを入力します。

認証用パスワード

パスワード認証の場合は、パスワードを入力します。

発信者番号認証の電話番号

発信者番号認証の場合は、相手の電話番号を入力します。

発信者番号認証のサブアドレス

発信者番号を確認してから接続するので、両方のルータに自分のISDN回線番号と接続相手の電話番号を設定してください。また、長いサブアドレスを設定しておくことで、特定のダイヤルアップ元以外からのアクセスを排除できるため、不特定の相手からのアクセスに対するセキュリティとしても有効です。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご注意ください。なお、64kbit/sのPIAFS接続では、接続方式識別用の特別なサブアドレスが使用されるため、サブアドレスを使用することはできません。

9

ルータを使いこなす

IPアドレスの割り当て方法

接続相手がリモートアクセスの場合、[接続相手の端末にIPアドレスを付与する設定]にチェックを付けて、接続相手に割り当てる方法を設定します。通常は[DHCPサーバから割り当てる]を選びます。割り当てるIPアドレスを固定したいときは、[IPアドレスを指定する]を選んでから、IPアドレスを入力してください。

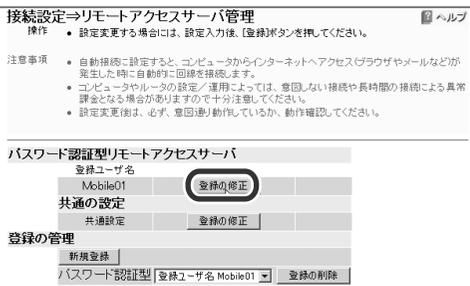
パスワード認証

パスワード設定した場合は、両方でパスワード認証形式を合わせます。

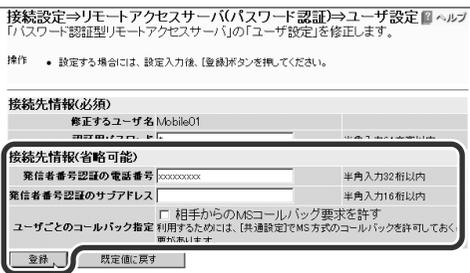
12 画面下の[登録]をクリックする。

接続相手が登録され、「接続設定」画面に戻ります。

13 接続条件を設定したい場合は、[リモートアクセスサーバ管理]をクリックしてから、登録した接続相手の[登録の修正]をクリックする。



14 コールバックの方式や相手の電話番号を設定してから、[登録]をクリックする。

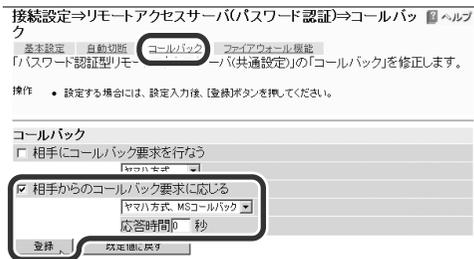


メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

15 [接続設定]をクリックする。

16 [リモートアクセスサーバ管理]をクリックしてから、[共通設定]の[登録の修正]をクリックする。

17 [コールバック]をクリックしてから、[相手からのコールバック要求に応じる]を選んで、[登録]をクリックする。



LAN内のサーバやパソコンを設定する

リモートアクセスするには、LAN内のサーバやパソコンにTCP/IPプロトコルでアクセスできるようにするための設定が必要です。

ご注意

- 本機のリモートアクセス機能は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを使用するか、またはWindowsNTサーバを用意する必要があります。
- MacOS8.1以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。なお、MacOS9の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]にチェックを付けることで、AppleShare IPサーバなしでファイル共有できます。

サーバやパソコンのIPアドレスを設定する

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法については、「IPアドレスを変更する」(194ページ)をご覧ください。

ファイルサーバソフトの設定を変更する

公開するサーバまたはパソコンにファイルサーバソフトやネットワーク共有を設定して、公開するフォルダやユーザID、パスワードを設定します。TCP/IPおよびNetBIOS over TCP/IPの設定例については、「LANとLANを接続する」(150ページ)をご覧ください。

リモートアクセスするパソコンの設定を変更する

◆ Windows95/98/Meの場合

Windows 95/98/Meの場合は、ネットワーク機能の設定とダイヤルアップネットワークの設定を行います。

1 [マイコンピュータ]を開き、[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがあるかどうか確認する。

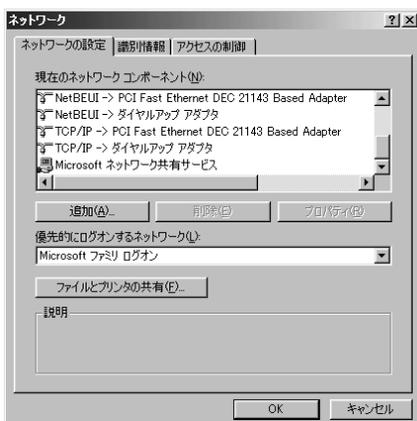
Windows Meの場合は、[ダイヤルアップネットワーク]フォルダは[コントロールパネル]にあります。



[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがない場合は

[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windowsファイル]タブの[通信] - [ダイヤルアップネットワーク]にチェックを付けて、WindowsのインストールCD-ROMから追加インストールしてください。

2 [コントロールパネル]の[ネットワーク]を開き、リストに「TCP/IP ->ダイヤルアップアダプタ」があるかどうか確認する。

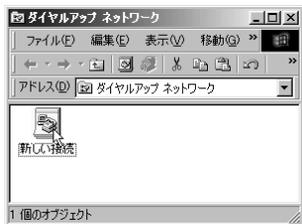


「TCP/IP→ダイヤルアップアダプタ」がない場合は
[追加]をクリックして、[プロトコル]の追加で
[Microsoft]の[TCP/IP]を追加します。リスト
にTCP/IPが表示されたら、「ネットワーク」
ウィンドウを閉じます。

3 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックする。

Windows Meの場合は、[コントロールパネル]
の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルク
リックします。

4 [新しい接続]アイコンをダブルクリックする。 「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面 が表示された場合は、[次へ]をクリックします。 「所在地情報」画面が表示された場合は、市外局 番を入力してください。



5 接続名とモデム名を入力してから、[次へ]をクリックする。

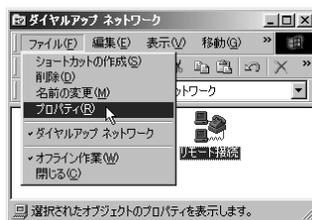


6 本機の電話番号とサブアドレスを入力して[次へ]をクリックしてから、[完了]をクリックする。

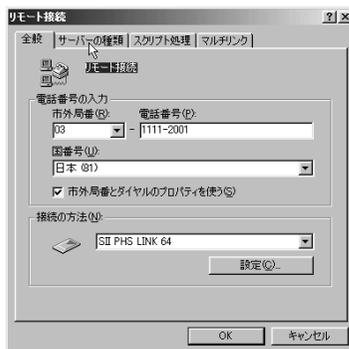


「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に、
登録したプロバイダ名のアイコンが表示されま
す。

7 新しく作成したアイコンをクリックして選ん でから、[ファイル]メニューから[プロパ ティ]を選ぶ。

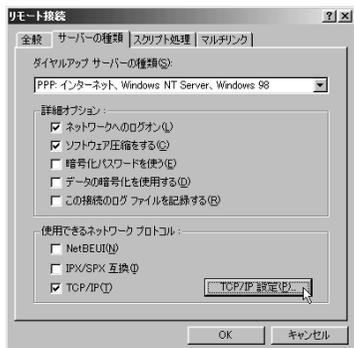


8 [サーバーの種類]タブをクリックする。



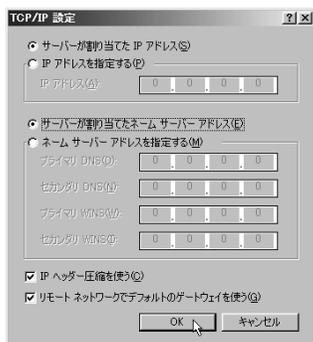
9 以下のように設定を変更してから、[TCP/IP 設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮をする]:チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の [NetBEUI]、[IPX/SPX互換]:チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の [TCP/IP]:チェックを付ける。



10 [サーバが割り当てた名前サーバーアドレス]を選んでから各ウィンドウの[OK]をクリックして、ウィンドウを閉じます。

LAN内のDNSサーバーIPアドレスが指定されている場合は、[名前サーバーアドレスを指定する]を選び、指定されたIPアドレスを入力してください。



これで、リモートアクセス接続の設定が完了しました。

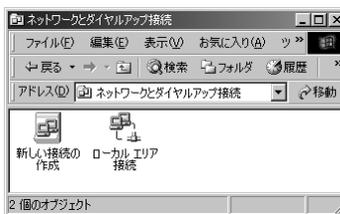
◆ Windows 2000の場合

Windows 2000の場合は、ネットワーク機能の設定とダイヤルアップネットワークの設定を行います。

1 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



2 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。



3 [次へ]をクリックする。

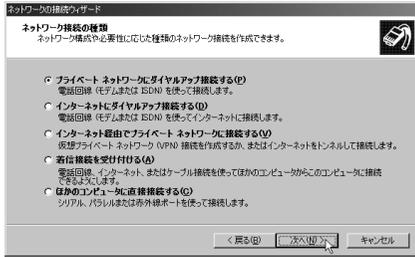


9

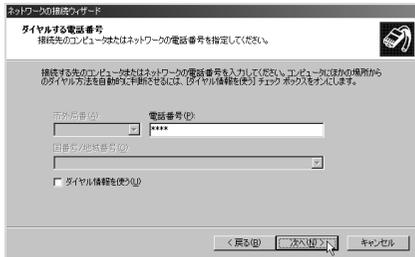
ルータを使いません

外出先からリモートアクセスする

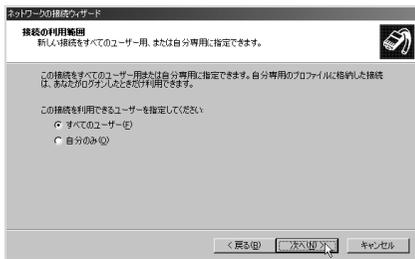
4 [プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



5 本機の電話番号とサブアドレスを入力してから、[次へ]をクリックする。



6 [すべてのユーザー]を選んでから、[次へ]をクリックする。



7 [接続名]に「リモート接続」と入力してから、[完了]をクリックする。



8 [リモート接続]アイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。

9 [ネットワーク]タブをクリックする。



10 以下のように設定してから、[OK]をクリックする。

- [インターネットプロトコル(TCP/IP)]: チェックを付ける。
- [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]: チェックを外す。
- [Microsoftネットワーク用クライアント]: チェックを外す。



9 ルータを使いなす

◆ Macintoshの場合

Macintoshでは、ネットワーク機能の設定とリモートアクセス(PPP)の設定を行います。ここではMacOS 9.0の画面を例に説明しています。

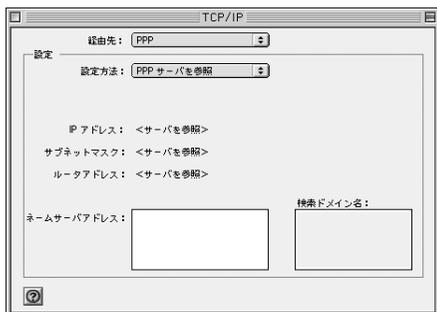
ご注意

MacOS8.1以前でアップルリモートアクセスをインストールしていない場合は、「PPP」コントロールパネルを開いてください。設定操作は「リモートアクセス」と同じです。

1 アップルメニューから[コントロールパネル] - [TCP/IP]を選び、[経路先]を「PPP」、[設定方法]を「PPPサーバを参照」に設定する。

LAN内のDNSサーバが指定されている場合は、「ネームサーバアドレス」欄に指定されたIPアドレスを入力してください。

設定が終わったら[ファイル]メニューから[終了]を選び、「TCP/IP」コントロールパネルを閉じます。



2 アップルメニューから[コントロールパネル] - [モデム]を選び、[経路先]と[モデム]を設定する。



設定が終わったら[ファイル]メニューから[終了]を選び、「モデム」コントロールパネルを閉じます。

3 アップルメニューから[コントロールパネル] - [リモートアクセス]を選び、本機に設定したユーザIDとパスワード、本機の電話番号とサブアドレスを設定する。



設定が終わったら[ファイル]メニューから[終了]を選び、「リモートアクセス」コントロールパネルを閉じます。

ご注意

[パスワードを保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

9

ルータを使いこなす

本機へアクセスする

◆ Windows95/98/Me/2000/XPの場合

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、本機のアイコンをダブルクリックする。



- 2 [接続]をクリックする。

パスワードを保存していない場合は、パスワードを入力します。



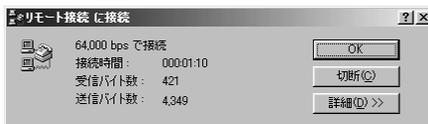
本機へのダイヤルアップをはじめます。

接続すると、「ダイヤルアップネットワーク(プロバイダ名)」画面が表示され、接続速度と接続時間が表示されます。

ご注意

[パスワードの保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 目的に応じたソフトウェアを使って、LAN内のパソコンのIPアドレスを指定して作業を行う。
- 4 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。



本機との接続が切れます。

外部にサーバを公開する

◆ Macintoshの場合

1 アップルメニューから[コントロールパネル]→[リモートアクセス]を選ぶ。

「リモートアクセス」画面が表示されます。

2 [接続]をクリックする。

パスワードを保存していないときは、パスワードを入力します。



本機へのダイヤルアップをはじめます。

接続すると、接続時間や転送状況を示すバーが表示されます。

ご注意

[パスワードを保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

3 目的に応じたソフトウェアを使って、LAN内のパソコンのIPアドレスを指定して作業を行う。

4 接続を切るときは、「リモートアクセス」画面の[接続を切る]をクリックする。

本機との接続が切れます。

専用線接続でインターネットへサーバを公開したい場合は、公開したいサーバに固定プライベートIPアドレスを設定してから、静的IPマスカレードを使用してサーバのIPアドレスとグローバルIPアドレスの関連付けを設定します。

このあとに本機にLAN外からのアクセスを許可するフィルタを設定することで、インターネットからアクセスすることができるようになります。

ご注意

LANの外部にサーバを公開するときは、データを保全するために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定が不十分の場合は、双方のLANに接続されたパソコンが不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などにあう可能性があります。

◆ 必要な設定

サーバを公開するためには、次の設定が必要です。

ルータの設定

- 静的IPマスカレードの設定を変更する(168ページ)
- アクセスを許可する設定に変更する(169ページ)

サーバの設定

- パソコンのIPアドレスを設定する(169ページ)
- ファイルサーバソフトの設定を変更する(169ページ)

9

ルータを使いこなす

静的IPマスカレードの設定を変更する

サーバに設定した固定プライベートIPアドレスとサーバに割り当てたグローバルIPアドレスの関連づけを設定します。これにより、インターネット側からサーバのアドレスを指定することができるようになります。ここでは、LAN内のサーバ(192.168.11.20)にグローバルIPアドレス(10.40.33.114)を割り当てる例を説明します。静的NATの設定は、「かんたん設定ページ」の「ネットワーク型プロバイダ接続」画面で行います。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

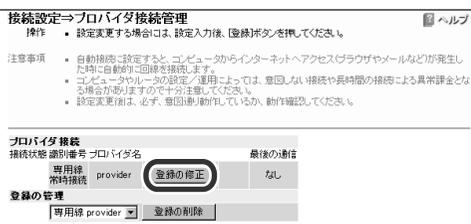
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

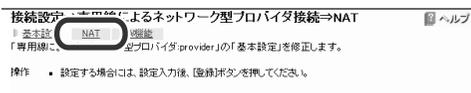
3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

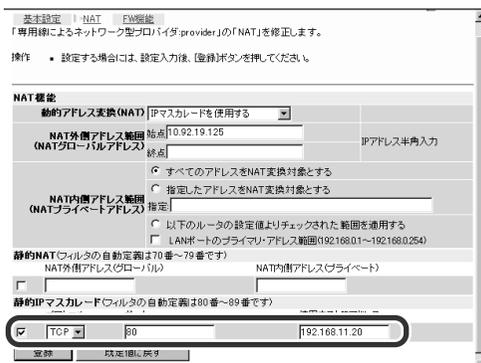
5 接続先の[登録の修正]をクリックする。



6 [NAT]をクリックする。



7 [静的IPマスカレード]をチェックしてから、入力欄にプロトコルとポート番号、公開するサーバのプライベートIPアドレスを入力する。



8 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

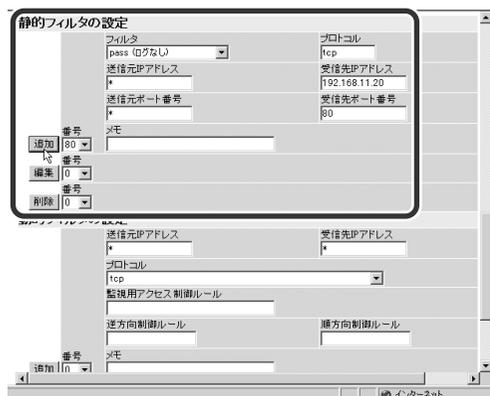
アクセスを許可する設定に変更する

着信側のLANでは、アクセスを許可するサーバのプライベートIPアドレスや通信プロトコルを設定します。その他のパソコンは、外部からアクセスすることはできないことになります。ここでは、LAN内のサーバ(192.168.11.20)へのアクセスを許可する場合を例に説明します。

- 1 168ページの手順1~2を行い、本機の「かんたん設定ページ」のトップページを開く。
- 2 [付加機能]をクリックする。
- 3 [ファイアウォール機能]をクリックする。
- 4 [静的フィルタ設定]で下記の値を入力し、[追加]をクリックする。

ポート番号などのフィルタの設定について詳しくは、「フィルタを設定する」(117ページ)をご覧ください。

Webサーバを公開する場合の入力例



ご注意

- セキュリティフィルタが適用されている場合は、フィルタ番号80番~89番にすでに静的IPマスカレード用のフィルタが自動設定されています。
- 公開する相手を限定したい場合は、始点IPアドレスに相手のIPアドレスを指定します。
- ポート番号は利用したいサーバアプリケーションが使用するプロトコルに合わせて変更してください。
- 使用できるフィルタ番号は、各接続先毎に0~99の100個です。フィルタやプロトコルなどについては詳しくは、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

- 5 [静的フィルタ設定]で追加したフィルタの[入]をチェックしてから、[適用]をクリックする。

番号	適用	入	出	タイプ	ログ	プロトコル	送信元 IP アドレス	送信元 ポート	受信先 IP アドレス	受信先 ポート	メモ
0	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp.tcp	*	135	*	*	Windows: DCE RPC
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp.tcp	*	*	*	135	Windows: DCE RPC
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp.tcp	*	137-138	*	*	Windows: NetBIOS: ONS
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp.tcp	*	*	*	137-138	Windows: NetBIOS: ONS
4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp.tcp	*	139	*	*	Windows: NetBIOS: GSS
5	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp.tcp	*	*	*	139	Windows: NetBIOS: GSS
6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp.tcp	*	445	*	*	Windows: Direct Hostin
7	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	reject	する	udp.tcp	*	*	*	445	Windows: Direct Hostin
80	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	192.168.22.0/24	*	*
81	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	tcp	*	*	192.168.11.20	80	*
82	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	pass	しない	*	*	*	*	*	pass all

動的フィルタの一覧
登録されておりません。

静的フィルタと動的フィルタの適用
[適用] チェックされている静的フィルタと動的フィルタの定義を適用する

動的フィルタ用アクセス制御ルールの一覧
登録されておりません。

パソコンのIPアドレスを設定する

外部からのアクセスを許可するサーバまたはパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法について詳しくは、「IPアドレスを変更する」(194ページ)をご覧ください。

ファイルサーバソフトの設定を変更する

公開するサーバまたはパソコンにサーバアプリケーションをインストールしてから、公開するフォルダやユーザーID、パスワードを設定します。設定の方法については、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

9

ルータを使いこなす

ネットワークゲームやICQ用に設定する

ネットワークゲームやICQなどのグローバルIPアドレスを使ったサービスは、ルータでは正しく動作しない場合があります。この場合は、本機にグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスの関連付け(静的IPマスカレード)の設定を行うことで、問題が解決する場合があります。

ご注意

以下の設定を行っても正しく動作しない場合は、LAN-TA機能で接続してください(171ページ)。

◆ 必要な設定

静的IPマスカレードを設定するためには、次の設定が必要です。

- パソコンのIPアドレスを設定する
- 静的IPマスカレードの設定を変更する

9

ルータを使いこなす

パソコンのIPアドレスを設定する

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法について詳しくは、「パソコンのIPアドレスを管理する」(193ページ)をご覧ください。

静的IPマスカレードの設定を変更する

1台のパソコンの静的マスカレードを設定する場合は、「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続設定」画面で行います。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

3 [接続設定]をクリックする。

4 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

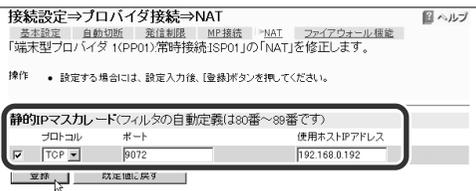
5 接続先名の右の[登録の修正]をクリックする。



6 [NAT]をクリックする。



7 [静的IPマスカレード設定]をチェックしてから、プロトコルを選んでポート番号とパソコンのIPアドレスを入力する。



ご注意

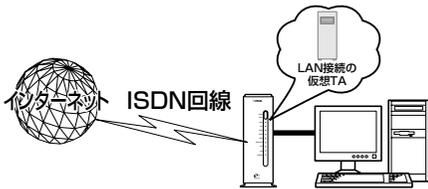
プロトコルやポート番号については、利用するソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

8 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

LAN-TA機能を使って接続する

Windows98/Me/2000/XPの「仮想プライベートネットワーク」機能を利用することで、本機を仮想TAとしてLAN上のパソコンから利用できます(LAN-TA機能)。ネットワークゲームやICQなどの、本機では正常に動作しないグローバルIPアドレスを使ったサービスも、LAN-TAを使用することで利用できるようになります。



ご注意

- LAN-TA機能は、PPTP(Point to Point Tunneling Protocol)に対応した機能のため、Windows98/Me/2000/XPでのみ利用できます。Macintoshでは利用できません。
- LAN-TA機能を利用中は、着信を受けられません。
- Windows95の場合は、「Microsoft Windows95 ダイアルアップネットワーク1.3アップグレード」でアップデートする必要があります。詳しくはMicrosoft社のホームページ(<http://www.microsoft.com/japan/windows/>)をご覧ください。
- この機能を使用中は、ISDNの1チャンネル分を占有します。すでに他のプロバイダ自動接続、TELポート、LAN-TA機能で2チャンネル分使用している場合は、接続できません。
- 2台のパソコンが同時にLAN-TAで接続している場合は、2チャンネル分を使用することになります。プロバイダによっては同一ユーザ名で複数同時接続を許可していない場合がありますので、ご注意ください。

◆ 必要な設定

LAN-TA機能で接続するときは、ルータやパソコンに次の設定が必要です。

ルータに必要な設定

LAN-TA機能を利用できるように設定する

パソコンに必要な設定

- 仮想プライベートネットワークをインストールする
- ダイヤルアップ接続の設定を変更する

本機の設定を変更する

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

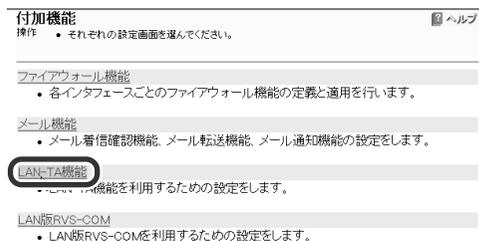
「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

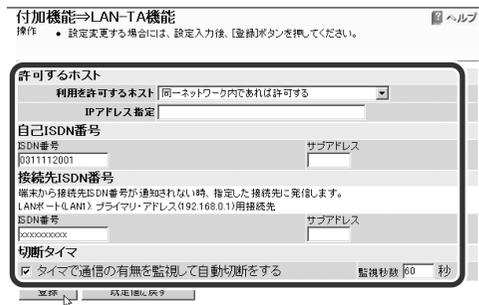
「トップ」画面が表示されます。

3 [付加機能]をクリックする。

4 [LAN-TA機能]をクリックする。



5 [利用を許可するホスト]を選んでから、接続制限や自動切断を設定する。



9

ルータを使いこなす

利用ホスト制限

LAN-TA機能の利用を許可する範囲を選びます。

自己ISDN番号

LAN-TA機能を使用する自局番号を入力します。

接続先ISDN番号

Windows Meなどで接続先をあらかじめ設定する必要がある場合に、接続先の電話番号を入力します。

切断タイマ 通信を行っていないときに、自動切断するまでの時間を設定します。

6 画面下にある[登録]をクリックする。

メッセージにしたがってボタンをクリックすると、設定が変更されます。

9

ルータを使いこなす

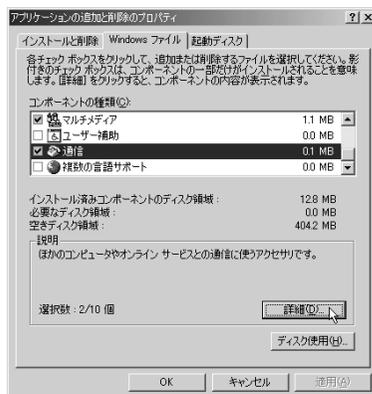
仮想プライベートネットワーク (VPN) をインストールする

本機のLAN-TA機能を使用するには、Windowsの仮想プライベートネットワークが必要です。

- **Windows95の場合は:**「Microsoft Windows95 ダイヤルアップネットワーク1.3アップグレード」を入手して、インストールしてください。手順については、アップデートに添付のマニュアルをご覧ください。
- **Windows98/Me/2000/XPでインストールされていない場合は:**以下の手順でWindowsのCD-ROM(OSインストールCD-ROM)からインストールします。作業を始める前にシステムCD-ROMをご用意ください。

1 [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windowsファイル]タブをクリックする。

インストール済みのファイルがリストに表示されます。

2 [通信]をクリックして選んでから、[詳細]をクリックする。

- 3** [仮想プライベートネットワーク]、[ダイヤルアップネットワーク]にチェックが付いていることを確認してから、[OK]をクリックする。上記以外の項目にチェックがついていても、問題はありません。



- 4** [OK]をクリックする。

追加機能がインストールされます。CD-ROMを要求するメッセージが表示された場合は、WindowsのCD-ROMをドライブにセットしてください。

- 5** インストールが終わったら、パソコンを再起動する

再起動後に、仮想プライベートネットワーク機能が使えるようになります。

パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更する

LAN-TA機能を利用する各パソコンには、ダイヤルアップネットワークにLAN-TAにアクセスするためのアイコンを作成します。

- 1** [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク]をダブルクリックしてから、[新しい接続]アイコンをダブルクリックする。



[新しい接続]アイコンがない場合には「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が表示されるので、[次へ]をクリックします。

- 2** 接続名を入力してから、[モデムの選択]から[Microsoft VPNアダプタ]を選び、[次へ]をクリックする。



- 3** 本機のIPアドレスと接続先の電話番号を半角スペース1つ空けて入力してから、[次へ]をクリックする。



9

ルータを使いこなす

ご注意

Windows Meでは、接続先の電話番号を設定できません。[かんたん設定ページ]の[付加機能]－[LAN-TA機能]画面で電話番号を指定してください。

4 接続名を確認してから、[完了]をクリックする。

「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録した仮想TA接続のアイコンが表示されます。



5 LAN-TA接続のアイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



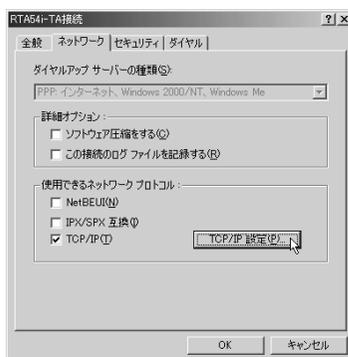
6 [ネットワーク]タブをクリックする。

Windows 98の場合は[サーバーの種類]タブをクリックします。



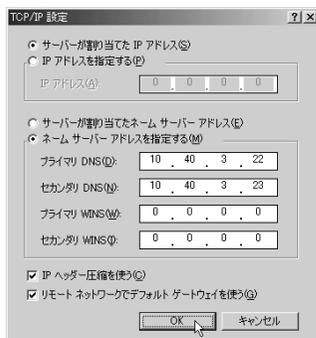
7 以下のように設定してから、[TCP/IP設定]をクリックする。

- [詳細オプション]の[ソフトウェア圧縮をする]:チェックを外す。
- [使用できるネットワーク プロトコル]の[NetBEUI]、[IPX/SPX互換]:チェックを外す。
- [TCP/IP]:チェックを付ける。



8 [ネームサーバーアドレスを指定する]を選んで、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力してから、各ウィンドウの[OK]をクリックしてウィンドウを閉じる。

ネームサーバのIPアドレスが指定されていない場合は、[サーバが割り当てたネームサーバアドレス]を選びます。



これで、LAN-TA接続の設定が完了しました。

接続する

LAN-TAで接続するときは、ダイヤルアップネットワークアイコンで接続します。

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、LAN-TA接続のアイコンをダブルクリックする。



- 2 [接続]をクリックする。



本機へ接続すると、接続名のウィンドウが表示され、接続速度と接続時間が表示されます。

ご注意

[パスワードの保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 目的に応じたソフトウェアを使って、必要な作業を行う。
- 4 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。
プロバイダとの接続が切れます。



第 10 章

困ったときは

この章では、本機がうまく動かないときや、トラブルが起きたときの対処方法について説明します。サポート窓口にお問い合わせになる前に、1度お読みください。「つながらない」や「使えない」といった基本的なトラブルについては、一番早い解決方法になるはず。ネットワークに関連する、より専門的なトラブルや質問については、NetVolanteシリーズのホームページ (<http://NetVolante.jp/>) をご覧ください。

「困ったな」「故障かな?」と思ったら

症状や問題に応じて、以下のページをご覧ください。

- 電話が使えない(ISDN使用時)(177ページ)
- かんたん設定ページで設定できない(179ページ)
- インターネットに接続できない(180ページ)
- 無線LANがつかない(183ページ)
- TA機能で接続できない(183ページ)
- 通信料金に異常がある(187ページ)
- パスワードを忘れてしまった(192ページ)

インターネット上のホームページもご覧ください

また、本機に関する最新情報は、インターネットのホームページでも入手できます。設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

詳しくは、「本機の最新情報を入手する」(199ページ)をご覧ください。

本機に接続した電話機が使えないときは、次の順序で症状を確認して、該当する項目の対処を行ってください。

◆ 電話がかけれない

アナログ機器の電源は入っていますか？

- 電源コードや電源スイッチ付きのアナログ機器（電話機やFAX、モデムなど）は、電源コードあるいはACアダプタの接続状態や、電源スイッチが「入」になっていることを確認してください。

アナログ機器は、正しく接続されていますか？

- モジュラーケーブルをいったん外して、カチッと音がするまでしっかりと差し込み直してください。
- 他のモジュラーケーブルと取り替えてみてください。

アナログポートに実際に接続した機器と設定ページのアナログポート設定内容が合っていますか？

- TELポートごとに設定したとおりに、アナログ機器を接続し直してください。
- 「かんたん設定ページ」を開き、電話設定の内容を確認してください。

同時に2つの機器を使用していませんか？

- インターネット接続と電話機を同時に使用している場合は、ISDNの2チャンネル共使用中になるため、それ以上電話をかけることはできません。アナログ機器は3つ接続できますが、同時に使えるのは、ルータやTAの接続も含めて2台までです。

受話器を上げると、「プッププッ」という音が聞こえますか？

- 擬似着信転送または擬似通話中転送で2チャンネル分を使っています。強制切断したいときは、フッキングしてください。

αACRやsuperACRなどのACR(自動電話会社接続機能)を利用していますか？

- ダイヤルの桁間隔時間を9秒以上に設定してください(22ページ)。

◆ 電話が着信しない

アナログ機器の電源は入っていますか？

- 電源コードや電源スイッチ付きのアナログ機器（電話機やFAX、モデムなど）は、電源コードあるいはACアダプタの接続状態や、電源スイッチが「入」になっていることを確認してください。

アナログ機器は、正しく接続されていますか？

- モジュラーケーブルをいったん外して、カチッと音がするまでしっかりと差し込み直してください。
- 他のモジュラーケーブルと取り替えてみてください。

何も接続していないTELポートがありますか？

- アナログ機器を接続していないTELポートは、電話機能設定の「アナログポート使用制限の設定(機能番号14)」を「使用しない」に設定してください(22ページ)。
- 「かんたん設定ページ」を開き、[電話設定] - [基本設定]画面の[使用制限]を確認してください。

同時に2つの機器を使用していませんか？

- インターネット接続と電話機を同時に使用している場合は、ISDNの2チャンネル共使用中になるため、電話やFAXは着信しません。アナログ機器は3つ接続できますが、同時に使えるのは、ルータやTAの接続も含めて2台までです。

同じ回線に他のISDN機器が接続されていますか？

- 他のISDN機器が応答していないか確認してください。

お使いの電話機はナンバー・ディスプレイ対応ですか？

- 電話機がナンバー・ディスプレイ対応でない場合は、「かんたん設定ページ」の[ナンバー・ディスプレイ対応機器の接続]を「使用しない」に設定してください。
- 電話機がナンバー・ディスプレイ対応である場合は、「かんたん設定ページ」の[ナンバー・ディスプレイ対応機器の接続]を「使用する」に設定し、電話機のナンバー・ディスプレイ機能を有効に設定してください。
- 電話機がキャッチホン・ディスプレイ対応である場合は、「かんたん設定ページ」の[ナンバー・ディスプレイ対応機器の接続]を「キャッチホン・ディスプレイを併用する」に設定し、電話機のキャッチホン・ディスプレイ機能を有効に設定してください。

着信転送が設定されていませんか？

- 着信転送が設定されていると、着信が転送されています。着信転送を解除してください(45ページ)。

◆ FAXやモデムが使えない

通話音量が適切になっていますか？

- 通話音量が大きすぎたり、小さすぎたりすると、通信ができないことがあります。「かんたん設定ページ」や電話機から音量レベル(PAD調整)値を変更してください(23ページ)。

アースコードは接続していますか？

- アースコードが正しく接続されていないと、通信にノイズが入り、つながりにくくなる場合があります。必ず、アースコードで本機のアース端子とコンセントのアース(接地)端子を接続してください。

◆ ランプがひとつも点灯していない、またはPOWERランプが点滅している

本機の電源は入っていますか？

- STANDBY-ON(電源)スイッチを「ON」にしてください。

電源コネクタに、付属のACアダプタのコネクタは接続されていますか？

- DC-IN 10Vコネクタに、付属のACアダプタ(P10V1.2A)のコネクタを正しく接続してください。

付属のACアダプタはコンセントに接続されていますか？

- コンセントから外れているときは、正しく差し込み直してください。

付属のACアダプタをお使いですか？

- 必ず本機に付属のACアダプタ(P10V1.2A)をお使いください。

主ブレーカーや配線別ブレーカーが「入」になっていますか？

- ブレーカーが「切」になっている場合は、「入」にしてください。
- ブレーカーが「入」になっている場合は、1度「切」にしてから「入」にし直してください。

停電していませんか？

- バックアップ用の乾電池を入れてください。入っている場合は、新品の乾電池と交換してください。
- 停電中は、復旧するまでお待ちください。

コンセントに電気が来ていますか(他の電気製品をつないで使えますか)？

- 他の製品が動かないときは、コンセントや電気配線の修理を依頼してください。
- 他の製品が動くときは、本機の修理を依頼してください。

◆ POWERランプは点灯するが、ISDNランプが点灯しない

ISDN回線に接続していますか？

- 本機をアナログ回線のモジュラージャックに接続しても使えません。ISDN回線工事は完了しているか確認してください。またはISDN回線のモジュラージャックに本機を接続してください。
- CATV/ADSL回線や専用線で本機をインターネットに接続している場合は、本機に電話機を接続しても、電話機は使えません。

ISDN回線の契約内容と接続方法は合っていますか？

- ISDN Uポートに接続している場合は、本機の電源を切り、DSUスイッチを「ON」、RVS/NOR(極性反転)スイッチを「RVS」にしてから、電源を入れ直してください。
- ISDN S/Tポートに接続している場合は、本機の電源を切り、DSUスイッチを「OFF」、TERM(ターミネータ)スイッチを「ON」にしてから、電源を入れ直してください。
- DSUや内蔵DSUを使用しているISDN機器の電源が入っているかを確認してください。

ISDN回線の工事は終わっていますか？

- 工事が終わっていない場合は使えません。NTTのISDN切り替え工事が終わった後に、本機を接続してください。それまでは、電話機を接続しておいてください。
- 電話局側の回線が開通しているか確認してください。

本機の設定を出荷状態にもどしてください

- 「本機の設定を工場出荷状態に戻す」(192ページ)を行ったあと、ルータの設定をはじめからやり直してください。
- それでもISDNランプが点灯しない場合は、本機の修理を依頼してください。

かんたん設定ページで設定できない

◆ LANランプが点灯しない

HUBやパソコンの電源は入っていますか？

→ 電源が入っていることを確認してください。

LANポートに機器を正しく接続しても、接続した機器の電源が入っていないときは、本機のLANランプは点灯しません。

正しく接続されていますか？

→ 本機側、パソコンおよびHUB側共にコネクタをいったん外してから、もう一度カチッとロックするまで差し込んでください。

お使いのケーブルは、LAN用のケーブルですか？

→ ISDNケーブルのときは取り替えてください。コネクタ形状が全く同じなので注意が必要です。

→ わからないときは、他のLANケーブルと取り替えてみてください。

◆ かんたん設定ページが開けない

LAN上の他のパソコンやネットワークプリンタは使用できますか？

→ LANボードやLANカードの設定をやり直して再起動してください。

→ Windowsの場合は、IPアドレスをリセットしてください(198ページ)。

→ Macintoshの場合は、「TCP/IP」コントロールパネルの[経由先]を[Ethernet]、[設定方法]を[DHCPサーバを参照]に設定してから、設定を保存してください。

100BASE-TX対応のLANカードを使用していますか？

→ LANカードを自動認識に設定してください。通信が不安定な場合は、10Mbit/sの半二重に固定してください。

ルータのIPアドレスを変更しましたか？

→ 本機に設定したIPアドレス「http://(本機のIPアドレス)」にアクセスしてください。

→ 本機のIPアドレスを変更した場合は、本機とLANに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。再起動または電源を切ることができないときは、パソコンを1台だけ本機に接続し、それ以外のLANケーブルを取り外してから、本機とパソコンの電源を入れてください。

→ 本機のIPアドレスを変更した場合は、パソコンの設定が同じIPアドレス範囲になっていることを確認してください。また、他の機器とIPアドレスが重なっていないか確認してください。

ルータのURLは合っていますか？

→ 本機を初めて使うときや工場出荷値にもどした後は、「http://192.168.0.1/」または「http://setup.netvolante.jp/」にアクセスしてください。

ブラウザの接続経路設定はLAN経由になっていますか？

→ Windows版Internet Explorer5の場合、[インターネットオプション]の[接続]タブでダイヤルアップ接続をする設定になっていると、「かんたん設定ページ」にアクセスできません。[ダイヤルしない]に変更してください。

ブラウザでProxyサーバを使用していますか？

→ プロキシの設定が正しくないと、「かんたん設定ページ」が表示できなくなります。

• Internet Explorerの場合:メニューから[ツール]→[インターネットオプション]→[接続]タブ→[LANの設定]を開き、[プロキシサーバを使用する]のチェックをはずします。

• Netscape Navigatorの場合:メニューから[編集]→[設定]→カテゴリの[詳細]の[+]をクリック→[プロキシ]を選び[プロキシ]の設定を開き、[インターネットに直接接続する]にチェックを付けます。

Webブラウザを用いて遠隔操作していますか？

→ IPアドレスによるアクセス制限機能が働いていると、許可されていないホストからのアクセスに対しては、「Error 503 This server is available to members only. I'm sorry, your host is not member.」と表示されます。

「かんたん設定ページ」の[システム管理]－[ルータ設定]－[HTTPサーバの利用ホスト制限]画面で、現在のホストのIPアドレスからの利用が許可されるように設定してください。

◆ かんたん設定ページのパスワードが通らない

「かんたん設定ページ」を一度も開いていませんか？

→ 「本機の設定を工場出荷状態に戻す」(192ページ)を行ったあと、もう一度、パスワードの設定からやり直してください。パスワードは大文字と小文字も区別しますので、設定したパスワードを間違えないように入力してください。

10

困ったときは

パスワードは設定されていますか？

- 本機の設定を行ったルータ管理者にご相談ください。
- 設定したパスワードを忘れてしまったときは、「パスワードを忘れてしまった」(192ページ)をご覧ください。

パスワードエラーが表示されますか？

- パスワードは、全角／半角や大文字／小文字の違いも区別します。必ず半角の英数字で大文字／小文字も正確に入力してください。
- ブラウザ認証情報(ユーザ名、パスワード)が残っていると、それを自動的に送信するため、エラーになります。ユーザ名を削除してからパスワードを入力し直すか、ブラウザをいったん終了してから「かんたん設定ページ」を開き直してください。

◆ 設定内容が元にもどってしまう

プロバイダの設定を行ったときに[登録]をクリックしましたか？

- 「かんたん設定ページ」で設定を変更したときは、必ず[登録]をクリックして設定を保存してください。[登録]をクリックせずに画面を閉じると、設定内容は保存されません。

◆ かんたん設定ページを開く際にWebブラウザにパスワードが保存されない

ネットワークパスワードの入力のダイアログでユーザ名が空欄になっていますか？

- 通常はユーザ名は空欄でかまいませんが、Webブラウザによっては、パスワードを保存するためにユーザ名入力が必要な場合があります。この場合は、任意の文字列を入力してください。

インターネットに接続できない

ダイヤルアップルータ機能でインターネットへ接続できないときは、先に電話機が使えることを確認してから(ISDN使用時のみ)、次の順序で症状を確認して該当する項目の対処を行ってください。

◆ プロバイダに電話をかけ始めない

お使いのパソコンから「かんたん設定ページ」を開けますか？

- パソコンを再起動してください。
- Windowsの場合は、IPアドレスをリセットしてください(198ページ)。

本機に自動接続先のプロバイダ情報を登録しましたか？

- 「かんたん設定ページ」で接続するプロバイダの情報を設定してください。
- 「かんたん設定ページ」で自動接続設定をオンにし、接続するプロバイダを選んでください。

ISDNランプは点灯していますか？(ISDN回線接続時のみ)

- ISDN回線の接続状態を確認してください。

同時に2つの機器を使用していませんか？(ISDN回線接続時のみ)

- アナログ機器で2チャンネル分を使っている場合は、インターネットへ接続できません。アナログ機器の回線使用状態を確認してください。

累積料金はいくらになっていますか？

- プロバイダ累積料金や累積接続時間、累積発信回数が接続制限値に達しているとき、プロバイダ接続ができなくなります。意図しない接続や異常課金がないことを確認してから、「かんたん設定ページ」でプロバイダの累積料金をリセットしてください。接続できるようになります(133ページ)。

◆ プロバイダに電話をかけているが、つながらない

「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続管理」画面の「最後の通信」欄に、「接続できません。電話番号を確認してください」と表示されていますか？

- プロバイダの接続情報書類を確認し、「プロバイダ接続管理」画面で[登録の修正]をクリックして、正しいプロバイダの通信速度とISDN対応電話番号を入力し直してください。番号違いやアナログ専用アクセスポイントの電話番号の場合は接続できません。

「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続管理」画面の「最後の通信」欄に、「IDまたはパスワードの認証に失敗しました」と表示されていますか？

- プロバイダの接続情報書類を確認し、「プロバイダ接続管理」画面で「登録の修正」をクリックして、正しいユーザIDとパスワードを入力し直してください。
- Macintoshの場合は、TCP/IPの経由先が正しく設定されているか確認してください。
- Windowsで専用線接続の場合は、ゲートウェイ情報にルータのアドレスが設定されているか確認してください。
- プロバイダの認証サーバが混雑していると、接続に失敗することがあります。しばらく時間をおいてから、アクセスし直してください。

「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続管理」画面の「最後の通信」欄に、「相手が話中です」と表示されていますか？

- プロバイダのアクセスポイントが混雑しています。しばらく時間をおいてから、かけ直してください。
- プロバイダのアクセスポイントのISDN対応電話番号を、もう1度確認してください。
- 他のアクセスポイントがある場合は、別の番号を設定してください。

◆ プロバイダにはつながっているがホームページが表示されない、または表示が非常に遅い

プロバイダ設定のDNSサーバアドレスは合っていますか？

- 本機をルータとして使用している場合は、本機のプロバイダ接続設定にDNSサーバアドレスが設定されているか確認してください。
- 本機をルータとして使用している場合は、各パソコンのDNSサーバアドレス設定に本機のIPアドレスを入力してから、パソコンを再起動してください。
- WebサーバやDNSサーバが混雑または運休している可能性があります。しばらく時間をおいてから、アクセスし直してください。

プロバイダから与えられたIPアドレスはプライベートアドレスですか？

- ファイアウォールなどのセキュリティフィルタを適用している場合は、以下の方法でIngressフィルタの適用を外してください。

- **変更例1:** [プロバイダ接続管理] - [登録の修正]画面で、Ingressフィルタを含まないセキュリティレベルに設定します。
- **変更例2:** ファイアウォール機能の設定で、静的フィルタの0,1,2,10,11,12の適用を外します。

プロバイダから与えられたIPアドレスとルータに設定されているIPアドレスが重複していませんか？

- 「LAN/WAN設定」画面で、ルータのIPアドレスをプロバイダから与えられたものと重複しないアドレスに変更してください。この場合、ファイアウォール機能は適用し直す必要があります。

PPPoE方式で接続していますか？(PPPoE方式ADSL接続時のみ)

- ADSL回線の種類によっては、標準的な設定のままでは、一部のホームページのデータが受信できないか、データの受信が非常に遅くなることがあります。
いったん接続を切断してから、「プロバイダ接続管理」画面のPPPoE方式のプロバイダの「登録の修正」でMTUに1454などの値を設定して、接続し直してください。

回線やプロバイダ、Webサーバが混雑していませんか？

- 時間帯などによっては非常に遅くなる場合があります。回線速度に比べて非常に遅い状態が続く場合は、ご利用の回線業者やプロバイダにお問い合わせください。

◆ 128kbit/s(MP接続)で接続できない

プロバイダとMP接続の契約をしていますか？

- MP接続するには、プロバイダが対応している必要があります。詳しくは、ご利用のプロバイダへお問い合わせください。
- プロバイダにより、別途MP接続契約が必要な場合があります。詳しくは、ご利用のプロバイダへお問い合わせください。

◆ ご注意

MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2チャンネル目が発信とエラーを繰り返し、多額の料金を請求される場合があります。

MP対応の電話番号になっていますか？

- MP接続対応の電話番号(アクセスポイント)にかけないと、つながりません。プロバイダの接続情報書類を確認し、MP接続対応の電話番号に設定し直してください。

端末型プロバイダ接続の設定でMPを使用する設定になっていますか？

- ➔ MP接続するには、「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続管理」画面でプロバイダの[登録の修正]をクリックして、「MP接続」画面で「MPを使用する」を選んでください(135ページ)。

「MP関連」の設定で「通信の負荷に応じてチャンネル数を増減させる」を選んでありますか？

- ➔ 「通信の負荷に応じてチャンネル数を増減させる」を選んでいる場合、通常は1チャンネルのみ接続される状態で正常です。データ通信量が多くなると、自動的に2チャンネル接続となります(135ページ)。

◆ WAN LINKランプが点灯しない

WANランプは点灯していますか？

- ➔ 点灯していない場合は、「WANランプが点灯しない」をご覧ください。

PPPoE方式で接続しようとしている場合は、本機で設定したユーザー名やパスワードの設定を確認してください。

◆ WANランプが点灯しない

ADSLモデムやケーブルモデムの電源は入っていますか？

- ➔ 電源を入れてください。

正しく接続されていますか？

- ➔ 本機のWANポートおよびADSLモデムやケーブルモデムの電源をいったん外してから、もう1度カチッと音がするまで差し込んでください。

正しいケーブルをお使いですか？

- ➔ お使いのADSLモデムやケーブルモデムとパソコンを接続するものと同じタイプのケーブルをお使いください。

◆ ルータやPCで、NTPサーバを使った時刻合わせができない

NTPサーバのIPアドレスやドメイン名は正しいですか？

- ➔ 入手したNTPサーバ情報と比較し、正しく設定されていることを確認してください。また、NTPサーバに対してpingを実行し、稼動していることを確認してください。

登録されているNTPサーバへの経路が設定されていますか？

- ➔ プロバイダ設定や経路設定を確認してください。

セキュリティフィルタが適用されていませんか？

- ➔ セキュリティフィルタでNTPのポートが制限されている場合は、NTPポートを通す(Pass)フィルタを適用してください。

無線LANが繋がらない

無線LANカード(またはボード/アダプタ)は正常ですか？

- 無線LANカード(またはボード/アダプタ)の取扱説明書を読んで、正常に動作していることを確認してください。

ESS-ID、WEPの設定は本機とパソコンとで合っていますか？

- ルータのESS-ID、WEPの設定値を確認してください。
- 各パソコンのESS-ID、WEPの設定値を確認してください。
- 本機をリセットして、設定を最初からやり直してください。

チャンネルの設定はルータとパソコンとで合っていますか？

- 無線LANカード(またはボード/アダプタ)によっては、14チャンネルすべてが使えないものがあります。お使いの無線LANカード(またはボード/アダプタ)で使用できるチャンネルに合わせて、本機のチャンネル設定値を変更してください。

MACアドレス制限機能が設定されていますか？

- ルータに接続したいパソコンのMACアドレスを登録してください(104ページ)。
- MACアドレス制限機能が不要な場合は、ルータのMACアドレス制限機能を解除してください(104ページ)。

近隣で無線LANアクセスポイント機器を使っていますか？

- 使っている場合や不明な場合は、チャンネルを3つ以上離れたチャンネルに設定し直してください。

接続確認が取れている無線LANカード(またはボード/アダプタ)を使っていますか？

- 使用可能な無線LANカード(またはボード/アダプタ)の最新の情報は、NetVolanteシリーズホームページで確認してください(199ページ)。

本機とパソコンの間に遮蔽物はありませんか？

- 本機やパソコンの位置や向きを変えて、電波状態の一番良い位置に設置してください。
- 電子レンジなど、電磁波を発生する機器が影響しない位置に本機やパソコンを移動してください。
- 外部アンテナを接続してください(111ページ)。

本機の無線モードが[オフ]に設定されていませんか？

- 本機の無線モードを[アクセスポイント]または[ステーション]に設定してください。

TA機能で接続できない

本機をTAとして使っている場合には、先に電話機が使えることを確認してから、次の順序で症状を確認して該当する項目の対処を行ってください。

◆ USBランプが点灯しない

本機やパソコン、途中のUSBハブの電源は入っていますか？

- USBランプは、本機とパソコンが正常に接続されている時のみ点灯/点滅します。いずれかの電源が入っていないと、点灯しません。

USBコネクタがしっかり接続されていますか？

- 不完全な場合はいったん外してから、もう1度コネクタの向きや形状を確認し、奥までしっかりと接続してください。本機側、パソコン側ともに確認してください。

USBケーブルやUSBハブに異常はありませんか？

- 別のUSB機器を接続して動作しない場合は、USBケーブルやUSBハブに断線や不具合がある可能性があります。他のUSBケーブルやUSBハブと交換してください。

◆ USBランプが点滅している

通信を行っていますか？

- 通信中は、USBランプが不規則に点滅します。これは、正常な動作です。

パソコンは起動していますか？

- パソコンの起動中や終了中は、USBランプがゆっくりと点滅します。パソコンが起動し終わるまでお待ちください。
- パソコンがサスペンド状態やスリープ状態になっている時はゆっくりと点滅することがあります。

本機が対応しているOSを使っていますか？

- USB経由で本機とパソコンを接続して使うには、Windows 98SE/Me/2000/XP、MacOS 9のOSが必要です。Windows 95/98、MacOS 8.6以前の場合は、OSをバージョンアップしてからお使いください。

10

困ったときは

Windows/パソコンの場合、USBドライバのインストールを途中でキャンセルしましたか？

- USBドライバのインストールを途中でキャンセルした場合は、[不明なデバイス]と認識され、USBランプがゆっくり点滅します。[コントロールパネル]－[システム]の[デバイスマネージャ]画面で黄色い❗マークの付いた「不明なデバイス」を削除してからパソコンを再起動して、USBドライバをもう1度インストールしてください(67ページ)。

Windows/パソコンの場合、USBドライバをインストールしましたか？

- USBドライバが正常にインストールできなかった場合や操作を間違った場合は、「USB互換デバイス」と誤認識され、USBランプがゆっくり点滅します。付属のUSBアンインストーラを実行してからパソコンを再起動して、USBドライバをもう1度インストールしてください(67ページ)。

Windows/パソコンの場合、USBポートは有効になっていますか？

- Windowsでは、USBポートが無効になっていると、USBランプがゆっくり点滅します。[コントロールパネル]－[システム]の[デバイスマネージャ]画面で[ユニバーサル シリアルバス コントローラ]を開き、[～Controller]や[USB ルートハブ]に赤い✖マークや黄色い❗マークが付いていないことを確認してください。付いている場合は、パソコンまたはUSBインタフェースボードの取扱説明書に従って問題を解決してから、USBドライバをもう1度インストールしてください。

本機のUSBポートは有効になっていますか？

- 本機のUSBポートは、コンソールコマンドで有効/無効を設定することができます。LAN接続したパソコンのTELNETソフトウェアで以下のコンソールコマンドを実行し、本機のUSBポートを有効にしてください。

```
usb use on
save
```

◆ TAで電話をかけようとするとエラー(青い画面など)になる

USBケーブルを抜き差ししましたか？

- ターミナルソフトやダイヤルアップネットワークソフト、ダイヤルアップサーバを使用中にUSBケーブルを抜き差しすると、Windowsが不安定になってエラーが発生します。パソコンを再起動してください。

本機の電源を入/切しましたか？

- ターミナルソフトやダイヤルアップネットワークソフト、ダイヤルアップサーバを使用中に本機の電源をオフにすると、Windowsが不安定になってエラーが発生します。パソコンを再起動してください。

本機をリセットしましたか？

- ターミナルソフトやダイヤルアップネットワークソフト、ダイヤルアップサーバを使用中に本機のリセットを行うと、Windowsが不安定になってエラーが発生します。パソコンを再起動してください。

◆ プロバイダに電話をかけ始めない

ネットワーク設定は合っていますか？

- Windowsの場合は、コントロールパネルの「ネットワーク」設定が合っているか確認してください。
- Macintoshの場合は、TCP/IPの経由先が正しく設定されているか確認してください。

ダイヤルアップ設定でプロバイダ情報を登録しましたか？

- Windowsではダイヤルアップネットワークアイコンの設定が正しく保存されているか確認してください。
- Macintoshではリモートアクセス(またはPPP)の設定が正しく保存されているか確認してください。
- DNSサーバ情報に余計な情報が設定されていないか確認してください。

ISDNランプは点灯していますか？

- ISDN回線の接続状態を確認してください。

同時に2つの機器を使用していませんか？

- 2つの電話機やFAXを同時に使用している場合は、ISDNの2チャンネル共使用中になるため、インターネットへ接続できません。アナログ機器の回線使用状態を確認してください。

◆ プロバイダに電話をかけているが、つながらない

ダイヤルアップダイアログに「プロトコルエラー」が表示されていますか？

- Windowsではダイヤルアップネットワークアイコンの設定で、プロバイダの通信速度とISDN対応電話番号をもう1度確認してください。番号違いやアナログ専用アクセスポイントの電話番号の場合は接続できません。
- Macintoshではリモートアクセス(またはPPP)の設定で、プロバイダの通信速度とISDN対応電話番号をもう一度確認してください。番号違いやアナログ専用アクセスポイントの電話番号の場合は接続できません。
- モデム設定のポート通信速度を低くして、アクセスできるか確認してください。

ダイヤルアップダイアログに「ニンショウエラー」が表示されていますか？

- Windowsではダイヤルアップネットワークアイコンの設定で、ユーザIDとパスワードをもう1度確認してください。プロバイダによっては、メールアドレスのユーザIDやパスワードとは違う場合があります。
- Macintoshではリモートアクセス(またはPPP)の設定で、ユーザIDとパスワードをもう一度確認してください。プロバイダによっては、メールアドレスのユーザIDやパスワードとは違う場合があります。
- プロバイダの認証サーバが混雑している可能性があります。しばらく時間をおいてから、アクセスし直してください。

ダイヤルアップダイアログに「ビジュー」や「相手が応答しない」が表示されていますか？

- プロバイダのアクセスポイントが混雑しているため、しばらく時間をおいてから、かけ直してください。
- ISDN対応電話番号をもう1度確認してください。
- 他のアクセスポイントがある場合は、別の番号を設定してください。

◆ プロバイダにはつながっているが、ホームページが表示されない

ダイヤルアップ設定のDNS(ネームサーバ)のIPアドレスは合っていますか？

- Windowsではダイヤルアップネットワークの設定で、DNSサーバのIPアドレスをもう1度確認してください。DNSサーバのIPアドレスは、プロバイダから指定されたものを設定してください。
- Windowsではmodemlog.txtを開き、原因を確認してください。
- MacintoshではTCP/IPの設定で、DNSサーバのIPアドレスをもう1度確認してください。DNSサーバのIPアドレスはプロバイダから指定されたものを設定してください。
- WebサーバやDNSサーバが混雑しているか、または運休している可能性があります。しばらく時間をおいてから、アクセスし直してください。

◆ プロバイダにはつながっているが、動作が不安定になる

オーディオ機器やTA、LANアダプタなど、高い負荷がかかるUSB機器を同時に使用していますか？

- USB接続のオーディオ機器やTA、LANアダプタなどを同時に使用すると、高い負荷がかかり、通信が不安定になります。これらの機器とは、同時に使わないでください。
- パソコンにUSBのルートが2系統ある場合は、これらのUSB機器を別のUSBポートに接続し直してください。

◆ 128kbit/s(MP接続)で接続できない

MP接続用でインストールしましたか？

- MP接続するには、モデムインストール時に「RTW65i USB(MP)」でインストールしてください。

10

困ったときは

- ➔ モデムインストール時に「RTW65i USB (Sync)」をすでにインストールしてある場合は、以下の手順でドライバを更新してください。

Windowsの場合

- 1 [コントロールパネル] - [システム] - [デバイスマネージャ] - [モデム] で [RTW65i USB (Sync)] を開き、[ドライバ] タブの [ドライバの更新] をクリックする。
- 2 ドライバの更新ウィザード画面で [特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する] を選んでから、[次へ] をクリックする。
- 3 付属CD-ROMをセットして、RTW65i用のUSB INFファイルの入ったフォルダを指定する。
- 4 [ほかのドライバをインストールする] を選んでから、[一覧の表示] をクリックする。
- 5 [RTW65i USB (MP)] を選んでから、[OK] をクリックする。
- 6 画面のメッセージに従って [次へ] を数回クリックしてから、[完了] をクリックする。
- 7 設定を有効にするために、パソコンを再起動する。
この変更により変更前とは異なるCOMポート番号に割り当てられますので、ターミナルソフトやダイヤルアップネットワークの設定を再度行う必要があります。

MacOS9の場合

アップルメニューから [コントロールパネル] - [モデム] を開き、[モデム] の種類を [RTW65i MP] に設定します。

ATコマンドでMP設定に切り替えてありますか？

- ➔ MP接続するには、AT@Gコマンド(214ページ)で認証ユーザIDとパスワードを設定し、AT&W(212ページ)で設定を保存してください。

MP対応の電話番号になっていますか？

- ➔ MP接続するには、MP接続対応の電話番号(アクセスポイント)にかけないと、つながりません。プロバイダの接続情報書類を確認し、MP接続対応の電話番号に設定し直してください。

プロバイダとMP接続の契約をしていますか？

- ➔ MP接続するには、プロバイダが対応している必要があります。詳しくは、ご利用のプロバイダへお問い合わせください。
- ➔ プロバイダにより、別途MP接続契約が必要な場合があります。詳しくは、ご利用のプロバイダへお問い合わせください。

ご注意

MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2チャンネル目が発信とエラーを繰り返し、多額の料金を請求される場合があります。

◆ ブロードバンドTA接続すると、エラー(BUSY)になる

「broadband-ta forced disconnect off」に設定されていませんか？

- ➔ 「broadband-ta forced disconnect off」に設定されていると、ルータのADSL接続が優先されます(工場出荷状態では「broadband-ta forced disconnect on」に設定されています)。ブロードバンドTA接続を優先させるには、「かんたん設定ページ」-「システム管理」-「コマンド設定」画面で、以下のコマンドを実行してください。

broadband-ta forced disconnect on

◆ ルータとブロードバンドTA接続で、同時に別々のプロバイダに接続できない

契約しているADSL事業者(PPPoE方式のみ)は、複数の接続(セッション)をサポートしていますか？

- ➔ ADSL事業者が複数の接続(セッション)をサポートしていない場合は、ルータとブロードバンドTA接続で、同時に別々のプロバイダに接続できません。ADSL事業者が複数の同時接続をサポートしている場合には、ATコマンドで最大セッション数とコンセントレータ名(半角英数字)を指定してください。

例: 2つの同時接続の場合

ATS56=2

AT@I/コンセントレータ名/

AT&W(保存)

通信料金に異常がある

料金情報や通信記録を見て使った覚えのない通話料金があった場合は

自動接続機能でインターネットへ接続している場合は、パソコンのソフトウェアや機器が自動的にインターネットへ接続している疑いがあります。ソフトウェアによっては、パソコンを起動しているだけで自動的に動作するものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があります。放置すると、多額の通話料金になる場合がありますので、こまめに料金や通話記録を確認してください。

次のような場合は、特にご注意ください

- 本機を使い始めた時
- 本機のプロバイダ接続設定を変更した時
- パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時
- MP接続を設定した時
- TA接続を併用または切り替えた時
- Real Playerをインストールした時
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時
- 本機のファームウェアをリビジョンアップした時
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2チャンネル目が発信とエラーを繰り返して多額の料金を請求される場合があります。
- プロバイダ側の状態(アクセスポイントの変更、メンテナンス、障害など)によって予想外の通信料金がかかる場合がありますので、プロバイダからの告知情報には常に注意してください。
- ここで使用している画面や設定項目は、各ソフトウェアのバージョンにより内容が異なります。

通信記録を確認する

◆ 「料金と通信記録」画面で確認する

「料金と通信記録」画面では、各ポート毎の累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数、通信毎の履歴を確認できます。

料金と通信の記録					
操作 ● 最新情報に更新するときには、ブラウザの再読み込み/更新ボタンを押します。					
料金情報 [料金設定]					
通信種別	最後の通信料金	累積料金	累積接続時間	累積発信回数	累積着信回数
プロバイダ接続(設定管理)					
1(PP01) ISDP1 ISDN選択中	0円	54円	00:19:11	8回	0回
各アナログポートごとの料金情報					
アナログポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
USBポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN版RVS-COM	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN-TA機能	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計	54円	0円	00:19:11	0回	0回
着信転送履歴 [電話設定]					
着信転送の履歴はありません。					

料金情報

プロバイダごとの累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数が表示されます。

通信履歴

発着信日付、発着信時刻、通信種別、通信時間、通信料金、切断コード、相手先の番号が新しい順に100件まで表示されます。通信種別がPPxxとなっている通信が、プロバイダ(またはLAN間接続相手)へ接続した通信です。

ご注意

- 通信料金はISDN回線で接続している場合にのみ表示されます。
- 通信料金はNTTから通知される料金を累積して表示しています。
NTTから通知される料金は少数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスやNTT以外の回線業者の料金が反映されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安と考えてください。

10

困ったときは

◆ ログ情報で確認する

「システム管理」の「システムログ」画面では、自動接続のきっかけになったアクセスの情報をSyslog表示で確認できます。

意図しないアクセスが多いときは、Syslog表示の中で一番下から順に「IP Commencing」の行を探します。IP Commencing行のパソコンIPアドレスやアクセス先ホストのIPアドレス、アクセス時間(もしくは間隔)などを手がかりに、どのソフトウェア(または機器)がアクセス要求を出しているかを調べて、原因を探してください。

アクセス例1



PP[01] IP Commencing: UDP 192.168.0.1:50 > 10.40.3.22:50

(DNS Query [windowsmedia.com] form 192.168.0.2)

この例では、LAN内のパソコン(192.168.0.2)からDNSサーバへインターネットのホスト(windowsmedia.com)のIPアドレスを調べる問い合わせ要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

アクセス例2

PP[01] IP Commencing : TCP 192.168.0.2:1311 > 207.188.7.85:80

- PP[01]: プロバイダ番号
- 192.168.0.2: パソコンのIPアドレス
- 207.188.7.85: アクセス先のIPアドレス

この例では、LAN内のパソコン(192.168.0.2)からインターネットのホスト(207.188.7.85)へのアクセス要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

原因になりやすい設定項目を確認する

不審なインターネットアクセスの原因になる設定項目には、次のようなものがあります。OSを使い始めるときや、新しいソフトウェアをインストールしたときは、以下の例を参考に設定をご確認ください。

◆ 頻繁に発信している場合は

パソコンのネットワーク設定のDNS設定値を確認してください。

インターネット上のDNSサーバのIPアドレスが指定されていると、頻繁にアクセスする場合があります。

◆ パソコンを起動するたびに発信している場合は

Windowsでアクティブデスクトップを使用している場合、設定内容によって起動するたびにインターネットへ接続する場合があります。また、パソコン起動時と同時に起動するソフトウェアがある場合は、[スタート]ボタンの[スタートアップ]項目を確認してください。スタートアップに登録されているソフトウェアの設定を確認し、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

コントロールパネルの[画面]設定

WindowsのデスクトップにWebページを設定していると、パソコンを起動するたびにインターネットへ接続してWebページの内容を更新するため、パソコンを起動するごとに電話料金と通信料金がかかります。必要がなければ、設定を解除してください。

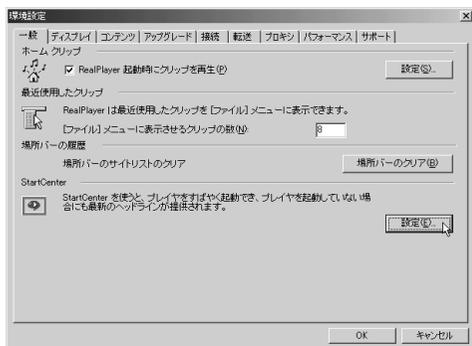


RealPlayerの環境設定

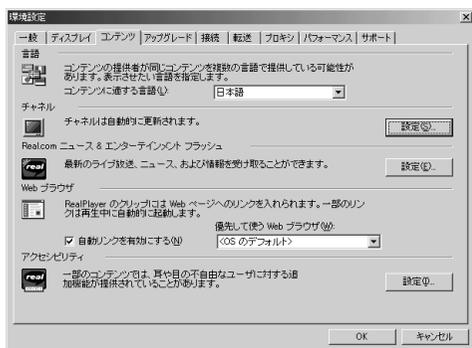
[環境設定]画面の[一般]タブにある[StartCenter]を有効にしていると、パソコンを起動するたびにインターネットへ接続して、[コンテンツ]タブで指定したチャンネルなどの最新情報が更新されます。

RealPlayerを起動しなくともこの動作は行われるため、パソコンを起動することに電話料金と通信料金がかかります。必要がなければ、設定を解除してください。

● [一般]タブ



● [コンテンツ]タブ



◆ 定期的に発信している場合は

- 1日に何回も発信している場合は: Internet Explorerのチャンネルを購読している場合やWindows Updateを利用している場合、電子メールの自動送受信が設定されている場合などが考えられます。本機のLANに接続しているパソコンの、該当するソフトウェア設定を確認してください。
- 1日に数回以内の場合は: ハードウェアのメンテナンスプログラムやNTPサーバ(インターネット自動時刻サーバ)の設定を確認してください。

ホームページのバナー広告

バナー広告が掲載されているホームページでは、何も操作しなくても定期的に自動更新する場合があります。そのページを開いたままWebブラウザを放置すると、定期的にインターネットへアクセスし続け、そのたびに料金がかかります。見終わったらWebブラウザを閉じることで、不要なアクセスを防ぐことができます。

購読チャンネルのプロパティ

Internet Explorerのチャンネルを購読している場合は、プロパティで指定した間隔で、チャンネル内容の更新のためインターネットへ接続するため、そのたびに料金がかかります。購読する場合は更新間隔をよく確認してお使いください。

不要な場合は、設定を解除してください。



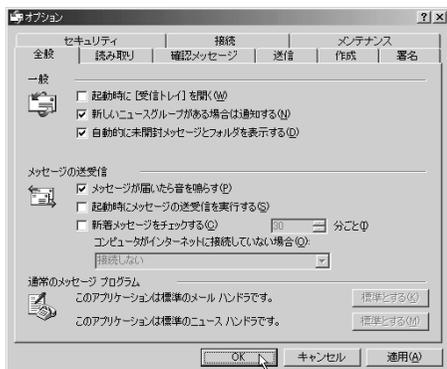
10

困ったときは

Outlook Expressの[オプション]設定

Outlook Expressなどの電子メールソフトウェアには、新着メールを定期的に確認する機能があります。この機能を利用している場合は、定期的にインターネット上のメールサーバにアクセスするため、そのたびに料金がかかります。この機能を利用する場合は、確認する頻度を十分考慮してください。

必要なければ設定を解除して、手動でメールを確認するようにしてください。

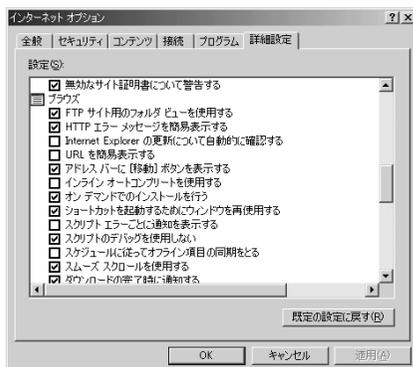


◆ ソフトウェアを起動するたびに発信している場合は

インストールしたソフトウェアの環境設定(初期設定)を確認して、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

Internet Explorerの[インターネットオプション]設定

Internet Explorerの自動アップデート機能を利用している場合は、Internet Explorerを起動するたびにインターネットへ接続するため、そのたびに料金がかかります。不要であれば設定を解除してください。



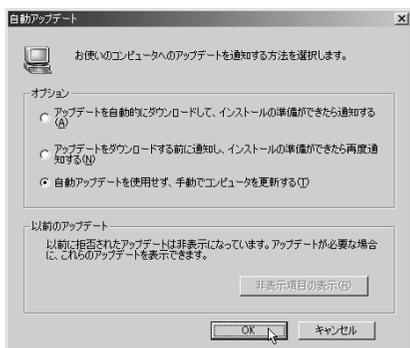
10

困ったときは

OSの自動アップデート機能

Windows MeやMacOS 9以上の場合、OSの自動アップデート機能があります。この機能を利用している場合は、定期的にインターネットのサーバにアクセスし、そのたびに料金がかかります。

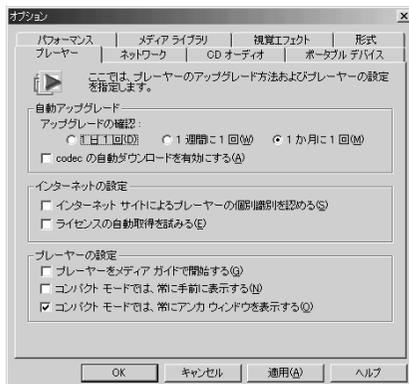
不要であれば、[コントロールパネル]の[自動アップデート](MacOS 9は[ソフトウェア・アップデート])を開き、設定を手動更新に変更してください。



Windows MediaPlayerの環境設定

Windows MediaPlayerをインストールすると、MediaPlayerを開くたびにガイドページの情報を得るためにインターネットへ接続するため、そのたびに料金がかかります。

必要なければ、「オプション」画面の[プレーヤー]タブの[プレーヤーをメディアガイドで開始する]のチェックを外すと、アクセスを防げます。

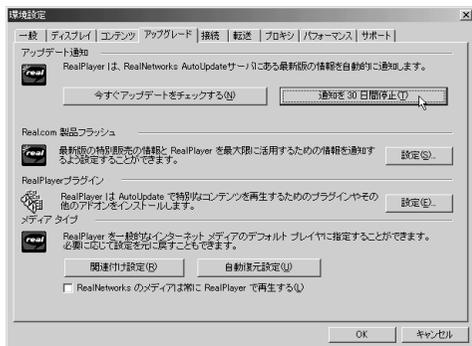


また、[プレーヤー]タブの[自動アップグレード]で[1か月に1回]を選ぶと、アクセス回数を減らすことができます(完全に解除することはできません)。

RealPlayerの環境設定

RealPlayerをインストールすると、アップグレード情報を得るためにRealPlayerを開くたびにインターネットに接続するため、そのたびに料金がかかります。

必要なければ、[アップグレード]タブの[通知を30日間停止]をクリックすると、30日間はアクセスしなくなります。アクセスしない日数がカウントダウンされますので、ときどきチェックして[通知を30日間停止]をクリックしてください(完全に解除することはできません)。

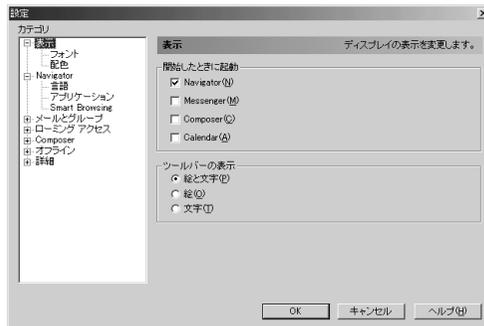


また、Real.com製品情報がチェックされていると、製品情報を得るためにRealPlayerを開くたびにインターネットに接続するため、そのたびに料金がかかります。必要なければ設定を解除してください。

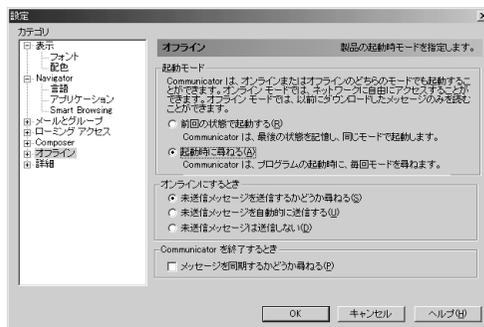
Netscape Communicatorの設定

Netscape Messengerの画面を開くときにNetscapeの広告ページを表示しようとしてインターネットに接続するため、そのたびに料金がかかります。

Netscape Messenger以外の電子メールソフトウェアを使用する場合は、[開始したときに起動]の設定で、Messengerのチェックをはずしてください。



Netscape Messengerを使っている場合や、意図しない接続を止めたい場合は、[オフライン]の[起動モード]を[起動時に尋ねる]に設定し、オフラインで起動してください(自動的にオフラインで起動する設定はありません)。



10

困ったときは

パスワードを忘れてしまった

◆ ログインパスワードを忘れた場合は

管理パスワードでログインしてください。管理パスワードをLANの管理者が管理しているときは、LANの管理者にログインパスワードを再発行してもらいます。

◆ 管理パスワードを忘れた場合は

USBポート経由で接続したパソコンでターミナルソフトウェアを起動して、パスワード「w,lx|ma」(ダブルユ、カンマ、エル、エックス、エル、エム、イー)を使ってログインできます。コンソールコマンドについては、「コンソールコマンドで設定する」(30ページ)をご覧ください。

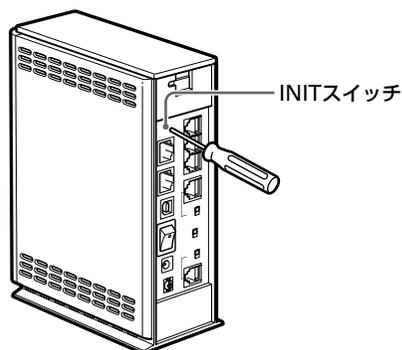
ターミナルソフトウェアの使いかたに慣れていない場合は、「本機の設定を工場出荷状態に戻す」(このページ右側)の説明に従って、本機を工場出荷時の状態に戻してください。

この場合は、それまでに設定した内容はすべて初期化されますので、最初から設定をやり直してください。

本機の設定を工場出荷状態に戻す

本機の設定内容を工場出荷設定に戻したいときは、次の操作を行ってください。

- 1 本機の電源を切る。
- 2 INITスイッチを先の細いもので押しながら、電源を入れる。



現在設定されている内容が、出荷時の設定内容にもどります。

それまでに設定した内容はすべて初期化されますので、最初から設定をやり直してください。

パソコンのIPアドレスを管理する

LANやインターネットへのアクセスができないときは、DHCPサーバによるLAN内IPアドレス自動割り当てで、IPアドレスが重複している場合があります。そのときは、次のような操作を行ってください。

ご注意

固定アドレスで重複している場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

現在のIPアドレスを確認する

◆ Windows 95/98/Meの場合

起動ディスクのWindowsフォルダ内にある [Winipcfg.exe] アイコンをダブルクリックして、使用中のLANカード名を選ぶ。

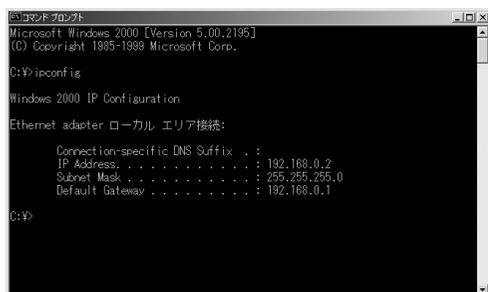


現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。

◆ Windows 2000/XPの場合

Windows2000の場合を例にして説明していますが、WindowsXPでも操作は同じです。

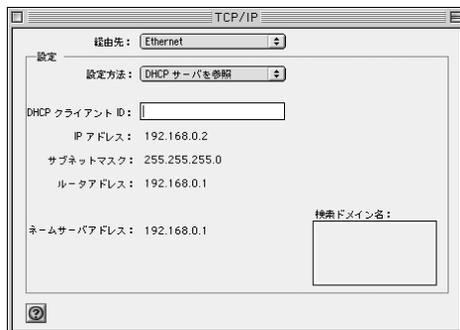
- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]—[アクセサリ]—「コマンドプロンプト」をクリックする。
- 2 「ipconfig」と入力してから、Enterキーを押す。



現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。

◆ Mac OSの場合

コントロールパネルの[TCP/IP]を開く。
現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。



◆ Mac OS Xの場合

- 1 アップルメニューから[システム環境設定]を選ぶ。
- 2 [ネットワーク]をクリックする。

現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。



10

困ったときは

IPアドレスを変更する

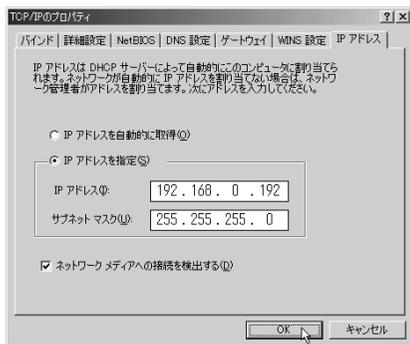
◆ Windows95/98/Meの場合

- 1 [マイコンピュータ]の[コントロールパネル]の[ネットワーク]を開いてから、リストの中の[TCP/IP->(ネットワークカードの名称)]を選び、[プロパティ]をクリックする。

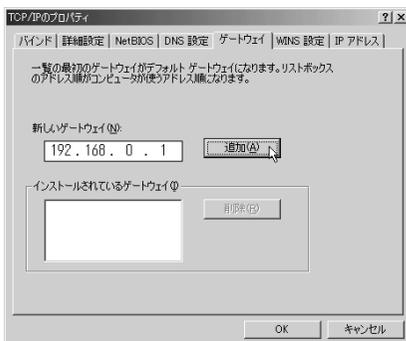


- 2 [IPアドレス]タブをクリックして、[IPアドレスを指定]を選ぶ。
- 3 IPアドレスとネットマスク欄に、パソコンに割り当てるIPアドレスとネットマスクを入力する。

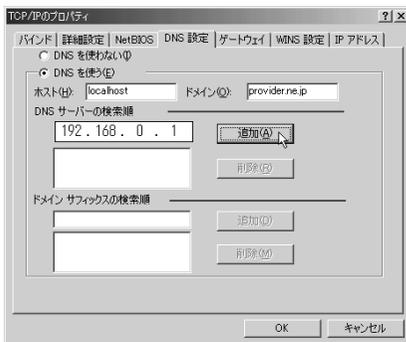
本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。



- 4 [ゲートウェイ]タブをクリックして、[新しいゲートウェイ]に本機のIPアドレス(工場出荷状態では192.168.0.1)を入力してから、[追加]をクリックする。



- 5 [DNS設定]タブをクリックしてから、[DNSを使う]を選ぶ。
- 6 [ホスト名]にWindowsパソコンの名前、[ドメイン]に接続するプロバイダのドメイン名、[DNSサーバーの検索順]に本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)を入力してから、[追加]をクリックする。



- 7 [OK]をクリックして、メッセージに従ってパソコンを再起動する。
- 8 LAN上のすべてのWindows95/98/Meパソコンに対して手順1~7の操作を繰り返し、すべてのWindowsパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

10
困ったときは

◆ Windows2000の場合

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[設定]—[コントロール パネル]をクリックする。
- 2 [ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



- 3 本機を接続しているネットワークボード名の [ローカルエリア接続] をクリックして選んでから、[ファイル]メニューから [プロパティ] を選ぶ。

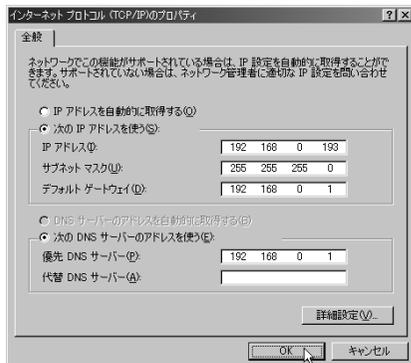


- 4 リストの [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選んでから、[プロパティ] をクリックする。



- 5 [次のIPアドレスを使う]を選んでから、[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]にWindowsパソコンに割り当てるIPアドレスとネットマスクを入力する。

- 本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。
- デフォルトゲートウェイは、本機のIPアドレス (192.168.0.1)を設定します。



- 6 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]を選んでから、[優先DNSサーバー]に本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)を入力する。

- 7 [OK]をクリックして、メッセージに従ってパソコンを再起動する。

- 8 LAN上のすべてのWindows2000パソコンに対して手順1~7の操作を繰り返し、すべてのWindowsパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

10

困ったときは

パソコンのIPアドレスを管理する

◆ WindowsXPの場合

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



- 3 [ネットワーク接続]をクリックする。



- 4 [ローカルエリア接続]のアイコンをクリックする。



- 5 [この接続の設定を変更する]をクリックする。

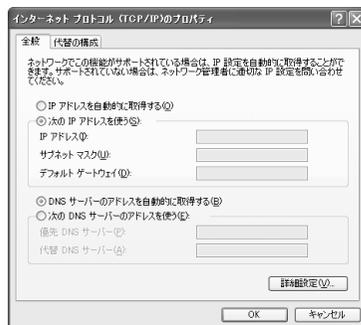


- 6 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。



- 7 [次のIPアドレスを使う]を選んでから、[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]にWindowsパソコンに割り当てるIPアドレスとネットマスクを入力する。

- 本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。
- デフォルトゲートウェイは、本機のIPアドレス(192.168.0.1)を設定します。



- 8 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]を選んでから、[優先DNSサーバー]に本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)を入力する。

- 9 [OK]をクリックして、メッセージに従ってパソコンを再起動する。

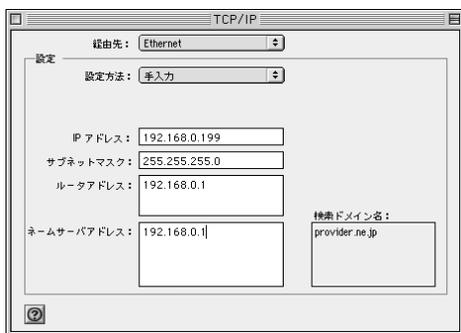
- 10 LAN上のすべてのWindowsXPパソコンに対して手順1~7の操作を繰り返し、すべてのWindowsパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

10

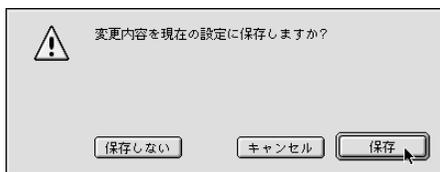
困ったときは

◆ Mac OSの場合

- 1 アップルメニューから[コントロールパネル]—[TCP/IP]を選ぶ。
- 2 以下のように設定してから、ウィンドウを閉じる。
 - 経由先: Ethernet
 - 設定方法: 手入力
 - IPアドレス: 割り当てるIPアドレス。本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。
 - サブネットマスク: ネットマスク
 - ルータアドレス、ネームサーバアドレス: 本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)
 - 検索ドメイン名: 接続するプロバイダのドメイン名



- 3 確認のダイアログが表示されたら、[保存]をクリックする。



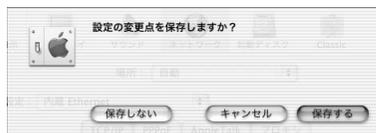
- 4 LAN上のすべてのMac OSパソコンに対して手順1~3の操作を繰り返し、すべてのMac OSパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

◆ Mac OS Xの場合

- 1 アップルメニューから[システム環境設定]を選ぶ。
- 2 [ネットワーク]をクリックする。
- 3 以下のように設定してから、ウィンドウを閉じる。
 - 経由先: Ethernet
 - 設定方法: 手入力
 - IPアドレス: 割り当てるIPアドレス。本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、パソコンには192.168.0.192~192.168.0.254の範囲でIPアドレスを設定します。
 - サブネットマスク: ネットマスク
 - ルータ、ドメインネームサーバ: 本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)
 - 検索ドメイン名: 接続するプロバイダのドメイン名



- 4 確認のダイアログが表示されたら、[保存する]をクリックする。



- 5 LAN上のすべてのMac OS Xパソコンに対して手順1~4の操作を繰り返し、すべてのMac OS Xパソコンが異なるIPアドレスを持つように設定する。

10

困ったときは

IPアドレスをリセットする

◆ Windows95/98/Meの場合

- 1 起動ディスクのWindowsフォルダ内にある [Winipcfg.exe] アイコンをダブルクリックする。
- 2 LANカード名を選び、[解放]をクリックする。
現在パソコンに割り当てられているIPアドレスが表示されます。



- 3 [書き換え]をクリックする。
他のパソコンと重複しないプライベートIPアドレスに更新されます。

◆ Windows2000/XPの場合

Windows2000の場合を例にして説明していますが、WindowsXPでも操作は同じです。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]—[アクセサリ]—[コマンドプロンプト]をクリックする。
- 2 「ipconfig/renew」と入力してから、Enterキーを押す。



他のパソコンと重複しないプライベートIPアドレスに更新されます。

◆ Mac OS/Mac OS Xの場合

Macintoshを再起動する。

割り当てられていたプライベートIPアドレスがリセットされます。

💡 ヒント

コントロールパネルの[TCP/IP]を開いて経由先を[Ethernet]以外に設定して保存し、もう一度コントロールパネルの[TCP/IP]を開いて経由先を[Ethernet]に設定し直すことで、DHCPサーバから割り当てられたプライベートIPアドレスをリセットすることもできます。

本機の最新情報入手する

本機に関する最新情報は、インターネットのホームページで入手できます。設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

◆ NetVolanteシリーズのホームページ

本機やNetVolanteシリーズに関する最新情報をご覧ください。

<http://NetVolante.jp/>

◆ NetVolanteシリーズでお問い合わせの多い質問(FAQ)

本機やNetVolanteシリーズに関するQ&Aをご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RTW65i/FAQ/>

◆ NetVolanteシリーズのリビジョンアップ情報

本機やNetVolanteシリーズの最新ファームウェアに関する情報をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RTW65i/RevUpper.html>

◆ RTシリーズのホームページ

RTシリーズのルータに関する最新情報やルータの技術情報、高度な利用方法などをご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>

最新機能を使う (リビジョンアップ)

NetVolanteシリーズのホームページから、本機の機能を管理するプログラム(ファームウェア)をダウンロードして本機に転送することで、本機の最新の機能をご利用いただけます(リビジョンアップ)。

リビジョンアップは次の手順で行います。ここでは、Windows98を例に説明しています。

◆ ご注意

- リビジョンアップを始めたら、完了して本機が再起動するまで絶対に何も操作をしないでください。万一、中断したときは本機が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。
- RT-RevUpper(リビジョンアップ・プログラム)をダウンロードするためには、インターネットへの接続が必要です。それに伴った電話料金とプロバイダ接続料金がかかります。
- リビジョンアップが完了すると、本機は自動的に再起動されるため、すべての通信が切断されます。
- 工場出荷時に搭載されているファームウェアのリビジョンより古いリビジョンのファームウェアは使用しないでください。

- 1 パソコンでWebブラウザを起動して、「<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RTW65i/RevUpper.html>」とアドレス入力欄に入力してから、Enterキーを押す。

本機のリビジョンアップ情報のホームページが表示されます。

- 2 リビジョンアップの内容をよく読み、お使いのOS用のRT-RevUpper(リビジョンアップ・プログラム)をパソコンにダウンロードする。

WindowsおよびMacintosh以外のOSや、RT-RevUpperが正しく動作しない場合は、tftp用バイナリファイルをダウンロードし、「かんたん設定ページ」の「システム管理」-「コマンド設定」画面のコマンド入力で「tftp host any」を実行してから、tftpソフトウェアを使ってtftp用バイナリファイルを転送してください。

10

困ったときは

- 3** ダウンロードしたRT-RevUpper(リビジョンアップ・プログラム)のアイコンをダブルクリックする。

ご注意

RT-RevUpperを開く前に、RTAssistやTELNETなどのルータにアクセスしているプログラムを終了してください。

- 4** リビジョンアップするルータのIPアドレスを確認してから、**[開始]**をクリックする。

複数のRTW65iを使用している場合は、リビジョンアップするルータのIPアドレスを選んでください。



指定したIPアドレスを検索し、リビジョンアップ可能なルータの場合は、パスワード入力画面が表示されます。

ご注意

必ずRTW65iのIPアドレスを選んでください。誤って他機種のIPアドレスを選ぶと、そのルータが使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。

- 5** ルータのパスワードを入力してから、**[実行]**をクリックする。

リビジョンアップが始まります。

リビジョンアップが完了すると、本機は自動的に再起動します。



ご注意

リビジョンアップ中は、絶対にケーブルを抜いたり、本機やパソコンの電源を抜いたりしないでください。ルータが使えなくなり、持ち込み修理が必要となる場合があります。

- 6** 本機が再起動したら、**[終了]**をクリックする。

- 7** パソコンでWebブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」にアクセスしてリビジョンを確認する。

リビジョン番号は、「かんたん設定ページ」のタイトルバーやトップ画面、「システム管理」の[コマンド設定]画面、またはRTAssistの[ルータ情報]で確認できます。

サポートとサービス

本機の保証サービスについて

本機や本機の付属品に不良があった場合は、すぐにご購入の販売店へご連絡ください。また、通常のご使用で故障が発生した場合は、保証期間中は無償にて修理いたします。ご購入の販売店またはヤマハサービス窓口へご連絡ください。また保証期間後は、有料にて修理いたします。

なお、保証期間中の修理には、保証書が必要です。ご購入時に「お買い上げ年月日」と「販売店名」の記入をご確認の上、保証書をお受け取りください。保証書がない場合は、保証期間内であっても有料となります。

保証期間:ご購入から1年間

ご質問・お問い合わせについて

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

◆ ネットボランチコールセンター

RTW65i専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

(土日祝日を除く9時～12時、13時～17時)

◆ 電子メールでのお問い合わせ

- Webお問い合わせページ:
<http://NetVolante.jp/>
- メールアドレス:
support@netvolante.jp

10

困ったときは

第 11 章 その他の情報

付録では、CD-ROMに収録されているマニュアルを読むためのソフトウェアのインストール方法や本機の仕様、用語集を収録しています。

Acrobat Readerについて

付属のCD-ROMに収録されているPDF形式の説明書を読むときは、「Acrobat Reader」が必要です。パソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからAcrobat Readerをインストールしてください。

Acrobat Readerをインストールする

◆ Windows 95/98/Me/2000/XPの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、CD-ROMドライブ内の[Utility] – [Acrobat]フォルダの[ar500jpn]をダブルクリックする。

インストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、Acrobat Readerをインストールします。

◆ Macintoshの場合

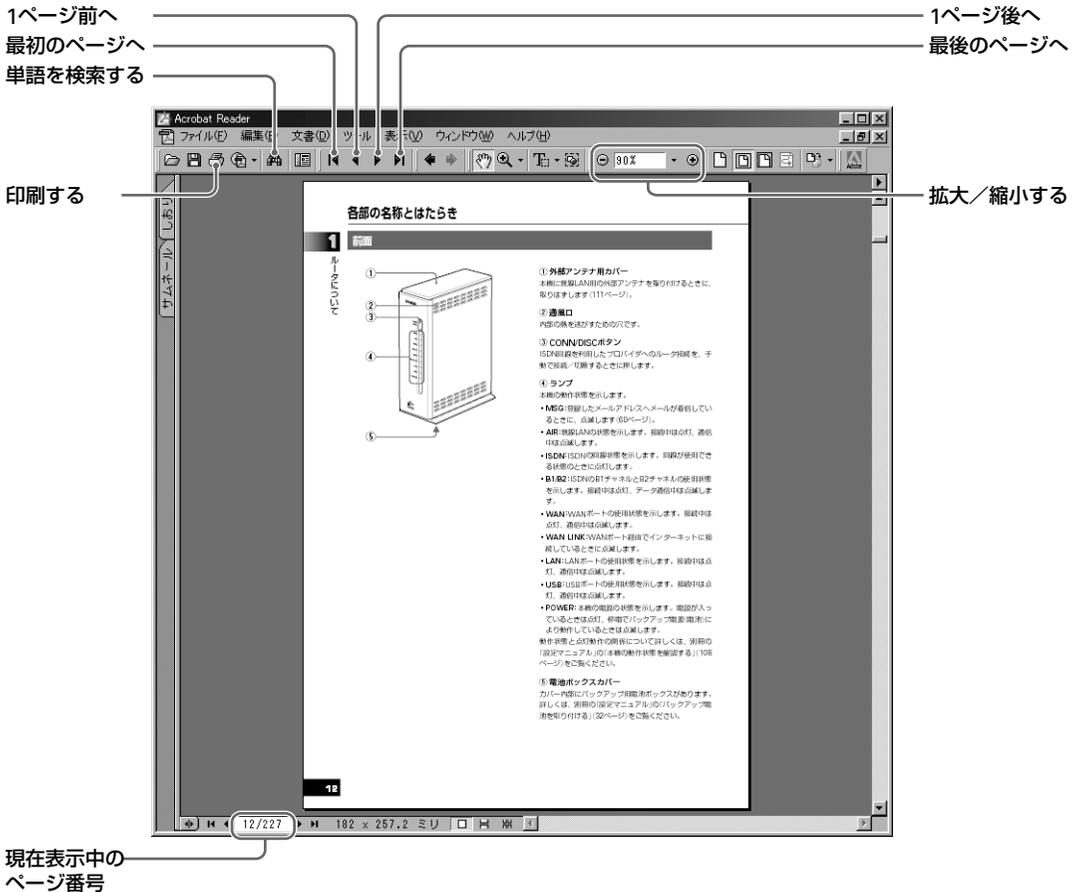
付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、CD-ROMドライブ内の[ユーティリティ] – [Adobe Acrobat Reader]フォルダの[Japanese Reader Installer]アイコンをダブルクリックする。

インストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、Acrobat Readerをインストールします。

Acrobat Readerの使いかた

本機の説明書は、Windows 95/98/Me/2000/XPではCD-ROMの[Manual]フォルダ、MacintoshではCD-ROMの[マニュアル]フォルダ内に収録されています。PDF形式の説明書のアイコンをダブルクリックすると、「AcrobatReader」ウィンドウに説明書が表示されます。

Acrobat Readerには、次のような機能ボタンがあります。詳しい操作の説明については、Acrobat Readerのヘルプをご覧ください。



主な仕様

外形寸法(幅×高さ×奥行き、突起物を除く):

71 mm×184 mm×137 mm

質量:

本体:800 g(乾電池を除く)

ACアダプタ:560 g

電源:AC100V(50/60Hz)

消費電力:

最大12 W

単3型アルカリ乾電池4本

(停電時TEL1ポート使用可)

動作環境条件:

周囲温度 0~40°C

周囲湿度 15~85%(結露しないこと)

保管環境条件:

周囲温度 -10~50°C

周囲湿度 10~90%(結露しないこと)

ISDNインタフェース:ISDNまたはデジタル専用線(RJ-

11, DSU機能内蔵)×1

S/Tインタフェース:入出力切替可能(RJ-45)×1

アナログインタフェース:

2線式(RJ-11)×3(供給電圧-48V)

PB, DP(10PPS, 20PPS)自動認識

線路抵抗 400Ω(電話機込み)

LANインタフェース:

イーサネット10/100BASE-TX×1

WANインタフェース:

イーサネット10/100BASE-TX×1

USBインタフェース:USBシリーズBコネクタ×1

無線インタフェース:

準拠規格:IEEE802.11b(11Mbit/s無線LAN)

RCR STD-33, ARIB STD-T66(小電力データ
通信システム)

伝送方式:DS-SS方式単信(半二重)

伝送速度:1、2、5.5、11Mbit/s

周波数範囲:2400~2497MHz

伝送距離:屋内約25m、屋外約50m(11Mbit/s時)

* 伝送距離は遮蔽物や使用環境により短くなる場合があります。

表示機能:

LED x 9(MSG, AIR, ISDN, B1/B2, WAN, WAN
LINK, LAN, USB, POWER)

操作ボタン:1

付属品:

ACアダプタ P10V1.2A(1)

USBケーブル(1)

LANケーブル(1)

モジュラーケーブル(1)

CD-ROM(1)

各種マニュアル

- はじめにお読みください(1)
- 設定マニュアル(1)
- 活用マニュアル(1)

切断コード一覧

0 通信中または正常切断

1 欠番

存在しない番号に発信した。相手先番号に間違いがある。

2 指定中継網へのルートなし

相手先番号への中継網が存在しないかサービスを提供していない。相手先番号に間違いがある。

3 相手へのルートなし

網が相手先番号へ着信を受け付けない。相手先番号に間違いがある。

6 チャネル利用不可

選択したBチャネルが使用できない。すでに2つのBチャネルが使用されている可能性がある。

16 正常切断

17 着ユーザビジー

発信した相手がすでに他の端末と通信中で通信できない。相手が話中。

18 着ユーザレスポンスなし

発信したが規定時間内に何の反応も返ってこなかった。相手の電源が切れているか、相手先番号が間違っている可能性がある。

19 着ユーザ呼出中/応答なし

発信した相手から呼出(ALERT)による反応があったが、その後規定時間内に応答の反応がなかった。相手先番号が間違っている可能性がある。

20 加入者不在

移動局と無線交信行なえない。相手の携帯電話などの電源が入っていないか圏外にいる。

21 通信拒否

何らかの理由で相手端末が着信を拒否した。ISDN関係のパラメータの不整合がある。相手先番号が間違っている可能性がある。また、相手側が着信可能な設定になっているか確認する。

22 相手加入者番号変更

相手の番号が変更されている。相手先番号に間違いがある。

26 選択されなかったユーザの切断復旧

着信に対して応答したが、他の端末の方が早く応答しており、自端末の応答は選択されなかった。

27 相手端末故障中

相手端末の電源OFFや故障、回線抜けなどにより相手インタフェースの起動不可。通信中に電源をいきなり落した時など。

28 無効番号フォーマット(不完全番号)

相手先番号に間違いがある。

30 状態問合せへの応答

網からの状態問合せに対する応答を示す。

31 その他の正常クラス

34 利用可回線／チャンネルなし

利用可能な回線／Bチャンネルがない。すでに2つのBチャンネルが使用されている可能性がある。

38 網故障

網に比較的長時間続きそうな障害が発生した。しばらく使用を見合わせる必要がある。

41 一時的失敗

網に比較的長時間続きさうもない障害が発生した。再発信で接続できる可能性がある。

42 交換機輻輳

網に障害(交換機が高トラフィックで輻輳)が発生した。しばらく使用を見合わせる必要がある。

43 アクセス情報廃棄

網が要求されたアクセス情報を相手に届けることができなかった。しばらく使用を見合わせる必要がある。

44 要求回線／チャンネル利用不可

要求した回線／Bチャンネルが相手側のインタフェースで提供できない。すでに2つのBチャンネルが使用されている可能性がある。

47 その他のリソース使用不可クラス

49 QOS(サービス品質)利用不可

要求されたQOS(Quality Of Service)が提供されない。(RT/RTAでは通常表示されない)

50 要求ファシリティ未契約

要求された付加サービスが提供されない。付加サービスに契約せずに、端末に付加サービスの設定がされている可能性がある。

57 伝達能力不許可

許可していない伝達能力が要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)

58 現在利用不可伝達能力

利用不可である伝達能力が要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)

63 その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス

65 未提供伝達能力指定

サポートしていない伝達能力が要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)

66 未提供チャンネル種別指定

サポートしていないチャンネル種別が要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)

69 未提供ファシリティ要求

提供していない付加サービスが要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)

70 制限デジタル情報伝達能力のみ可能

非制限デジタルを要求されたが、制限デジタルのみサポートしている(RT/RTAでは通常表示されない)

79 その他のサービスまたはオプションの未提供クラス

81 無効呼番号使用

使用中のものとは異なる呼番号のメッセージを受信した。(RT/RTAでは通常表示されない)

82 無効チャンネル番号使用

使用できないチャンネル番号を要求した。(RT/RTAでは通常表示されない)

83 指定された中断呼識別番号未使用

中断された呼と異なる呼番号で再開しようとした。(RT/RTAでは通常表示されない)

84 中断呼識別番号使用中

再開の可能性がある呼に対して中断を要求した。(RT/RTAでは通常表示されない)

85 中断呼なし

再開の可能性のある呼以外の呼に対して再開を要求した。(RT/RTAでは通常表示されない)

86 指定中断呼切断復旧済

すでに切断した呼に対して再開を要求した。(RT/RTAでは通常表示されない)

88 端末属性不一致

端末属性が一致しない端末に発信した。またはそのような端末からの着信を受け取った。

相手先番号が間違っている可能性がある。例えば、自側が同期PPPで相手側がアナログモデムの場合のように、双方での端末属性の設定に不一致がある。

91 無効中継網選択

誤ったフォーマットの中継網識別を受信した相手先番号が間違っている可能性がある。

95 その他の無効メッセージクラス

96 必須情報要素不足

必要な情報要素が不足していた。不正な相手からの着信を受け取った。(RT/RTAでは通常表示されない)

97 メッセージ種別未定義または未提供

認識できないメッセージを受信した。不正な相手からの着信を受け取った。(RT/RTAでは通常表示されない)

98 呼状態とメッセージ不一致又は、メッセージ種別未定義又は未提供

網との間で状態の不一致が発生した。ルータを再起動する必要がある。

99 情報要素未定義

未定義の情報要素を受信した。(RT/RTAでは通常表示されない)

100 情報要素内容無効

情報要素の内容に誤りがある。(RT/RTAでは通常表示されない)

101 呼状態とメッセージ不一致

網との間で状態の不一致が発生した。ルータを再起動する必要がある。

102 タイマ満了による回復

レイヤ3でのタイムアウトが発生した。

111 その他の手順誤りクラス

127 その他のインタワーキングクラス

112 L2リンクの設定に失敗した

モジュラーケーブルの接続などを確認する必要がある。

545 相手が呼出中のまま応答せずにタイムアウトした

相手先番号が間違っている可能性がある。

548 コールバック手順に成功して相手からコールバックされるのを待っていたがタイムアウトした

相手先番号が間違っている可能性がある。

549 コールバック手順の中でタイムアウトした

相手先番号が間違っている可能性がある。

552 切断タイマ(isdn disconnect time)による切断

正常切断。

553 出力切断タイマ(isdn disconnect output time)による切断

正常切断。

554 入力切断タイマ(isdn disconnect input time)による切断

正常切断。

556 Fast Data 切断タイマ(isdn fast disconnect time)による切断

正常切断。

557 強制切断タイマ(isdn forced disconnect time)による切断

正常切断。

769 コールバックの応答がなかった

コールバック手順での問題。相手先番号が間違っている可能性がある。

770 コールバックの応答に失敗した

コールバック手順での問題。相手先番号が間違っている可能性がある。

772 回線コネクタ抜けにより発信失敗

774 再発信禁止条件により発信失敗

しばらくしてから再発信すれば接続できる。

780 累積課金による発信制限により発信失敗

通信履歴などで「意図しない接続」が行なわれていないことを確認後累積課金情報をクリアする。

781 累積接続時間による発信制限により発信失敗

通信履歴などで「意図しない接続」が行なわれていないことを確認後累積接続時間情報をクリアする。

782 累積発信回数による発信制限により発信失敗

通信履歴などで「意図しない接続」が行なわれていないことを確認後累積発信回数情報をクリアする。

783 AC電源断により発信失敗

バックアップ電池による動作中のため、発信できなかった。

848 PPPoE接続でサーバによりサービスを拒否された

要求したサービスがサーバにより拒否された。(RT/RTAでは表示されない)

849 PPPoE接続でサーバによりサービスを拒否された

サーバが高トラフィックで輻輳している可能性がある。

850 PPPoE接続で回復不能なエラーが発生した
ログに表示された理由のエラーが発生した。

851 PPPoE接続でPADIタイムアウト
接続先にサーバが存在しない。または、サーバまでの区間の回線状態が良くない可能性がある。

852 PPPoE接続でPADRタイムアウト
サーバまでの区間の回線状態が良くない可能性がある。

1025 PIAFS接続でネゴシエーション失敗
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が良くない可能性がある(相手と本機の間で、PIAFSの起動方式が一致していない可能性がある)。

1026 PIAFS接続でRTFが範囲を超えている
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が良くない可能性がある。

1027 PIAFS接続でT001タイムアウト
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が良くない可能性がある(相手と本機の間で、PIAFSの起動方式が一致していない可能性がある)。

1028 PIAFS接続でT002タイムアウト
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が良くない可能性がある(相手と本機の間で、PIAFSの起動方式が一致していない可能性がある)。

1029 PIAFS接続でT003タイムアウト
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が良くない可能性がある(相手と本機の間で、PIAFSの起動方式が一致していない可能性がある)。

1030 PIAFS接続でT101タイムアウト
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が良くない可能性がある。

1031 PIAFS接続でリンク解放受付K回送出済
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が良くない可能性がある。

1281 PPP手順においてLCPタイムアウト
設定誤りの可能性がある。

1282 PPP手順においてIPCPタイムアウト
設定誤りの可能性がある。

1296 コールバックによる接続が拒否された
設定誤りの可能性がある。

1297 相手による認証が拒否された
設定誤りの可能性がある。

1298 自分が認証を拒否した
設定誤りの可能性がある。

1299 相手の認証に失敗した
設定誤りの可能性がある。

1300 相手に認証させるのに失敗した
設定誤りの可能性がある。

1301 相手に認証させるのに失敗した回数が多すぎるため発信できない
設定誤りの可能性がある。

1302 相手の認証でタイムアウトした
設定誤りの可能性がある。

1303 相手に認証させるのにタイムアウトした
設定誤りの可能性がある。

1304 MPに失敗した回数が多すぎるため発信できない
設定誤りの可能性がある。

Webブラウザ設定ページ項目一覧

一般ユーザ用ページ

トップページ

手動接続と切断

- プロバイダ接続
- CONN/DISCボタンの接続と切断の設定
- 現在のISDN回線接続状態

料金と通信の記録

- 料金情報
- 着信転送履歴
- メール着信数
- メール転送履歴
- 通信履歴

管理者用ページ

【接続設定】

*の項目は、設定が登録されている場合に表示されます。

新規登録

- ISDN回線で必要に応じてインターネットに接続と切断を行う端末型設定
- フレッツ・ISDNなどのISDN回線でインターネットに接続するための端末型設定
- フレッツ・ADSLなどのPPPoEを使用したADSL接続設定
- CATVまたはPPPoEを使用しないADSL接続設定
- ネットワーク型プロバイダ接続
ネットワーク型ダイヤルアップ(ISDN回線によるネットワーク型プロバイダ接続)
ネットワーク型フレッツ・ISDN(ISDN回線によるネットワーク型プロバイダ接続)
専用線によるプロバイダ接続
PPPoEを用いるネットワーク型ADSLインターネット
CATVインターネット、またはPPPoEを用いないネットワーク型ADSLインターネット
- そのほか(条件を選びながら接続設定を選ぶ)
インターネットに接続するための設定
LAN間接続設定(企業などの拠点間接続設定)
リモートアクセスサーバ(ISDN-TAやPHSからの接続を受け入れる設定)

プロバイダ接続管理*

- プロバイダ接続
- 登録の管理
- 自動接続設定
- プロバイダへの接続方式
- CONN/DISCボタンの接続と切断の設定
- 現在のISDN回線接続状態

LAN間接続管理*

- LAN間接続
- 登録の管理
- CONN/DISCボタンの接続と切断の設定
- 現在のISDN回線接続状態

リモートアクセス管理*	<ul style="list-style-type: none"> • 発信者番号認証型リモートアクセスサーバ* • パスワード認証型リモートアクセスサーバ* • 登録の管理 • 現在のISDN回線接続状態
ISDN回線設定	<ul style="list-style-type: none"> • ISDN回線の使用 • ルータのISDN回線番号 • 現在のISDN回線接続状態
LAN/WAN設定	<ul style="list-style-type: none"> • 基本設定 <ul style="list-style-type: none"> LANポート(LAN1)のIPアドレス設定 WANポート(LAN2)のIPアドレス設定 DHCPサーバ機能 DHCPスコープの管理 • 経路設定

【無線設定】

基本設定	<ul style="list-style-type: none"> • 無線モード • 詳細設定
接続状態	<ul style="list-style-type: none"> • 現在通信しているステーションのMACアドレス一覧
MACアドレスフィルタ設定	<ul style="list-style-type: none"> • MACアドレスの新規登録 • MACアドレスフィルタの一覧

【電話設定】

基本設定	<ul style="list-style-type: none"> • TEL1ポート • TEL2ポート • TEL3ポート • フレックスホンの設定
TEL1ポートの詳細	<ul style="list-style-type: none"> • 着信機能 • 着信ベル • 識別着信番号 • フレックスホン • 電話機対応機能
TEL2ポートの詳細	<ul style="list-style-type: none"> • 着信機能 • 着信ベル • 識別着信番号 • フレックスホン • 電話機対応機能
TEL3ポートの詳細	<ul style="list-style-type: none"> • 着信機能 • 着信ベル • 識別着信番号 • フレックスホン • 電話機対応機能
機器間アナログ通話設定	<ul style="list-style-type: none"> • アナログ通話モードの設定

【付加機能】

ファイアウォール機能

- FW設定
 - 表示インタフェース
 - 不正アクセス検知機能
 - 静的フィルタの一覧
 - 動的フィルタの一覧
 - 静的フィルタと動的フィルタの適用
 - 動的フィルタ用アクセス制御ルールの一覧
 - 静的フィルタの設定
 - 動的フィルタの設定
 - 動的フィルタ用アクセス制御ルールの設定
 - FW状態
 - 表示インタフェース
 - 不正アクセス検知機能の侵入履歴
 - 動的フィルタの動作状態
-

メール機能

- メール着信確認とメール転送機能(メールサーバの登録)
 - メール通知機能
-

LAN-TA機能

- 許可するホスト
 - 自己ISDN番号
 - 接続先ISDN番号
 - 切断タイマ
-

LAN版RVS-COM

- 着信許可設定
 - 着信許可番号
 - RVS-COMへの切り替え時間
 - G4FAXの着信
 - 音量レベル
-

【システム管理】

ルータ設定

- ルータのパスワード設定
 - HTTPサーバの利用ホスト制限
 - TELNETサーバの利用ホスト制限
 - 日付と時刻の設定
 - プザーの設定
 - かんたん設定ページの表示形式
-

料金情報

コマンド設定

- 表示スタイルの変更
 - Config表示
 - コマンド入力
 - HTTPまたはTELNETによるアクセス
-

システムログ

- 表示スタイルの変更
 - Syslog表示
 - Syslog設定
-

ATコマンド

A 着信に対して応答

実行例:

ATA

D 指定された相手に発信

実行例:

ATD031234567(03-123-4567へダイヤルする)

ATD031234567;(03-123-4567へのダイヤルを準備し、コマンドモードへ)

ATD031234567/123(03-123-4567、サブアドレス123へダイヤル)

ATDR031234567/123(03-123-4567/123へコールバック要求する)

ATDN(再ダイヤルする)

ATDS=3(短縮3番へダイヤルする)

E コマンド入力に対するエコーの有無の指定

設定例:

ATE0(入力されたコマンドをエコーバックしない)

ATE1(入力されたコマンドをエコーバックする、工場出荷設定)

H 切断復旧処理の起動

実行例:ATH

I 製品情報等の表示

実行例:

ATI0(製品名を表示する)

ATI1(ファームウェアのリビジョンを表示する)

ATI2(製造メーカー名を表示する)

ATI3(診断情報等を表示する)

O オンラインコマンドモードからオンラインデータ状態への遷移

実行例:ATO

Q コマンド入力に対する応答の有無の指定

設定例:

ATQ0(入力されたコマンドに対する応答あり、工場出荷設定)

ATQ1(入力されたコマンドに対する応答なし)

S Sレジスタの値の表示

実行例:

ATS30?(Sレジスタ30の値の表示)

Sレジスタについて詳しくは、「Sレジスタの詳細」(214ページ)をご覧ください。

S Sレジスタの値の設定

設定例:

ATS30=0(Sレジスタ30の値を0に設定)

Sレジスタについて詳しくは、「Sレジスタの詳細」(214ページ)をご覧ください。

V リザルトコードと情報テキストの表示フォーマットの指定

設定例:

ATV0(数字形式(numeric form)で出力)

ATV1(文字形式(verbose form)で出力、工場出荷設定)

数字形式/文字形式の対応について詳しくは、リザルトコードセット表をご覧ください。

W CONNECTの通信速度の指定

設定例:

ATW0(通信速度表示にはDTE速度を使用)

ATW2(通信速度表示には回線速度を使用(工場出荷設定))

X CONNECTの通信速度表示とトーン検出の指定

設定例:

ATX0(通信速度表示なし、BT検出なし、DT検出なし)

ATX1(通信速度表示あり、BT検出なし、DT検出なし、工場出荷設定)

ATX2(通信速度表示あり、BT検出なし、DT検出あり)

ATX3(通信速度表示あり、BT検出あり、DT検出なし)

ATX4(通信速度表示あり、BT検出あり、DT検出あり)

詳しくはリザルトコードセット表をご覧ください。

Z シリアルポートのリセットとユーザプロファイルの読み出し

実行例:ATZ

&C CD信号線の制御

設定例:

AT&C0(常時ON)

AT&C1(リモートDTEのRS信号(=受信キャリア)に応じて変化、工場出荷設定)

&D DTR信号のONからOFFへの変化に対する処理

設定例:

AT&D0(何もしない)

AT&D1(オンラインモードならばコマンドモードに遷移)

AT&D2(回線切断、工場出荷設定)

AT&D3(回線切断、シリアルポートのリセット)

&F 工場出荷設定に戻す

実行例: AT&F

&K DTEフロー制御

設定例:

AT&K0(なし)

AT&K1(RS/CSフロー制御、工場出荷設定)

AT&K2(XON/XOFFフロー制御)

&N CI信号線の制御

設定例:

AT&N0(着信中にON、工場出荷設定)

AT&N1(着信から通信終了までON)

AT&N2(着信中にON(1秒)とOFF(2秒)の繰り返し)

&Q 発信時のプロトコル選択

設定例: AT&Q1(非同期/同期PPP、工場出荷設定)

&R コンソールコマンド入力状態へ移行

実行例: AT&R

&S DSR 信号線の制御

設定例:

AT&S0(常時ON、工場出荷設定)

AT&S2(リモートDTEのDTR信号に応じて変化)

&V 現在のパラメータ内容の表示

設定例: AT&V(現在のパラメータとSレジスタの内容の表示)

&W 現在のパラメータをユーザプロフィールへ保存

実行例: AT&W

&Z 短縮番号の登録

短縮番号は0から9まで使用できます。

設定例:

AT&Z2=031234567(03-123-4567を短縮2番に登録)

AT&Z9=031234567/12(03-123-4567/12を短縮9番に登録)

&Z 短縮番号の表示

実行例:

AT&Z(0~9の全ての登録番号表示)

AT&Z5(登録番号5の表示)

&Z 短縮番号の削除

短縮番号は0から9まで使用できます。

実行例: AT&Z3=(登録番号3の削除)

\$A 直前の通信料金の取り出し

実行例: AT\$A

ご注意

本機の料金表示は通信の切断時にNTTからISDNで通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的にNTTから請求される料金とは異なる場合があります。また、NTT以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されません。

\$B 累積通信料金表示

実行例: AT\$B

ご注意

本機の料金表示は通信の切断時にNTTからISDNで通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的にNTTから請求される料金とは異なる場合があります。また、NTT以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されません。

\$C 直前の通信の切断コードの取り出し

実行例: AT\$C

\$D 累積通信料金の初期化

実行例: AT\$D

\$G グローバル着信の有無

設定例:

AT\$G0(グローバル着信しない)

AT\$G1(グローバル着信する、工場出荷設定)

\$H 着信時におけるHLCによる通信可能性確認の有無

設定例:

AT\$H0(HLCが異なる端末からの着信は受け付けない)

AT\$H1(HLCが異なる端末からの着信も受け付ける、工場出荷設定)

\$I 自己アドレス登録時のサブアドレスなし着信の扱いの設定

設定例:

AT\$I0(着信しない)

AT\$I1(着信する、工場出荷設定)

\$L 着信時のリザルトコードRINGの表示形式

設定例:

AT\$L0(発信アドレス情報なし、工場出荷設定)

AT\$L1(発信アドレス情報あり)

\$M MP機能使用の設定

設定例:

AT\$M0(MP機能は使用不可、工場出荷設定)

AT\$M1(MP機能は使用可)

ご注意

MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2チャンネル目が発信とエラーを繰り返し、多額の料金を請求される場合があります。

\$N スループットBODの設定

設定例:

AT\$N0(スループットBODを使用しない、工場出荷設定)

AT\$N1(スループットBODを使用する)

\$P 発信者番号通知の有無

設定例:

AT\$P0(発信者番号を通知しない)

AT\$P1(発信者番号を通知する、工場出荷設定)

\$R コールバックの有無

設定例:

AT\$R0(コールバック用の着信を受け付けない、工場出荷設定)

AT\$R1(コールバック用の着信を受け付ける)

\$S 識別着信の有無

設定例:

AT\$S0(識別着信しない、工場出荷設定)

AT\$S1(登録番号と一致時にその着信を拒否)

AT\$S2(登録番号と一致時にその着信を許可)

AT\$S5(番号通知のない着信を全て拒否)

\$V 非同期/同期PPP変換での制御キャラクタの2バイト文字変換

設定例:

AT\$V0(制御キャラクタを2バイト文字に変換しない、工場出荷設定)

AT\$V1(制御キャラクタを2バイト文字に変換する)

\$W 識別番号の登録

識別番号は0から99まで使用できます。

設定例:

AT\$W2=031234567(識別番号2を03-123-4567に登録)

AT\$W6=031234567/2(識別番号6を03-123-4567/2に登録)

\$W 識別番号の表示

識別番号は0から99まで使用できます。

実行例:

AT\$W2(識別番号2を表示)

AT\$W(0~99の全ての登録番号表示)

\$W 識別番号の削除

識別番号は0から99まで使用できます。

実行例:AT\$W2=(識別番号2を削除)

\$Z 自己アドレスの登録

設定例:

AT\$Z=031234567(自己アドレス03-123-4567)

AT\$Z=031234567/9(自己アドレス03-123-4567/9)

\$Z 自己アドレスの表示

実行例:AT\$Z

\$Z 自己アドレスの削除

実行例:AT\$Z=

@A 擬似LAN接続用のダイヤル番号の登録

設定例:

AT@A=123456789*#

AT@A=****(工場出荷設定)

@A 擬似LAN接続用のダイヤル番号の表示

実行例:AT@A

@A 擬似LAN接続用のダイヤル番号の削除

実行例:AT@A=

@B 擬似LAN接続時のIPアドレスの登録

設定例:

AT@B192.168.0.240(擬似LAN接続用のIPアドレス192.168.0.240)

AT@B0.0.0.0(DHCP使用、工場出荷設定)

@C デフォルトのコンソールモードの設定

起動時とログインタイマのタイムアウト時、ここで設定されているモードになります。

設定例:

AT@C0(コンソール)

AT@C1(ATコマンド、工場出荷設定)

@D DTE速度未検出時のデフォルトDTE速度の指定

設定例:

- AT@D0(DTE使用不可)
- AT@D1(2400bit/s)
- AT@D2(4800bit/s)
- AT@D3(9600bit/s)
- AT@D4(19200bit/s)
- AT@D5(38400bit/s)
- AT@D6(57600bit/s)
- AT@D7(115200bit/s、工場出荷設定)
- AT@D8(230400bit/s)

@FTAでの着信の許可／不許可の指定

設定例:

- AT@F0(TAで着信しない)
- AT@F1(TAで着信する、工場出荷設定)

@G MP時のCHAP認証のユーザ名とパスワードの設定

ユーザ名とパスワードは32文字以内で設定できます。ユーザ名やパスワード文字列の中に「/」が含まれる場合は、「=」や「?」等の文字を区切り子として使用してください。

設定例:

- AT@G/RTW65i/himitsu/(ユーザ名RTW65i、パスワードhimitsu)
- AT@G?RTW65i?(/123)?(ユーザ名RTW65i、パスワード(/123))

@H ブロードバンドTA接続用のダイヤル番号の設定

実行例:AT@H=***#

@H ブロードバンドTA接続用のダイヤル番号の表示

実行例:AT@H

@H ブロードバンドTA接続用のダイヤル番号の削除

実行例:AT@H=

@I ブロードバンドTA接続時におけるアクセスコンセントレータ名の設定

AT@Iの直後の文字を区切り子として、アクセスコンセントレータ名を半角英数字64文字以内で設定できます。

設定例:AT@I/Concentrator/

Sレジスタの詳細

番号	設定範囲	内容
0	0	自動応答なし
	1~255 1回	指定回数の呼び出し後に自動応答 (工場出荷設定)
1	0~255 0回	呼出カウント(注:設定不可) (工場出荷設定)
	2	0~127 43
3		0~127 13
	4	0~127 10
5		0~127 8
	7	1~50 30秒
10		0~255 0秒
	12	0~255 50x20m秒
20		1~100 70%
	21	1~100 1回

番号	設定範囲	内容
22	1~50 30%	スループットBODで2Bチャンネル目の切断を始める回線の負荷率(回線速度に対する%値)。ATS22を下回る負荷がATS23回繰り返されると2Bチャンネル目を切断。 (工場出荷設定)
23	1~100 2回	スループットBODで2Bチャンネル目の切断を始める回線の負荷率の回数。ATS22を下回る負荷がATS23回繰り返されると2Bチャンネル目を切断。 (工場出荷設定)
30	0 1~30 10分	自動切断しない 指定時間内にデータ送受信がなければ切断 (工場出荷設定; 擬似LAN接続では無効)
42	0 ~ 255	現在のDTE-TA間速度とプロトコル (設定不可)
43	0 ~ 255	現在のTA-TA 間速度とプロトコル (設定不可)
50	1 2	ブロードバンドTAでLAN1を使用 ブロードバンドTAでLAN2を使用 (工場出荷設定)
51	1~10 3	PADIパケットの再送時間の初期値 再送ごとに2倍の時間を設定 (工場出荷設定)
52	1~10 5	PADIパケットの最大再送回数 (工場出荷設定)
53	1~10 3	PADRパケットの再送時間の初期値 再送ごとに2倍の時間を設定 (工場出荷設定)
54	1~10 5	PADRパケットの最大再送回数 (工場出荷設定)
55	0 1 1240~1452 0	TCPパケットのMSSを制限しない MSSをMTUの値に応じて制限する MSSオプション値 (工場出荷設定)

番号	設定範囲	内容
56	1~2 1	契約しているPPPoE事業者の最大セッション数 (工場出荷設定)
64	0 1~127 0	データポート用の呼にHLCなし データポート用の呼にHLCあり (コード) (工場出荷設定)(注: JT-Q931HLCの高位レイヤ特性識別)
96	1~255 60秒	コールバック起動側での着信監視 タイム (工場出荷設定)
97	0 1~15 0秒	コールバック被起動側ですぐ折り返し コールバック被起動側で折り返す までの待ち時間 (工場出荷設定)
102	0 1 2 3 4 5 6 7	呼び出ししない i・ナンバーのポート番号1 i・ナンバーのポート番号2 i・ナンバーのポート番号1と2 i・ナンバーのポート番号3 i・ナンバーのポート番号1と3 i・ナンバーのポート番号2と3 i・ナンバーの全てのポート番号 (工場出荷状態)

SレジスタのS64の設定値の設定範囲は、10進数で0から127までの全ての整数数です。その中で決められているものだけを以下の表で示します。

10進数	16進数	意味
1	01	電話
4	04	G2/3FAX
33	21	G4FAX
49	31	テレテックス
50	32	ビデオテックス
53	35	テレックス
56	38	メッセージハンドリングシステム (MHS)
65	41	OSIアプリケーション

リザルトコードの詳細

数字形式、文字形式のリザルトコードセットによる違いを表に示します。

○:表示される、-:表示されない

数字形式	文字形式	ATX0	ATX1	ATX2	ATX3	ATX4
0	OK	○	○	○	○	○
1	CONNECT	○	-	-	-	-
2	RING*	○	○	○	○	○
3	NO CARRIER	○	○	○	○	○
4	ERROR	○	○	○	○	○
6	NO DIALTONE	-	-	○	-	○
7	BUSY	-	-	○	○	○
10	CONNECT 2400	-	○	○	○	○
11	CONNECT 4800	-	○	○	○	○
12	CONNECT 9600	-	○	○	○	○
13	CONNECT 19200	-	○	○	○	○
14	CONNECT 38400	-	○	○	○	○
15	CONNECT 57600	-	○	○	○	○
16	CONNECT 64000	-	○	○	○	○
17	CONNECT 115200	-	○	○	○	○
18	CONNECT 128000	-	○	○	○	○
19	CONNECT 230400	-	○	○	○	○

* AT\$L0に設定すると、文字形式でのRING表示の後ろの発信番号を省略できます。

10BASE-T

イーサネットの規格の一つで、ツイストペアケーブルを用いた、10Mbit/sの速度のものを表します。本機のLANポートは10BASE-T/100BASE-TX対応です。

100BASE-TX

イーサネットの規格の一つで、ツイストペアケーブルを用いた、100Mbit/sの速度のものを表します。本機のLANポートは10BASE-T/100BASE-TX対応です。

APOP

メールサーバからメールを受信するために使用するPOP3プロトコルの認証において、パスワードを暗号化してやりとりする方式です。

ATコマンド

米国Hayes社が開発したモデムの制御コマンドです。コマンドがすべて「AT」で始まるのが特徴です。

Acrobat

アドビ・システムズ社が開発した、コンピュータ上で文書を電子的に取り扱うことのできるツールです。Acrobatが取り扱う文書はPDFファイルと呼ばれ、文書閲覧用ソフトであるAcrobat Readerで自由に閲覧することができます。

BIOS

パソコンのハードウェアの設定を行うことができる、もっとも基本的なソフトです。

BOD

必要に応じて通信速度を変更する機能です。MP接続を利用する場合、通信量の増減やアナログ電話の使用の有無に応じてBチャンネルの数を増減させることができます。

Bチャンネル

ISDNでデータ通信のために用いられるチャンネルです。NTTのINSネット64では2Bチャンネルが、INSネット1500では23Bもしくは24Bチャンネルが利用できます。

CHAP

PPPでのユーザ認証の方式の一つです。CHAPではパスワードを回線上に流さないのが、たとえ回線を盗聴されてもパスワードが盗まれないという特徴があります。

DCE

コンピュータとモデムやTAを使った通信システムの中で、モデムやTAのことを総称してDCEと呼びます。

DHCP

コンピュータが起動するためのさまざまな情報をコンピュータ自体には持たず、サーバからネットワーク経由で受け取るためのプロトコルです。

DIN

DINとはドイツ工業規格(日本のJISに相当)するものですが、DINで規定されているコネクタのことをDINコネクタと呼ぶことがあります。Macintoshのモデム/プリンタポートにはDIN9pinコネクタが使われています。

DNS

インターネットで用いられる名前空間をドメインという階層で分散管理するためのシステムのことです。インターネットで用いられる名前には、ホスト名、メールサーバ名、ネームサーバ名、IPアドレスなどの種類があります。DNSを使うことでホスト名をIPアドレスに効率的に変換することができます。

DP

電話で発信する時に、電話機から電話局に送信する信号の一種です。

DSU

ISDNで、電話局から家庭/事務所までの電話線の、家庭/事務所側に設置する装置のことです。DSUは1本の電話線に必ず1つだけ必要です。

DTE

コンピュータとモデムやTAを使った通信システムの中で、コンピュータのことを総称してDTEと呼びます。

Dチャンネル

ISDNで発着信の制御などのために用いられるチャンネルのことです。

ESS-ID

各無線LANのネットワークを識別するためのグループ名です。

FreePPP

Macintoshで、古いMacOSを利用する場合に、PPP通信を可能にするフリーソフトです。「MacTCP機能拡張書類」とあわせて利用します。

FTP

ファイルをさまざまなコンピュータ間で転送するためのプロトコルです。FTPサービスを提供する側をFTPサーバ、FTPサービスを利用する側をFTPクライアントと呼びます。

HTML

ドキュメント記述言語であり、通常の文章の中にタグを埋め込んでいく方式をとります。他のドキュメントへのリンクを持つことができるのが最大の特長で、それゆえに「ハイパーテキスト」と呼ばれることがあります。WWWページを記述する言語として広く利用されています。

HUB

10BASE-Tや100BASE-TXのポートを多数持ち、その間で通信を可能にする装置のことです。

ICQ

ネットワーク上のパソコン間で簡単にメッセージをやりとりできるインスタントメッセージングソフトのことです。インターネットでも簡単に利用できます。ICQの名前の由来は「I seek you」と読めるから、ということだそうです。

IDS(Intruder Detection System)

ネットワーク上を流れるパケットを分析し、不正アクセスを検知して管理者に通報するシステムのことです。

Ingressフィルタリング

ルータやファイアウォールなどで、確実に不要なパケットを事前にフィルタで破棄することです。例えば、LANと同じ発信元のIPアドレスのパケットは外部(WAN)からは受信しないという前提で外部からのパケットを制限します。本機では、プロバイダ接続設定を行なったときにプライベートIPアドレスとLAN側に設定しているIPアドレスに関するIngressフィルタを自動適用します。ネットワーク環境に合った設定で運用することが重要です。

Internet Explorer

Windows やMacOSに標準でついてくるブラウザソフトのことです。

IP

インターネットで使用されるプロトコルです。IPを中心にして、その上位にはアプリケーション寄りのプロトコルが、下位には通信回線寄りのプロトコルが積み重なることで全体としてインターネットを構築しています。

IPX/SPX

ノベル社のネットワークOS、NetWareのために開発されたプロトコルです。

IPアドレス

インターネットでそれぞれのコンピュータを識別するためにつけられるアドレスです。

IPマスカレード

NATの中でも特にTCPやUDPのポート番号を変換することにより、1つのIPアドレスで複数のホストを動作させる技術のことです。

ISDN

電話、FAX、データ通信など複数ある通信ネットワークを統合する、次世代の基本通信ネットワークです。日本ではNTTなどによりINSネット64などのサービスが行われています。

ISDNランプ

ISDN回線が電氣的に接続されている状態を示すランプです。

i・ナンバー

1本のISDN回線に3つまでの電話番号を割り当てるサービスです。i・ナンバーを利用するには、NTTなどの通信事業者に申し込みます。

LAN

屋内に限定するなど、比較的狭い範囲でコンピュータを接続するネットワークのことです。

LAN-TA

Windows98/Me/2000の「仮想プライベートネットワーク」機能を利用して、LAN上のWindows/パソコンから本機を仮想TAとして発信できる機能です。

LAN型ダイヤルアップ

2つ以上の孤立したLANを、ISDNなどのダイヤルアップ回線で接続することです。

MACアドレス

ネットワーク上の識別番号です。各ネットワーク機器に固有の番号が設定されています。

MP

PPPで、複数のリンクを束ねてより高速の通信回線を擬似的に得るためのプロトコルのこと。ISDNでは、MPIによって2つのBチャンネルを束ねて128kbit/s相当の通信ができるようになります。

NAT

IPパケットのIPアドレスなどを途中のルータで書き換える技術のことです。グローバルIPアドレスの世界であるインターネットとプライベートIPアドレス空間との間で通信できるようにすることができます。

NetBEUI

Windowsで使われるネットワークプロトコルです。

NTP

ネットワーク上でコンピュータの時計を合わせるためのプロトコルです。多くのプロバイダはNTPサーバを動作させているので、そこに時間合わせをさせるようにすると、コンピュータの時計を正確な時刻に保てます。

OpenTransport/PPP

Macintoshで、MacOS 7.5.3以降に標準添付されている、ダイヤルアップ機能ソフトです。TA接続の場合はこれを使ってインターネットへ接続します。

OutlookExpress

WindowsやMacOSに標準でついてくるメールソフトです。

PAP

PPPでのユーザ認証の方式の一つです。PAPではパスワードがそのままの形で回線上に流れます。

PB

電話機が電話をかける時に、ダイヤルボタンに応じて発する音のことです。いわゆる「ピポパ」です。

PDF

→Acrobat

POP3

メールサーバからメールを受信するためのプロトコルです。

PPP

ISDNなどの通信回線上で、IP通信を行うための下回りを担当するプロトコルです。データの圧縮を行ったり、接続の時には相手を確認するユーザ認証を行うことで、知らない相手からの接続を拒否するような機能を持っています。

PPPoE

Ethernet上で、PPP接続を行うためのプロトコルです。接続先を選択したり、接続の時にユーザ認証を行うことでダイヤルアップ接続と同じように接続を行うことができます。

PPTP

LAN上の特定の機器間でPPPパケットを通すためのプロトコルです。本機にこの機能に対応しており、LAN上のWindowsパソコンから本機をTAとして使用することができます。

RVS-COM

ドイツRVS社が開発した、Windows 95/98/NT4.0用FAXソフトです。日本では、メガソフト株式会社が販売しています。RVS-COM2000を利用すると、FAXモデムを使わなくても本機経由でFAXの送受信が行えます。

S/Tポート

4線式のISDN回線ポートです。本機に内蔵のDSUを利用する場合、このポートに他のISDN機器を接続して使うことができます。本機のDSUを利用しない場合には、このポートに外づけのDSUを接続します。

TA

ISDNに対応していない装置をISDNに接続するための装置のことです。一般に、単にTAと言った場合には、RS-232Cのデータ用シリアルポート経由でパソコンをISDNに接続するための装置のことを言います。TAにはその他に、電話機やモデムなどのアナログ回線用端末を接続するためのアナログTAがあります。本機はUSBポート接続のTA機能を内蔵しています。

TCP

IPの上で、データが確実に相手に届くことを保証するためにあるプロトコルのこと。多くのアプリケーションはTCP上に構築されています。

TCP/IP

インターネットで使用されるプロトコル全体の総称です。

TELNET

他のコンピュータを遠隔操作するためのプロトコルです。本機もTELNETにより遠隔操作することができます。

TFTP

ファイル転送プロトコルの一種で、FTPに比べて簡単な仕組みで実現されています。本機のファームウェアのバージョンアップにはTFTPを利用しています。

UDP

IPに、アプリケーションを識別するためにポート番号を指定する機能を付け加えるプロトコルです。

UPLINK

HUBを、より上位のHUBに接続するためのポートのことです。

URL

WWWページのアドレスなどを記述したもののことで。例として、以下のようなものになります。

http://www.rtpo.yamaha.co.jp/RT/FAQ/index.html
(プロトコル名:/ホスト名.一般的にはファイル名)

USB

プラグ&プレイに対応したシリアルバス規格です。本機には、1つのUSBポートを装備しています。

Uポート

2線式のISDN回線ポートです。本機内蔵のDSUを利用する場合は、ISDN回線のモジュラジャックとUポートを接続します。

WAN

LANよりも広い範囲でコンピュータを接続するネットワークです。離れた場所のLAN同士をつなぐネットワークを指す場合もあります。

WEP(暗号化機能)

無線LANの通信を暗号化して送受信する機能です。無線LAN通信の盗聴を防止できます。本機は64ビットまたは128ビットコードで暗号化しています。

WWW

HTML文書を蓄えるWWWサーバと、HTML文書を表示する能力を持つWWWブラウザの間でHTTPを用いてHTML文書を転送するシステムのことで。

WWWブラウザ

→ブラウザ

アクセスポイント

プロバイダ経由でインターネットに接続する時の、プロバイダの拠点のことです。ダイヤルアップの場合はそこへ電話をかけることでインターネットに接続できます。

アクセスポイント(無線)

有線LANやISDN回線と無線LANをつなぐ機能を持った装置です。本機には無線アクセスポイントが内蔵されています。

アクティブデスクトップ

Windowsで画面全体の表示にWWWを利用したもののことで。画面がWWWと連係しており、登録されたWWWサイトへのアクセスが簡単に行えます。

イーサネット

LANで使われる、ケーブルまで含んだネットワークプロトコルのことで。使用されるケーブルや通信速度などで10BASE-2、10BASE-5、10BASE-T、100BASE-TXなどの種類があります。

インターネット

世界中のコンピュータをIPを使って接続したネットワークのことです。

オフフック

電話機の手話器を持ち上げた状態のことです。

オンフック

電話機の手話器を置いた状態のことです。オンフックの時、電話は切れています。

回線速度

通信回線が流すことのできるデータの転送速度のことです。例えば、ISDNのBチャネルは64kbit/s、イーサネットの10BASE-Tは10Mbit/sです。

管理パスワード

本機の設定を行うために必要なパスワードです。

擬似LAN

USBポートに接続したパソコンから本機にダイヤルアップすることにより、本機のLANポートに接続されているLANにアクセスできる機能です。LANポートを持たないパソコンでもLANにアクセスすることができます。

キャッチホン・ディスプレイ

通話中に着信があったとき、どこから着信したかを通知してくれる機能のことです。

INSネット64では、アナログの電話回線からの着信では発信者の電話番号は通知されないで、どこからの着信かを知ることはできませんが、NTTとINSナンバー・ディスプレイ契約することにより、アナログの電話回線からの着信でも発信者の電話番号が通知されるようになり、どこからの着信かを知ることができます。アナログの電話回線以外(ISDN、携帯電話、PHSなど)からの着信では契約は必要ありません。

グローバル着信

着番号通知を伴わない着信のことです。ダイヤルインを契約しているISDN回線では、普通は必ず着信にはどの番号に着信したかを示す着番号通知がありますが、グローバル着信の契約をしていると、指定した番号への着信では着番号通知が行われません。

ゲートウェイ

→ルータ

コールバック

ISDNのようなダイヤルアップ回線回線で、発信側が着信側に何かの方法で接続したいことを伝え、着信側から電話をかけなおしてもらうことです。

コンソール

本機では、TELNETなどでログインしてコマンドを入力できる画面のことをいいます。

コントロールパネル

Windowsのいろいろな設定を行うためのフォルダです。「マイコンピュータ」の中にあります。

サーバ

ネットワーク上でいろいろなサービスを提供するコンピュータのことです。WWWサーバ、DHCPサーバ、FTPサーバ、ネームサーバ、メールサーバなどがあります。

サブアドレス

ISDNでは、1本の回線に複数のISDN端末を接続することができます。そのため、電話番号の他に相手を特定するためのサブアドレスを指定することができます。サブアドレスは、ISDNの他にPHSでも利用できます。

識別着信

電話番号を登録し、その電話番号から電話がかかってきた時に着信するかどうかを指定できる機能です。登録した番号からの着信は受け取らなかったり、反対に登録した番号からの着信だけができるようにしたりすることができます。

終端抵抗

→ターミネータ

スタティック(静的)フィルタ

固定的に動作するフィルタです。一度設定するとフィルタが常時有効になります。

ステーション(無線)

RTW65iをどうしを無線で接続する場合のクライアント側のRTW65iのことです。

静的IPマスカレード

IPマスカレードを利用する時には、外部からのアクセスができなくなりますが、静的IPマスカレードを利用すると外部からのアクセスをできるように設定できます。

静的フィルタ

→スタティックフィルタ

切断タイマ

データ通信が一定時間行われなかった時に、ISDN回線を切断するためのタイマです。

専用線

特定の相手と、常に通信できるようになっている回線のことです。利用するためにはNTTなどの通信事業者に申し込みます。

ダイナミック(動的)フィルタ

通信状態を監視しながら、必要に応じてフィルタを有効にします。

ダイヤルアップ

プロバイダのアクセスポイントに電話をかけて、インターネットに接続することです。

ダイヤルイン

1本のISDN回線に複数の電話番号を割り当てることです。ダイヤルインを利用するには、NTTなどの通信業者に申し込みます。

ダイヤルトーン

電話で、受話器を上げた時にツーと聞こえる音です。電話機のダイヤルはダイヤルトーンが聞こえてから回し始めます。

ターミネータ

ISDNのS/Tポートに複数の機器を接続した時に、一番端の機器に接続するものです。これが適切に接続されていないと、ISDNが誤動作を起こすことがあります。

端末型ダイヤルアップ

パソコン1台だけをダイヤルアップによりインターネット接続することです。LAN型ダイヤルアップとは異なり、端末型では事前にパソコンにIP関係の設定は必要ありません。

通信中着信通知

ISDNのサービスの一つで、2Bとも通信中で空きチャンネルがない状態でも着信があったらそれを通知する機能のことです。ISDN端末側では、通信中着信通知を受けてそれを着信させる場合には、現在使用中の通信を切断して、そちらの着信を行います。

動的フィルタ

→ダイナミックフィルタ

ドメイン名

インターネット上の組織名をあらわす名前のことです。例えば、「yamaha.co.jp」はドメイン名です。DNSで利用されます。

トーン回線

アナログの電話回線で、PBにより発信できる回線のことです。

ナンバー・ディスプレイ

オンフック時に着信があったとき、どこから着信したかを通知してくれる機能のことです。INSネット64では、アナログの電話回線からの着信では発信者の電話番号は通知されないの、どこからの着信かを知ることはできませんが、NTTとINSナンバー・ディスプレイ契約することにより、アナログの電話回線からの着信でも発信者の電話番号が通知されるようになり、どこからの着信かを知ることができます。アナログの電話回線以外（ISDN、携帯電話、PHSなど）からの着信では契約は必要ありません。

認証

接続相手を確認することです。パスワードを確認するのがもっとも一般的な方法で、PPPではPAPやCHAPを使ってパスワードを確認します。

認証番号

ISDN回線に接続する装置として届け出て、確認を受けたことを証明する番号で、装置の種類毎に存在します。ISDN回線の契約書に記入しなければいけないことがあります。

ネットマスク

IPアドレスと論理積をとるとネットワークアドレスが得られるようなビット列のことをいいます。ネットマスクは最上位ビットから連続して1が続き、あるところから最下位ビットまで0が続く形なので、最上位ビットから1が続いている長さでネットマスクを表すことができます。これをネットマスク長といえます。本機の設定では、ネットマスクはすべてネットマスク長で設定します。ネットマスクの設定を間違えるとまったく通信できなくなってしまうことがあるので注意が必要です。

ネットワークアドレス

ネットワークを識別するためのIPアドレスです。あるネットワークに所属するホストのIPアドレスはすべて、上位部分はネットワークアドレスと一緒になくてはなりません。

ネットワークゲーム

ネットワークを用いて不特定の相手や遠隔地の相手と対戦することのできるゲームのことです。インターネットの普及とともにネットワークゲームが愛好されるようになってきています。

ネームサーバ

DNSで、名前とIPアドレスなどの変換を行うためのサーバです。ネームサーバだけは名前で指定できないので、必ずIPアドレスで指定しなくてはなりません。

パケット

IPで取り扱うデータの1単位のことです。IPではすべてのデータはパケットという単位で扱われます。パケットはデータグラムと呼ばれることもあります。

発信者番号通知

電話をかける時に、自分の電話番号を相手に知らせる機能のことです。

パルス回線

アナログの電話回線で、DPの回数で発信する電話番号を指定する回線のことです。

ビジートーン

電話で、相手が話中などの時に聞こえる音「ツー、ツー」です。

ファームウェア

本機に内蔵されていて、本機の動作を制御するソフトのことです。ファームウェアをネットボランチホームページからダウンロードし本機をリビジョンアップすることで、購入後でも最新の機能を利用することができます。

ファイアウォール(firewall、防火壁)

外部ネットワークからの不正アクセスを防ぐ機能/装置です。

フィルタ

ルータはパケットを転送する時に、パケットの内容によっては転送せずに捨ててしまう機能のことで、フィルタを適切に設定することで外部からの侵入を阻止したり、必要のない発信を止めたりすることができます。

フッキング

電話機のフックスイッチ(受話器を置くところにあるスイッチ)をポンと押してすぐ話す操作のことで、最近の電話機ではフックスイッチとは別にフッキングするためのボタンが用意されていることもあります。フッキングはフレックスホンの操作を行う時などに使います。

ブラウザ

WWWサーバからHTML文書を手し、表示する機能を持ったソフトのことで、代表的なものには、Internet ExplorerやNetscape Communicatorがあります。

ブリッジ

パケットのIPアドレスをチェックせず、他のネットワークにすべて転送する装置です。

フレックスホン

NTTの提供するサービスで、INSキャッチホン、三者通話、通信中転送、着信転送の4つの総称です。

フロー制御

データ通信で、相手の状態にあわせてデータの送信を止めたり再開したりする機能です。シリアル通信であるRS-232Cでは、RS/CSフロー制御(ハードフロー制御)とXON/XOFFフロー制御(ソフトフロー制御)の2種類があります。

ブロードキャスト

ネットワーク全体のホストへパケットを送信することで、そのようなことができるアドレスをブロードキャストアドレスと呼びます。

プロトコル

通信を行う時の規約のことで、

プロバイダ

インターネットサービスプロバイダの略で、インターネットへの接続サービスを提供する業者のことで、接続に必要なアクセスポイントの整備や、インターネットで必要なIPアドレスの取得代行サービスなどを行います。

ホスト

IPでは、ホストはIP的に接続されているすべてのコンピュータのことを指します。

ポート番号

TCPやUDPでアプリケーションを識別するための番号です。例えば、WWWはTCPの80番、メールはTCPの25番です。サービスを提供するサーバ側のポート番号はアプリケーションによって決まっていますが、そこに接続していくクライアント側のポート番号はその時々によって変わります。

ホームページ

WWWサイトの一番入口のページを指します。

無線ブリッジ

本機やRT60wどうしを、無線で接続する機能です。複数の無線LANをひとつのLANとして管理できます。

メールサーバ

メールを送信したり、受信したメールを蓄えておくサーバのことで、

モデム

パソコンのシリアルポートやモデムポートに接続して、アナログ回線経由で通信を行うための装置です。

優先着信

同じ電話番号で複数のTELポートに着信する場合、指定したTELポートを先に鳴らす機能です。

ユーザ間情報通知

ISDNの発着信の時に、同時に情報を相手に伝えることができるサービスです。

リビジョン

本機に内蔵されるファームウェアの版のことで、バージョンともいいます。新しいリビジョンのファームウェアを本機に送り込むことをリビジョンアップといいますが、

リモートセットアップ

ルータから、ISDN回線経由で別のルータの設定を行う機能のことです。ヤマハのRTシリーズ同士であれば利用できます。

ルータ

パケットのIPアドレスに基づいて適切な方向へパケットを転送する機能を持つ装置のことです。ゲートウェイともいいます。

レイヤ1起動種別

ISDN回線に端末を接続した時に、ISDN回線に常に信号を流しておくか、実際に通信している時だけ信号を流しておくかの種類の違いです。それぞれ常時起動、呼毎起動といい、ISDN回線の契約時に指定することができます。

ログ

装置の状態や動作の記録を時間順に記録したものです。

ログアウト

装置へのアクセスを終わることです。

ログイン

TELNETなどで装置へのアクセスを始めることです。

ログインパスワード

本機にログインするためのパスワードです。設定を行うことはできませんが、接続状態やログを見ることができます。

ローミング(無線)

複数の無線アクセスポイントを有線LANで接続することで、アクセスポイントを自動的に切り替える機能です。無線LANでアクセスできる範囲が広がりますので、複数階にまたがるような大きなオフィスを移動しながら、インターネットにアクセスしたいときに便利です。

索引

英数字

128kbit/s接続	135
Acrobat Reader	202
ATコマンド	
ATコマンドとは	28
ATコマンド一覧	211
B1/B2ランプ	12
CCLファイル	28
CONN/DISCボタン	12
DC-IN 10Vコネクタ	13
DNS	14、216
DSUスイッチ	13
ESS-ID	102、217
FAX機器	53
FAXモデム	54
ICQソフト	170、171、217
INFファイル	28
INITスイッチ	13
Internet Explorer	25、218
IPアドレス	
IPアドレスとは?	15
IPアドレスのルール	16
IPマスカレード機能	17
パソコンのIPアドレスを確認する	193
パソコンのIPアドレスを変更する	194
パソコンのIPアドレスをリセットする	198
本機のIPアドレスを変更する	138
ISDN	
ISDN S/Tポート	13
ISDN Uポート	13
ISDN付加サービス	18
ISDNランプ	12
LAN-TA	171
LAN間接続	150
LANポート	13
LANランプ	12
MACアドレス	218
MACアドレスフィルタ	103、104
MP接続	135
MSGランプ	12、60
NAT機能	17、219
PDF形式	2、202
POWERランプ	12

RVS-COM	54
Sレジスタ	28
Sレジスタの詳細	214
TA機能	
設定／接続する	73
接続できないときは	183
TCP/IP	14、219
TELポート	13
USB接続	
TA接続	73
USB接続でできること	66
擬似LAN接続	92
接続の準備	67
ブロードバンドTA接続	84
USBポート	13
USBランプ	12
WANポート	13
WANランプ	12
WEP(暗号化機能)	102、220
Webブラウザ設定ページ項目一覧	208
Webブラウザによる設定操作	25

五十音順

ア行

アース端子	13
アクセス制限	104、129
アタック	113
暗号化機能(WEP)	102、220
インターネット	
基礎知識	14
接続できない	180

カ行

各部の名称	12
仮想プライベートネットワーク	172
かんたん設定ページ	
画面の見かた	25
設定できない	179
擬似LAN接続	92
擬似キャッチホン	36
擬似三者通話	40
擬似着信転送	43
擬似通信中転送	38

擬似ナンバー・リクエスト	49
キャッチホン	36
極性反転スイッチ	13
グローバルIPアドレス	15、113、125
工場出荷設定	192
コンソールコマンド	30

サ行

サーバを公開する	167
最新情報	199
サポート	201
三者通話	40
識別着信機能	48
自動アップデート	190
仕様	204
スタティック(静的)フィルタ	115、126、221
静的IPマスカレード	168、170、221
静的NAT	168
静的(スタティック)フィルタ	115、126、221
製品サポート	201
セキュリティ . 3、104、112、113、116、124、129	
設定方法の種類	19
切断コード	204
専用線接続	140

タ行

ターミネータスイッチ	13
ダイナミック(動的)フィルタ	115、126、221
ダイヤル回線	53
着信拒否	48
着信転送	43
着信転送の解除	45
着信ベル音	46
チャンネル(無線)	102
通信記録	27、187
通信中転送	38
通信料金	
確認する	27
異常がある	187
転送	35

電話	
使えない	177
かける／受ける	32
電話機からの設定操作	20
電話機による設定機能一覧表	22
電話機による設定例	21
電話番号登録	45
トーン回線	53
動的(ダイナミック)フィルタ	115、126、221
トラブル	176
プライベートIPアドレス	15
フレックスホン	18
ブロードキャストアドレス	16、223
ブロードバンドTA機能	
設定／接続する	84
接続できないときは	183
プロバイダ接続制限の解除	133
プロバイダ接続制限の設定	131
ホームページ	223
保証サービス	201

ナ行

内線	
転送する	35
かける	34
ナンバーディスプレイ	47
ネームサーバ(DNS)	14、216
ネットマスク	16、222
ネットワークアドレス	16、222
ネットワークゲーム	170、222

マ行

メールアドレス登録	59
メール専用の接続先設定	136
メール着信	60
メール着信確認機能	58
メール着信転送	61
メール着信転送停止	62
モデム初期化コマンド	28

ラ行

リザルトコード	28、216
リセット	
パソコンのIPアドレスをリセットする	198
本機を工場出荷状態に戻す	192
リビジョンアップ	199
リモートアクセス	157
リモートセットアップ	31
ルータ機能	17
ルーティング	17、112
ログ情報	188、224

11

その他の情報

八行	
パソコンごとの接続先設定	137
パソコンのIPアドレス	
現在のIPアドレスを確認する	193
変更する	194
リセットする	198
パルス回線	53
ファームウェア	199、222
ファイル共有	121、151、154
フィルタ	
静的(スタティック)フィルタ	115、126、221
設定する	117
設定例	121
動的(ダイナミック)フィルタ	115、126、221
フィルタ設定でできること	114
複数プロバイダの自動接続	136
不審な自動接続	187
不正アクセス	
検出する	127
対抗するには	114
不正アクセスとは?	113
メールで通知する	64
フッキング	34
プッシュ回線	53

ヤマハ株式会社

●ネットボランチコールセンター

RTW65i専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

土日祝日を除く9時～12時、13時～17時

●電子メールでのお問い合わせ

Webお問い合わせページ: <http://NetVolante.jp/>

メールアドレス: support@netvolante.jp